

昭島市教育委員会の事務事業
に関する点検及び評価報告書
(平成 30 年度分)

令和元年 9 月

昭島市教育委員会

目 次

ページ

はじめに	1
第1章 昭島市総合教育会議	
1 昭島市教育に関する大綱	2
第2章 教育委員会の組織及び活動状況	
1 教育委員会委員	4
2 教育委員会事務事業を主管する組織	4
3 教育委員会の会議における審議内容一覧	
(1) 総合教育会議（企画政策課所管）	6
(2) 定例会	6
4 教育委員会委員の主な活動	11
5 教育委員会委員の研修	13
第3章 主要施策の点検及び評価	
プラン1 確かな学力の定着	
主要施策 1 学習指導要領の確実な定着	14
主要施策 2 理数教育の充実	22
主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成	23
主要施策 4 個に応じた支援の充実	25
プラン2 豊かな心の醸成	
主要施策 1 人権教育の推進	32
主要施策 2 道徳教育の充実	34
主要施策 3 体験活動の充実	36
主要施策 4 いじめ問題への対応	38
プラン3 健やかな体の育成	
主要施策 1 体力向上の推進	40
主要施策 2 学校給食・食育の充実	44
主要施策 3 学校保健安全の推進	48
プラン4 輝く未来に向かって	
主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実	51
主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実	53
主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上	55
主要施策 4 学校運営の改善	57
主要施策 5 教育環境の整備	59
主要施策 6 情報教育の推進	61
主要施策 7 環境教育の推進	63
主要施策 8 国際理解教育の推進	64
主要施策 9 キャリア教育の推進	67
プラン5 生涯学習の推進	
主要施策 1 生涯学習	69
主要施策 2 図書館活動	74
主要施策 3 文化・芸術	77
主要施策 4 スポーツ・レクリエーション	80
主要施策 5 文化財	86
第4章 平成29年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」 の調査結果	89
第5章 平成29年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標及びそれ に対する実績について	112
第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見	156

は じ め に

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、効果的な教育行政の推進を図るとともに教育委員会活動の透明性をより高め説明責任を果たすため、毎年、自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、公表することが義務付けられています。

平成27年4月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、教育委員会制度、そして教育行政の在り方が大きく変化しています。

昭島市教育委員会では、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成27年度から、新たな教育活動の推進に向けた、『第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度から平成32年度）』を策定しました。この計画に基づく教育施策及び事業について、学識経験を有する方の知見を活用し、点検評価を行いました。

この報告書において課題とされた事項について、更に検討を加え、学校教育、生涯学習の充実に努めてまいります。

令和元年9月

昭島市教育委員会

第1章 昭島市総合教育会議

1 昭島市教育に関する大綱

第五次基本構想における、まちづくりの理念である「人間尊重」と「環境との共生」のもと、本市の教育に関する大綱を次のとおり定めます。

- 市民憲章と人間尊重の精神を基調とした教育を推進します。
- 子どもたちが常に心身ともに健康で生きがいを持ち、創造性に富み、社会の一員としての自覚を有し、人間性豊かな市民として成長することを目指し、その実現に努めます。
- 学校教育においては、学校、家庭、地域の密接な連携のもと、子どもたちが生涯を通して未来社会の変化に対応できるよう自主的精神を培い、国際的視野を持ち、健全で豊かな心をはぐくみ、個性を生かすための教育を推進します。
- 社会教育においては、地域の文化、教育、スポーツ活動を通して市民誰もが、あらゆる機会に、生きる喜び、学ぶ楽しさを得られ、生涯にわたって主体的に学び続けることができ、市民相互と地域のつながりを育てていく生涯学習社会の実現を目指します。
- 子どもから高齢者までが生涯にわたっていきいきと学習できる環境の充実を図り、もって豊かな文化の創造とふるさと昭島を愛する心を育て、且ついのちの大切さや環境との共生を考え、ひろく国際社会に貢献できる人材の育成を図ります。

基本方針

【学校教育】

基本方針 1 確かな学力の定着

- 1 学習指導要領の確実な定着
- 2 理数教育の充実
- 3 読書活動の推進と言語能力の育成
- 4 個に応じた支援の充実

基本方針 2 豊かな心の醸成

- 1 人権教育の推進
- 2 道徳教育の充実
- 3 体験活動の充実
- 4 いじめ問題への対応

基本方針 3 健やかな体の育成

- 1 体力向上の推進
- 2 学校給食・食育の充実
- 3 学校保健安全の推進

基本方針 4 輝く未来に向かって

- 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実
- 2 日本の伝統文化教育の充実
- 3 家庭・地域の教育力の向上
- 4 学校運営の改善
- 5 教育環境の整備
- 6 情報教育の推進
- 7 環境教育の推進
- 8 国際理解教育の推進
- 9 キャリア教育の推進

【生涯学習】

基本方針 1 生涯学習

- 1 生涯学習推進体制の整備
- 2 生涯学習の推進
- 3 公民館活動の充実

基本方針 2 図書館活動

- 1 図書館サービスの充実
- 2 図書館資料の充実
- 3 子ども読書活動の支援
- 4 サービス網の整備

基本方針 3 文化・芸術

- 1 市民文化の育成
- 2 自主的な活動の支援
- 3 文化芸術に関する意識の高揚
- 4 文化芸術に接する機会の拡充
- 5 文化芸術を担う人材の育成

基本方針 4 スポーツ・レクリエーション

- 1 スポーツ振興計画の推進
- 2 スポーツライフの形成
- 3 スポーツ・レクリエーションの基盤整備

基本方針 5 文化財

- 1 文化財の保護・保存
- 2 文化財の活用

第2章 教育委員会の組織及び活動状況

1 教育委員会委員

※ 平成31年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期 期 間	期数
教 育 長	小 林 一 己	平成28年4月1日から 平成31年3月31日まで	1 期
委 員 (教育長職務代理)	紅 林 由紀子	平成29年6月24日から 平成33年6月23日まで	5 期
委 員	石 川 隆 俊	平成30年12月25日から 平成34年12月24日まで	5 期
委 員	氏 井 初 枝	平成28年4月1日から 平成32年3月31日まで	1 期
委 員	白 川 宗 昭	平成28年4月8日から 平成31年4月7日まで	1 期

2 教育委員会事務事業を主管する組織

教育委員会

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
学 校 教 育 部	庶務課	庶務係	・教育委員会の会議に関すること。 ・条例、規則及び規程に関すること。 ・予算及び経理に関すること。 ・事務局及び課内庶務に関すること等
		施設係	・教育施設の建設計画に関すること。 ・教育機関の設置、管理及び廃止の手続きに関すること。 ・教育施設の新営工事及び維持修繕工事に関すること。 ・教育施設関係の補助金に関すること等
	指導課	学務係	・学齢児童及び学齢生徒の就学並びに児童生徒及び幼児の入 学、転学及び退学に関すること。 ・通学区域に関すること。 ・学級編制に関すること。 ・児童及び生徒に係る就学奨励に関すること等
		教職員係	・教職員の任免の内申その他人事に関すること。 ・教職員の服務に関すること。 ・教職員の給与、旅費、退職手当等に関すること。 ・教職員の福利厚生に関すること等
		指導係	・指導事務予算に関すること。 ・教育計画事業の推進に関すること。 ・教科書採択に関すること。 ・教育振興基金に関すること等
		特別支援 教育係	・特別支援教育の推進に関すること。 ・教育相談及び適応指導に関すること。 ・就学、転学等の相談に関すること。 ・巡回相談に関すること等
		指導主事	・教育課程編成、実施に関すること。 ・教育施策の企画、実施に関すること。 ・校内研究等、教職員の研修に関すること。 ・学校教育に関する専門的事項の指導に関すること。

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
学校教育 部	学校給食課	庶務係	・学校給食の計画に関すること。 ・配送に関すること。 ・学校給食運営審議会に関すること。 ・業者登録に関すること等
		収納係	・学校給食費に関すること。 ・給食物資の支払いに関すること。
		共同給食係	・学校給食共同調理場において調理される学校給食に係る次の事務に関すること。 (1) 献立に関すること。 (2) 調理に関すること。 (3) 食品の管理に関すること。 (4) 衛生管理に関すること等
		給食施設整備担当	・学校給食の施設整備に関すること。
生涯学習 部	社会教育課	社会教育係	・社会教育及び生涯学習の総合調整に関すること。 ・社会教育及び生涯学習に係る行政相談に関すること。 ・社会教育関係団体の育成及び援助に関すること。 ・市史及び文化財の保護、調査に関すること等
	教育福祉総合センター建設室		・(仮称) 教育福祉総合センターの建設に関すること。
	スポーツ振興課	スポーツ振興係	・スポーツ推進委員に関すること。 ・生涯スポーツの推進に関すること。 ・関係団体との連携及び協働に関すること。 ・スポーツの指導者の研修に関すること。 ・総合スポーツセンターの管理及び運営に関すること等
	市民図書館	整理係	・資料の収集及び受入れに関すること。 ・資料の整備、修理及び保存に関すること。 ・資料の分類、配列及び利用案内に関すること。 ・資料の目録の作成に関すること等
		貸出係	・図書館資料の提供及び貸出しに関すること。 ・読書相談及び参考調査に関すること。 ・児童及び学校図書館に対する奉仕に関すること等
	市民会館・公民館	管理係	・市民会館・公民館の施設及び設備の維持管理に関すること。 ・市民会館・公民館の利用承認並びに使用料の徴収、付属設備等の使用料の免除及び還付に関すること。 ・市民会館・公民館の庶務に関すること。 ・市民会館の自主文化事業に関すること等
		事業係	・公民館運営審議会の処務に関すること。 ・各対象別、課題別講座等の開設に関すること。 ・討論会、展示会、音楽会、美術展その他の集会に関すること。 ・公民館事業に係る情報収集及び提供に関すること等

3 教育委員会の会議における審議内容一覧

(1) 総合教育会議（企画政策課所管）

会議名 (開催日)	議 題
第1回（9月20日） 傍聴者2名	・昭島市の教育に関する現状と今後の方向性について
第2回（平成31年3月20日） 傍聴者4名	・平成31年度 昭島市の教育に関する重点施策について

(2) 定例会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第4回 (4月19日) 傍聴者 2名	議 案	・平成30年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・昭島市スポーツ推進委員の委嘱について
	協議事項	な し
	報告事項	・平成30年度小学生英語チャレンジ体験事業について ・平成30年度中学生英語キャンプ事業について ・平成30年度中学生海外交流事業について ・平成30年度昭島市立学校教職員異動の概要について ・昭島市立学校等教職員出勤簿管理規程の一部を改正する訓令 ・平成30年度昭島市立小・中学校学級編制の状況について ・平成29年度指定学校変更・区域外就学の処理状況について ・平成31年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択方法について ・平成29年度就学支援の状況について ・昭島市学校給食嘱託栄養士設置要綱 ・昭島市学校給食嘱託調理員設置要綱 ・昭島市青少年委員の辞退について ・昭島市教育福祉総合センター指定管理者候補者選定委員会要綱 ・昭島市民図書館運営規則 ・昭島市市民図書館処務規則等の一部を改正する規則 ・昭島市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令 ・昭島市教育委員会文書管理規程の一部を改正する訓令 ・昭島市民図書館資料の郵送による個人貸出実施要綱等の一部を改正する要綱 ・その他8件
第5回 (5月17日) 傍聴者4名	議 案	・昭島市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する学識経験者の委嘱について ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・平成30年度昭島市青少年教育協力者感謝状被贈呈者について
	協議事項	な し

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第5回 (5月17日) 傍聴者4名	報告事項	・平成29年度「昭島市立学校教育推進計画」の成果と課題について ・平成30年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）計画表について ・昭島市就学支援委員会委員の委嘱について ・昭島市転学・入級判定委員会委員の委嘱について ・昭島市難聴・言語障害通級指導学級入退級判定委員会委員の委嘱について ・昭島市立小学校学校薬剤師の委嘱について ・アキシマクジラ化石見学ツアーについて ・平成30年度「市民プール・拝島第一小学校プール」の開設について ・その他3件
第6回 (6月22日) 傍聴者4名	議 案	・平成30年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について
	協議事項	な し
	報告事項	・就学相談説明会の開催について ・昭島市教育福祉総合センター指定管理者の募集について ・その他6件
第7回 (7月19日) 傍聴者2名	議 案	・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について ・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	・昭島市立学校の通学区域の変更について
	報告事項	・平成30年第2回昭島市議会定例会一般質問＜教育委員会関係＞について ・昭島市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の規定による年齢層ごとの長期療養者の休業補償及び年金たる補償に係る補償基礎額の最低限度額及び最高限度額の一部改正について ・平成30年度昭島市学力調査（小学校第4学年・中学校第1学年）結果について ・平成29年度昭島市学校給食費会計決算報告について ・その他3件
第8回 (8月9日) 傍聴者21名	議 案	・平成31年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について
	協議事項	な し
	報告事項	・「未来をひらく」発表会の実施について ・昭島市教育福祉総合センター指定管理者の募集状況について ・第65回昭島市民体育大会について ・第64回昭島市新春駅伝競走大会について ・その他4件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第9回 (9月6日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市社会教育委員の委嘱について ・昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について
	協議事項	・昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書（平成29年度分）について ・昭島市教育福祉総合センター指定管理者候補者の選定結果について
	報告事項	・平成30年度昭島市一般会計第2号補正予算(案)＜教育委員会関係＞について ・昭島市給付型奨学金制度の募集状況について ・秋の社会教育関係行事について ・昭島市民文化祭の開催について ・その他5件
第10回 (10月18日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市奨学金等支給条例に基づく奨学生の決定について（非公開） ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市文化財保護審議会委員の委嘱について
	協議事項	・昭島市立中学校に係る運動部活動の方針について
	報告事項	・平成30年第3回昭島市議会定例会一般質問（教育委員会関係）について ・平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について ・平成30年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）の結果について ・昭島市立中学校部活動指導員に関する要綱 ・平成30年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の実施について ・昭島市社会教育委員会議建議「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習を推進するための社会教育の役割」について ・昭島市公民館運営審議会建議「昭島市民大学の検討及び提言」について ・その他8件
第11回 (11月15日) 傍聴者3名	議 案	・昭島市公立学校学区に関する規則の一部を改正する規則 ・平成31年度昭島市立学校における教育課程編成基準について
	協議事項	な し
	報告事項	・平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について ・平成30年度昭島市学校給食費会計上半期報告について ・その他8件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第12回 (12月20日) 傍聴者 9 名	議 案	な し
	協議事項	・平成30年度昭島市立学校卒業式における告辞及び平成31年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について ・昭島市指定文化財の指定に関する諮問について ・昭島市民図書館の指定管理者指定書の交付について
	報告事項	・平成 30 年第 4 回昭島市議会定例会一般質問（教育委員会関係）について ・教育委員と市立小中学校長との懇談会について ・平成 30 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」の結果について ・平成 30 年度学校給食食育展示の開催について ・平成 30 年度校長職選考、教育管理職選考、4 級職選考、主任選考結果について（非公開） ・その他 2 件
第 1 回 (平成31年 1月17日) 傍聴者 5 名	議 案	・昭島市指定文化財の指定について
	協議事項	・平成 30 年度昭島市立学校卒業式における告辞及び平成 31 年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について ・昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する基本協定書について
	報告事項	・昭島市実施計画（平成 31 年度から平成 33 年度）（教育委員会関係）について ・平成30年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果について ・その他 2 件
第 2 回 (2月21日) 傍聴者 4 名	議 案	・平成31年度昭島市立学校校長等の任用に関する内申について（非公開）
	協議事項	な し
	報告事項	・平成30年度昭島市一般会計第5号補正予算（案）（教育委員会関係）について ・小・中学校体育館の空調機器設置事業計画について ・平成31年度教育施策推進の基本的考え方について ・公共施設における受動喫煙防止対策について ・その他 7 件
第 3 回 (3月15日) 傍聴者 5 名	議 案	・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則 ・昭島市立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について ・平成31年度昭島市立学校の教育課程の受理について
	協議事項	な し

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第3回 (3月15日) 傍聴者5名	報告事項	・平成31年度昭島市一般会計予算（教育委員会関係）について ・平成31年度予算編成における昭島市議会各会派からの要望に対する回答（教育委員会関係）について ・平成31年第1回昭島市議会定例会代表質問及び一般質問（教育委員会関係）について ・平成31年度昭島市立学校副校長に関する内申について（非公開） ・平成31年度昭島市立学校校長・副校長等の一覧について（非公開） ・平成30年度昭島市立中学校における進路決定の状況について ・平成31年度昭島市学校給食費会計予算について ・昭島市デジタルアーカイブズの公開について ・教育福祉総合センターの愛称の募集について ・その他2件

4 教育委員会委員の主な活動

事業名	実施日	場所
昭島市教育委員会表彰式（平成29年度第2回）	平成30年 4月1日	市民ホール
校長辞令伝達式	4月2日	市民ホール
小学校入学式	4月6日	各小学校
中学校入学式	4月9日	各中学校
東京都教育施策連絡会	4月20日	中野サンプラザ
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会	4月24日	東京自治会館
昭島市租税教育推進協議会定期協議会	5月12日	市役所204会議室
教育委員会学校訪問（第1回）	5月17日	玉川小学校、中神小学校
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	5月22日	東京自治会館
関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会、研修会	5月25日	静岡県藤枝市
昭島市体育協会評議委員会（総会）	5月28日	市民ホール
昭島市立公立小学校PTA協議会総会	6月8日	市民ホール
昭島市立公立中学校PTA協議会総会	6月26日	市民交流センター
昭島市中学生海外交流事業結団式	6月10日	市民ホール
東京都市教育長会研修会	7月20日	東京自治会館
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会及び 第1回理事研修会	8月23日	東京自治会館
第65回昭島市民体育大会開会式	9月2日	KOTORIホール
小学校音楽鑑賞教室	9月12日	KOTORIホール
「未来をひらく」発表会	9月22日	市民ホール
昭島市民文化祭	10月5日～ 11月3日	KOTORIホール・公民館
市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2018	10月8日	昭和公園内運動施設
東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修	10月12日	東京都江東区
教育委員会学校訪問（第2回）	10月18日	共成小学校、福島中学校
東京都市町村教育委員会連合会第3ブロック研修 会	10月25日	在日米軍横田基地
昭島市教育懇談会	10月26日	市民ホール
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修 会	10月30日	調布市教育会館
昭島市教育委員会表彰式（平成30年度第1回）	11月3日	市民ホール
東京都市町村教育委員会連合会第1ブロック研修 会	11月6日	福生市防災食育センター
小学校音楽会	11月8日	KOTORIホール

事業名	実施日	場所
2018青少年フェスティバル	11月25日	KOTORIホール・公民館
税の作文・標語表彰式	12月7日	市長応接室
第64回新春駅伝競走大会	平成31年 1月13日	光華小東～八清通り～光華小北
第65回成人式	1月14日	フォレスト・イン昭和館
平成31年昭島市まちづくり新年賀詞交歓会	1月8日	フォレスト・イン昭和館
東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会及び 第2回理事研修会	1月15日	東京自治会館
市立小中学校長との教育懇談会	1月17日	市民交流センター
特別支援学級合同学習発表会	1月19日	KOTORIホール
第57回新春たこあげ大会	1月21日	拝島自然公園他4箇所
小学校展覧会	1月25日～ 27日	公民館
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月8日	東京自治会館
第7回昭島市自治会ブロック対抗スポーツ大会	2月3日	総合スポーツセンター
中学校卒業式	3月19日	各中学校
小学校卒業式	3月22日	各小学校

5 教育委員会委員の研修

事業名	実施日	場所	内 容
関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会研修会	5月25日	静岡県武道館 (静岡県藤枝市)	・行政説明 文部科学省 ・記念講演 演題 「幸せはいつも自分でつかむ」 講師 バルセロナ・オリンピック 金メダリスト 岩崎 恭子 氏
東京都市教育長会研修会	7月21日	東京自治会館	演題 「グローバル人材の育成と異文化コミュニケーション～子どもたちに伝えたいおもてなしの心～」 講師 筑波大学客員教授 江上 いずみ 氏
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事研修会	8月23日	東京自治会館	演題 「AI時代の教育の変化について」 講師 東京学芸大学 副学長 松田 恵示 氏
東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修	10月12日	東京都 江東区	「パナソニックセンター東京 リスーピア」及び「TOKYO GLOBAL GATEWAY」の視察
東京都市町村教育委員会連合会第3ブロック研修会	10月25日	在日米軍横田基地(福生市)	在日米軍横田基地内アメリカンスクール小学校(Mendel Elementary School)及び中学校(Yokota Middle School)の視察
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	10月30日	調布市 教育会館	演題 「児童養護施設の現場から見えてくる諸問題について」 講師 社会福祉法人二葉保育園 常務理事 武藤 素明 氏
東京都市町村教育委員会連合会第1ブロック研修会	11月6日	福生市防災食育センター	・施設見学、施設紹介DVD鑑賞 ・研修 演題 「これからの教育課題への対応について」 講師 東京都多摩教育事務所 指導課長 榎並 隆博 氏
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事研修会	平成31年 1月15日	東京自治会館	演題 「新学習指導要領の実現に向けて」 講師 東京都多摩教育事務所 指導課長 榎並 隆博 氏
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月8日	東京自治会館	演題 「ストレスをためずに生きるために」 講師 医学博士、エッセイスト、歌手 海原 純子 氏

第3章 主要施策の点検及び評価

第2次昭島市教育振興基本計画(平成27年度～32年度実施)

- プラン1 確かな学力の定着
- プラン2 豊かな心の醸成
- プラン3 健やかな体の育成
- プラン4 輝く未来に向かって
- プラン5 生涯学習の推進

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 1 学習指導要領の確実な定着

子ども一人一人に学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、子どもの学習意欲の向上や学習規律の確立を図ることは重要です。また、子どもの特性や習熟の程度に応じた学習集団を編成したり、指導体制や指導方法を工夫したりするなど、個に応じた教育を推進することは大切です。

そのためには、小学校4年生から中学校3年生で実施する学力調査の結果を分析し、その結果から「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的改善を図らなければなりません。

また、それらの目的を達成するために、教職員は常に研究と修養に努め、その指導力を高めることが求められています。

【施策の取組状況】

- (1) 教職員の指導力の向上
- (2) 授業改善の推進
- (3) 個に応じた指導の充実
- (4) 子どもの実態に合った教科用図書の採択と副読本の作成
- (5) 教職員のサービスの充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	教職員の研修 の充実 【指導課】	主任・主幹教諭の研修、加えて副校長・校長の研修などについて、職層に応じた研修の実施やOJTの充実を図ります。	職層に応じて、4月に校長、新任主幹教諭、新任主任教諭、5月に副校長、8月に主任教諭2年目を対象とした研修を実施しました。
1-(1)	若手教員の育成 【指導課】	初任者から3年次までの教員の指導力を育成するための研修を実施します。	初任者研修では「問題解決的な学習」を主なテーマに10回、2年次研修では「指導と評価の一体化」を主なテーマに3回、3年次研修では「言語活動の充実」を主なテーマに2回行いました。初任者研修は17人、2年次研修は28人、3年次研修は16人の教員が修了しました。
1-(1)	教育研究会 との連携 【指導課】	教育委員会は、教員が研究を行っている小学校教育研究会・中学校教育研究会と連携し、指導力の向上を図ります。	小学校教育研究会は年8回、中学校教育研究会は年7回の研修会を開催し、授業研究を中心に指導力の向上を図りました。
1-(1)	教育委員会研究 指定校制度の活用 【指導課】	様々な教育課題や施策推進に対しての研究を推進する学校を指定し、全校で共有し、教育活動を推進します。	拝島第二小学校・福島中学校が「主体的・対話的で深い学び」について、成隣小学校・清泉中学校が「体力向上」について、拝島第三小学校が「持続可能な社会に向けた教育」について、中神小学校が「プログラミング教育」について、瑞雲中学校、武蔵野小学校、つつじが丘小学校が「小中一貫教育」について、昭和中学校が「学校の働き方改革」について、研究発表会や報告会を行いました。
1-(1)	教員における リーダー層の育成 【指導課】	校長・副校長への人材発掘をはじめ、有望な若手教員への研修への積極的なアプローチを行い、リーダー層を育成します。	主任教諭2年次の教員を対象とした学校マネジメント講座を実施し、ミドルリーダーとしての意識や役割、授業改善の方法について研修を行いました。10名の教員が受講しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(2)	学力調査の実施 【指導課】	子どもの学力向上を図るために小学校4年生と中学校1年生で市独自の調査を実施します。また、国の調査を小学校6年生と中学校3年生で、都の調査を小学校5年生と中学校2年生で実施し、授業改善の指標とします。	全国学力・学習状況調査の全国の平均正答率の比較では、小学校（国語A：-0.7ポイント、国語B：-1.7ポイント、算数A：-0.5ポイント、算数B：-3.5ポイント）、中学校（国語A：-2.1ポイント、国語B：-2.2ポイント、数学A：-3.1ポイント、数学B：-2.9ポイント）でした。都及び市の学力調査の結果においても同様の傾向がありました。教務主任会で子どもの実態を伝え、各学校での分析結果を生かした授業改善推進プランに生かすことや取組方法について指導しました。また、市の子どもの学力定着の課題を集めた確認問題集を作成し、各学校に配布しました。 (※全国学力・学習状況調査、都及び市の学力調査の教科別平均正答率については〔表1〕～〔表3〕のとおり)
1-(2)	授業改善推進 プランの作成・活用 【指導課】	各学力調査の結果を学校ごとに分析し、「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的向上を図るとともに、子どもの学力の定着を図ります。	全校が全教科で授業改善推進プランを作成し指導に生かすとともに、指導課訪問等で指導主事が学校訪問を実施し、プランの実施状況の効果・確認等を行うとともに指導・助言を実施しました。
1-(2)	学力向上推進 委員会での研究 【指導課】	小・中学校の学力向上のための方策について検討し、推進する委員会を実施、子どもに確かな学力を身に付けさせます。	学力向上に関係する取組については、学校運営の中核を担う教務主任の役割が大きいことから、年6回の教務主任会において、主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善について、各学校の取組を発表し、協議を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(2)	学習規律の徹底 【指導課】	授業内容の定着をより図るために、子どもたちに学習に取り組む規準を示し、徹底を図ります。	小中一貫教育の取組においてまとめた学習規律について、教務主任会の分科会において実施状況を確認し、全校で実践しました。
1-(3)	習熟度別指導等の実施 【指導課】	少人数習熟度別学習など、子どもの実態に合わせた指導を実施するとともに、各学校の教員が集まり効果的な指導法を検討します。	小学校では、主に第3学年以上の算数、中学校では数学・英語において少人数習熟度別学習を実施しました。また、指導課職員及び指導主事が定期的に訪問し、指導内容・方法について、指導・助言を行いました。
1-(3)	東京ベーシック・ドリルの活用 【指導課】	小学校4年生までに習得すべき基礎的・基本的な内容のドリルを活用し、一人一人の子どもに応じた指導を行います。	東京ベーシック・ドリルをデータで各小学校に配布し、各学校での活用を促しました。小学校土曜補習事業全体でも活用しました。
1-(3)	土曜日・放課後補習の実施 【指導課】	学校と教育委員会が連携して、土曜日や放課後等に子どもの学習状況に応じて補習を行い、確かな学力の定着を図ります。	全小・中学校において、土曜日補習を延べ1,990時間、84人の指導員で実施しました。土曜日補習教室では、主任指導員・指導員による指導体制により基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りました。全中学校を対象とした英検対策講座を指導課主催により市役所にて4回実施しました。放課後補習は、延べ772時間、37人の指導員で実施しました。各学校の1回あたりの平均参加児童・生徒数は約28人でした。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(4)	教科用図書の採択 【指導課】	昭島市の小・中学校で使用する教科用図書が子どもの実態に合ったものとなるよう選定資料を作成し、教育委員会で適正に採択します。	8月の定例教育委員会において適正に採択を実施しました。中学校の「特別の教科 道徳」の教科用図書について、新たに適正に採択しました。小学校の通常の学級で使用する教科用図書については、平成26年度に作成した教科用図書選定資料を基に適正に採択を実施しました。また、特別支援学級で使用する教科用図書についても適正に採択しました。
1-(4)	社会科副読本の編集・作成 【指導課】	昭島市のことについて学ぶ、「わたしたちの昭島市」を作成し、小学校3・4年生の社会科の学習で活用します。	「わたしたちの昭島市」を2,092冊発行し、市内第3学年児童に配布しました。また、次回改訂に備え、小学校社会教育課副読本作成委員会を6回開催し、新学習指導要領に対応した副読本を目指し、内容の改善について検討しました。
1-(5)	子どもと触れ合う時間の確保 【指導課】	教職員が子どもと触れ合う時間を確保するために、業務の効率化や削減を行います。また、ワークライフバランスを考えた職場環境の充実に努めます。	授業準備等の補助をする学級事務補助支援員として、スクール・サポート・スタッフをモデル校14校に配置しました。
1-(5)	教職員のサービスの徹底 【指導課】	体罰の根絶など、教職員の服務事故防止に向けた研修を実施し、サービスの徹底を図ります。	全小・中学校において年に2回以上の全教職員悉皆の服務事故防止研修を実施し、サービスの徹底を図りました。

〔表 1〕

〈全国学力・学習状況調査〉

調査対象：全小学校 6 年生及び全中学校 3 年生

実施日：平成30年 4 月17日

		教科別平均正答率					
小 学 校	教 科	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	計
	国平均	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	300.7
	昭島市	70	53	63	48	59	293.0
中 学 校	教 科	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科	計
	国平均	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	316.4
	昭島市	74	59	63	44	61	301

〔表 2〕

〈東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査〉

調査対象：全小学校 5 年生及び全中学校 2 年生

実施日：平成30年 7 月 5 日

		教科別平均正答率					
小 学 校	教 科	国語	社会	算数	理科		計
	都平均	66.5	70.2	53.8	70.4		260.9
	昭島市	62.6	67.5	49.4	69.4		248.9
中 学 校	教 科	国語	社会	数学	理科	英語	計
	都平均	72.5	60.3	53.0	52.5	56.7	295.0
	昭島市	68.3	58.2	47.7	48.6	49.1	271.9

〔表 3〕

〈市独自の児童・生徒の学習状況を把握するための調査〉

調査対象：全小学校 4 年生及び全中学校 1 年生

実施日：平成30年 4 月12日

		教科別平均正答率		
小 学 校	教 科	国語	算数	計
	国平均	70.7	74.9	145.6
	昭島市	67.3	73.2	140.5
中 学 校	教 科	国語	数学	計
	国平均	69.0	69.8	138.8
	昭島市	69.0	71.1	140.1

【主な課題】

(a) 教員の研修について

新学習指導要領に明記されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に向けて研修することや、経験年数に応じた効果的な研修を行っていくことが今後必要である。

(b) 児童・生徒の学力向上について

各種学力調査の結果では、全国や都の平均正答率を下回る状況である。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、学習したことを活用したり、応用して考えたりする能力を身に付けさせることが必要である。各学校の児童・生徒の実態及び個に応じた指導の充実を図っているが、より一層の教員の授業力向上が必要である。

(c) 学力調査の活用について

各学校が調査結果を分析・作成した授業改善推進プランを活用した授業に取り組むとともに、昭島市の実態として児童・生徒の理解が十分ではない問題を確認問題集として作成し配布しているが、今後も継続した取組が必要である。

(d) 学校の働き方改革について

教員が時間をかけたいと考えている子どもとの触れ合い、教材研究の時間の確保及び教員の長時間勤務の解消のためにも学校の働き方改革は喫緊の課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 教員の研修について

今後も新学習指導要領の趣旨に基づいた内容を指導課主催の研修に取り入れていく。若手教員育成研修の内容を充実させるとともに主任教諭任用時研修等において研修内容に人材育成の観点を取り入れ、教員の資質向上を図る。

(b) 児童・生徒の学力向上について

教員の授業力向上が図れるように中学校1校をモデル校として、大学教授等から助言を受けられる「授業力向上アドバイザー事業」を実施する。他校においても指導課訪問等において教員の授業力向上を焦点にした取組を進められるように指導・助言を行う。

学習の定着に課題のある児童・生徒の指導の充実については、今後も習熟度別少人数指導、学習支援員等を活用した個別指導、土曜日・放課後補習教室を有効活用しながら、学習内容の定着を図る。

(c) 学力調査の活用について

学力調査の結果等から、各教科の重点課題を一つに絞り、授業改善推進プランを作成する。授業改善推進プランに基づいた取組や学力向上に効果のあった取組について教務主任会で発表・協議し、各学校のレベルアップを図る。

学力調査の結果分析に基づいた確認問題集を引き続き作成し、各学校で活用していくよう教務主任会等で説明を行う。

(d) 学校の働き方改革について

「学校の働き方改革実施プラン」に基づき、教職員の心身の健康保持やライフ・ワーク・バランスの取れた生活を実現するとともに、教職員が子どもと向き合う時間を十分に確保し、学校教育活動の質の維持向上を図れるようにする。そのために、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員等を積極的に活用して教員の業務軽減を図れるようにする。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 2 理数教育の充実

学術研究や科学技術の分野において、世界で活躍する人材を育成するためには、その土台である理数教育の充実を図る必要があります。科学に関する基礎的な素養を身に付けるとともに、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価して表現したり、帰納的な考え方や演繹的な考え方を活用したりするなど、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導内容の充実を図ります。

また、観察・実験において子どもの学習意欲を高めるよう教員研修を実施します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2	理科実技実験研修 の実施 【指導課】	小学校若手教員を対象に理科の実験に関する研修会を実施し、模擬授業を実践するとともに、実験の演習を通じて指導力の向上を図ります。	全小学校から、東京都理科教育カンファレンスに参加し、OJT研修により、各教員に内容を伝達しました。
2	理数フロンティア 事業 【指導課】	東京都から指定された理数フロンティア校における実践を市内小・中学校に広めるとともに、様々な教材を提供します。	平成 26 年度で東京都の理数フロンティア事業が終了し、理科教育カンファレンスに移行しました。

【主な課題】

(a) 理数教育について

子どもの理科離れを防ぐために、今後も教員が理科指導の能力を身に付ける必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 理数教育について

理科の観察や実験において、子どもの学習意欲を高めるように東京都教職員研修センターで実施している教科等・教育課題研修の積極的な受講を促す。また、理科教育推進教員を全小学校に配置する。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成

各学校で「学校図書館活用計画」を作成し、学校図書館担当教員、司書教諭、学校司書及びボランティアなどが連携し、子どもの読書活動を一層推進します。

また、学校図書館と市民図書館の連携を強化するとともに、子どもに読書活動を通して考える力や豊かな感性、情緒などを身に付けさせ、人間力の基礎となる「言語力」の育成を図ります。

東京都から指定された、言語能力向上拠点校を中心とした取り組みを、学力向上推進委員会を通じて広めます。

【施策の取組状況】

- (1) 読書活動の推進
- (2) 司書の専門性の活用
- (3) 言語能力の育成

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(1)	全校一斉朝読書の実践 【指導課】	市内全校で朝読書を実施し、言語能力の向上を図るとともに、豊かな感性や思いやりの心をはぐくみます。	小学校は、学期毎に1週間程度、読書週間の取組の一環として実施しました。中学校は年間を通して、実施しました。
3-(1)	読み聞かせの実践 【指導課】	学級担任や上級生、ボランティア等による「読み聞かせ」を実施し、読書への関心を高めます。	全小中学校で図書ボランティアや上級生が読み聞かせを行いました。
3-(1)	学校図書館の蔵書の充実 【庶務課】	子どもに親しまれる図書や調べ学習に役立つ図書資料の充実に努めます。	古い図書等の整理を行い、各学校の予算の範囲内で図書を購入しました。その結果、学校図書館図書標準に対する蔵書率は、小・中学校全校で100%を超え、全体として小学校は146%、中学校は115%となっています。
3-(1)	学校図書館の利用促進 【指導課】	学校図書館の利用促進を図るための指導を行います。	読書活動全体計画、年間指導計画を作成し、国語、総合的な学習の時間、社会科等を中心に活用を促進しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(2)	学校司書の派遣と 図書ボランティア による活動の推進 【指導課】	学校司書を派遣し、学校図書館の充実を図るとともに、図書ボランティアの育成を図り、学校における読書活動を推進し、子どもの豊かな感性や情緒を身に付けさせるとともに、言語能力を育成します。	小・中学校全校に司書教諭を配置し、各学校に司書資格のある支援員を年間 45 日派遣するとともに、図書ボランティアを活用して読書活動の充実を図りました。
3-(2)	学校図書館管理 システムの活用 【指導課】	学校図書館管理システムの活用を図り、子どもたちの読書傾向を分析し、図書購入の資料とするとともに、言語能力育成に生かします。	学校図書館管理システムから各分野の蔵書割合を算出し、バランスのとれた図書購入を行いました。読書活動でのお薦めの本の他に総合的な学習の時間や社会科等の調べ学習において必要な資料等、子どものニーズに合った本をそろえました。
3-(3)	言語能力向上 拠点校の取組 【指導課】	拠点校において、伝統的な言語文化の理解や社会生活に役立つ言語の技能及びコミュニケーション能力の育成についての研究に取組み、その成果を広めます。	東京都教育委員会言語能力向上拠点校の事業が平成 28 年度で終了し、新学習指導要領の内容を周知する際に、今後も言語活動の充実を継続して図るよう指導・助言を行いました。
3-(3)	子どもの主張意見 文コンクールの 開催 【指導課】	「青少年とともにあゆむ都市宣言」に基づき、自分の思いを発表する意見文コンクールを開催します。	小・中学校全校で取り組み、自己とのかかわりを見つめ、これからの昭島について考えたことを表現しました。応募数は 1,920 点、2 回の委員会を開催し、小・中各 15 点の入選作品を選定しました。コンクールには、173 人の参観がありました。

【主な課題】

(a) 読書活動について

子どもの活字離れを防ぐためにも、学校における読書活動の充実が必要である。

(b) 学校図書館運営業務の人材の確保について

司書資格を持っている学校図書館支援員（委託業務）の配置日数を年 45 日に増加したが、今後も人材確保が課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 読書活動について

読書活動全体計画に基づき、国語の時間に加え、朝の時間・休み時間・放課後等の授業以外の時間を活用して、計画的に読書活動を充実させる。

(b) 学校図書館運営業務の人材の確保について

学校図書館支援員の配置日数について年45日を維持し、地域人材による図書ボランティアの募集を積極的に行う。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 4 個に応じた支援の充実

発達障害を含めた特別な支援を必要とする子どもを総合的に面から支援する体制を整え、子どもの一人一人の教育ニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習の困難を改善・克服するための特別支援教育を推進します。

また、不登校傾向にある子どもに適応指導教室における支援を行うことや、教育に関する悩みがある保護者が相談しやすいよう相談体制を充実します。

【施策の取組状況】

- (1) 特別支援教育の充実
- (2) 不登校への対応・適応指導の充実
- (3) 教育相談体制の充実
- (4) 就学援助等による支援

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(1)	推進体制の整備 【指導課】	自閉症・情緒障害特別支援学級を開設し、子どもが必要としている支援に応じた教育を行います。	平成 31 年 4 月の富士見丘小学校自閉症・情緒障害特別支援学級の開設に向け準備を進め、児童、保護者への理解の促進を図りました。
4-(1)	教育内容の充実 【指導課】	通級指導学級における教育課程や個別の教育支援計画の充実を図ります。また、交流や共同学習を実践します。	通級指導学級担当教員を対象とした通級指導学級部会、知的障害特別支援学級担当教員を対象とした特別支援学級部会を年間で各 3 回開催し、教育課程の内容の充実や授業研究等を通して研修を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(1)	人材の育成 【指導課】	すべての教員が特別支援教育に携わることから、研修を実施するとともに、教育内容を充実します。	「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を 300 冊発行し、全教員に配布しました。各学校へ訪問し、全教員に対して、教室環境・学習環境・授業に関して具体的に指導しました。
4-(1)	特別支援教育関係 機関との連携 【指導課】	エリア・ネットワークを活用し、都立あきる野学園などの関係機関との連携を図るとともに「居住地交流」や「副籍交流」を活性化し、特別支援教育を推進します。	「居住地交流」は 11 名、「副籍交流」は 32 名の子どもが障害の程度に応じた交流内容を保護者等と協議して実施しました。
4-(1)	特別支援教育 の啓発活動の推進 【指導課】	特別支援教育について多くの方に理解していただくために、説明会や研修会を定期的に実施します。	特別支援教育市民説明会を年 2 回実施して、市民の方に発達障害の特性についての講演会を行いました。内 1 回は子ども育成課と連携して共同開催で実施しました。参加者は延べ 101 人でした。
4-(1)	情緒障害等通級 指導学級での 指導の充実 【指導課】	情緒障害等通級指導学級に指導員を配置し、子どもへの指導を充実させるとともに、通級指導学級の担任が子どもの在籍校を巡回指導します。	情緒障害等通級指導学級に 2 人の指導員を配置しました。通級指導学級の担任は、学期始めを中心に在籍校の巡回指導を実施しました。
4-(1)	特別支援学級 の開設 【指導課】	支援を必要とする子どもに対して、個に応じた指導が充実できるよう、特別支援学級を開設します。	平成 31 年度に富士見丘小学校に固定制の自閉症・情緒障害特別支援学級を開設するために、教室整備工事を実施しました。
4-(2)	適応指導教室の指 導體制と指導内容 の充実 【指導課】	適応指導教室における指導体制と指導内容を充実し、不登校傾向にある子どもが学校復帰できるよう支援します。	適応指導教室には、小学生 10 人、中学生 23 人が通室しました。通室児童・生徒に対して、個別指導を継続的に行い、学校復帰及び上級学校への進学を目指しました。（※適応指導教室児童・生徒在籍状況については〔表 4〕のとおり）

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(2)	学校と家庭の 連携推進事業 【指導課】	不登校・いじめなどの生活指導の課題に対応するため、支援員を配置し、地域や学校の実態にあった取組を行います。	全校に学校と家庭の連携支援員を配置し、登校時の家庭訪問や登校後の子どもへの個別指導により、不登校傾向の子どもに支援を行いました。（※児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題（不登校）に関する調査については〔表5〕のとおり）
4-(3)	窓口を一本化した 相談体制の充実 【指導課】	特別支援教育を含め、学校教育に関しての相談について、窓口を一本化し、充実した相談活動を行います。	学務係が窓口対応を行い、相談内容によって各担当係に振り分ける体制を構築しました。
4-(3)	適切な就学 【指導課】	子どもが適切な教育を受けることができるよう就学相談を実施します。	特別支援教育係が年間を通して、随時、就学相談を受け、円滑に就学支援委員会（年 11 回開催）につなげる体制をとりました。
4-(3)	スクールカウンセ セラーの配置 【指導課】	子どものみならず保護者の相談に応じるために、全校にスクールカウンセラーを配置します。	スクールカウンセラーを全校に配置し、子ども・保護者の相談に応じました。
4-(3)	スクールソーシャル ワーカーの派遣 【指導課】	教育相談室にスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの様々な行動や保護者のもつ課題について関係諸機関との連携を図り、解消します。	スクールソーシャルワーカー 3 名を教育相談室及び指導課に配置し、子どもや保護者の家庭にかかわるトラブルに、円滑な対応ができる体制をとりました。関係機関とのケース会議に延べ 53 回出席して、支援を行いました。
4-(3)	教育相談研修・ 教育相談担当者会 の実施 【指導課】	教員が教育相談の能力を身に付け、子どもとの関わり方を学ぶための研修を実施します。また、教育相談の担当者が集まり各学校の取組について情報交換を行います。	初任者、10 年経験者及び希望者を対象に教育相談基礎研修を実施し、40 人が受講しました。また、教育相談担当者会を年 2 回開催し、情報交換を実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(3)	教育相談室の充実 【指導課】	教育相談員のキャリアアップを図るとともに、相談体制をより整備し、教育相談の充実を図ります。	週に1回、受付会議を実施し、相談の方向性について検討を行いました。（※教育相談室相談状況については〔表6〕のとおり）
4-(3)	望ましい学級集団を形成するための調査の実施 【指導課】	学級集団への満足度についての調査を実施し、よりよい学校生活が送れるように支援します。	学級満足度調査を小学校3年生～中学校3年生で実施しました。教員に対して、理解を深めるため全体講義を1回実施するとともに、臨床心理士が各学校で個別講義を行って、学級の状態や支援すべき子どもを把握し、学級経営の充実を図る体制を構築しました。
4-(4)	就学援助の実施 【指導課】	経済的な事情で教育費の支出が困難な家庭を対象として、就学に必要な費用を援助します。	小学生 875 人、中学生 524 人を対象に合計 1 億 2,104 万 3,819 円の援助を行いました。（就学援助率は小学校 15.8%、中学校で 20.4%）また、給付型奨学金制度から、高等学校等に入学予定の生徒 9 人に合計 54 万円の入学準備金と、昨年度から継続の生徒 10 人に合計 112 万 200 円の奨学金を支払いました。
4-(4)	特別支援教育 就学奨励の実施 【指導課】	子どもが特別支援学級に在籍する家庭を対象として、その就学の特殊性から経済的な負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助します。	小学生 33 人、中学生 21 人を対象に合計 256 万 4,495 円の援助を行いました。
4-(4)	日本語指導の実施 【指導課】	外国籍の児童・生徒や帰国子女に対して、日本語指導が必要な場合、日本語指導員を派遣します。	外国籍等の子ども 14 人に対して日本語指導員を派遣して、授業の補助を行いました。

〔表 4〕

〈適応指導教室児童・生徒在籍状況〉 (人)

区分	小学校	中学校	合計
人数	10	23	33

〔表 5〕

〈児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題（不登校）に関する調査〉

小学校	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
都出現率	0.46%	0.49%	0.52%	0.56%	未公表
市出現率	0.55%	0.51%	0.49%	0.56%	0.63%
不登校児童数	31人	28人	27人	31人	35人

中学校	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
都出現率	3.17%	3.33%	3.60%	3.78%	未公表
市出現率	3.06%	2.85%	3.43%	3.27%	2.89%
不登校生徒数	81人	76人	89人	86人	74人

〔表 6〕

〈教育相談室相談状況〉 (件)

相談内容	不登校	いじめ	交友関係	性格上の問題	情緒不安定	特別支援	進路相談	学校教育	家庭教育	その他	合計
相談件数	165	11	0	180	13	21	8	29	37	50	514

【主な課題】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級の担任だけでなく、通常の学級の担任も含め、特別支援教育に関する教員の専門性について、より一層向上させていく必要がある。

(b) 特別支援教室についての啓発活動について

特別支援教育に関わりの少ない保護者について、特別支援教育、特に発達障害について理解啓発活動を継続していく必要がある。

(c) 特別支援教室の開設について

特別支援教室の全面実施に伴い、通級・通室希望児童が増えているため、今後も個別指導計画に基づいた指導の充実が必要である。

〈情緒障害等通級指導学級・特別支援教室の通級・通室人数（小・中合計）〉

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
人数	103人	142人	183人	215人	249人

(4月1日現在数)

(d) 不登校児童・生徒について

不登校の兆候がある段階で手だてを講じる必要がある。家庭状況が複雑化、多様化しているため保護者との協力体制をとり、進めることが大切である。

(e) 日本語指導の実施について

日本語の習得に支援が必要な子どもが増加傾向にあり、母国語も多様化しており、より一層の充実を図る必要がある。また、外国籍の子どもが日本語の習得に時間がかかるため、日本語指導員の派遣期間を延ばす必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

平成29年度から特別支援学級担任教員を対象とした研修会について、授業研究を中心とした内容に変更したため本年度も継続して実施する。冊子「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を継続して活用し、通常の学級における特別支援教育の推進を図る。

(b) 特別支援教育の啓発活動について

発達障害に関する市民向け説明会を継続して実施するとともに、特別支援教室での指導が全面実施となるため学校だよりや保護者会等を活用し、より一層特別支援教育への理解・啓発に努める。

(c) 特別支援教室の開設について

特別支援教室の指導にあたっては、今年度の指導の成果を生かして一人一人の課題に応じた自立活動と教科の補充指導の充実を図っていく。また、特別支援教室専門員や巡回心理士を活用し、特別支援教室での指導の充実を図る。

(d) 不登校児童・生徒について

毎月1回以上欠席をする児童・生徒を学校全体で把握し、組織的に対応するように、担任・学年主任・生活指導主任の連携を密にする。児童・生徒の欠席状況に関する調査も実施し、休みがちな児童・生徒には、教育相談担当教諭・養護教諭やスクールカウンセラーの支援も取り入れる。

不登校対策のスーパーバイザーから具体的な取組について指導を受けたことを実施する。

(e) 日本語指導の実施について

日本語指導員の指導時間を確保するために予算の増額を行った。様々な言語に対応するため、近隣市からも情報収集し、支援が必要な子どものニーズにあった指導ができるようにしていく。また、日本語の理解を短期間で深めるため、学校だけでなく、保護者の協力を得て、家庭でも日本語の習得に取り組むよう働きかける。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 1 人権教育の推進

子ども一人一人が発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解する必要があります。自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下で具体的な態度や行動で示せることが大切であり、さらには、人権が尊重される社会づくりにつながるようにしていかなければなりません。

この目標を達成するために、学校の教育活動全体を通して人権教育に取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	人権教育の推進 【指導課】	あらゆる偏見や差別をなくすために、全教育活動を通じて人権教育を推進します。	教育課程編成の最重要課題に位置付け、教育活動全体を通して、全教職員で取り組みました。また、6月には、人権教育研修会を各学校の人権教育担当者を対象に行いました。
1	人権教育推進委員会の開催 【指導課】	学校教育において、様々な人権課題を解決していくための実践について、研修を行います。	年に4回開催し、人権教育推進の基本的な考え方について研修を行いました。他市で開催された東京都教育委員会人権尊重教育推進校の研究発表会や協議会に2回参加し、人権教育の推進について理解を深めることができました。
1	人権教育全体計画の作成と人権諸課題に関する指導の充実 【指導課】	小・中学校全校で「人権教育全体計画」及び「人権教育年間指導計画」を作成するとともに、人権教育推進委員会で情報を共有しながら、人権課題に関する計画的な指導を行います。	教育課程編成の際に、全体計画と年間指導計画を見直し、次年度の全体計画と年間指導計画を作成しました。

【主な課題】**(a) 人権教育推進委員会の開催について**

人権教育推進委員会の取組を各学校に広めるためには、委員が「人権課題」についてのよりよい授業を多く参観し、学んでいく必要がある。

【今後の取組の方向性】**(a) 人権教育推進委員会の開催について**

人権教育推進委員が研修で学ぶ機会を増やし、学んだことを各学校で還元していくようにする。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 2 道德教育の充実

子どもたちが、自他の生命を尊重し、法やルールの意味やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できるよう、家庭、学校、地域社会の連携のもと、道德教育の改善、充実を図ります。

各学校における道德の時間を道德教育の要の時間と位置づけ、各教科との密接な関連を図りながら、計画的、発展的に道德的価値や人間としての生き方について自覚を深められるようにするとともに、道德的实践力を育成します。

また、毎年度「道德授業地区公開講座」を実施し、家庭や地域と連携して子どもたちの豊かな心を育成するとともに、道德教育の一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 道德授業の充実
- (2) 道德教育の推進

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	道德授業の充実 【指導課】	小・中学校における年間指導計画の検討を行い、道德の時間を中心に全教育活動を通じて指導の充実を図ります。	全校で、道德教育の全体計画を見直し、35 時間（小学校 1 年は 34 時間）の「道德科」の年間指導計画を作成しました。
2-(1)	道德授業地区公開講座の充実 【指導課】	道德授業を保護者及び地域に公開し、家庭、学校、地域社会が連携して子どもたちの豊かな心を育成します。	各学校が年に 1 回実施し、保護者と意見交換会を行い、道德の授業や豊かな心の醸成について話し合いました。道德授業地区公開講座へは、全校で延べ 4,786 人の保護者や地域の方が参加しました。
2-(2)	各教科等における道德教育の推進 【指導課】	道德教育推進教師を中心に、各学校において指導の重点項目を設定し、学習指導要領に基づき、各教科等における道德教育を推進します。	教育課程編成時に今までの取組を踏まえて、各学校において指導の重点項目を設定しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(2)	道徳教育推進 委員会の開催 【指導課】	道徳教育を推進するため、道徳教育推進委員会を開催し、授業研究や教材の開発を行います。	「東京都道徳教育拠点校」として、昭和中学校を指定し、「特別の教科 道徳」の実施に向けて、3回の授業公開を実施しました。授業公開に各学校の道徳教育推進教師が参加して「特別の教科 道徳」の授業の在り方について周知することができました。
2-(2)	あいさつ運動 の実施 【指導課】	学校・保護者・地域が連携してあいさつ運動を実施することにより、子どもたちを地域で育てる意識を醸成します。	あいさつ運動を各学校で年3回のふれあい月間の取組に位置付けました。

【主な課題】

- (a) 特別の教科 道徳について
「特別の教科 道徳」の充実に向けた授業改善を各学校で継続的に行っていく必要がある。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
保護者が積極的に参加できるよう、意見交流会について時間の設定や企画を工夫していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 特別の教科 道徳について
教務主任会等で「特別の教科 道徳」の充実に向けた研修を行っていく。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
保護者にとって切実なテーマの設定や時間設定、特定の人に意見を求めない交流会の取組など様々な工夫を行い、参加者の増加を図っていく。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 3 体験活動の充実

子どもたちが、地域の自然や歴史、文化などに直接触れる郷土学習や福祉の心を育てるボランティア活動等に参加するとともに、小・中学校で、発達段階に応じた「移動教室」等を通し、子どもたちの体験活動の充実を図ります。そして、自主的に体験しようとする力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3	小学校での 移動教室の実施 【指導課】	集団での宿泊体験を通して、よりよい人間関係をきずくとともに、思いやりの心や助け合いの心、あきらめない気持ちを育成するため、市内全小学校5・6年生による移動教室を実施します。	小学校5年生は全校2泊3日で清里・八ヶ岳移動教室を実施しました。小学校6年生は全校2泊3日で日光移動教室を実施しました。
3	中学校移動教室 ・修学旅行の実施 【指導課】	自然との関わりを深めるとともに、最後まで努力する態度を育成するため、市内全中学校で農業体験、スキー教室などの移動教室や修学旅行を実施します。	中学校3年生は全校京都奈良方面に2泊3日で修学旅行を実施し、中学校1、2年生の移動教室では、5校がスキー教室、1校が農業体験を実施しました。
3	小・中学校での 生産体験の実施 【指導課】	小・中学校において、学校農園や近隣の農園等を活用して、生産活動を行います。	各学校の実情に応じて、学校農園や近隣の農園を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして実施しました。
3	移動教室検討委員会による宿泊行事 の充実 【指導課】	5年生宿泊行事検討委員会をはじめとして、移動教室における体験活動の内容を検討・実践することにより、教育効果を高めます。	今年度から全校が山梨方面、2泊3日の実施に統一でき、体験活動の充実を図ることができました。

【主な課題】

- (a) 小学校第5学年の移動教室について
各学校の実態に応じた幅広い体験活動ができるよう、より充実した自然体験活動の内容にする必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 昨年度策定した移動教室実施要項に基づき、各学校の実態を考慮しながらも市内各学校でのよりよい実践を共有し、実施計画を立てていく。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 4 いじめ問題への対応

昭島市の全ての子どもが安心して登校し、学校生活を送ることができるよう、学校の内外を問わず、いじめの未然防止、早期解消に取り組みます。

いじめはどんなことがあっても社会の中では許されないことですが、どの子どもにも起こる可能性があるという意識をもって、関係機関と連携し、組織的かつ継続的な取組を行います。

学校でも教育活動全体を通じて、全ての子どもに「いじめは決して許されない」ことの理解を促し、豊かな情操や道徳心、自他の存在を尊重し合える態度、自己肯定感等、心の通う人間関係を構築する能力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4	いじめ問題防止 会議等の開催 【指導課】	いじめは絶対許されないという意識啓発活動を推進し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等に関係機関と連携して取り組みます。	学校関係者、保護者、関係機関、地域の健全育成団体等の代表者が委員となり年3回開催しました。各学校のいじめの未然防止の取組について報告するとともに、携帯電話・スマートフォンに関わる課題について協議し、保護者の意識啓発の在り方について検討しました。
4	いじめ防止等に関する教育委員会の 具体的な取組の 実施 【指導課】	いじめ問題の状況に関する調査、いじめ相談体制の確立、サポートチームや関係諸機関との連携、教職員の資質・能力の向上、インターネット等によるいじめ対策の推進、啓発活動の推進など、具体的な取組を実施します。	12月に中学校生徒会が中心となって作成した「いじめ防止ポスター」を各小学校や自治会の掲示板に掲示し、社会全体でいじめを許さない雰囲気醸成しました。また、中学校生徒会役員が小学校6年生にいじめ防止の取組について説明を行う交流活動を全校で実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4	学校いじめ防止 基本方針の推進 【指導課】	各学校の実態に応じていじめを防止する方針を定め、いじめを受けている子どもに対しての支援を的確に行います。	各学校において、学校サポートチームを生かし、学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、保護者会やホームページ等を活用して、周知しました。
4	いじめに関する 学校における 取組の実施 【指導課】	いじめ防止のポスターの掲示やふれあいボックスを設置するなど、いじめの防止や早期発見等のため、子どもがいつでも思いを伝えることができるような取組を実施します。	軽微ないじめを見逃さないように、未然防止の校内体制を整備しました。また、全校が子どものアンケートを年3回実施して、早期発見・早期対応に努めました。

【主な課題】

(a) いじめ問題防止会議について

年間を通して、「携帯電話・スマートフォンに関わる課題」について協議を行い、保護者の意識を啓発していく取組の必要性について共有できたが、具体的な方策については今後も継続して検討していく必要がある。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

いじめの防止について児童・生徒が主体的に考える機会を継続的に設定していく必要がある。

(c) いじめの早期発見・早期対応について

軽微ないじめの把握の仕方に学校間で差があるため、迅速な報告体制を構築する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) いじめ問題防止会議について

継続して「携帯電話・スマートフォンに関わる課題」について協議を行い、保護者への意識啓発については、各団体でできることから精力的に実施する。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

小中一貫教育の取組の一環として中学生と小学生がいじめ防止について意見交流を行う機会を設定したり、中学校生徒会が中心となって作成するいじめ防止ポスターを小学校に掲示したりする取組を行うなど、児童・生徒がいじめ防止について考える機会を意図的に設けていくことを継続して取り組んでいく。

(c) 児童・生徒のいじめの認知件数について

いじめの定義が広範であることから、詳細な実態や対応経過の報告のみにとどまらないように、各学校が児童・生徒に対して速やかに対応できるように生活指導主任会で校内体制の連携について徹底を図る。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 1 体力向上の推進

子ども一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、「第五次昭島市総合基本計画」（平成23年5月策定）を踏まえ、学校・家庭・地域が連携した体力向上策を推進します。

また、各学校では、東京都の「総合的な子どもの基礎体力向上方策（第2次推進計画）」に基づき、子どもの体力の実態を把握するとともに、一校一取組を推進し、計画的に体力の向上を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 体育・保健体育の授業の充実
- (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進
- (3) 一校一取組の充実
- (4) 部活動の充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	体育・保健体育 の授業の充実 【指導課】	小・中学校における体育や保健体育の授業改善を図り、子どもたちの体力向上に資するため、体力向上推進委員会を設置し、実践研究を推進します。	東京都教育委員会から「アクティブ・ライフ実践校」に指定されている成隣小学校と「スーパーアクティブスクール」に指定されている清泉中学校が、体力向上や生活習慣に関わる3年間の研究成果を発表しました。
1-(1)	体力・運動能力・ 運動習慣等調査 の実施・活用 【指導課】	各種調査を実施し、その調査結果を分析し、本市の子どもたちの実態に応じた指導や体育・保健体育の授業改善に活用します。	小学校・中学校ともに、東京都の平均よりも上回った種目が多く見られました。年間を通して「元気アップガイドブック」を活用して日常的な体力向上の取組を実施したことが要因として考えられます。「上体起こし」などいくつかの種目に課題があるので、課題のある種目を中心に、生活習慣と運動習慣から体力向上に取り組めます。（※東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査については〔表7〕のとおり）

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	武道実技研修 の実施 【指導課】	中学校における武道の指導を安全に行うとともに、確実な指導技術を身に付けるため、教員の実技研修を実施します。	東京都教育委員会が実施する武道実技研修に参加することにより、他地域との交流も図ることができました。
1-(1)	校庭芝生化の推進 【庶務課】	校庭の芝生化を推進し、地球環境への配慮を行うとともに、子どもたちの運動能力の向上を図ります。	多摩辺中学校 254 m ² の芝生化を実施しました。 これまでの芝生化面積は、小学校 13 校と中学校 4 校で 14,295 m ² です。
1-(2)	オリンピック・パラリンピック教育推進校での研究と啓発 【指導課】	運動・スポーツへの興味・関心を高める体育授業等の内容・方法の改善や日常的な運動・スポーツの実践による健康増進に向けた取組の充実を図ります。	オリンピック・パラリンピック教育推進校に引き続き全校が指定され、すべての児童・生徒が大会に関わる取組を行いました。オリンピック・パラリンピック教育を推進するため、全校が全体計画及び各学年の年間 35 時間の年間指導計画に基づいて授業を実施しました。
1-(3)	一校一取組の充実 【指導課】	体力の向上及び健康の保持増進を図るため、運動量を増やすなど、指導法の工夫・改善を図ります。	各学校が創意工夫をし、朝の時間や休み時間、放課後等に子どもが運動できるような環境や時間を設定して取り組みました。
1-(4)	中学校における運動系部活動参加の推進 【指導課】	中学校において、スポーツを通して、生徒一人一人が特性を生かして部活動に参加できるようにし、最後まであきらめずに継続することや仲間と協力して成し遂げることの喜びを体験できるようにします。	全中学校の運動部活動は 57 部あり、それぞれの運動部活動での特性を生かし、生徒一人一人の成長を目指して取り組みました。
1-(4)	運動系部活動指導補助員の充実 【指導課】	中学校に運動系部活動の技能の向上を図るため指導補助員を派遣し、より専門的な指導を行います。	全中学校で 53 人の部活動指導補助員を派遣し、生徒の能力向上を図りました。また、運動部の部活動指導員を市内で 9 人派遣しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(4)	部活動対外試合への支援 【庶務課】	部活動の各種大会の参加費や全国大会及び関東大会への交通費を支援します。	部活動に対して、各種大会の参加費や消耗品、備品等を支出しました。また、関東大会以上の試合に延べ14人が出場し、交通費、宿泊費等を支出しました。

〔表7〕

〈東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査〉

※網掛け・太字は、都の平均を越えている種目

平成30年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）について
体格及び体力・運動能力結果平均値（昭島市） 平成30年10月10日

	性別	学年	人数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	高座体前屈(cm)	反復横とび(回)	持久走(秒)	シャトルラン(回)	50M走(秒)	立ち幅どび(cm)	ボール投げ(m)	体力合計点	(東京都) 体力合計点
小学校	男子	1	439	116.7	20.9	9.4	10.5	26.9	26.7	—	17.6	11.5	112.3	7.6	29.8	29.81
		2	465	122.4	23.4	11.4	14.2	29.3	30.7	—	28.1	10.5	122.0	11.4	38.0	37.43
		3	501	128.0	26.3	13.2	16.4	31.6	34.0	—	35.2	10.0	131.3	14.7	43.8	43.61
		4	480	133.5	29.5	14.7	18.3	32.6	38.8	—	44.8	9.4	143.9	17.9	50.1	49.48
		5	458	139.2	33.0	17.0	20.2	36.4	42.4	—	53.9	9.2	152.5	21.5	56.0	54.56
		6	450	144.9	37.4	19.9	22.3	35.4	44.1	—	59.2	8.8	159.4	25.1	60.2	60.31
	女子	1	465	115.6	20.7	8.6	11.2	29.2	25.8	—	14.6	11.8	105.6	5.3	30.3	29.70
		2	461	121.6	23.2	10.8	13.3	32.6	30.1	—	21.0	10.9	113.4	7.2	37.9	37.53
		3	459	127.9	26.2	12.4	15.5	34.3	31.9	—	25.2	10.3	123.3	9.2	44.1	43.98
		4	451	133.1	29.1	14.0	17.8	36.1	37.6	—	33.9	9.7	137.1	11.5	51.4	50.40
		5	431	140.6	34.4	16.7	19.5	40.3	40.8	—	41.3	9.4	144.8	14.2	57.5	56.22
		6	453	147.1	38.8	20.0	21.0	40.5	42.4	—	46.8	9.1	151.7	16.2	61.9	61.68
中学校	男子	1	410	152.4	42.7	23.6	24.5	40.1	50.7	423.0	62.8	8.5	176.0	17.5	33.8	33.14
		2	408	160.5	47.9	29.8	28.0	47.0	54.0	382.5	82.9	7.8	200.0	22.2	44.2	41.26
		3	416	165.4	52.3	33.4	29.5	47.3	54.9	377.9	111.0	7.5	212.8	23.3	48.7	48.19
	女子	1	400	152.2	43.4	22.1	22.0	43.1	46.7	301.2	47.4	8.9	167.1	12.8	46.5	44.60
		2	374	155.1	46.1	23.5	22.7	46.0	46.1	289.5	51.6	8.8	170.5	13.7	48.7	49.60
		3	440	157.2	49.0	24.6	23.9	46.7	47.8	292.8	—	8.7	171.4	14.8	51.3	51.77

【主な課題】

(a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について

都の平均点より低く、課題のある種目については、体育の授業・休み時間・放課後等に取り組む充実させる必要がある。

(b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について

各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを明らかにし、2020 年を終えてもオリンピック・パラリンピック教育の財産を生かせるようにする必要がある。

(c) 校庭芝生化について

芝生化した学校により、芝の生育状態や、除草、散水などの管理等に差が出ている。また、維持管理等に保護者や地域の方の協力を得ているものの費用がかかる。

(d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について

「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき指導内容の充実、生徒の安全確保、教員の長時間勤務の解消等の観点から、円滑に運動部活動を実施できるよう検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について

体力向上・健全育成の取組のために作成した「元気アップガイドブック」を活用して日常的な遊びや運動を通して総合的な体力向上を図る。

(b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について

各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを明らかにし、全体計画、年間指導計画にレガシーを反映させて取組を充実させる。

(c) 校庭芝生化について

芝生の大規模校については、散水用の井戸を併せて掘削するなど維持管理費の抑制に努めていく。また、踏圧等により芝生が枯れてしまった部分について、児童・生徒と共に補植用の苗を育て、補植する。

(d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について

「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき、運動部活動を適切に運営していく。また、部活動指導員を活用し、部活動指導の充実を図るとともに教員の長時間勤務の解消に努めていく。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 2 学校給食・食育の充実

子どもの健全な発育のため、地元農家の協力を得て、地場野菜を積極的に活用し、安全・安心な学校給食の提供を行います。

また、「第五次昭島市総合基本計画」（平成 23 年 5 月策定）を踏まえ、学校、家庭及び地域等と連携し、食育を推進します。

そして、各学校では、「食に関する全体計画」に基づき、食育リーダーを中心とした指導体制を一層充実するとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣の形成を促進します。

【施策の取組状況】

- (1) 学校給食の充実
- (2) 食に関する指導の充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	学校給食運営基本計画の策定及び実施 【学校給食課】	学校給食に関する中期的な計画を策定し、学校給食の充実に図ります。	「昭島市学校給食運営基本計画」に基づき平成 29 年 5 月に策定した「昭島市学校給食共同調理場整備基本計画」を基に、共同調理場建替えの検討を進めました。また、食育の推進などにも取り組み、学校給食の充実に努めました。
2-(1)	学校給食施設・設備の維持管理 【学校給食課】	学校給食を安定的に提供するため、学校給食の調理用施設・設備の維持管理を行います。	施設等の適正な維持管理をするため、保守点検などを行うとともに、調理機器の修繕や買換えを行い、安全・安心な給食の提供に努めました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	学校給食を通した 食育の推進 【学校給食課】	子どもに身近な教材である学校給食を通して、食料の生産・流通や地域の食文化及び適正な食生活の理解を深めます。	栄養教諭及び栄養士が児童・生徒に対し、食に関する指導を行い、食育の推進に努めました。また、その取り組みなどを内容としたパネル等を市民ロビーにおいて展示し、保護者などへ学校給食について周知を行いました。 【学校給食食育展示】 平成 31 年 1 月 24 日（木）～30 日（水） 来場者数 約 231 人
2-(1)	地産地消の推進 【学校給食課】	地産地消を進め、自然に親しみ、自然のめぐみと生産者への感謝の心を育成するため、学校給食に地場食材を積極的に取り入れます。	地産地消の推進を図るため、生産者と連携を図り、学校給食に地場食材を取り入れました。また、各学校の給食時間、試食会等において地場食材について情報を提供しました。
2-(2)	お弁当の日の実施 【学校給食課】	学齢に応じたお弁当作りへの協力を通じて、家庭内での役割や食事の大切さについて考える機会となるよう、お弁当の日を実施します。	小中学校全校において「お弁当の日」を年 3 回実施しました。児童・生徒がお弁当づくりなどに係わることができるよう各学校ごとにテーマ等を決めて取り組みました。
2-(2)	食に関する指導 の推進 【指導課】 【学校給食課】	食育の推進を図るため、各学校で食育リーダーを選任し、食に関する全体計画を作成し、家庭へ情報発信をします。	教育課程編成時に今までの食に関する全体計画の取組を見直して、作成しました。また、各学校で食育リーダーを選任し、年 2 回会議を開き、食育や今後の取組等について情報交換等を行いました。
2-(2)	栄養教諭の活用 【学校給食課】 【指導課】	共同調理場に栄養教諭を配置し、学校を巡回しながら、食に関する指導の充実を図ります。	授業や給食時間を利用し、栄養教諭及び栄養士が学校と連携を図り、食に関する指導を行いました。また、栄養教諭の巡回指導に関しては、指導助言を行い、各学校の取組の充実を図りました。

【主な課題】

(a) 給食施設の整備について

学校給食共同調理場及び自校調理校において、施設や設備の老朽化が目立つ。

(b) 衛生管理について

安全・安心な学校給食の提供を行うため、業者、職員等へ衛生管理の徹底を図る必要がある。

(c) 食育推進のための連携について

学校給食を通じた食育を推進していく中で、家庭や地域と連携した取組みについて、更に検討を進める必要がある。

(d) 食育指導の充実について

食育を更に推進するため、栄養教諭の複数配置が必要である。また、共同調理校については、学校毎の栄養士が配置されていないので、自校調理校との間に食育指導上での差が生じている。

(e) 家庭における食育の取組について

食育を推進するにあたり、家庭での食育が重要であり、保護者や児童・生徒が食育を身近にとらえる機会や情報提供が必要である。

(f) 地産地消の推進について

地元の食材を身近に感じてもらうとともに、生産者や食材への感謝の気持ちを育み、地場食材の関心を高めていくため、学校給食に地場食材を積極的に取り入れていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 給食施設の整備について

学校給食共同調理場の建替えについては、整備内容を検討していくとともに、現状の施設・設備の維持管理に努める。

(b) 衛生管理について

職場環境の整備や職員の衛生管理に対する意識向上を図り、異物混入や食中毒を防いでいく。また、異物混入時の連絡体制などの徹底を図るとともに、食品の選定時にはより細かく確認することにより、食中毒の防止や安全な食材の調達に努める。

(c) 食育推進のための連携について

学校給食を通じた食育を推進するため、家庭・学校・地域が一体となって取り組める体制を整える。

(d) 食育指導の充実について

栄養教諭の増員配置について東京都教育委員会へ要望する。また、現在の自校調理校の栄養士が共同調理校へ食育指導を可能にするため、自校調理校の統一献立を実施したことから、食育指導の充実に努めていくとともに、残菜量の縮減にも繋げていく。

(e) 家庭における食育の取組について

家庭での食育を推進するため、お弁当の日の取組を家庭に周知し、理解を深めていくとともに、児童・生徒がお弁当づくりを通じて、食への関心や食事の大切さなどについて、家庭で考えるきっかけづくりとなるよう繋げていく。また、家庭への情報発信について検討していく。

(f) 地産地消の推進について

市内生産者や関係者と連携を図り、供給の見通しや食材の安全性、給食施設への効率的な納品などについて、定期的に検討を行う場を設け、地産地消の推進に取り組み、学校給食に地場食材を積極的に取り入れていく。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 3 学校保健安全の推進

子どもたちが安全な学校で安心して学校生活を送ることができるよう、安全教育を推進するとともに心と体の健康を保つための体制を整えます。

【施策の取組状況】

- (1) アレルギー疾患対応の充実
- (2) 心と体の健康管理の充実
- (3) 安全教育・防災教育の充実
- (4) 通学路における安全対策の推進
- (5) 中学生救命救急講習授業の実施

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(1)	アレルギー疾患対応マニュアルに基づいた対応の充実 【指導課】 【学校給食課】	学校がアレルギー疾患を理解し、個々の子どもの症状等を的確に把握します。また、個別の配慮や緊急時の対応へ備えます。	アレルギー疾患対応については、「学校生活管理指導表」の提出を受け、面談を行い、保護者、学校、教育委員会が共通認識をもち対応しています。 なお、学校給食における食物アレルギー対応については、「昭島市学校給食食物アレルギー対応給食実施要綱」に基づき対応しています。
3-(2)	定期健康診断の実施 【指導課】	子どもの健康状態を定期的に把握するために、定期健康診断を行います。	6月30日までに各学校が定期健康診断を行い、子どもの健康状態を把握しました。
3-(2)	就学時健康診断の実施 【指導課】	小学校入学前の子どもに対して、安心して学校生活を始めることができるよう、就学時健康診断を行います。	各学校で10月～11月に就学時健康診断を実施し、希望する保護者に対して面談を行いました。
3-(2)	薬物乱用防止教室の実施 【指導課】	小学校低学年では「薬の正しい使い方」から学び、中学校では、薬物（シンナー・覚せい剤・危険ドラッグ等）の作用を科学的に学び、薬物の害について理解を深め、自己の生き方を考え、行動選択ができるようにします。	小・中学校全校で薬物乱用防止教室を実施し、薬物の害についての理解を深めることができました。13校が警察官、学校薬剤師等、薬物乱用防止について専門性の高い講師を活用しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(3)	学校地震防災計画 の実施 【指導課】	各学校で策定した計画を確実に実施し、子どもの安全確保に努めます。	学校地震防災計画を基にした訓練を各学校において、年間 11 回程度実施しました。
3-(3)	学校保健安全計画 の実施 【指導課】	安全指導や保健指導、避難訓練、不審者対応訓練など、各学校が策定した計画を確実に実施します。	教育課程編成時に学校保健安全計画を基に実施した取組を改善し、作成しました。
3-(3)	セーフティ教室 の実施 【指導課】	子どもが自分で自分の身を守ることができるよう、様々な危険について対応できる能力を育成するためにセーフティ教室を開催します。	全校がセーフティ教室を実施し、警察や関係諸機関と連携し、犯罪被害防止や万引き防止、SNS におけるトラブル防止に関して体験的に学ぶことができました。
3-(4)	スクールガード・リーダーや見守り活動の実施 【指導課】	学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、スクールガード・リーダーや地域・保護者による見守り活動の充実を図ります。	スクールガード・リーダーを 7 名配置し、通学路や校内安全について年間 6 回の巡回指導を実施しました。また、各学校で PTA・地域と連携し、登下校の見守りを実施しました。
3-(4)	防犯ブザーの貸与 【指導課】	防犯ブザーを小学校 1 年生に貸与します。	小学校 1 年生 919 名に対して防犯ブザーを配布しました。
3-(4)	防犯カメラの設置 【指導課】	学校、地域等が行う通学路における児童の見守り活動を補完するため、計画的に防犯カメラを設置します。	見守り活動の補完的な役割を果たす、市内の小学校通学路上に設置している 75 台の防犯カメラの保守・点検を実施しました。
3-(5)	中学生救命救急講習の全員実施 【指導課】	昭島消防署と連携し、中学校 2 年生全員を対象に救命救急講習を行い、非常時への備えを学ばせます。	昭島消防署と連携し、中学校 2 年生 813 名が救命救急に関して体験的に学びました。

【主な課題】

(a) アレルギー疾患対応について

平成29年度に改訂し、全教職員へ配布したアレルギー疾患対応マニュアルについての周知徹底、フォローアップの実施が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) アレルギー疾患対応について

アレルギー疾患は生命に関わる事態となるため、今後も対応マニュアルに基づいた適切な対応ができるよう各学校に指導していく。また、食物アレルギーのある児童・生徒については、学校生活管理指導表（アレルギー疾患用）をもとに学校・家庭・学校給食課で情報を共有するとともに、間違いが起きないチェック体制を整備し、それぞれの児童・生徒に合った安全な対応を行う。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実

幼稚園・保育園と小学校の間において、小学校入学段階において円滑なスタートができるよう連携会議を開催したり、学級支援員の配置等を行ったりします。

また、小学校から中学校への進学時に学習や生活面においてギャップを感じることが無いように、小・中連携推進委員会において情報交換を行い、年間3回の小・中連携の日を設定するなどの取組を推進します。

また、特別な支援を必要とする子どもに適切な支援を行うため、個別の教育支援計画を小学校と中学校間で情報共有します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1	幼・保・小連携推進 委員会の開催 【指導課】	幼稚園・保育園・小学校の代表者が集まり、円滑な小学校生活スタートができるよう情報を共有します。	幼・保・小連携推進委員会を年間3回開催し、円滑な小学校生活をスタートさせることができました。また、27人の幼稚園教諭及び保育士が小学校の授業を参観し、さらに各小学校教員が幼稚園及び保育園の保育を参観し、小学校教員と入学時の円滑な接続について意見交換を行い、相互交流を図ることができました。
1	小・中連携推進 の強化 【指導課】	中学校の学区ごとに年間3回小・中連携の日として具体的な取組を行うとともに、小中一貫教育校の設置について検討を行います。	各学校が年間3回小・中連携の日を設定して、全教員で中学校区ごとに授業参観等の教員同士の交流及び児童の部活動体験等を実施しました。平成28年度から平成30年度の3年間を瑞雲中学校、武蔵野小学校、つつじが丘小学校を小中一貫教育研究指定校として指定し、小中一貫教育の在り方について研究発表を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1	学級支援員の配置 【指導課】	新1年生が学校生活を始める4月に、きめ細かな指導を行うために学級支援員を配置します。	全小学校の新1年生の学年に学級支援員を配置しました。
1	個別の教育支援計画の活用 【指導課】	特別な支援を必要とする子どもに対して、個別の教育支援計画を立て活用するとともに、進学時に引継を行います。	発達に課題のある子どもには、保護者の協力を得て、個別の教育支援計画を作成して、進学時引き継ぎを行いました。

【主な課題】

(a) 小・中学校の連携推進について

小中一貫教育研究指定校により昭島市における小中一貫教育の在り方について研究を進め研究発表会を実施したが、他校においても小中一貫の視点による教育活動を更に推進していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 小・中学校の連携推進について

研究指定校の成果を受けて、各中学校区において義務教育9年間を見据えた育てたい子ども像を共有した上で、年3回「小・中一貫の日」を設定し、引き続き教員間及び児童・生徒間の交流活動を実施する

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実

子どもの発達の段階を踏まえ、各教科等を通じて日本の文化や伝統、東京都や昭島市の歴史と風土についての学習を充実することで、我が国と郷土を愛し、伝統や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。また、他国を尊重し、国際社会で活躍する子どもの育成に努めます。

また、小学校において音楽鑑賞教室・連合音楽会を実施するとともに、連合の展覧会を開催し、豊かな情操を育成します。

【施策の取組状況】

- (1) 伝統文化教育の推進
- (2) 文化行事の開催

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	各教科等における 日本の伝統文化 教育の推進 【指導課】	学習指導要領等の趣旨を踏まえ、各教科等において、日本の伝統文化教育を推進し、我が国の歴史や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。	各教科等で日本の伝統・文化について取り上げ、日本の伝統文化教育を推進しました。また、オリンピック・パラリンピック教育の一環として実施しました。
2-(1)	体験活動を通した 日本の伝統文化 教育の推進 【指導課】	生活科や総合的な学習の時間における昔あそび等の体験活動を充実します。また、日本の伝統や文化、昭島市の歴史や風土について学ぶ機会の充実を図り、伝統文化を継承・発展させようとする態度をはぐくみます。	生活科や総合的な学習の時間を中心に、体験活動を通して伝統文化教育を理解し、日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を育みました。
2-(1)	地域との連携による 伝統文化教育 の推進 【指導課】	外部講師として地域人材の活用を図り、東京都や昭島市の歴史や文化を学ぶことで、郷土を愛する心や継承しようとする態度を育成します。	和太鼓、茶道、箏など伝統文化に関する見識の高い外部講師を招聘し、体験的な活動に重点において日本の伝統文化教育を実践しました。
2-(2)	連合音楽行事 の開催 【指導課】	小学校5年生で音楽鑑賞教室、小学校6年生で連合音楽会を行い、音楽に親しむ機会を設けます。	小学校5年生では、プロのオーケストラを鑑賞し、小学校6年生では連合音楽会を通して全校が発表形式で交流しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(2)	小学校展覧会 の実施 【指導課】	小学校全校で取り組んでいる 図画工作の作品から代表作品 を集め、展覧会を実施し、鑑賞 する機会を設けます。	全小学校から 535 点の作品を集 め、1 月 25 日から 27 日に小学 校展覧会を実施しました。延べ 1,591 人が観賞しました。また、 図画工作科の教員が会場で来 場者に作品の解説を行いました。
2-(2)	中学校合唱 コンクールの実施 【指導課】	中学校において合唱コンクー ルを実施することにより、協力 する大切さや豊かな情操を育 成します。	全中学校で合唱コンクールを 実施し、子どもの自主的な態度 を育て、豊かな情操を育みまし た。

【主な課題】

- (a) 地域との連携による伝統文化教育について
日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を育むために、継続し
て体験活動を実施していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 地域との連携による伝統文化教育について
日本の伝統・文化のよさを体験的に理解できるように系統性のある指導
計画を作成できるよう指導・助言を行う。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上

子どもたちの教育は、学校だけでなく、家庭や地域と連携し、充実させる必要があります。

学校での学習指導に加えて、家庭における基礎的な生活習慣や学習習慣を身に付けていくことも大切です。

そのために、家庭学習についての重要性を各学校が家庭に伝え、連携して取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3	家庭学習の定着 【指導課】	学習ドリルや家庭学習のしおり等を活用し、家庭での学習習慣の定着を図ります。	「家庭教育のすすめ」等の資料を作成するなど、各学校で保護者と連携して学年や発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図りました。
3	家庭における生活習慣の充実 【指導課】	「早寝・早起き・朝ごはん」などの家庭における生活習慣の啓発を行い、保護者の協力のもと、充実を図ります。	全小・中学校で、年度当初の保護者会において、「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣についての啓発を図りました。
3	eーライブラリー事業の展開 【庶務課】 【指導課】	インターネットの接続環境がある中で、学校以外でも予習・復習ができるコンテンツにアクセスできるeーライブラリー事業を展開します。	開発事業者による学校訪問を各学校1～3回行い、活用事例の紹介や活用方法についての相談や研修を行うことで活用促進活動を行いました。また、家庭学習の利用促進資料の各家庭への配布及び教員用への家庭学習利活用手順を配布しました。

【主な課題】

(a) 家庭学習の定着について

家庭学習に意欲的に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が起っており、より一層の家庭学習の習慣化の取組が必要である。

(b) eーライブラリー事業の普及について

eーライブラリーの家庭学習利用率について伸び悩んでいる。

【今後の取組の方向性】

(a) 家庭学習の定着について

家庭での学習習慣の定着を図るために、教務主任会等において各学校の取組状況や実践事例の発表を行い、全校で家庭学習の定着を図る取組を推進する。

(b) e ライブラリー事業の普及について

引き続き e ライブラリーの家庭学習活用パンフレットや利用手順書等を各家庭に配布するとともに、開発事業者が学校を訪問し、活用促進活動を行う。家庭学習活用パンフレットについては内容を精査し、児童・生徒がより興味を持って取り組むことができるよう工夫する

主要施策 4 学校運営の改善

多くの行事、各種公開講座、学校公開週間等の機会を設け、「開かれた学校」づくりを推進し、学校運営の状況について、保護者・地域の方々の理解を図ります。

現在増加している若手教員に研修や経験を積ませることにより、リーダーとしての資質を身に付けるとともに指導力を高めます。

また、各学校の自己評価（教員による評価）、学校関係者評価（子ども・保護者、学校評議員による評価）、第三者評価（専門家による評価）を関連させ、学校の取組に対して評価と支援をいただき、学校運営を活性化します。

【施策の取組状況】

- (1) 教育推進計画の着実な実施
- (2) 「開かれた学校」の推進
- (3) 人材育成の推進
- (4) 学校評価（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	教育推進計画の 着実な実施 【指導課】	各学校が作成する教育推進計画（HDS プラン）を着実に実施し、学校運営の充実を図ります。	学校評価の様式と教育推進計画の様式を統合し、学校経営のPDCA サイクルに生かせるようにしました。2月の教育課程の届出相談に合わせて成果と課題を確認しました。
4-(2)	情報発信への取組 の推進 【指導課】	学校の取組をホームページや学校だより等を通じて、保護者や地域に向けて発信します。	全小・中学校のホームページにおいて、各学校の教育活動を紹介しました。
4-(2)	学校公開の推進 【指導課】	現在行っている学校公開（行事・公開講座・公開週間）について積極的に行うとともに、主な行事の公開の日について市のホームページで公表します。	全校で年5回以上の土曜日授業を学校公開とし、ホームページにおいて日程等を公表しました。
4-(2)	スクール インターンシップ 事業の実施 【指導課】	近隣の大学と連携・協力し、小・中学校で実習活動する大学生を受け入れ、教育活動を活性化します。	10校の小・中学校で教員を目指しているスクールインターンシップの学生16名を受け入れ、教育活動の活性化を図りました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(3)	職層に応じた研修 の実施 【指導課】	職層に応じた研修を教育委員会が行うとともに、教育課題についての研修会を設定し、教員の指導力を高めます。	4月に校長、新任主幹教諭、新任主任教諭、5月に副校長、8月に主任教諭2年目を対象とした研修を実施しました。危機管理を中心に職層に応じた役割について理解を深めました。
4-(4)	学校評価の充実 【指導課】	自己評価・学校関係者評価・第三者評価を行い、多くの視点から学校運営を検証し、課題として明らかになった部分を改善します。	自己評価及び学校関係者評価を全校で実施し、次年度の教育課程に生かしました。第三者評価については、平成29年度に検討した結果、一定の役割を果たしたことを受け、事業を終了しました。

【主な課題】

(a) 学校評価の充実について

「社会に開かれた教育課程」を実現するためにも学校関係者評価を充実させることが課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 学校評価の充実について

学校経営計画・評価シートに学校関係者評価の様式の見直しを行ったため、令和元年度においても同じ様式を使用して、学校の自己評価及び学校関係者評価の一層の充実を図る。

また、学校評価の状況をホームページで公開することで積極的な情報発信を行う。

主要施策 5 教育環境の整備

子どもたちが安全で快適に学校生活を送り、効果的な学習活動ができるように施設や設備、教材の維持・整備を計画的に行います。

また、地域の活動拠点としての学校施設の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
- (2) 学校施設の維持と活用
- (3) 学校ICT・教育機器・教材の整備

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(1)	学校施設の大規模改修工事の計画的実施 【庶務課】	トイレや空調設備、外壁、プールなどの大規模改修工事を計画的に実施します。	富士見丘小での空調設備改修、拝島第三小での外壁改修、拝島第二小及び昭和中での便所改修、富士見丘小及び光華小でのプール改修などの工事を実施しました。
5-(2)	学校施設・設備の維持及び整備 【庶務課】	子どもたちが安全・安心で快適に学校生活が送れるよう、各種施設の維持管理を行うとともに、設備を利用しやすいよう整備します。	冷暖房機、プール浄化装置、消防用設備などの保守点検や、快適な学習環境の確立に向けた修繕を実施しました。
5-(2)	校内防犯体制の整備 【庶務課】	不審者等の侵入に備えて、子どもたちを守る体制を整えとともに、設備の充実を図ります。	不審者侵入対策として、非常通報装置を設置するとともに、各学校に防犯カメラ、モニター、感知式パトライトの常時起動を行っています。
5-(3)	学校 ICT の整備 【庶務課】	情報教育の推進に不可欠な教育用・教職員用コンピュータ及び周辺機器の計画的な整備を行います。	小・中学校全校のルータ及びスイッチを更新し、学校ネットワークの安定化を図りました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(3)	教育機器・教材等の整備 【庶務課】	学習指導要領に対応した授業を円滑に実施するため、教育機器・教材等の整備を行います。	理科設備及び算数・数学設備の整備のため、小学校6校と中学校4校に顕微鏡や電源装置等の教材を購入しました。
5-(3)	情報教育研修の実施 【指導課】	導入した ICT 機器や教育機器・教材等を有効活用するため、情報教育研修を実施します。	夏季休業日中に、初任者教員を中心に30人が受講しました。学校で活用している教育用ソフトウェアの操作・活用方法を中心とした研修を実施しました。

【主な課題】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の老朽化が進み、大規模改修工事を行わなければならない施設が多々ある。
- (b) 校内防犯体制の整備
学校の困障等によっては、不審者の学校敷地内への侵入を防ぐのが難しい。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙や机・椅子の引きずる音が気になる子どもがいる。

【今後の取組の方向性】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の大規模改修等工事については、実施計画に基づき実施し、学校運営に支障が出ないよう施設を整備する。
- (b) 校内防犯体制の整備
不審者対応として、校内に設置している防犯カメラによる訪問者の確認と来校者に対する教職員の声掛け等を徹底する。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙をなくしたり、棚にカーテンをつけるなど各学校に徹底させる。机・椅子の足にテニスボールをつけ騒音を減らす。

主要施策 6 情報教育の推進

子どもたちが高度情報化社会に柔軟な対応ができるようにするため、情報機器の導入や視聴覚ソフトの活用による効果的な学習指導を行うとともに、インターネットなどを活用した学校間交流などを推進します。

また、情報リテラシー教育の徹底により、正しい利用方法の指導を行うとともに、インターネットなどの普及による多種多様な危険や犯罪に巻き込まれないよう、情報教育の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
6	小・中学校コンピュータ等の活用の推進 【指導課】	子どもが ICT の活用方法に慣れ親しみ、習熟することなどを通じて、急速に進展する情報化社会に対応した能力を身に付けます。	教科等の学習を通してコンピュータに慣れ親しむとともに、プログラミングやコンピュータリテラシー等の授業を取り入れ、子どもが ICT を活用できるようにしました。
6	タブレット端末の活用 【指導課】	タブレット端末の教育効果を検証し、計画的な配備を行い、子どもたちの活用能力を育成します。	各教科の調べものや、体育での動画撮影、プログラミング教育等において、効果的に活用しました。
6	情報活用能力の育成 【指導課】	コンピュータや学習情報センターとしての図書館を利用した学習を通して、子どもの情報活用能力を育成します。	国語・社会・総合的な学習の時間等において、図書館やコンピュータを活用した調べ学習を授業に取り入れ、子どもの情報活用能力を育てました。
6	情報モラル教育の推進 【指導課】	情報活用には光と影の部分があり、SNS やスマートフォンの活用には、それらを踏まえた情報モラルが必要であることを指導します。	各学校において教育活動全体を通して、情報モラル向上について指導を行いました。また、セーフティ教室では、SNS やスマートフォンの正しい利用方法について指導を行いました。

【主な課題】

(a) 情報モラル教育の推進について

LINE 等のSNSを用いた子ども同士の不適切な関わりから生じるいじめなどの諸問題の発生は、年々低年齢化している。これらの問題に対して学校でも計画的な指導に取り組み、家庭に情報発信する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやインターネットから生じるネットいじめ等の諸問題、危険性を認識させるとともに情報活用によるメリットやマナーを守った適正な使用により生活を向上させることができることをセーフティ教室や学級活動、道徳の時間等で実施していく。また、学校だより等で保護者にも情報提供を行い、情報モラルに関する啓発活動を実施する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 7 環境教育の推進

自然に親しみ、自然を大切にする心を育成するとともに、地球環境の保全について考え、行動できる教育を推進します。

また、学校・家庭・地域の連携・支援体制を確立し、環境教育のより一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
7	豊かな自然環境を生かした教育の推進 【指導課】	総合的な学習の時間を活用して、農業体験や昭島に残されている自然やその保全など、地域の教育資源を生かした教育活動を実施します。	生活科・総合的な学習の時間を活用し、地域や学校の実態に応じた農業体験等を実施しました。
7	環境月間における環境教育の推進 【指導課】	環境月間（6月）に関連して、各教科等で環境教育を推進します。	各学校が環境月間において、それぞれの学校の実態に応じて、リサイクル、節電、節水等を実施しました。
7	みんなで実行 ISOの実施 【指導課】	電気・ガス・水道について使用量等の調査活動を通して、環境への配慮や節約意識を醸成します。	電気・ガス・水道について使用量が見えるようにし、全教職員に節約意識を周知させ、環境への配慮を行いました。

【主な課題】

（a） ごみの減量について

ごみの減量は、昭島市全体の課題であるため、子どもたちが主体的にごみの減量やリサイクルに取り組む態度を継続して育てていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

（a） ごみの減量について

各学校でごみの減量や分別の取組を徹底し、子どもたちが主体的にごみの減量に取り組む態度を育てる。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 8 国際理解教育の推進

グローバル化が進展するなかで、子どもたちが広い視野をもち、異文化を理解し、世界の人々と協調しながら生きていく態度を身に付けることを目指し、国際理解教育を推進します。

また、国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育てるために、小・中学校において外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 外国語教育・外国語活動の推進
- (2) 国際理解に関する事業の実施

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
8-(1)	外国語教育や 外国語活動の充実 【指導課】	外国語の授業や外国語活動を通じて、小学校段階から系統的に指導を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力の基礎を培います。	中学校英語教育推進モデル地区事業として、小学校と中学校の有機的な連携を図るために、年7回の研修を行い、小学校の外国語活動と中学校の外国語の授業の交流を行いました。
8-(1)	ALT（外国語指導助手）派遣事業 の充実 【指導課】	国際理解教育を一層推進するために、各小・中学校にALTを派遣し、中学校外国語教育及び小学校外国語活動の充実を図ります。	外国語を母国語とするALTを中学校には、2校で190日派遣し、小学校5・6年生の外国語活動には、各学級25時間派遣し、小学校3・4年生の外国語活動には、各学級10時間派遣しました。
8-(1)	小学校外国語カリキュラムの開発 【指導課】	学習指導要領の内容を踏まえ、文部科学省が発行する外国語活動副教材に合ったカリキュラムを開発します。	新学習指導要領全面実施に向けて平成28～29年度に昭島市版指導計画を作成し、各学校に配布しました。平成30年度は英語教育の小学校と中学校の円滑な接続に向けたスタートカリキュラムを作成し、各学校に配布しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
8-(2)	平和教育の充実 【指導課】	他者と共存できる感性を育み、命と人権に関する身近な問題から平和な社会的関係のあり方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていることを理解したりして、共に友好的に生きることのできる基礎を養います。	小・中学校の教科等の指導においては、社会の授業を中心に、平和な社会的関係の在り方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていたりすることへの理解を図りました。また、各学校が人権教育を推進する中で、命と人権の大切さを指導しました。
8-(2)	中学生英語スピーチコンテストの実施 【指導課】	英語による中学生の主張の機会を設け、話すことを中心として積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ります。	中学生 19 名が出場し、「未来をひらく発表会」において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができました。
8-(2)	英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業の実施 【庶務課】 【指導課】	国内施設に宿泊し、外国人学生がリーダーとなり、英語研修や英語を使ったゲームなどを行い、外国人とのコミュニケーションを図る楽しさを実感させます。	アメリカ人学生との 2 泊 3 日の宿泊事業を実施しました。中学生は東大和市と共同で実施し、昭島市の小学校 6 年生 45 名、中学生 29 名が参加し、外国人とコミュニケーションを図る楽しさを実感しました。
8-(2)	中学生海外交流事業の実施 【庶務課】 【指導課】	オーストラリア（パース）にある学校との相互交流を通して、直にその国の文化や歴史、言語に触れることで、国際的視野を広げさせます。	西オーストラリア州パースにあるパース・モダン・スクールと交流事業を実施し、中学生 20 名が 8 泊 9 日で同校を訪問し、学校生活、ホームステイ等を通して交流を図りました。また、9～10 月には同校の生徒 20 名を瑞雲中学校で受入れました。

【主な課題】

（a） 外国語教育や外国語活動の推進について

小学校と中学校の連携を図り、中学校の 1 年生の始めの段階で生徒が学習につまずかないように手だてを準備する必要がある。

（b） 国際理解に関する事業の実施について

中学生海外交流事業では 58 名の応募があったが、20 名の生徒しか参加できなかった。

【今後の取組の方向性】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

東京都教育委員会から委託を受けた中学校英語教育推進モデル地区事業の研究の成果を生かして小学校の6年生までに学ぶ内容と、中学校1年生で学ぶ内容のギャップを解消していくために、小・中学校の教員で連携を強化し、双方で授業改善を行っていく。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

中学生海外交流事業では交流校のうち1校との交流が終了し、隔年事業となった。もう1校との交流についても、協定期間が2020年までとなっているため、今後の事業の在り方について、これまでの検証を踏まえ検討を行う。

主要施策 9 キャリア教育の推進

子どもの望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路につなげるキャリア教育が重視されています。職場訪問や職場体験などの体験活動は、子どもの勤労観・職業観を育成する上で大きな期待が寄せられ、小学校段階から意図的・計画的に実践する必要があります。自立した社会人・職業人として生きていくために求められる資質、能力の育成を目指して、キャリア教育を推進します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
9	キャリア教育全体計画の作成と年間指導計画の作成 【指導課】	各学校において「キャリア教育全体計画」に基づいた年間指導計画を作成し、子どもが将来への夢をもてるようにするとともに、望ましい勤労観を育成します。	各学校の特色を生かした「キャリア教育全体計画・年間指導計画」に基づき実施し、来年度の計画を見直しました。
9	中学生職場体験の充実 【指導課】	全中学校において2年生による職場体験を実施し、働くことの意義や勤労観・職業観を育成するとともに、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てます。	全中学校2年生が3日間の職場体験を実施し、生徒全体に仕事の重要さや望ましい勤労観の育成を図りました。
9	職場体験受入事業所の確保・拡大 【指導課・各課】	生徒に幅広い選択肢の中から自分の将来の夢に近い事業所や興味のある事業所で働くことを体験させ、好ましい勤労観を育成します。そのために中学生職場体験の受入事業所の確保に努めます。	東京都の中学生職場体験の受入事業所の紹介、他校との情報交換を通して、受入事業所を確保しました。長年継続して協力していただいている事業所には感謝状を贈呈しました。
9	キャリア教育推進委員会の活用 【指導課】	小・中学校のキャリア教育推進担当教員が集まり、講師を招いた研修会や情報交換を行うとともに、研究授業を通じて教員の指導力の向上を図ります。	キャリア教育の推進について実践事例の発表及び講師による指導・助言を行い、各学校のキャリア教育の取組に生かしました。

【主な課題】

- (a) 職場体験受入事業所について
すべての生徒が希望する事業所への体験が難しいため、体験できる事業所を広げる必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 職場体験受入事業所について
進路指導主任会等で引き続き学校間の情報交換を行い、東京都教育委員会の情報提供を行い、事業所の確保に引き続き努める。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 1 生涯学習

平成 25 年 3 月に策定した「あきしま学びぷらん（第 2 次昭島市生涯学習推進計画）」に基づき、「だれもが、いつでも、どこでも」学ぶことができる生涯学習社会の実現に向けて、学習の機会と場の充実を計画的に推進します。

また、市民の学習ニーズの把握につとめ、学習講座の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 生涯学習推進体制の整備
- (2) 生涯学習の推進
- (3) 公民館活動の充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	社会教育関係団体 指導者育成 【社会教育課】	社会教育関係団体の育成、発展を図るため団体の登録、補助事業や指導者育成の研修会などを実施します。	社会教育関係団体研修会 市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議 5 月 19 日 市役所 602・603 会議室 参加者 25 名 2 月 9 日 市民ホール 参加者 42 名
1-(1)	生涯学習推進のための校区協議会 機能の充実 【社会教育課】	「小学校区を中心にした生涯学習」を推進するために、PTA や自治会などと連携し、実施団体の設置や活動を支援します。	生涯学習校区協議会育成補助金 田中小校区 57,372 円

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	教育福祉総合 センター整備事業 【教育福祉総合 センター建設室】	「つなぐ・広がる・見つける・ はぐくむ」知の拠点となる教育 福祉総合センターの設置に向 けて取り組みます。	施設整備について、安全管理の 徹底及び周辺環境への配慮を 行いながら工事を進めました。 施設の管理運営について、民間 事業者を指定管理者に指定し、 協定を締結しました。
1-(1)	市立会館 管理運営事業 【社会教育課】	11 館設置されている市立会館 が市民の皆様の活動拠点とし て、また、地域の情報交換の場 としての充実を図ります。	緑会館空調設備等改修工事及 び外壁補修等工事を実施しま した。
1-(2)	生涯学習援助協力 者の登録制度の充 実と活用の促進 【社会教育課】	生涯学習援助協力者制度の充 実を図り、登録者への支援の場 の提供など支援者の充実を図 ります。	生涯学習援助協力者 登録者 14 人 生涯学習サポーター養成講座 2 期（6 月～2 月）開催
1-(2)	土曜地域ふれあい 事業 【社会教育課】	子どもたちの居場所づくりと 地域の方々の技能や技術を生 かした生涯学習の場の充実を 図ります。	・囲碁教室（6 月～10 月） 朝日会館 8 回 参加者 39 人 ・陶芸教室（7 月・10 月） 福島会館 2 回 参加者 34 人 ・ダブルダッチ（11 月 14 日） 総合スポーツセンター 参加者 29 人
1-(2)	生涯学習情報 センターの設置 【社会教育課】	生涯学習情報雑誌「あきしま学 びガイド」による生涯学習の機 会の情報提供を図り、生涯学習 センターとしての機能強化の ため市立会館の充実を図りま す。	4 月に発刊 市主催の講座・イベントなど 229 件を掲載しました。 配布用 680 部発行
1-(2)	成人式の実施 【社会教育課】	昭島市の将来を担う市民の成 人式を、新成人による実行委員 会を組織し、実施します。	1 月 14 日に市内ホテルで開催 しました。 実行委員 5 人 参加者 802 人
1-(3)	公民館事業の充実 【公民館】	仲間づくりの場、集団活動の 場、学びの場、文化創造の場と して明日を築く市民が育つ場 としての事業を展開します。	障害のある青年の交流講座、市 民大学、各種講座、自主企画事 業、市民文化祭、シニアグルー プ合同発表会を実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(3)	公民館利用団体 懇談事業の実施 【公民館】	公民館がより一層効果的に活用されるよう、公民館運営に関する意見交換会を公民館利用登録団体と行います。	利用団体懇談会・利用団体懇談会学習会・保育室保育者連絡会を実施しました。
1-(3)	市民講座の実施 【公民館】	地域課題や生活課題に即したテーマでの各種講座を開設し、市民の皆さんの自主的な学習の場を提供します。	家庭教育セミナー、男女共同参画セミナー、社会文化セミナー、芸術文化セミナー、歴史文化セミナー、春休み親子教室、夏休みわくわく体験教室、冬休み親子工作教室、JAXA 子ども科学教室、パラリンピック競技体験事業を実施しました。
1-(3)	市民大学の実施 【公民館】	市民としての自治能力を培い、学びの成果を地域で活かせるように、学術的な学びの場を提供する昭島市民大学を実施します。	市民大学第9期1年次 修了者 23 人 市民大学フォーラム講演会、市民大学フォーラム公開講座を実施しました。
1-(3)	芸術文化セミナーの実施 【公民館】	芸術文化について学び、体験し、その成果を生活に活かせるような講座を実施します。	「はがきで文字遊び」 全4回 参加者 29 人
1-(3)	障害のある青年 の交流講座の実施 【公民館】	障害のある青年たちが、健常な青年たちと共に活動し、交流を深め、共生できる社会の実現のために、多様な機会の提供と支援に努めます。	開講のつどい、くじら祭り参加（よさこいソーラン）、工作・料理教室、クリスマス会、などを実施しました。 全20回 参加者 29 人

【主な課題】

(a) 市立会館管理運営事業について

市内に11会館ある市立会館は、設置後40年以上経過する施設があり、施設の計画的な改修や維持管理が必要である。また、省エネルギー性能の向上など環境に配慮し時代の変化に応じた施設機能の向上を図る必要がある。

(b) 土曜地域ふれあい事業について

学校週5日制実施により始めた事業であるが、児童の習い事や家族で過ごす時間の増加などにより参加者が減少傾向にある。また、ボランティア講師の高齢化が顕著となっているため新たな人材発掘が必要である。

(c) 社会教育関係団体指導育成事業について

昨年度より社会教育委員との連携事業「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」において、団体の活動の悩みや情報交換の場の提供をしているが、会議への参加を促すような働きかけが必要である。

(d) 生涯学習推進事業について

生涯学習情報について、冊子や団体紹介カードなどの活用や窓口でのご案内など情報提供に努めているが、学びたい市民と団体とをつなげる機能が弱い。

(e) 公民館の役割及び支援体制について

誰もが自由に学べる拠点として市民が求める多様な学習課題と時局の流れを的確に把握する必要がある。公民館で学んだことを地域に生かすということ、講座を通じ地域活動を活性化させることが公民館活動の目的のひとつであることから、その活動の場の提供や、活動の支援をするために、庁内や関係機関との連携を図ることが必要である。

(f) 教育福祉総合センター整備事業について

工事に伴い騒音や振動等が発生することから、これらの抑制に努め、近隣住民の理解を得ながら工事を進める必要がある。

また、工事現場内での事故防止のため安全管理の徹底や、工期内でのしゅん工に向けての進捗管理が必要である。

令和2年3月に開館するため、備品の調達、引越し、運営詳細の決定を行っていく必要がある。

(g) 市民会館・公民館の施設整備について

市民会館・公民館は昭和57年の開館以来36年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。市民に安全で快適な施設を提供するために、実施計画に基づき、大規模改修工事を行っている。平成30年度においては、外壁・屋上防水・空調設備の改修工事が終了した。今後は公共施設等総合管理計画の個別施設計画を策定し、改修計画の詳細を決めていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 市立会館管理運営事業について

昭島市公共施設総合管理計画の市立会館個別計画により各施設の特性に適した保全を実施し計画的な改修と維持管理に努めていく。

(b) 土曜地域ふれあい事業について

参加人数を増やし、本年度新たに取り組んだ私立大学との共同による事業を実施し大学生と子ども達がふれあう場として成果をあげた。今後他大学を含め魅力のある事業にしていく。

また、新たなボランティア講師確保に向け、広報活動を積極的に行っていく。

(c) 社会教育関係団体指導育成事業について

社会教育関係団体の活動支援として、年間2回の研修会を実施しているが、その研修会の場で、あきしま会議などのPRをし団体同士の意見交換や情報交換をできる場を設けていく。

(d) 生涯学習推進事業について

冊子による生涯学習の情報提供を継続するとともに、生涯学習サポーターの育成と活用を図り、学びたい市民と活動団体とをつなげるコーディネーターの設置を進めていく。また、サポーターの養成については、養成講座修了者の会まなぶんの活動を支援していく。

(e) 公民館の役割及び支援体制について

市民が求める多様な学習課題と時局の流れを把握するための情報収集を行うとともに、公民館の活動や役割についての積極的な周知を行っていく。

また、市民の自主的な公民館活動を支え、地域での活動の場に関する情報を提供できるような支援体制、庁内・関係機関との連携について引き続き検討していく。

(f) 教育福祉総合センター整備事業について

安全管理と環境保全に努めながら、本年12月のしゅん工に向けて工事を進める。

令和2年3月の開館に向け、備品調達、引越し、運営詳細等の決定を関係部署と調整を図り実施する。また、本施設が市民に親しまれるよう、愛称を募集し周知を図っていく。

(g) 市民会館・公民館施設整備について

公共施設等総合管理計画に基づき個別施設計画を策定し、施設の長寿命化を図り、計画に沿った改修事業を進める。また、利用者へのサービス向上と、維持管理経費節減のため、管理運営の手法についても検討を行う。

主要施策 2 図書館活動

市民図書館は、市民生活に欠かすことのできない教育文化施設です。子どもの読書活動推進のための様々な事業、青少年の読書活動、図書館利用の推進及びあらゆる人に対応した読書環境への整備を進めます。

また、(仮称)教育福祉総合センターの中に中央図書館の建設が計画されており、図書館機能の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 図書館サービスの充実
- (2) 図書館資料の充実
- (3) 子どもの読書活動の支援
- (4) サービス網の整備

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	中央図書館の整備 【市民図書館】	中央図書館建設に向けて図書館機能の充実を図ります。	図書館資料の貸出しをセルフ化する等、教育福祉総合センターにおける図書館の I C T 化について、電算事業者からの情報収集及び関係部署の意見を踏まえ準備を完了しました。
2-(1)	障害者用録音図書 のデジタル化 【市民図書館】	障害者用録音図書の安定供給や利便性の向上を図ります。	デージー図書（録音図書の CD 版）を 6 タイトル製作し、また、他の図書館からの借用を含め 186 タイトルを貸出しました。
2-(1)	図書館ボランティア の活用や市民 図書館協議会 との連携 【市民図書館】	図書館ボランティア講習会を実施し、活躍の場を広げるとともに、市民図書館協議会との共催事業を企画するなど、市民が参画した図書館づくりに努めます。	・音訳者講習会及び録音図書デジタル化講習会を実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(2)	蔵書の充実 【市民図書館】	市民の身近な課題解決を支援したり、ブックスタートに適したりする図書を中心に蔵書を充実させていきます。また、利用者のリクエストや社会ニーズを考慮した資料の整備に努めます。 さらに、児童・青少年を対象とした各種事業を行うとともに、児童図書の充実に努め、児童・青少年の図書館利用の促進を図ります。	・図書購入冊数 16,680 冊 ・ネパール語及びベトナム語で記された図書を購入しました。 ・生まれたときからの読書環境づくりの一環として0歳からを対象としたわらべうたのイベントを実施しました。 ・児童・生徒による図書館見学(579人)、体験学習(41人)
2-(3)	第二次子ども読書活動推進計画の推進 【市民図書館】	平成 24 年 3 月に策定した計画を学校等とともに連携をしながら実施します。	本計画は平成 28 年度をもって終了し、第三次子ども読書活動推進計画へ移行しました。引き続き第三次計画においても学校等と連携し、子ども読書活動の推進を図っています。
2-(3)	第三次子ども読書活動推進計画の策定及び実施 【市民図書館】	第二次子ども読書活動推進計画の取り組み状況や国の計画などを参考に第三次子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書への関心を深める事業を推進します。	・小学校 1 年生を対象に貸出券を交付しました。 ・おはなし会やものがたりライブなど、読書習慣の定着を促がす事業を実施しました。 ・中学・高校生向けの事業として、ビブリオバトル等を盛り込んだ、読書フォーラムを実施しました。
2-(3)	学校図書館との連携 【市民図書館】	小学校教育研究会との連携や職員の学校派遣を行い、連携を深めます。また、中学校の読書活動推進委員会と協働し、中学生の読書活動を推進します。	・小学校へ職員を派遣し、ブックトークを 6 回実施しました。 ・小学校及び中学校の司書教諭等を対象とした司書教諭等研修会を 2 回実施しました。
2-(3)	中・高校生の読書フォーラム 【市民図書館】	中・高校生の読書フォーラムを実施し、読書に関する興味・関心を深めます。	読書フォーラム ・実施日 3 月 24 日(日) ・参加者数 41 人 ・内容 ビブリオバトルの実施 記念講演 三池純正氏)

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(4)	移動図書館の実施 【市民図書館】	図書館から遠い地域や身体的理由で図書館を利用できない方々のために、移動図書館「もくせい号」による利用サービスの向上を図ります。	・市内 13 箇所のサービスステーションで延べ280回実施しました。
2-(4)	近隣他市の図書館との連携 【市民図書館】	近隣他市の図書館との相互利用について模索し、市民の利便性を高めます。	・現在、立川市、福生市、武蔵村山市、あきる野市との相互利用を継続しています。

【主な課題】

- (a) 図書館利用の拡大について
新たな図書館の開館に向け、より多くの市民に図書館の有用性を知ってもらい、図書館利用の拡大を図る必要がある。
- (b) 図書館資料の充実について
市民の多様な目的に対応できるよう、様々な分野の資料を網羅した選書を行う必要がある。
- (c) 子どもの読書活動の支援について
第三次子ども読書活動推進計画の目標達成に向け効果的な事業を実施する必要がある。
- (d) 読書活動に対する学校支援について
子どもの読書力向上のために、学校と連携して団体貸出による学校 図書館の支援、ブックトークなどの学校訪問、司書教諭研修など学校支援を充実する必要がある。
- (e) 教育福祉総合センターにおける市民図書館の開設について
新たな図書館の開館に向けた開館準備及び現図書館からの移転を滞りなく実施する必要がある。
- (f) 高齢者への対応について
今後更に進む高齢化に対応し、高齢者にとっても利用価値の高い図書館となるよう、魅力的な事業展開が求められる。

【今後の取組の方向性】

- (a) 図書館利用の拡大について
様々な年代に向けた啓発事業を実施することにより、図書館の魅力を発信するとともに、児童サービス、レファレンス等、図書館におけるサービスの充実をはかり利用者の拡大に努める。
- (b) 図書館資料の充実について
各分野を網羅した選書を心がけるとともに、多文化・多言語サービスの充実を図るため、外国語資料の収集に努める。

(c) 子どもの読書活動の支援について

子どもの読書活動を高めるため、第三次昭島市子ども読書活動推進計画に基づいた取り組み状況の実態調査を行い、その結果を踏まえて新たな事業展開を検討していく。

(d) 読書活動に対する学校支援について

団体貸出や学校を訪問してのブックトーク等の実施を継続するとともに、学校図書館運営において要となる司書教諭に対する研修会を実施する。

また、学校の要望を反映し、調べ学習に対応した資料の収集と提供に努める。

(e) 教育福祉総合センターにおける市民図書館の開設について

新たな図書館の開館に向け、什器・備品等の調達及びシステム構築を遺漏なく行うとともに、詳細な計画のもと、図書館機能の移転を滞りなく実施する。

(f) 高齢者への対応について

高齢者向けの図書館オリエンテーションを実施する等、図書館を身近な施設と捉えてもらうとともに、高齢者向けの資料の充実及び講演会等の催し物の実施に努める。

主要施策 3 文化・芸術

昭島市文化芸術の振興に関する基本方針に基づき、市民の文化活動の振興を図るため、身近な場所での多様な芸術鑑賞の機会の提供、また、日常的な文化活動や発表の機会の提供を行い、市民の文化活動や教養を高め、感動や喜び、精神的な安らぎをもたらす心豊かにする文化芸術活動を推進します。

【施策の取組状況】

- (1) 市民文化の育成
- (2) 自主的な活動の支援
- (3) 文化芸術に関する意識の高揚
- (4) 文化芸術に接する機会の拡充
- (5) 文化芸術を担う人材の育成

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	市民文化祭の実施 【公民館】	昭島市の文化の祭典として、多くの市民が日頃の文化活動の成果を発表する場として、また市民相互の交流を図る機会として市民文化祭を実施します。	市民文化祭 10月5日～11月3日 演奏・演芸・展示・発表及び対局を実施しました。 27部門 参加者 12,844人
3-(2)	文化・芸術活動団体への支援 【公民館】	自主的な文化芸術活動を行っている団体への活動場所の提供や発表の機会の拡充に努める。	文化芸術活動を行っている公民館登録団体に、公民館の使用料を免除し活動場所の提供をしました。また、発表の場として市民文化祭を実施しました。
3-(3)	文化芸術に関する講座・講演会の実施 【公民館】	日々の生活に潤いをもたらす文化芸術作品に触れ、豊かな感性を養えるよう関心と理解を高める講座・講演会等を実施します。	歴史文化セミナー 「西行生誕900年 日本の詩歌にふれよう」 全5回 参加者 47人 講師派遣事業 「幕末の名代官、江川太郎左衛門英龍」 1回開催 参加者 44人 はがきで文字遊び 全4回 参加者 29人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(4)	市民会館自主文化事業の充実 【市民会館】	昭島市民会館文化事業協会を中心に質の高い多様な芸術・文化事業を実施し、市民文化活動の振興と地域文化の向上を目指します。	市民会館文化事業協会による、歌謡、クラシック、寄席、能など多岐にわたる様々な鑑賞事業を、大ホールは共催を含め 10 事業、小ホールは 2 事業を実施しました。 改修工事完了に伴い、平成 30 年 7 月より事業を再開しました。 入場者 延べ 7,035 人
3-(4)	公民館ふれあいコンサートの充実 【公民館】	市民のみなさんに身近な場所で芸術鑑賞の機会を提供します。	ふれあいコンサートを 2 回実施しました。 1 回目 9 月 29 日実施 参加者 141 人 2 回目 1 月 12 日実施 参加者 120 人
3-(5)	伝統芸能の後継者の育成 【社会教育課】	市民の共有の財産であり、将来の文化芸術の発展の基礎となる伝統芸能を保存・継承するための支援をします。	【文化財保存事業補助金】 ・拝島日吉神社祭礼囃子保存育成事業 120,000 円 ・福島ばやし保存育成事業 60,000 円

【主な課題】

(a) 文化芸術の振興について

昭島の文化芸術に関する施策は、現在、市長部局、教育委員会の各課が独自に実施している。「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」において課題となっている文化芸術の振興を計画的に推進していくため、市の各部課との調整と、民間団体との連携強化を検討中である。

(b) 文化芸術活動の推進について

公民館事業として市民文化に接する機会の拡充を検討する必要性がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 文化芸術の振興について

平成22年に策定した「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」は対象期間を10年としていることから、市の文化芸術に関する施策を計画的に推進していくために、新たに「昭島市文化芸術推進計画」を策定に努める必要がある。また、各部課の調整と民間団体との連携を強化しコーディネートを行う「協議機関」の設置などの推進体制について、今後も庁内で協議し検討を行っていく。

(b) 文化芸術活動の推進について

市民による自主的な文化芸術活動の発表の場を提供するとともに、さらなる活動の促進のために文化芸術に関する情報の、発信と施設の限られたスペースを有効活用し、誰でも気軽に情報を得ることができるように検討をしていく。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 4 スポーツ・レクリエーション

健康志向の高まりにより、生涯にわたりスポーツに親しみ、個々のライフステージに応じたスポーツの楽しみ方が求められ、スポーツ・レクリエーションの種目も多様化しています。

こうした中で、市民が健やかでより豊かな生活を実現するため、「いつでも どこでも いつまでも」スポーツ・レクリエーションを親しむ地域スポーツ社会と市民の多様なニーズに取り組みます。

【施策の取組状況】

- (1) スポーツ振興計画の推進
- (2) スポーツライフの形成
- (3) スポーツ・レクリエーションの基盤整備

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(1)	スポーツ振興計画の推進 【スポーツ振興課】	スポーツ振興計画の基本施策の実現に向けて着実に実施します。	スポーツ振興計画については、平成 28 年度に計画期間を満了し、検証結果を踏まえた上で、平成 28 年 3 月に新たにスポーツ推進計画を策定しました。
4-(1)	スポーツ推進計画の策定及び実施 【スポーツ振興課】	平成 23 年度に改正された「スポーツ基本法」に基づき、国の定めた「スポーツ基本計画」を参酌し、「昭島市スポーツ推進計画」を策定し、実施します。	平成 28 年 3 月に策定した昭島市スポーツ推進計画（平成 28 年度～平成 33 年度）の 4 つの基本施策に基づき、気軽に参加できるスポーツプログラムの提供や、スポーツ団体への支援、スポーツ施設の改修やスポーツを通じた地域や学校との連携など、総合的に施策を推進しました。
4-(2)	チャレンジデーの実施 【スポーツ振興課】	市民のスポーツへの参加のきっかけづくりと健康づくりを図るため「チャレンジデー」を実施します。	平日開催では家族と一緒に参加出来ないとの声を多くいただき検討を重ねた結果、平成 30 年度よりチャレンジデーからスポーツ週間へと変更し実施しました。
4-(2)	各種スポーツ・レクリエーション教室の充実 【スポーツ振興課】	多様なニーズに応じたスポーツ・レクリエーション教室を開催し、スポーツをするきっかけづくりとともに健康づくりを支援します。	幅広い年齢層の参加者を対象とした教室を開催しました。 開催教室数 全 20 教室 参加者 延べ 10,433 人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(2)	市民体育大会 の実施 【スポーツ振興課】	競技スポーツとしての日頃の練習成果を発揮する場及びスポーツを通して、地域の交流を深め、活性化を図る機会を提供します。	体育協会及び自治会連合会に委託し実施しました。 種目別大会 開催種目 25 種目 参加者 6,868 人 自治会ブロック別運動会 会場数 14 会場 参加者 7,238 人
4-(2)	スポーツによる市民 交流大会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、市民の健康づくりを図り、地域の交流と親睦を深める大会を実施します。	自治会対抗スポーツ大会を実施しました。 実施日 2月3日 自治会数 18 ブロック チーム数 36 チーム 参加者 148 人
4-(2)	気軽にスポーツを 親しむ事業の実施 【スポーツ振興課】	子どもから高齢者までが様々なスポーツを体験し、身近で気軽にスポーツに親しむことができる場を提供します。	親子ふれあいスポーツデーを市内3小学校で実施しました。 会 場：光華小、富士見丘小、 拝島第三小 参加者 延べ171 人 スポーツレクリエーションフェスティバルの実施 実施日 10月8日 参加者 3,538 人
4-(2)	高齢者のためのス ポーツ大会の実施 【スポーツ振興課】	高齢者が生涯スポーツに親しみ、健康維持・増進を図るためのスポーツ大会を実施します。	シニア軟式野球大会を実施しました。 実施日 11月3日 チーム数 4 チーム 参加者 90 人
4-(2)	新春駅伝競走大会 の実施 【スポーツ振興課】	「走る」ことによるスポーツの振興と健康づくり及び市民の交流を深める機会を提供します。	第64回の大会を実施しました。 実施日 1月13日 チーム数 200 チーム 参加者 1,636 人 平成 27 年度より記録の集計には電子チップ方式を採用し、より正確で迅速な集計を図りました。
4-(2)	スポーツ力向上 事業の充実 【スポーツ振興課】	競技力向上を目的として、トップアスリートなどを招き、専門的な指導を実施します。	昭島市体育協会の所属スポーツ団体にて実施しました。 実施団体 7 団体 参加者 487 人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(2)	スポーツ推進委員 によるスポーツ の推進 【スポーツ振興課】	各小学校区域にスポーツ推進委員を配置し、市民の健康づくりのためにスポーツの推進を図ります。	各地域でスポーツ指導を実施しました。 市民健康づくり歩け歩け運動を2回実施しました。 1回目 5月20日 参加者 84人 2回目 11月4日 参加者 81人
4-(2)	大会への選手・役員の派遣 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、近隣市等との交流を深めるとともに、競技力向上のために各種大会に選手・役員を派遣します。	都民体育大会などに昭島市代表として選手を派遣しました。 派遣大会数 4大会 派遣選手数 593人
4-(3)	指導者向け講習会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツ団体の指導員向けの各種講習会を実施することにより、さらなる競技力の向上を図ります。	指導者を対象に、技術力向上に資する練習会及び審判講習会を実施しました。 参加者 27人
4-(3)	運動施設の整備 【スポーツ振興課】	市内各運動施設の適切な維持管理を図るとともに、利用者が安心して利用できる施設整備を行います。	老朽化が進む各スポーツ施設において、建物・機械設備など各種修繕を行いました。 昭和公園内周路の舗装改修工事、くじら運動公園管理棟1階トイレの改修工事を行いました。
4-(3)	学校施設の活用 【スポーツ振興課】	学校教育の場である学校施設の運動施設を、夜間及び休日に、地域のスポーツ活動の場としての活用を図ります。	校庭夜間照明設備開放 ・つつじが丘小 利用者 955人 ・旧拝島第四小 利用者 795人 ・昭和中校庭 利用者 1,923人 ・昭和中テニスコート 利用者 637人 旧拝島第四小学校運動施設開放 校庭 5,602人 体育館 9,755人 小学校プール一般開放 会場 拝島第一小 開催日数 7日間 利用者 176人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(3)	スポーツ団体への支援 【スポーツ振興課】	各種スポーツ団体への支援に努めるとともに、組織化の推進及び活動の活性化を図ります。	スポーツ団体の普及及び競技力向上のため各団体に補助金を拠出しました。 団体数 7団体 補助金額 4,881,000 円

【主な課題】

(a) 運動習慣の定着について

平成29年度までチャレンジデーを実施していたが、実施日が5月の最終水曜日に決められているため、参加しづらいとの意見もあり、改めて市民一人一人が個々の状況に応じて、継続的に運動やスポーツを行うことのきっかけを作る施策の検討が必要である。

(b) 国際的な大会の開催について

2019ラグビーワールドカップ及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、市民のスポーツへの関心が高まる中、啓発活動の充実の検討が必要である。

(c) 運動施設の整備について

老朽化が進む各運動施設の修繕等の対策が必要である。また、新たに設置を予定している立川基地跡地内調節池の平常時利用の運動施設としての設置については、近年の気象状況に鑑み、残堀川から水が流入した場合の利用者の安全対策や、流入後の施設への影響等を再検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 運動習慣の定着について

平成30年度よりスポーツ週間として5月14日から20日の期間を定め実施した。これまで取り組んできたチャレンジデーを、いつでもどこでも誰とでも一緒に運動できる機会を提供するスポーツ週間へと移行することにより、市民の誰もがスポーツに親しみ取り組めるきっかけをつくり、スポーツへの参加機会の充実を図る。

(b) 国際的な大会の開催について

2019ラグビーワールドカップ及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、パラリンピック競技の更なる啓発活動や、ジュニア育成のため、競技団体と連携し競技力の向上を目指すとともに、市民の誰もがスポーツに親しむための機会の充実を図る。

(c) 運動施設の整備について

健康づくりとしての生涯スポーツの関心が高くなっている現状を踏まえ、より多くの市民に安全・安心なスポーツ環境を提供するため、老朽化が進む運動施設の計画的な修繕を昭島市公共施設等総合管理計画の個別計画により実施する。

また、新たに設置する調節池の平常時利用の運動施設整備については、調

節池に残堀川の水が流入するのは数年に一度と予測していたが、近年の気象状況においては、年に数回の可能性もあることから、施設利用者の安全対策、施設への流入時の影響等を調査し、運動施設の内容について再検討を行い、東京都等と調整を行う。

主要施策 5 文化財

文化財は、地域の伝統的な文化が結実したもので、昭島の歴史や文化の理解に必要な不可欠なものです。また、将来の地域づくりの核となるものとして、確実に次世代に継承していくことが大切です。

そこで、これらの文化遺産を後世に伝え、地域の文化遺産としての活用を図るため、その調査と保護・保存と活用を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 文化財の保護・保存
- (2) 文化財の活用

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(1)	郷土資料室の展示 【社会教育課】	市内の遺跡から発掘された土器・石器類や古文書、農具等の民具を体系的に展示し、昭島の歴史や文化の理解を図ります。	毎週、水曜・土曜・日曜日の正午～午後4時に開室 夏休期間に10日間の特別開室（平日期間のみ午前10時～午後4時開室） 来館者 延べ955人
5-(1)	民具の調査・整理 【社会教育課】	現在では使用されなくなった民具は、先人の生活実態を知る手掛かりとして貴重な文化財です。その収集と保存に努めます。	民具調査整理補助作業員2名（臨時職員）を雇用し民具等の調査、整理、分類作業を実施しました。 旧昭和中学校木造校舎内1階及び旧拝島第四小学校内、収納民具調査・整理委託
5-(1)	埋蔵文化財の発掘調査 【社会教育課】	土木工事等により、貴重な文化遺産である埋蔵文化財の散逸を防ぐため、文化財保護法に基づき、諸手続きを確実に実施します。	埋蔵文化財発掘調査箇所 ・経塚下遺跡 (311.64㎡) ・経塚下遺跡 (1222.61㎡) ・西上遺跡 (115.0㎡) ・浄土寺址遺跡 (73.54㎡) ※宅地開発等に伴う遺跡範囲の確認調査

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(1)	指定文化財の保護 【社会教育課】	国や都の指定文化財を保護・保存の支援を行うとともに、市指定文化財の保護・保存と活用を図るため助成事業などを継続します。	文化財保存事業補助金 ・文化財公開謝礼 17件 204,000円 ・木造大日如来坐像ほか2軀修理事業 855,000円
5-(2)	文化財ボランティアガイドの活用 【社会教育課】	文化財ボランティアガイドによる文化財めぐりの企画や郷土資料室の団体見学の解説など、活動の場の提供に努めます。	浄土古墳清掃（毎月1回）、 文化財めぐり説明・随行4回 郷土資料室開室管理（毎週水曜日及び夏休み特別開室平日） ボランティア視察研修会 7月19日 視察先 群馬県立自然史博物館 群馬県立歴史博物館 参加者 16人
5-(2)	文化財めぐりの実施 【社会教育課】	郷土昭島の歴史を自らの目で確かめ、身近な文化遺産を通して郷土を知り、文化財保護に対する啓発を図るために実施します。	5月3日 拝島のフジ開花時史跡案内 参加者 25人 10月13日 上川原・田中・大神コース 参加者 21人 10月18日、11月18日 ・アキシマクジラと 多摩川コース 参加者 28人 10月27日 ・文化財講演会「多摩の民俗」 参加者 50人
5-(2)	市史・文化財資料 図書の発刊・頒布 【社会教育課】	昭島市の歴史や文化財に関する資料を作成し、広く市民に周知します。	・昭島市近代史調査報告書VI ～旧役場資料で見る 「昭和」前半の昭島～ 500冊発刊
5-(2)	郷土資料室企画 事業の充実 【社会教育課】	郷土資料室の企画による「まが玉づくり教室」の実施のほか、郷土の歴史や文化に親しむ機会の場の提供を図ります。また、アキシマクジラの化石の活用を検討します。	・まが玉づくり教室 8月11日 参加者 25人 ・「アキシマクジラ」の化石を見に行こう 2018 見学ツアー 7月26日 参加者 62人

【主な課題】

(a) 郷土資料室の展示について

令和2年3月開設予定の教育福祉総合センター内新郷土資料室の展示企画整備事業の遂行と現郷土資料室展示品及び旧昭和中学校木造校舎に収蔵してある大量の民具や出土遺物を短期間で移送、整理、収蔵しなければならない。

【今後の取組の方向性】

(a) 郷土資料室の展示について

教育福祉総合センター内新築棟の郷土資料室では、ICTを用いた魅力ある展示室として市内外に発信していくと共に、既存校舎棟内の体験型の展示室を設置する。加えて貴重な文化遺産の適切な管理、保護、保存する収蔵室を設置することで、文化財保護思想の普及、啓発をはかり、内外から人を呼び込む観光資源としての機能をもつ文化財発信拠点の構築に努めていく。

第4章 平成30年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果

平成31年1月定例会で報告

1 確かな学力①

肯定的な回答をした児童は93.2%で前年度から0.7ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は82.7%で前年度から4.8ポイント増加した。
⇒各校で授業改善の取組の成果が見られる。授業が分かりにくいと答えている児童・生徒もいるため今後も授業改善を進めていく必要がある。

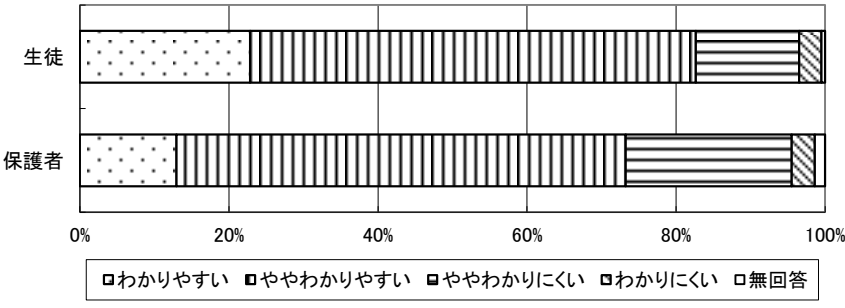
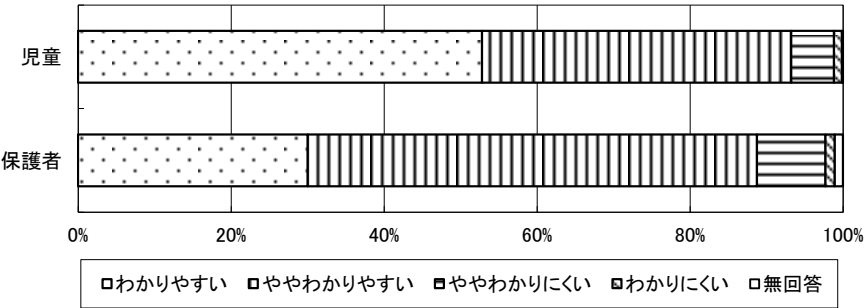
【小学校】

質問事項			選択肢				
			わかりやすい	ややわかりやすい	ややわかりにくい	わかりにくい	無回答
学校の授業は、わかりやすいですか。 (保護者の方には「学校はお子様に学力を身に付けさせていますか。」)	保護者	平成30	30.0%	58.7%	9.0%	1.2%	1.1%
	児童	平成30	52.8%	40.4%	5.6%	1.1%	0.1%
		平成29	50.8%	41.7%	5.6%	1.4%	0.6%
		平成28	47.6%	44.0%	6.3%	1.6%	0.6%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			わかりやすい	ややわかりやすい	ややわかりにくい	わかりにくい	無回答
学校の授業は、わかりやすいですか。 (保護者の方には「学校はお子様に学力を身に付けさせていますか。」)	保護者	平成30	13.0%	60.3%	22.3%	3.1%	1.4%
	生徒	平成30	22.9%	59.8%	13.9%	3.0%	0.5%
		平成29	22.3%	55.6%	16.8%	4.4%	1.0%
		平成28	21.0%	58.4%	15.2%	4.4%	1.0%

68



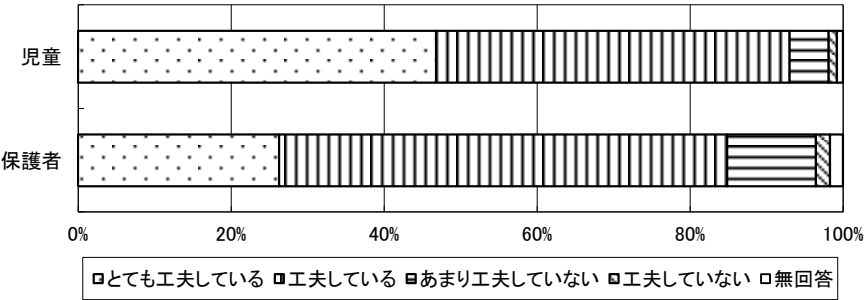
1 確かな学力②

■ 肯定的な回答をした児童は93.0%で前年度から1.8ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は85.4%で前年度から7.7ポイント増加した。
⇒各校で児童・生徒の状況に応じた工夫を行っている成果が表れているが、中学校においては保護者の回答と評価に差があるため学校公開等において授業で工夫している点を発信していく必要がある。

【小学校】

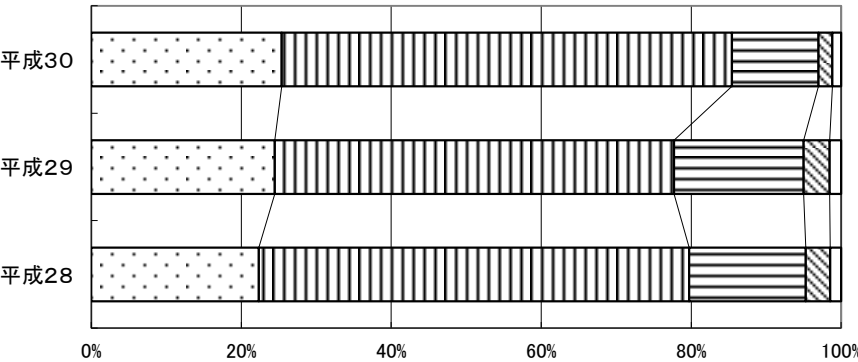
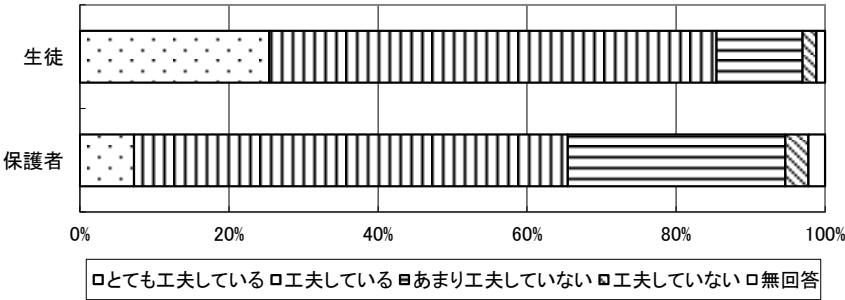
質問事項			選択肢				
			とても工夫している	工夫している	あまり工夫していない	工夫していない	無回答
先生方は、授業を工夫していますか。	保護者	平成30	26.3%	58.6%	11.6%	1.8%	1.7%
	児童	平成30	46.8%	46.2%	5.1%	1.1%	0.8%
		平成29	45.9%	45.3%	5.6%	1.5%	1.6%
		平成28	39.1%	51.3%	6.9%	1.0%	1.6%

90



【中学校】

質問事項			選択肢				
			とても工夫している	工夫している	あまり工夫していない	工夫していない	無回答
先生方は授業を工夫していますか。	保護者	平成30	7.3%	58.2%	29.2%	3.1%	2.2%
	生徒	平成30	25.4%	60.0%	11.5%	1.9%	1.2%
		平成29	24.5%	53.2%	17.3%	3.4%	1.5%
		平成28	22.4%	57.4%	15.6%	3.3%	1.4%



1 確かな学力③

肯定的な回答をした児童は66.8%で前年度から1.0ポイント増加し、肯定的な回答をした生徒は47.1%で前年度から5.1ポイント増加した。
 ⇒各校での家庭学習定着の取組や保護者への啓発により効果が表れているが、依然として課題があるため取組を継続していく必要がある。

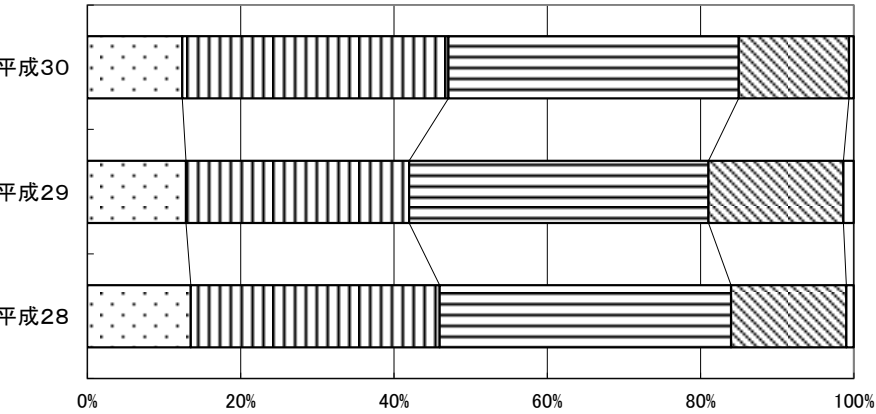
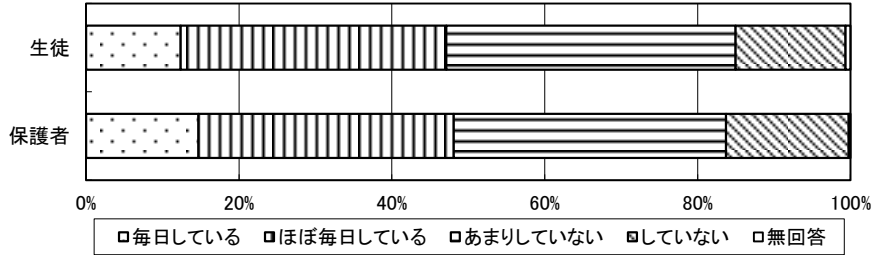
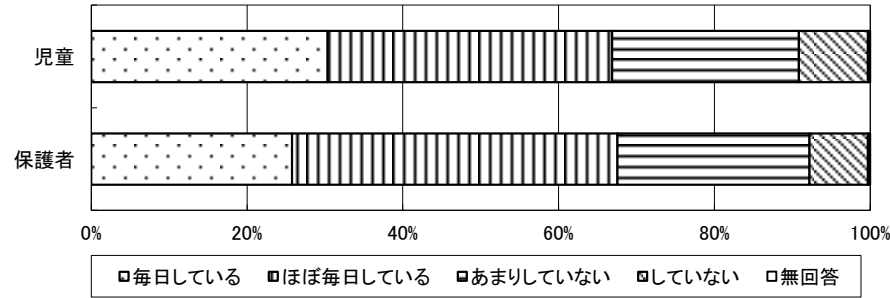
【小学校】

質問事項			選択肢				
			毎日している	ほぼ毎日している	あまりしていない	していない	無回答
家庭で決まった時間、勉強していますか。	保護者	平成30	25.8%	41.8%	24.7%	7.5%	0.3%
	児童	平成30	30.3%	36.5%	24.0%	8.9%	0.3%
		平成29	29.9%	35.9%	25.4%	7.8%	1.0%
		平成28	24.6%	35.4%	29.5%	9.2%	1.1%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			毎日している	ほぼ毎日している	あまりしていない	していない	無回答
家庭で決まった時間、勉強していますか。	保護者	平成30	14.7%	33.4%	35.6%	16.0%	0.2%
	生徒	平成30	12.4%	34.7%	37.9%	14.4%	0.6%
		平成29	12.9%	29.1%	39.1%	17.6%	1.3%
		平成28	13.5%	32.5%	38.0%	15.0%	1.0%

91

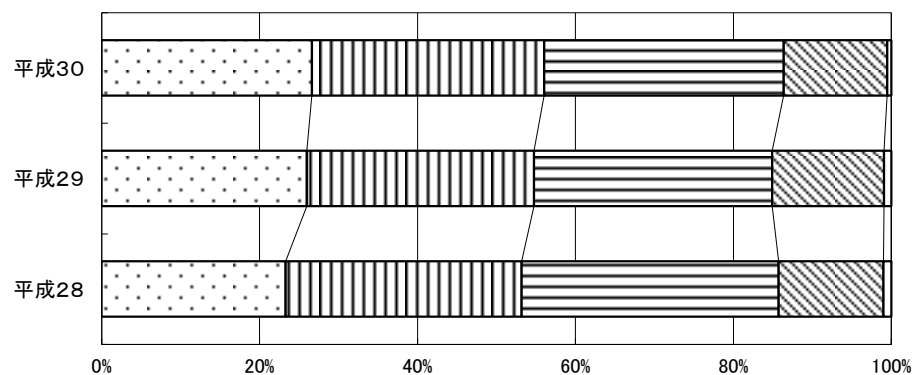
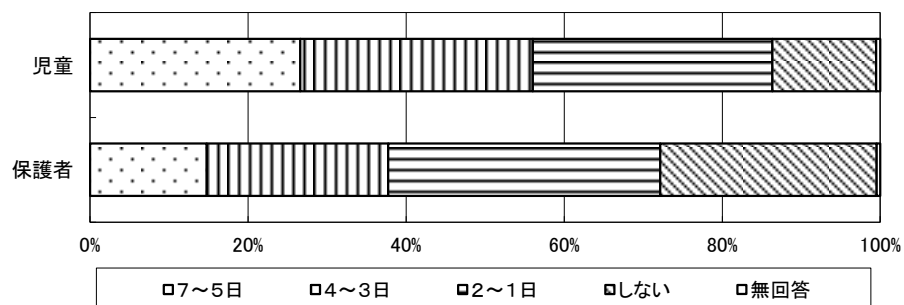


1 確かな学力④

■ 1日以上読書をしていると回答した児童は86.3%であり、前年度から1.3ポイント増加した。1日以上読書をしていると回答した生徒は72.3%であり、前年度から1.4ポイント減少した。
⇒各校の読書活動の全体計画を基に学校図書館の活用を積極的に図るとともに、無読率の増加を抑えるために今後も継続して本に慣れ親しみ習慣化させる取組を推進していく必要がある。

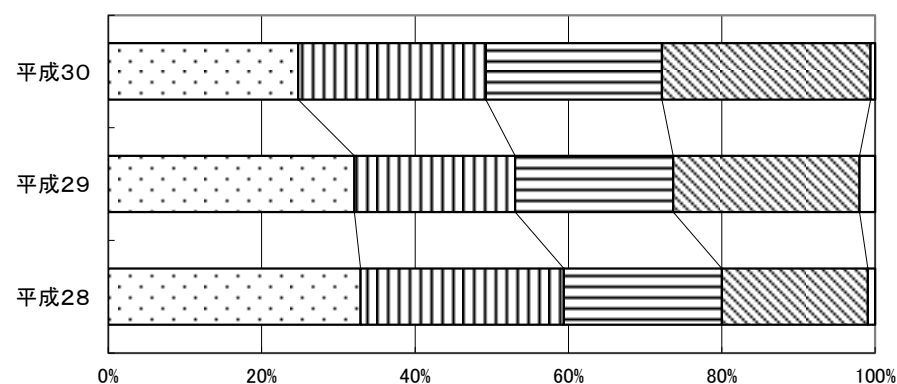
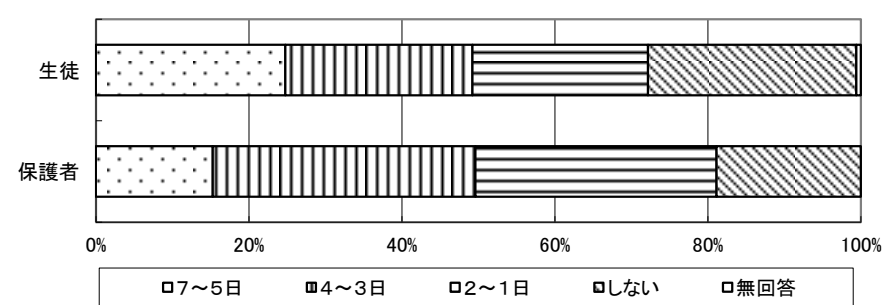
【小学校】

質問事項			選択肢				
			7～5日	4～3日	2～1日	しない	無回答
一週間にどのくらい読書に取り組んでいますか。	保護者	平成30	14.8%	23.0%	34.4%	27.4%	0.4%
	児童	平成30	26.6%	29.4%	30.3%	13.1%	0.5%
		平成29	26.0%	28.8%	30.2%	14.1%	0.9%
		平成28	23.3%	29.9%	32.5%	13.3%	1.0%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			7～5日	4～3日	2～1日	しない	無回答
一週間にどのくらい読書に取り組んでいますか。	保護者	平成30	9.6%	19.2%	33.4%	37.5%	0.4%
	生徒	平成30	24.8%	24.5%	23.0%	27.2%	0.6%
		平成29	32.1%	21.0%	20.6%	24.3%	2.0%
		平成28	32.9%	26.5%	20.6%	19.0%	1.0%



1 確かな学力⑤

■ 肯定的な回答をした児童は79.8%で前年度から0.8ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は58.9%で前年度から0.6ポイント減少した。
⇒体験学習の充実や学習と日常生活との関連を明確にするとともに、問題解決の方法等学習のしかたや児童・生徒の学ぶ姿勢や態度について育成していく必要がある。

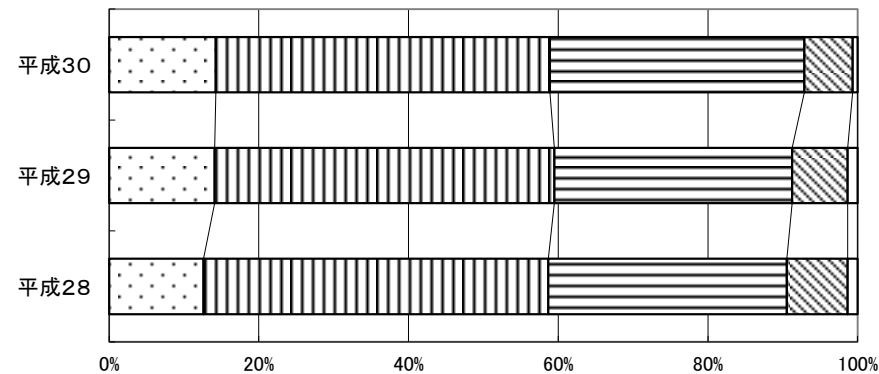
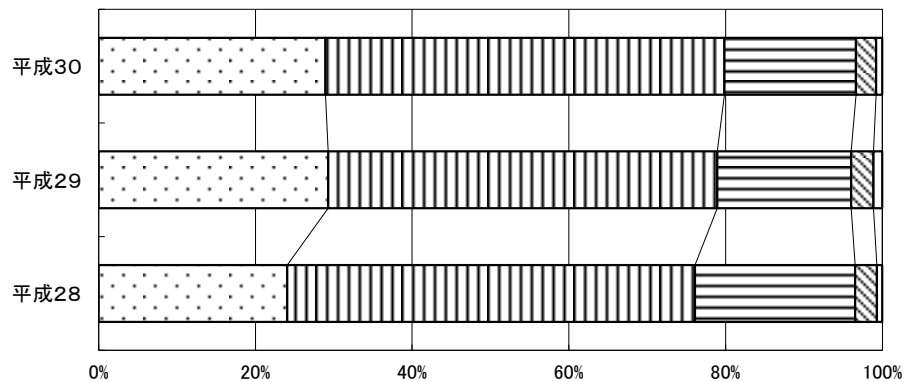
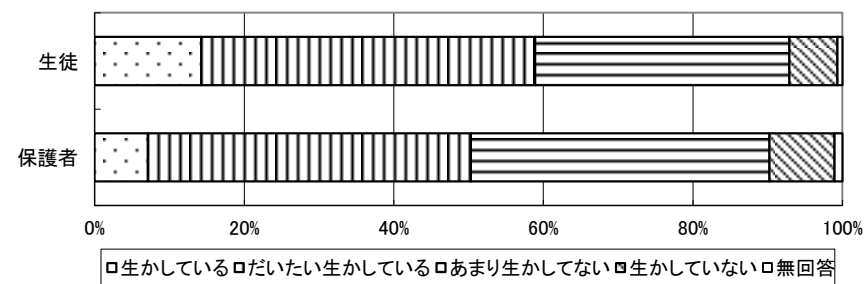
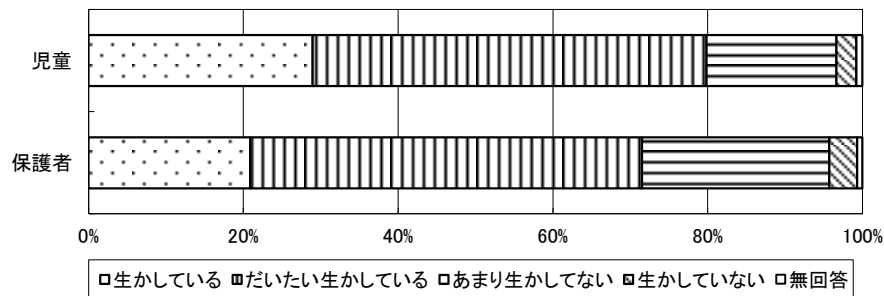
【小学校】

質問事項			選択肢				
			生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	無回答
学校で学んだことを生活の中で生かしていますか。	保護者	平成30	20.9%	50.6%	24.2%	3.6%	0.7%
	児童	平成30	28.9%	50.9%	16.8%	2.6%	0.8%
		平成29	29.3%	49.7%	17.1%	2.9%	1.1%
		平成28	24.1%	52.0%	20.5%	2.8%	0.7%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	無回答
学校で学んだことを生活で生かしていますか。	保護者	平成30	7.1%	43.2%	39.9%	8.7%	1.1%
	生徒	平成30	14.3%	44.6%	34.0%	6.4%	0.7%
		平成29	14.1%	45.4%	31.8%	7.4%	1.3%
		平成28	12.6%	46.1%	31.9%	8.1%	1.3%

93

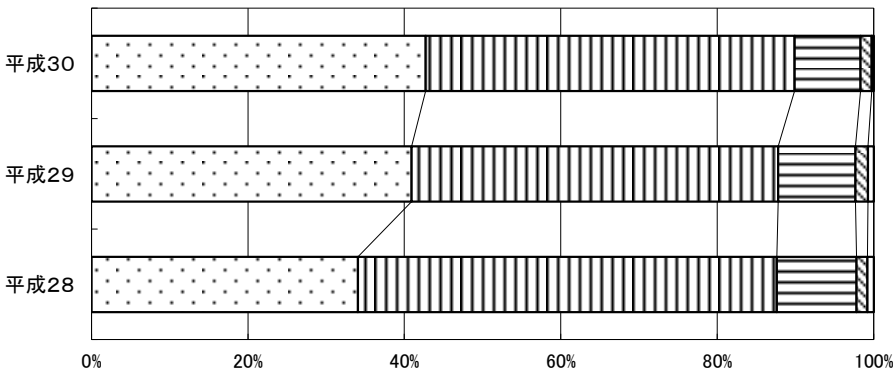
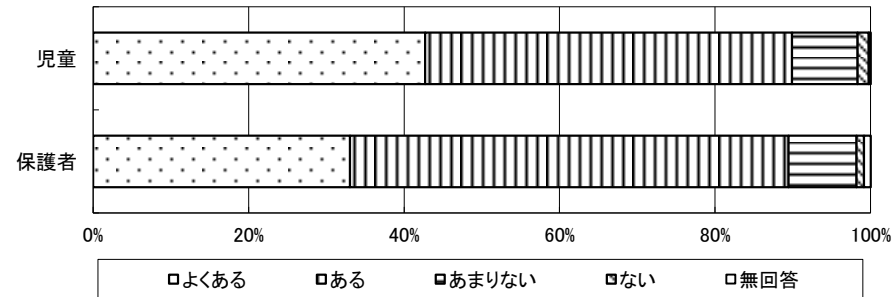


2 豊かな心①

肯定的な回答をした児童は89.9%で前年度から2.1ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は82.3%で前年度から3.3ポイント増加した。
⇒各校で、人権教育を中心とした「自他共に大切にできる心」の醸成に取り組んでいる効果が表れている。

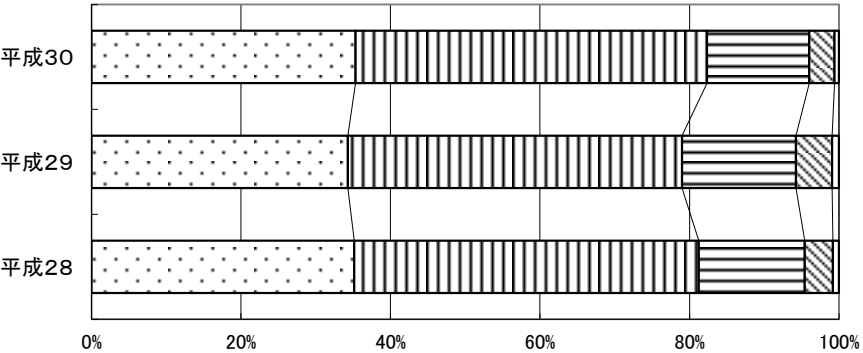
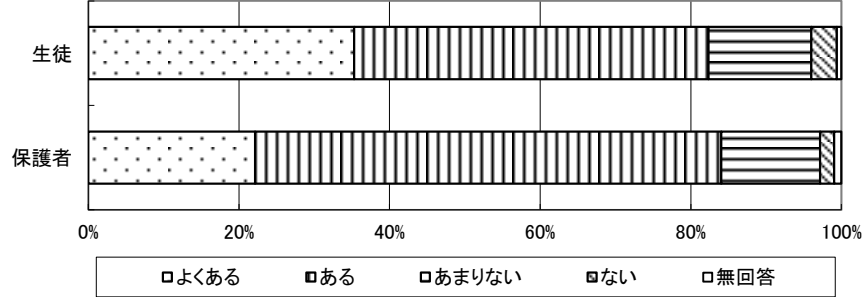
【小学校】

質問事項			選択肢				
			よくある	ある	あまりない	ない	無回答
学校の授業で、自分や友だちのことを大切に学ぶことがあ ると思いますか。	保護者	平成30	33.0%	56.4%	8.7%	1.0%	0.9%
	児童	平成30	42.7%	47.2%	8.4%	1.4%	0.3%
		平成29	40.9%	46.9%	9.9%	1.6%	0.8%
		平成28	34.1%	53.6%	10.2%	1.4%	0.8%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			よくある	ある	あまりない	ない	無回答
学校の授業で、自分や友だちのことを大 切だと学ぶことがあ ると思いますか。	保護者	平成30	22.1%	61.9%	13.1%	1.9%	1.0%
	生徒	平成30	35.3%	47.0%	13.7%	3.4%	0.6%
		平成29	34.3%	44.7%	15.2%	4.9%	0.9%
		平成28	35.1%	46.1%	14.2%	3.8%	0.8%



2 豊かな心②

肯定的な回答をした児童は87.9%で前年度から1.0ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は85.5%で前年度から6.4ポイント増加した。
⇒今後も児童・生徒が安心して学校生活を過ごすことができるよう、各校で「昭島市公立学校教育のユニバーサルデザイン」を効果的に活用していく。

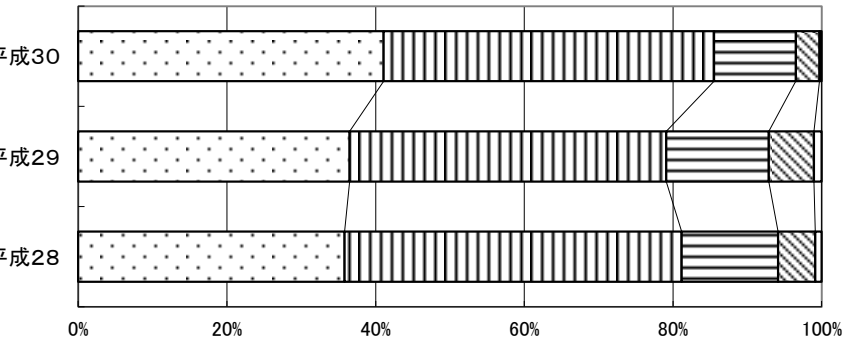
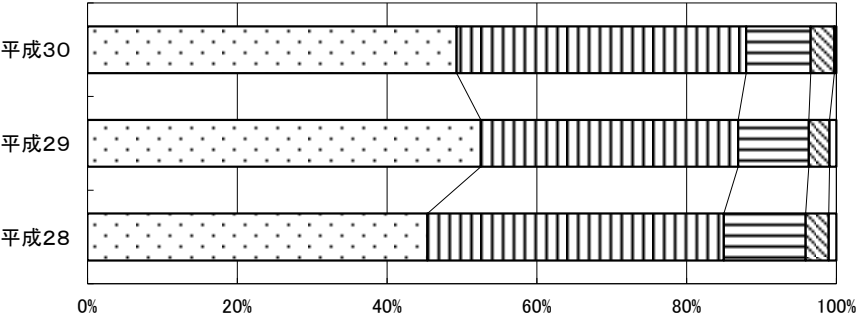
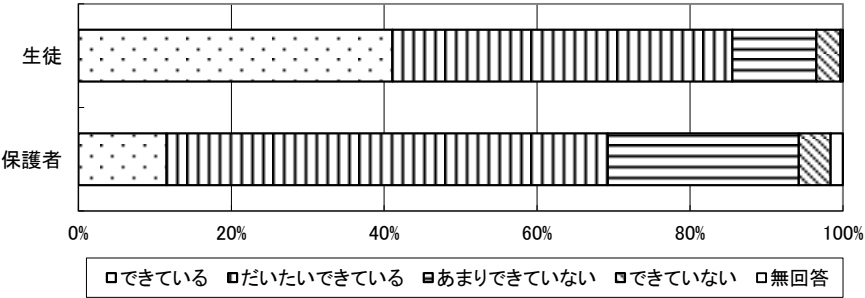
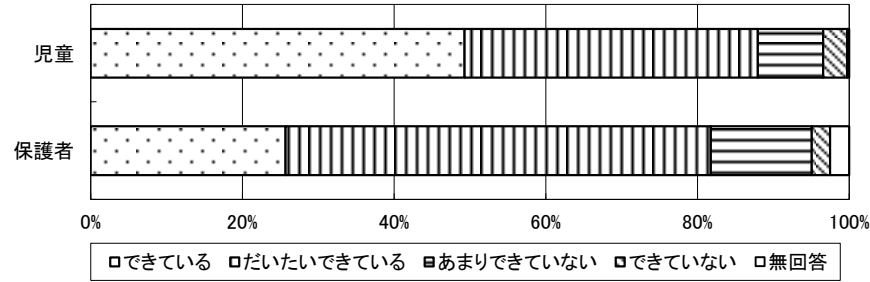
【小学校】

質問事項			選択肢				
			できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない	無回答
あなたは学校で落ち着いて安心して生活できていますか。	保護者	平成30	25.7%	56.0%	13.3%	2.4%	2.5%
	児童	平成30	49.3%	38.6%	8.6%	3.2%	0.3%
		平成29	52.5%	34.4%	9.4%	2.8%	0.9%
		平成28	45.4%	39.6%	10.9%	3.1%	1.0%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない	無回答
あなたは学校で落ち着いて安心して生活できていますか。	保護者	平成30	11.6%	57.7%	25.0%	4.2%	1.6%
	生徒	平成30	41.1%	44.4%	11.0%	3.2%	0.3%
		平成29	36.5%	42.6%	13.8%	6.1%	1.0%
		平成28	35.8%	45.3%	13.0%	5.0%	0.8%

95



2 豊かな心③

■ 学校に相談できる先生が1人以上いると回答した児童は83%で前年度から1.4ポイント増加した。学校に相談できる先生が1人以上いると回答した生徒は64.3%で前年度から6.2ポイント減少した。
⇒学級満足度調査を効果的に活用し、配慮を要する児童・生徒に対しては、教員がより積極的に声を掛けるなど、児童生徒との信頼関係を構築していく必要がある。

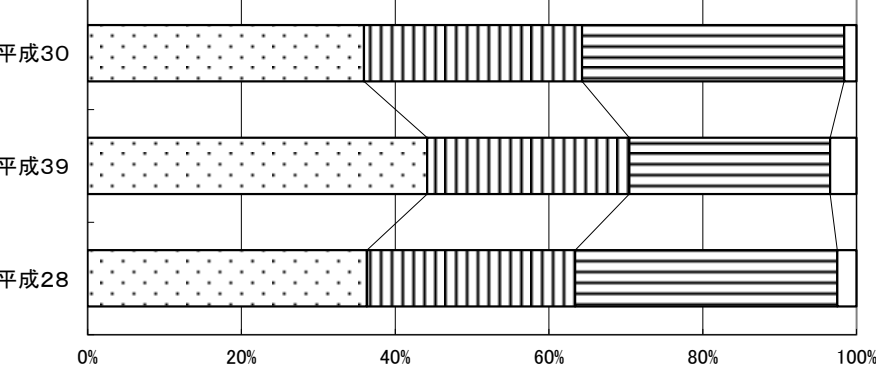
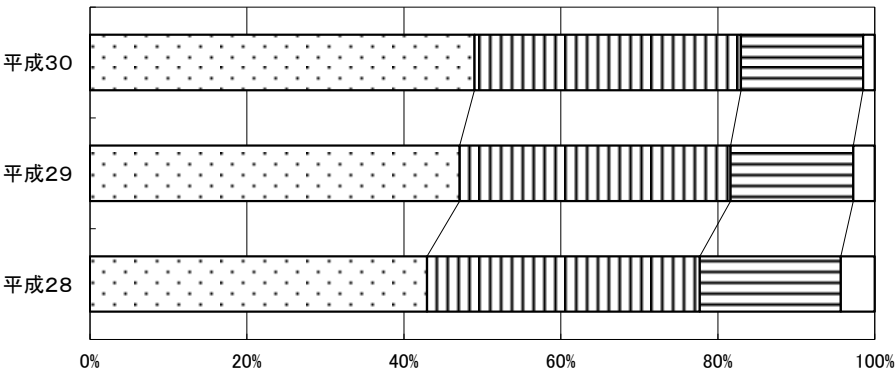
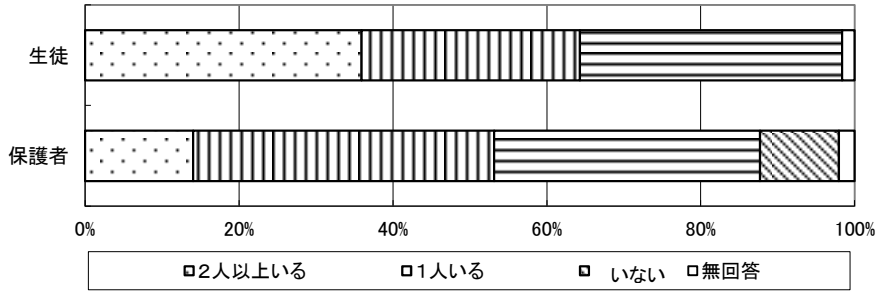
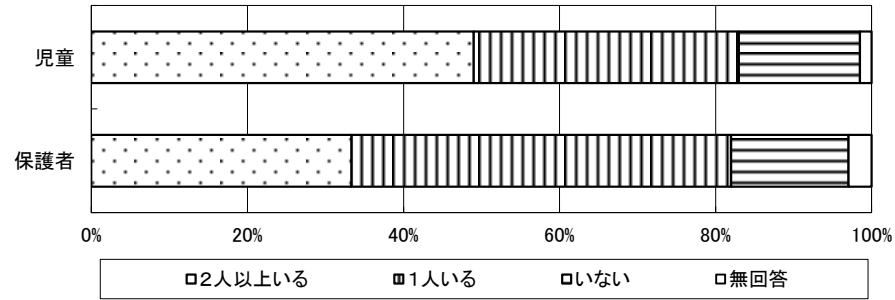
【小学校】

質問事項			選択肢				無回答
			そう思う	だいたい	あまり	おもわない	
			2人以上いる	1人いる	いない		
学校に相談できる先生がいますか。	保護者	平成30	32.2%	46.9%	14.5%	3.5%	2.8%
	児童	平成30	49.0%	34.0%	15.5%		1.5%
		平成29	47.1%	34.5%	15.6%		2.7%
		平成28	43.0%	34.8%	18.0%		4.3%

【中学校】

質問事項			選択肢				無回答
			そう思う	だいたい	あまり	おもわない	
			2人以上いる	1人いる	いない		
学校に相談できる先生がいますか。	保護者	平成30	14.1%	39.1%	34.5%	10.3%	2.0%
	生徒	平成30	35.9%	28.4%	34.1%		1.6%
		平成39	44.2%	26.3%	26.1%		3.4%
		平成28	36.3%	27.1%	34.1%		2.5%

96

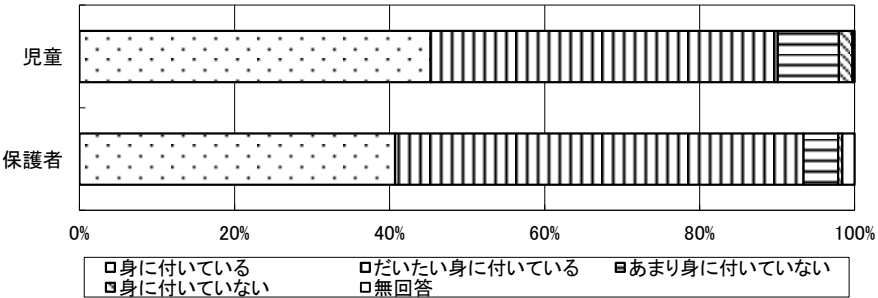


2 豊かな心④

肯定的な回答をした児童は90.1%で前年度から1.6ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は92.4%で前年度から6.7ポイント増加した。
⇒授業等でよい行動には心から賞賛し、課題のある行動には毅然とした態度で指導することを徹底し、規範意識の醸成を図る。

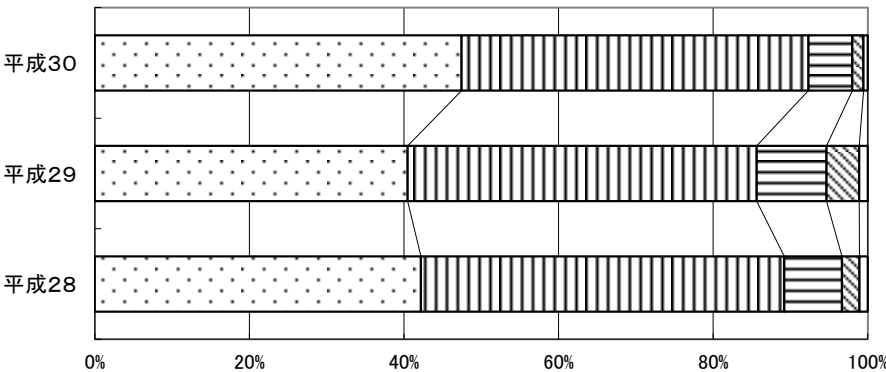
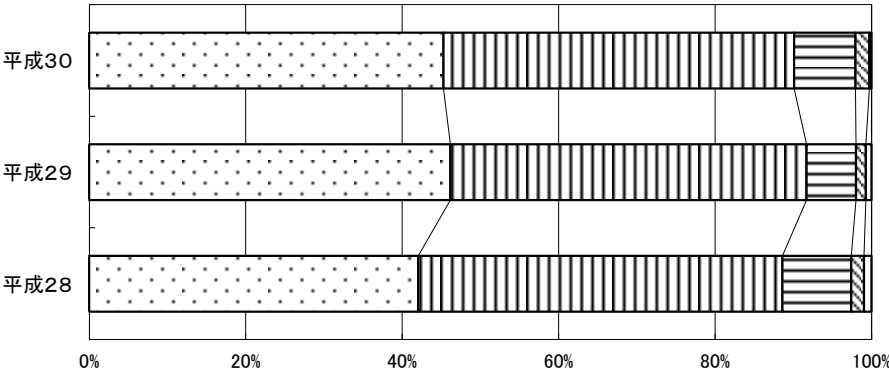
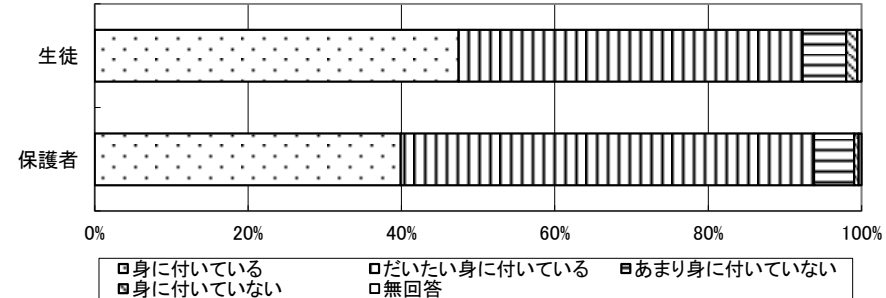
【小学校】

質問事項			選択肢				
			身に付いている	だいたい身に付いている	あまり身に付いていない	身に付いていない	無回答
あなたは、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思いますか。	保護者	平成30	40.7%	52.7%	4.5%	0.5%	1.6%
	児童	平成30	45.3%	44.8%	7.9%	1.8%	0.3%
		平成29	46.2%	45.5%	6.3%	1.3%	0.7%
		平成28	42.1%	46.6%	8.8%	1.6%	0.9%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			身に付いている	だいたい身に付いている	あまり身に付いていない	身に付いていない	無回答
あなたは、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思いますか。	保護者	平成30	39.9%	53.9%	5.2%	0.6%	0.4%
	生徒	平成30	47.5%	44.9%	5.7%	1.4%	0.5%
		平成29	40.5%	45.2%	9.0%	4.2%	1.1%
		平成28	42.2%	47.0%	7.5%	2.2%	1.1%



2 豊かな心⑤

肯定的な回答をした児童は90.4%で前年度から0.1ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は90.4%で前年度から6.8ポイント増加した。
⇒道徳科や特別活動を中心に教育活動全体を通して思いやりについて考えたり、行動したりする場面を今後も意図的・計画的に設けていく。

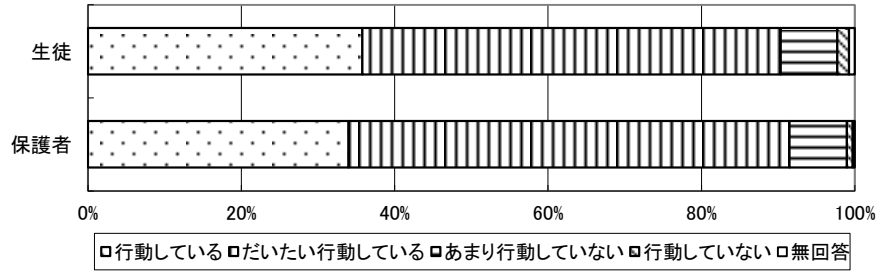
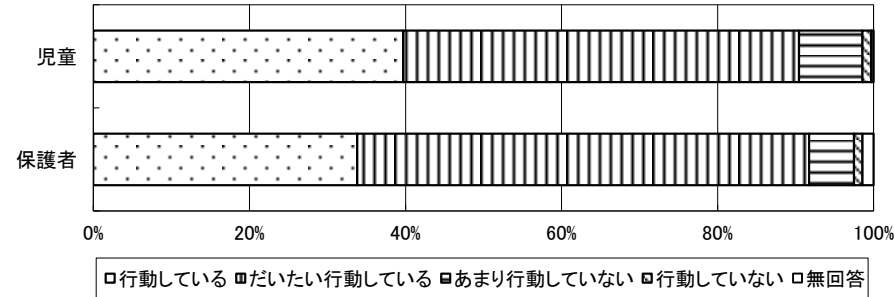
【小学校】

質問事項			選択肢				
			行動している	だいたい行動している	あまり行動していない	行動していない	無回答
あなたは思いやりの心をもって行動していますか。	保護者	平成30	33.8%	57.9%	5.8%	1.1%	1.4%
	児童	平成30	39.7%	50.7%	8.1%	1.1%	0.3%
		平成29	40.2%	50.3%	7.2%	1.4%	1.0%
		平成28	34.7%	53.4%	9.4%	1.4%	1.1%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			行動している	だいたい行動している	あまり行動していない	行動していない	無回答
あなたは思いやりの心をもって行動していますか。	保護者	平成30	34.0%	57.5%	7.5%	0.7%	0.3%
	生徒	平成30	35.8%	54.6%	7.4%	1.5%	0.7%
		平成29	31.3%	52.3%	11.9%	3.5%	1.0%
		平成28	32.7%	53.1%	9.9%	3.2%	1.2%

98



2 豊かな心⑥

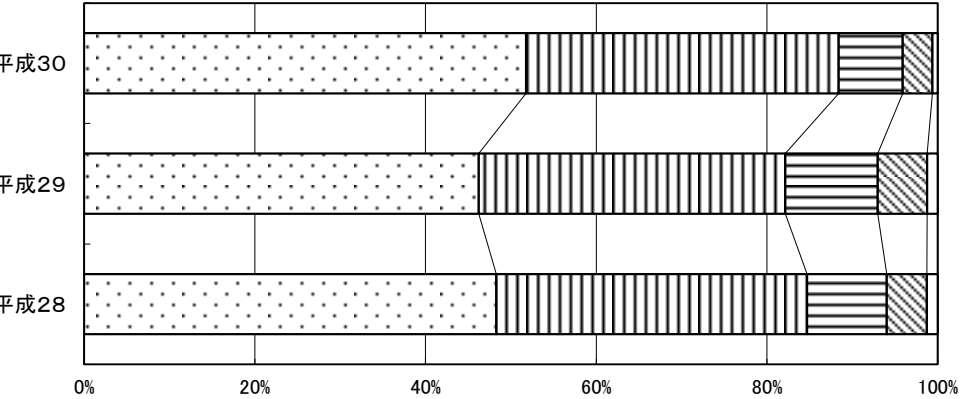
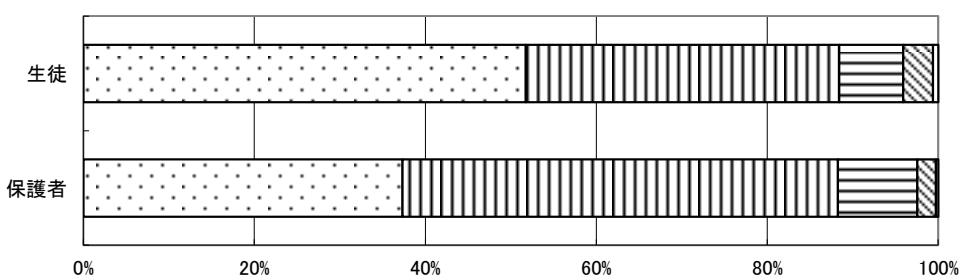
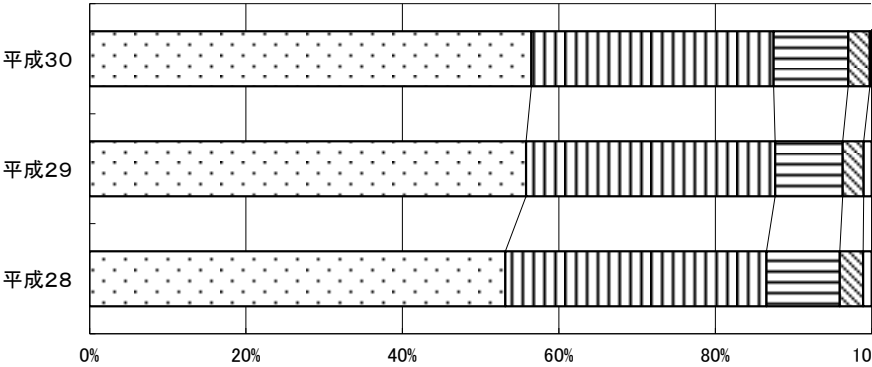
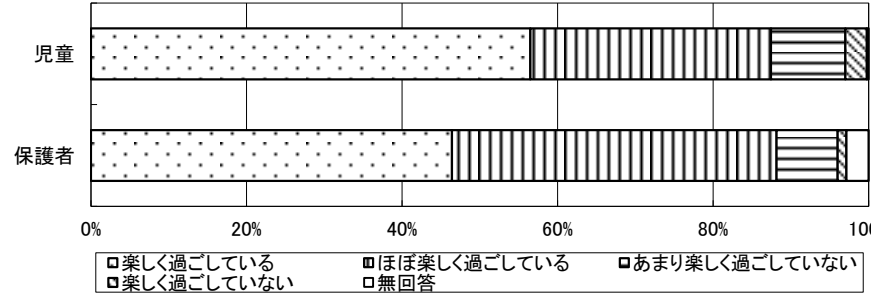
■ 肯定的な回答をした児童は87.5%で前年度から0.1ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は88.4%で前年度から6.3ポイント増加した。
⇒今後も児童・生徒が楽しく学校生活を送れるように教育活動を充実させるとともに、楽しく学校生活を送れているかどうか児童・生徒の日常の様子を組織的に見守っていく活動を継続していく。

【小学校】

質問事項			選択肢				
			楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない	無回答
あなたは楽しく学校生活を過ごしていますか。	保護者	平成30	46.4%	41.7%	7.9%	1.1%	2.9%
	児童	平成30	56.5%	31.0%	9.5%	2.8%	0.2%
		平成29	55.8%	31.8%	8.6%	2.7%	1.0%
		平成28	53.2%	33.4%	9.4%	3.0%	1.1%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない	無回答
あなたは楽しく学校生活を過ごしていますか。	保護者	平成30	37.3%	50.9%	9.3%	2.2%	0.3%
	生徒	平成30	51.8%	36.6%	7.5%	3.5%	0.6%
		平成29	46.2%	35.9%	10.8%	5.8%	1.2%
		平成28	48.3%	36.4%	9.3%	4.7%	1.3%



2 豊かな心⑦

肯定的な回答をした児童は86.4%、生徒は81.7%であった。(新規項目)
⇒男女の別なく接することができる児童・生徒は80%を超えており、今後も男女共同参画社会の実現に向けて、人権教育を推進していく。

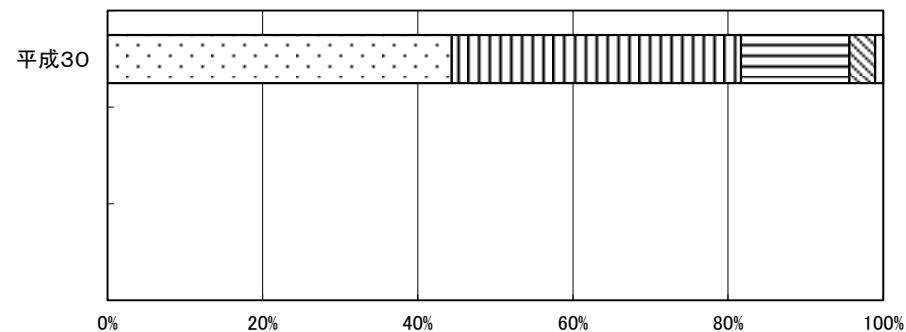
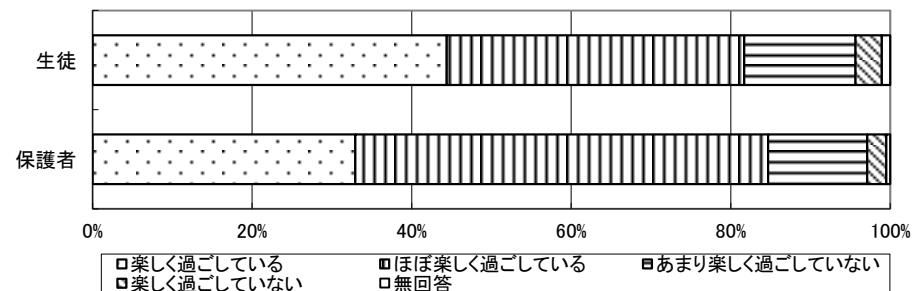
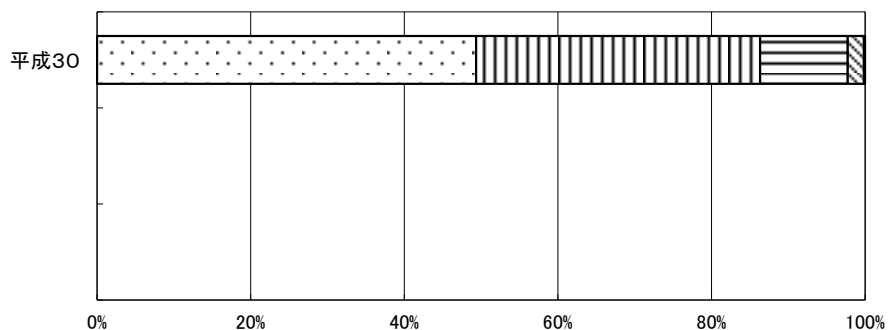
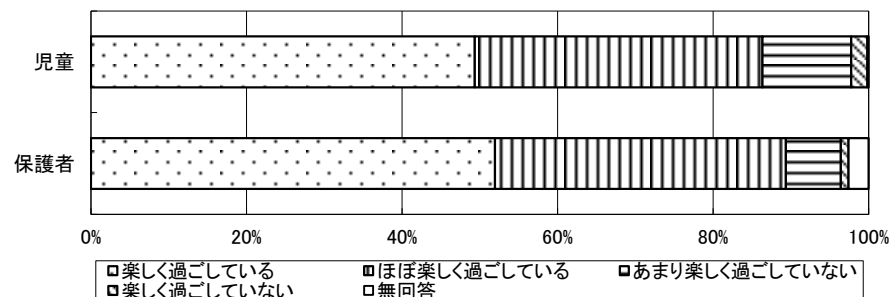
【小学校】

質問事項			選択肢				
			楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない	無回答
あなたは、男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していますか。	保護者	平成30	51.9%	37.4%	7.1%	1.0%	2.6%
	児童	平成30	49.4%	37.0%	11.4%	2.1%	0.2%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない	無回答
あなたは、男女の性別に関係なく、接することができますか。	保護者	平成30	33.0%	51.7%	12.4%	2.4%	0.5%
	生徒	平成30	44.4%	37.3%	14.0%	3.3%	1.0%

100

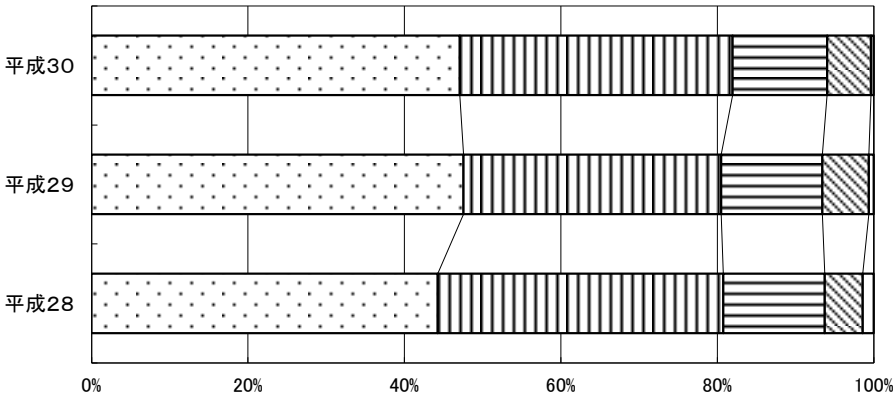
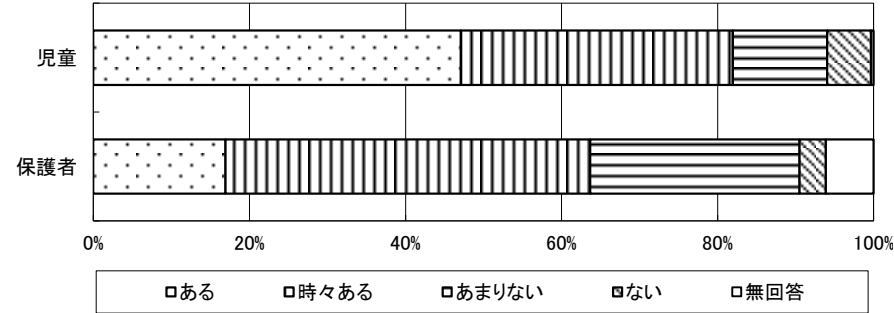


3 輝く未来①

肯定的な回答をした児童は82.0%で前年度から1.5ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は75.8%で前年度から1.2ポイント増加した。
⇒今後もキャリア教育の充実を図り、自分のことや将来のことを考える機会を各教科等の授業の中で取り組んでいく。

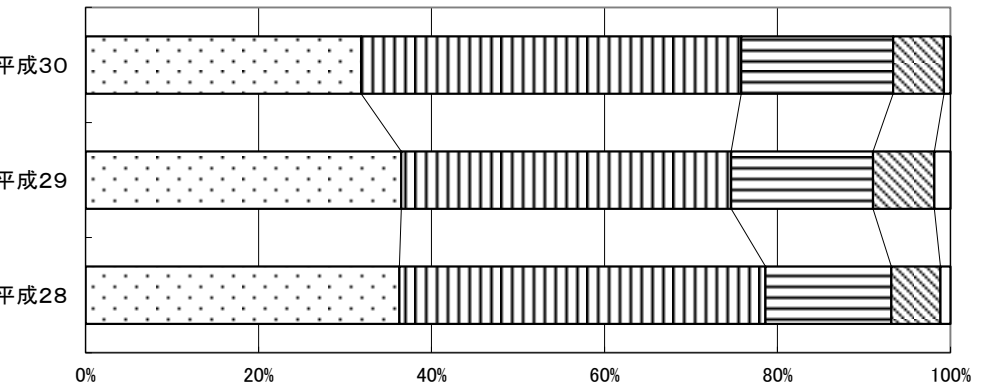
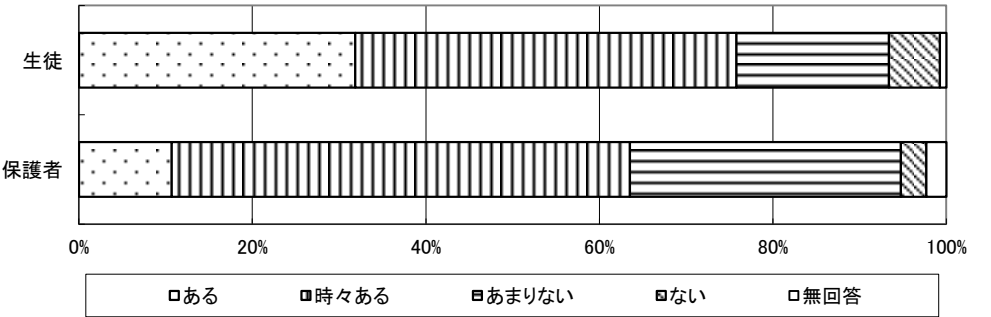
【小学校】

質問事項			選択肢				無回答
			ある	時々ある	あまりない	ない	
「自分の得意なものは何か」「自分に向いているのは何か」について考えることがありますか。	保護者	平成30	17.0%	46.7%	26.8%	3.4%	6.1%
	児童	平成30	47.1%	34.9%	12.1%	5.6%	0.3%
		平成29	47.6%	32.9%	12.9%	6.0%	0.6%
		平成28	44.3%	36.5%	13.0%	4.8%	1.4%



【中学校】

質問事項			選択肢				無回答
			ある	時々ある	あまりない	ない	
学校は、あなたの将来の生き方について、考える機会を与えていると思いますか。(職場体験など)	保護者	平成30	10.7%	52.8%	31.2%	2.9%	2.3%
	生徒	平成30	31.9%	43.9%	17.6%	5.9%	0.7%
		平成29	36.5%	38.1%	16.4%	7.1%	1.9%
		平成28	36.3%	42.3%	14.5%	5.7%	1.2%



3 輝く未来②

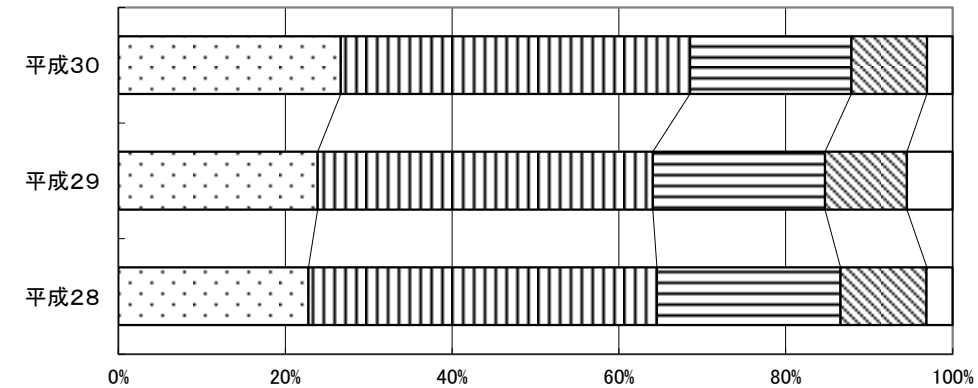
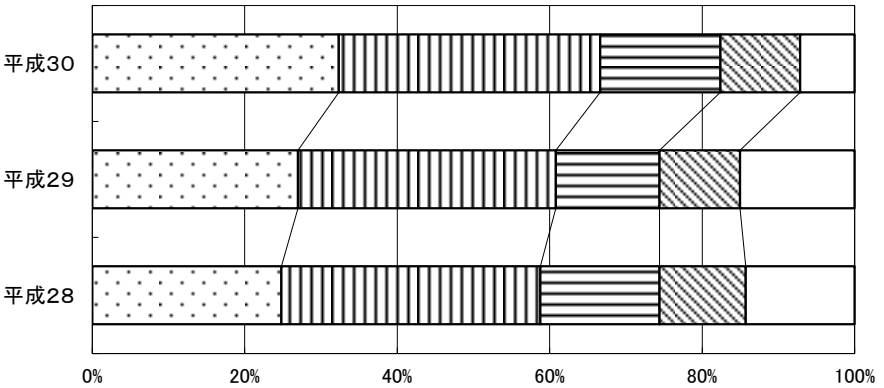
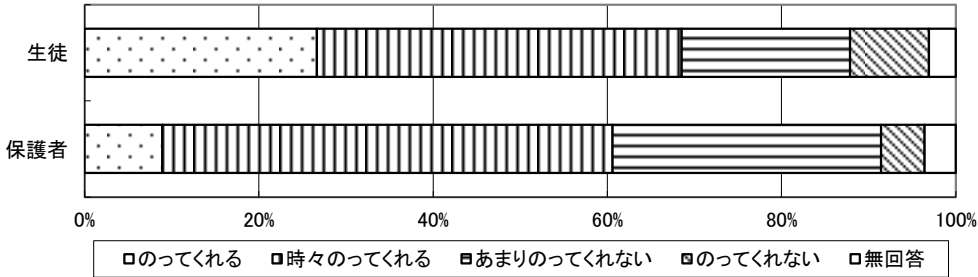
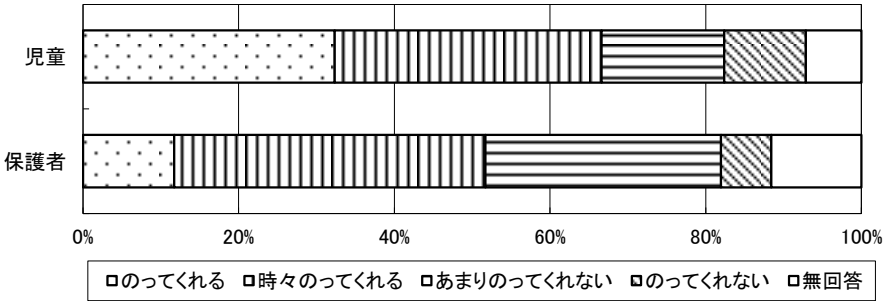
肯定的な回答をした児童は66.6%で前年度から5.8ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は68.6%で前年度から4.5ポイント増加した。
⇒今後も児童・生徒が相談しやすい環境づくりに努めていく。保護者の回答と評価の差があるため、各校で保護者に情報発信をしていく必要がある。

【小学校】

質問事項			選択肢				
			のってくれる	時々々のってくれる	あまりのってくれる	のってくれる	無回答
先生方は、将来の夢や目標などについて相談にのってくれますか。	保護者	平成30	11.7%	40.0%	30.3%	6.4%	11.6%
	児童	平成30	32.3%	34.3%	15.8%	10.5%	7.1%
		平成29	27.0%	33.8%	13.6%	10.5%	15.0%
		平成28	24.8%	34.0%	15.6%	11.3%	14.3%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			のってくれる	時々々のってくれる	あまりのってくれる	のってくれる	無回答
先生方は、あなたが知りたい進路の情報や将来の生き方について、適切にアドバイスをしてくれていますか。	保護者	平成30	8.9%	51.7%	30.8%	5.0%	3.6%
	生徒	平成30	26.7%	41.9%	19.4%	9.1%	3.1%
		平成29	23.9%	40.2%	20.7%	9.8%	5.5%
		平成28	22.8%	41.8%	22.0%	10.3%	3.1%

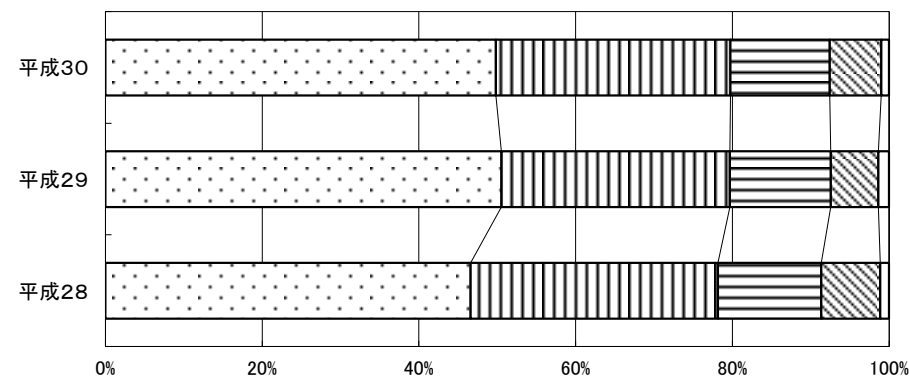
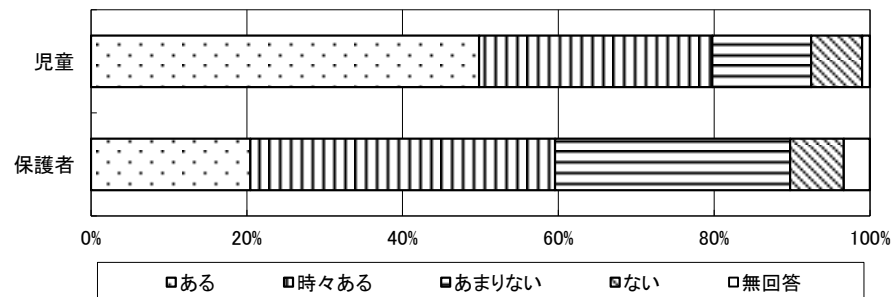


3 輝く未来③

■ 肯定的な回答をした児童は79.7%で前年度と同じ数値だった。肯定的な回答をした生徒は78.5%で前年度から2.2ポイント増加した。
⇒総合的な学習の時間をはじめとして教育活動全体を通して、児童・生徒が将来のことについて考える機会を設定し、将来の目標を目標をもつことができるようにしていく。

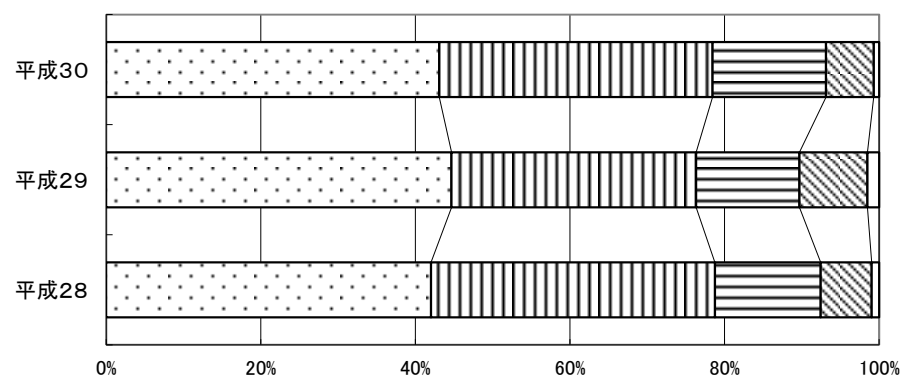
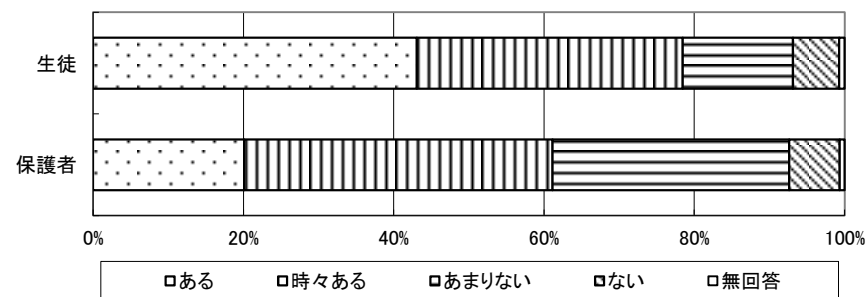
【小学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成30	20.5%	39.1%	30.2%	6.9%	3.3%
	児童	平成30	49.8%	29.9%	12.7%	6.5%	1.0%
		平成29	50.5%	29.2%	12.9%	6.1%	1.3%
		平成28	46.6%	31.6%	13.2%	7.5%	1.1%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成30	20.1%	41.0%	31.5%	6.7%	0.6%
	生徒	平成30	43.1%	35.4%	14.7%	6.2%	0.7%
		平成29	44.7%	31.6%	13.4%	8.8%	1.5%
		平成28	42.0%	36.7%	13.7%	6.6%	1.0%



3 輝く未来④

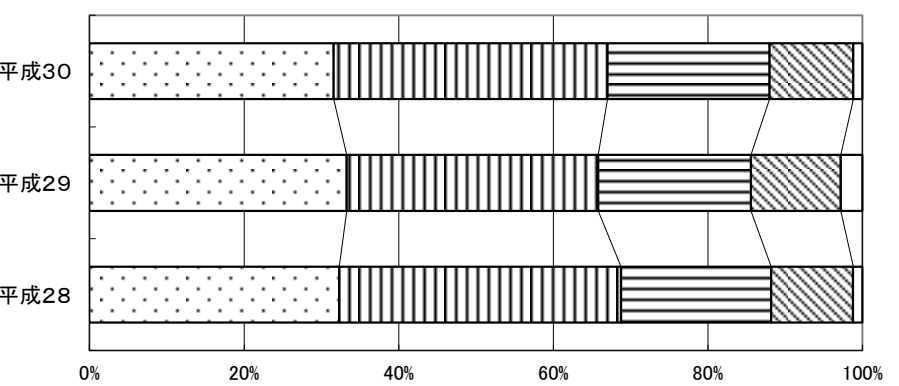
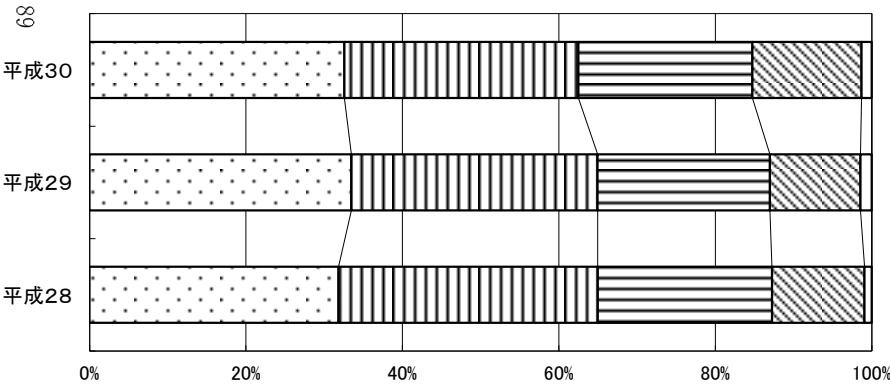
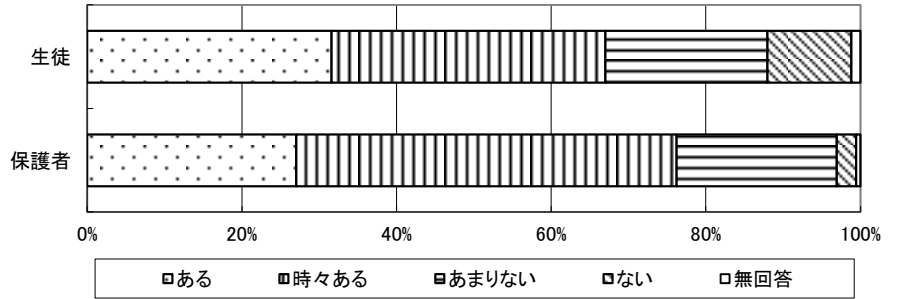
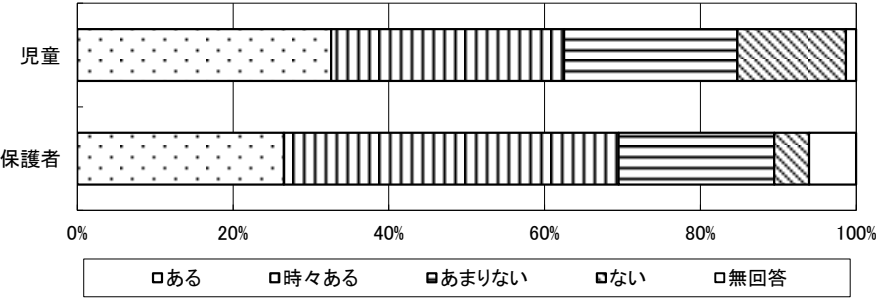
■ 肯定的な回答をした児童は62.5%で前年度から2.5ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は67.0%で前年度から1.1ポイント増加した。
⇒児童・生徒が将来について考え、よりよく生きていく目標をもつことができるよう、家族で話す機会をもつように保護者会等と通じて啓発していく必要がある。

【小学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
家族と自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成30	26.5%	43.0%	20.0%	4.4%	6.1%
	児童	平成30	32.6%	29.9%	22.2%	14.0%	1.3%
		平成29	33.5%	31.5%	22.0%	11.6%	1.4%
		平成28	31.8%	33.1%	22.3%	11.8%	0.9%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
家族と自分の将来について考えることがありますか。	保護者	平成30	27.0%	49.2%	20.7%	2.5%	0.5%
	生徒	平成30	31.6%	35.4%	21.0%	10.8%	1.2%
		平成29	33.3%	32.6%	19.7%	11.6%	2.8%
		平成28	32.3%	36.4%	19.4%	10.6%	1.2%

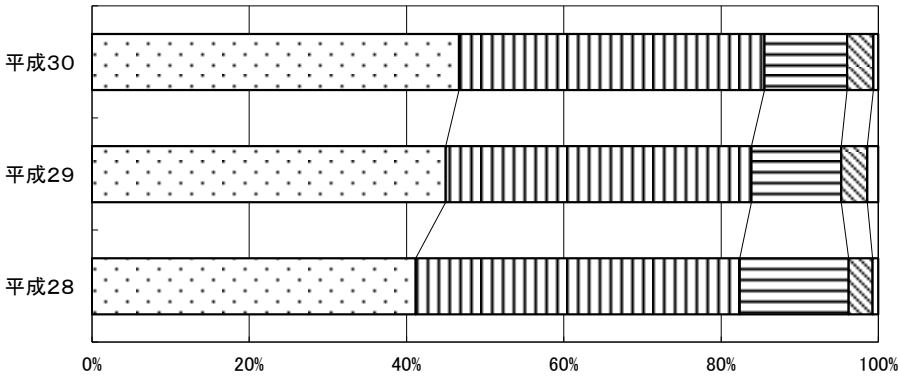
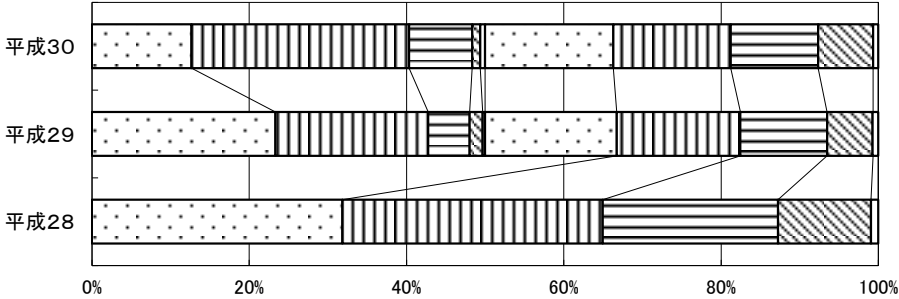


4 たくましい体①

肯定的な回答をした児童は85.6%で前年度から1.7ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は78.6%で前年度から3.1ポイント増加した。
⇒今後とも各校で「元気アップガイドブック」を各校で効果的に活用し、日常的な体力向上の取組を推進していく。

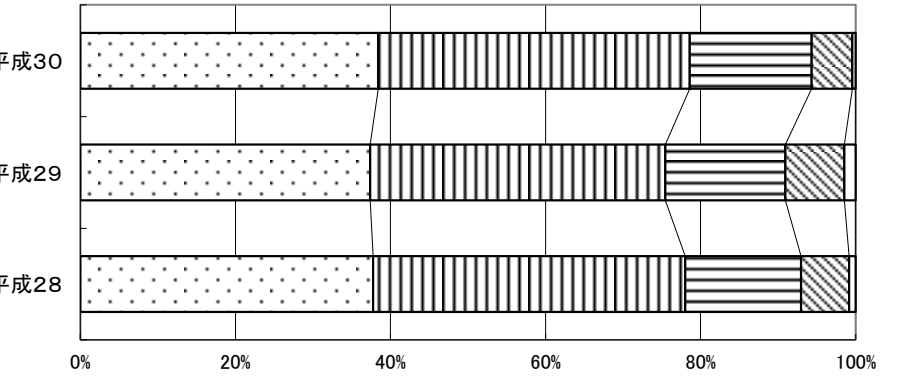
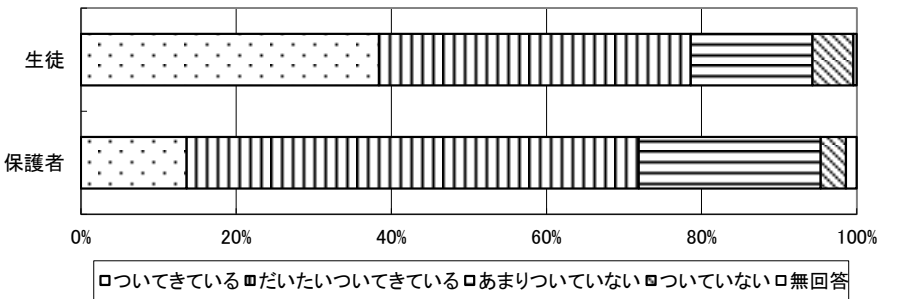
【小学校】

質問事項			選択肢				
			ついてきている	だいたいついてきている	あまりついていない	ついていない	無回答
学校生活を通して、体力が付いてきていますか。	保護者	平成30	25.3%	55.4%	16.0%	2.1%	1.2%
	児童	平成30	46.7%	38.9%	10.5%	3.3%	0.6%
		平成29	45.0%	38.9%	11.4%	3.3%	1.4%
		平成28	41.2%	41.2%	13.9%	3.0%	0.7%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			ついてきている	だいたいついてきている	あまりついていない	ついていない	無回答
学校生活を通して、体力が付いてきていますか。	保護者	平成30	13.6%	58.3%	23.5%	3.3%	1.4%
	生徒	平成30	38.4%	40.2%	15.7%	5.3%	0.4%
		平成29	37.4%	38.1%	15.5%	7.6%	1.5%
		平成28	37.8%	40.2%	15.0%	6.2%	0.8%

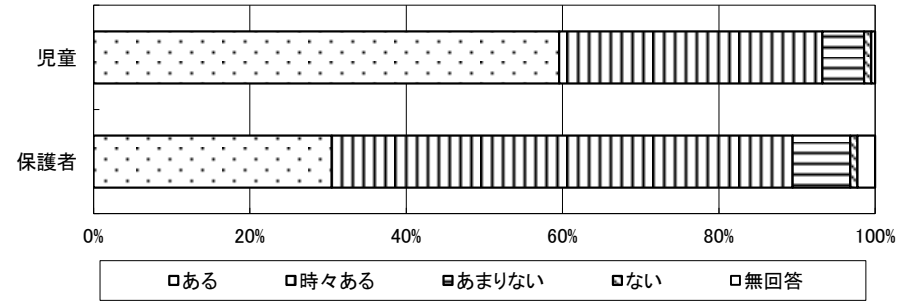


4 たくましい体②

■ 肯定的な回答をした児童は93.3%で前年度から1.7ポイント増加し、肯定的な回答をした生徒は88.2%で前年度から4.9ポイント増加した。
⇒ほとんどの児童・生徒が安全や健康に関して学んでいることを認識できているので、今後も計画的に指導を実施し、行動に結び付けられるようにしていく。

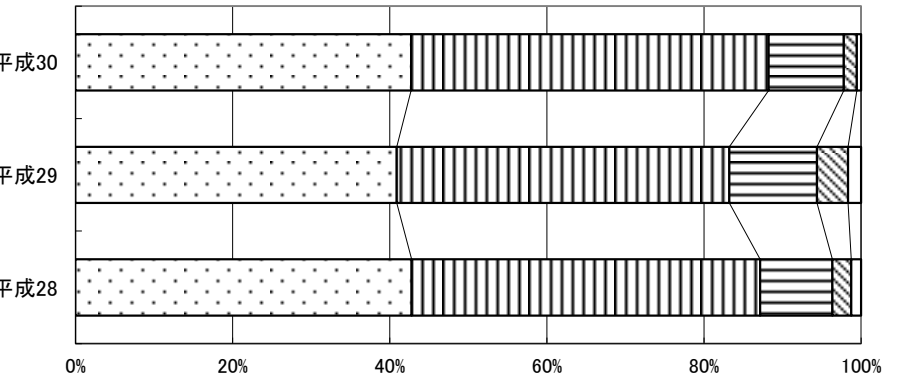
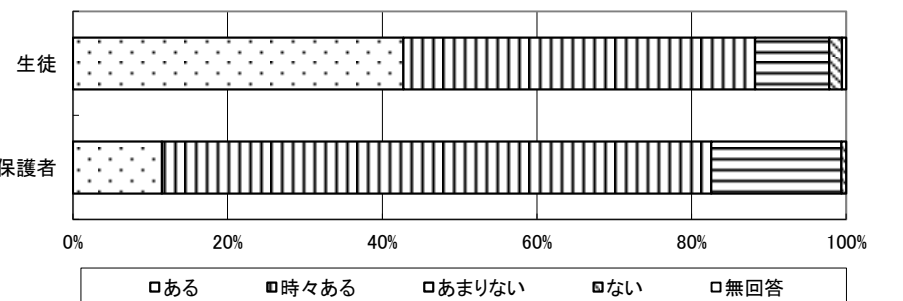
【小学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
学校で、安全や健康について学ぶことがありますか。	保護者	平成30	30.5%	59.0%	7.4%	0.9%	2.2%
	児童	平成30	59.6%	33.7%	5.3%	0.9%	0.5%
		平成29	57.7%	33.9%	6.0%	1.4%	1.1%
		平成28	47.8%	42.3%	7.7%	0.8%	1.4%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
学校で、安全や健康について学ぶことがありますか。	保護者	平成30	12.5%	65.7%	18.5%	1.2%	2.0%
	生徒	平成30	42.7%	45.5%	9.6%	1.7%	0.5%
		平成29	40.9%	42.4%	11.1%	4.0%	1.7%
		平成28	42.8%	44.4%	9.2%	2.4%	1.2%



4 たくましい体③

■ 肯定的な回答をした児童は75.3%で前年度から0.6ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は59.1%で前年度と同じ数値であった。
⇒今後も家庭科や給食の時間を活用して、食育指導の充実を図り、生活習慣の確立を図っていく必要がある。中学校については昨年度と同様に40%近くの生徒が普段の食生活に生かしていないことから取組の改善を図る必要がある。

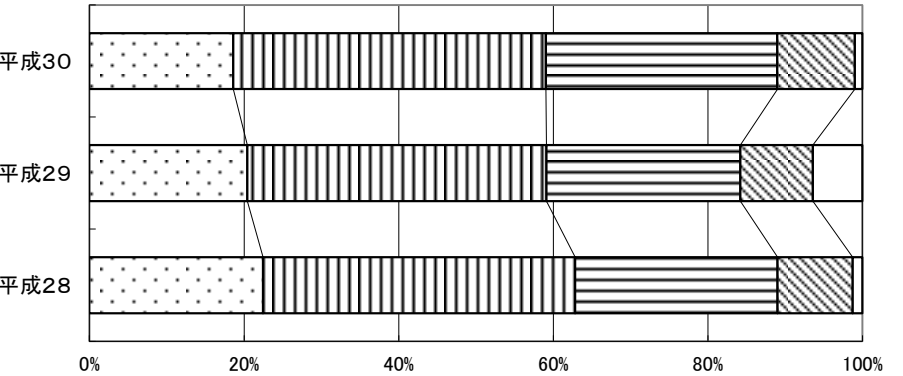
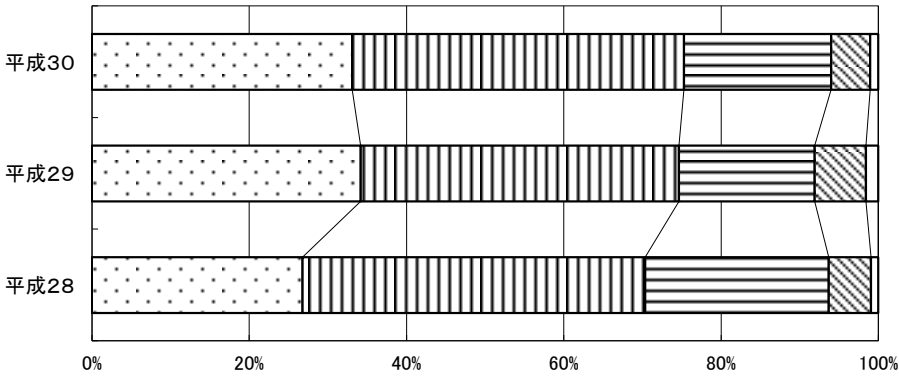
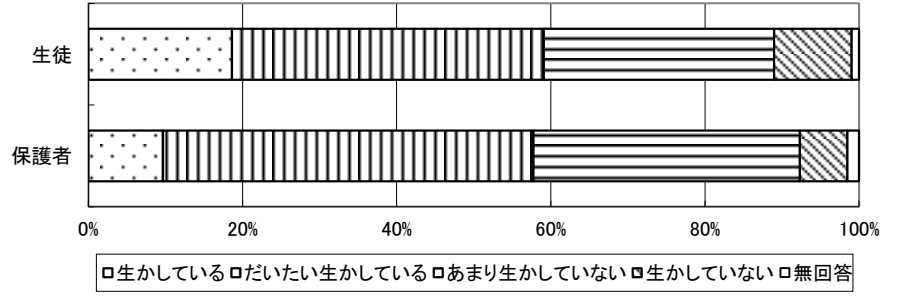
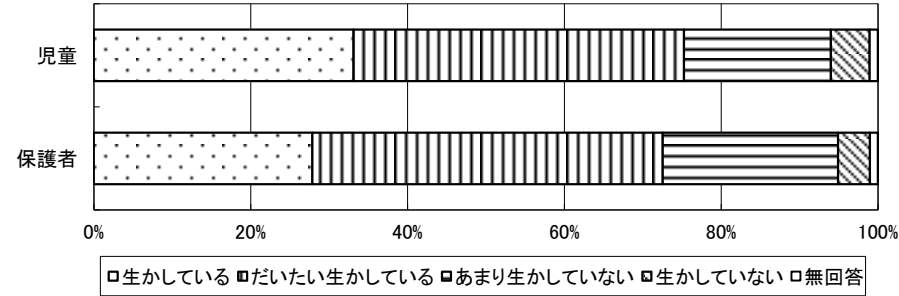
【小学校】

質問事項			選択肢				
			生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	無回答
学校で学んだ食事や栄養の知識は生活の中で生かしていると思いますか。	保護者	平成30	27.9%	44.7%	22.4%	4.1%	1.0%
	児童	平成30	33.1%	42.2%	18.7%	5.0%	1.0%
		平成29	34.2%	40.5%	17.3%	6.5%	1.6%
		平成28	26.8%	43.6%	23.3%	5.4%	0.9%

【中学校】

質問事項			選択肢				
			生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	無回答
学校で学んだ食事や栄養の知識は普段の食生活の中で生かしていると思いますか。	保護者	平成30	9.7%	48.1%	34.6%	6.2%	1.5%
	生徒	平成30	18.6%	40.5%	29.9%	10.1%	1.0%
		平成29	20.4%	38.7%	25.1%	9.4%	6.4%
		平成28	22.5%	40.4%	26.2%	9.7%	1.2%

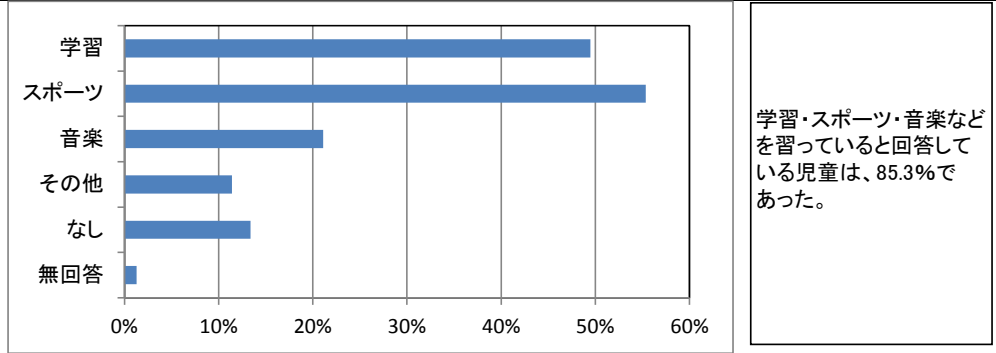
107



その他①習い事

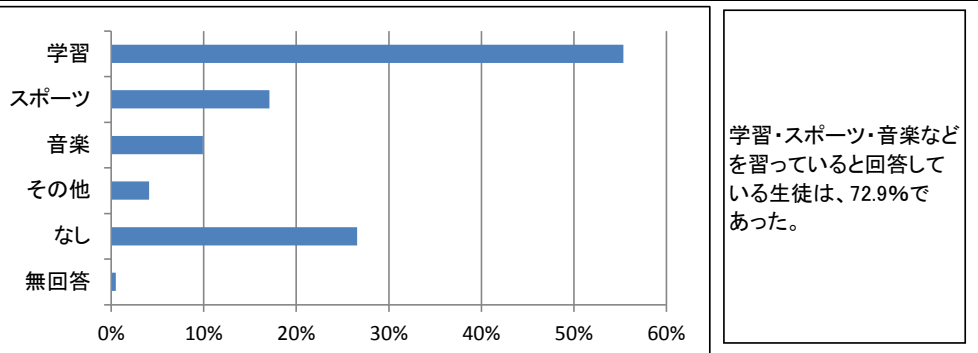
【小学校】

【その他①】	年 度	学習	スポーツ	音楽	その他	なし	無回答
①学習・スポーツ・音楽などを習っていますか。(複数回答)	30年度	49.5%	55.4%	21.1%	11.4%	13.4%	1.3%

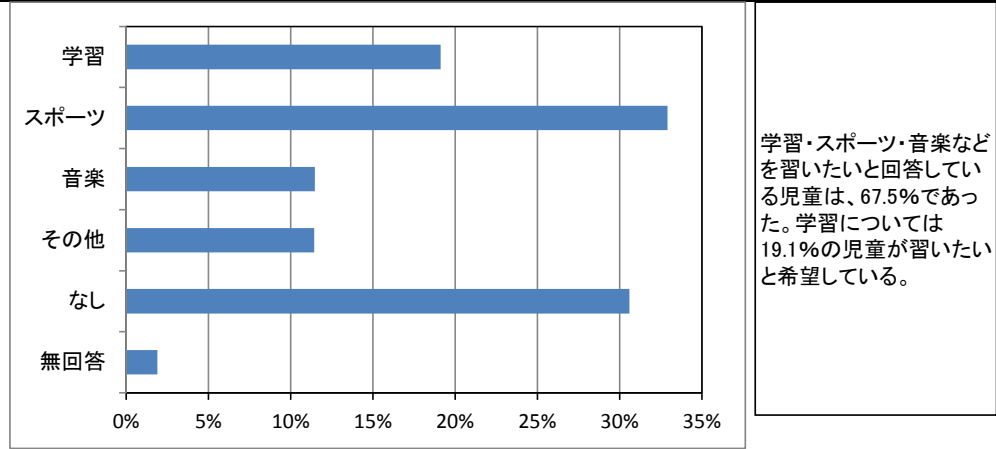


【中学校】

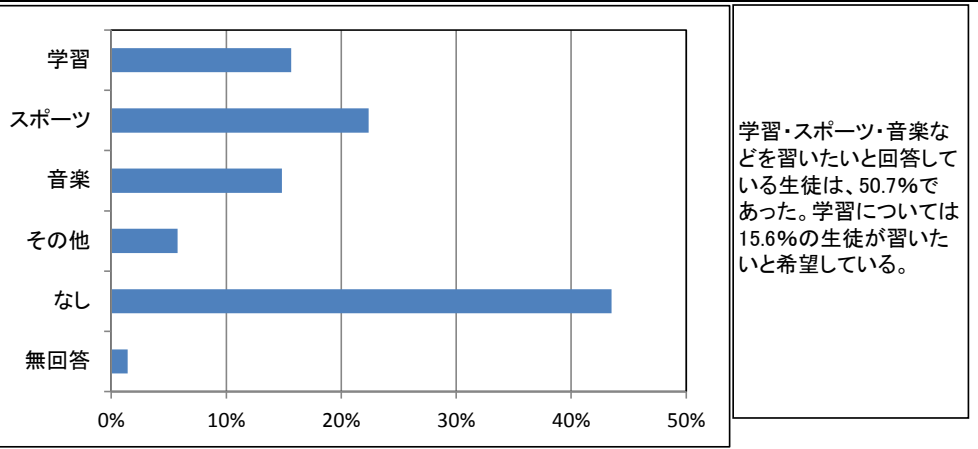
【その他①】	年 度	学習	スポーツ	音楽	その他	なし	無回答
①学習・スポーツ・音楽などを習っていますか。(複数回答)	30年度	55.3%	17.1%	9.9%	4.1%	26.6%	0.5%



【その他①】	年 度	学習	スポーツ	音楽	その他	なし	無回答
②学習・スポーツ・音楽などを習いたいと思いますか。(複数回答可)	30年度	19.1%	32.9%	11.5%	11.4%	30.6%	1.9%



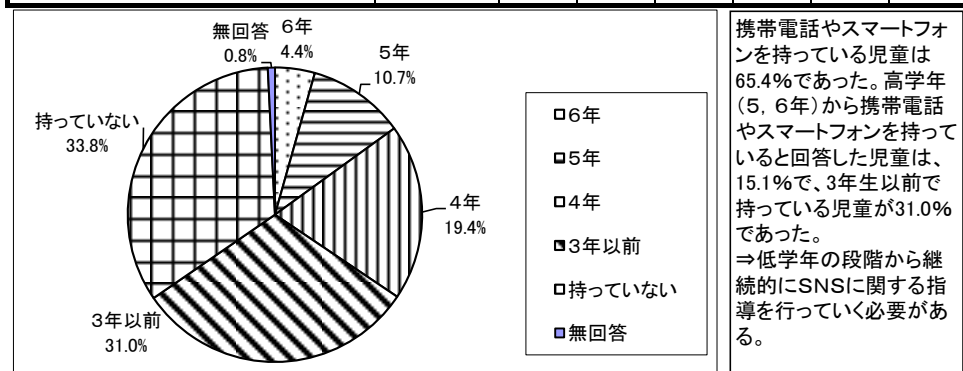
【その他①】	年 度	学習	スポーツ	音楽	その他	なし	無回答
②学習・スポーツ・音楽などを習いたいと思いますか。(複数回答可)	30年度	15.6%	22.4%	14.8%	5.8%	43.5%	1.4%



その他②携帯電話

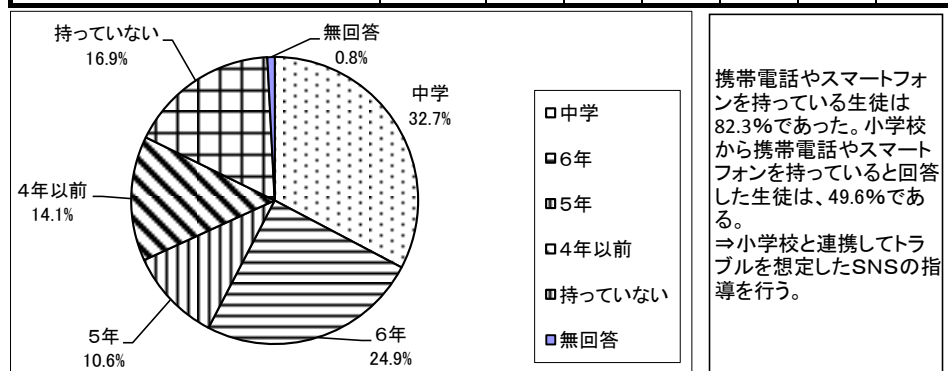
【小学校】

【その他②】	年 度	6年	5年	4年	3年以前	持っていない	無回答
①いつから携帯電話やスマートフォンを持っていますか。	30年度	4.4%	10.7%	19.4%	31.0%	33.8%	0.8%

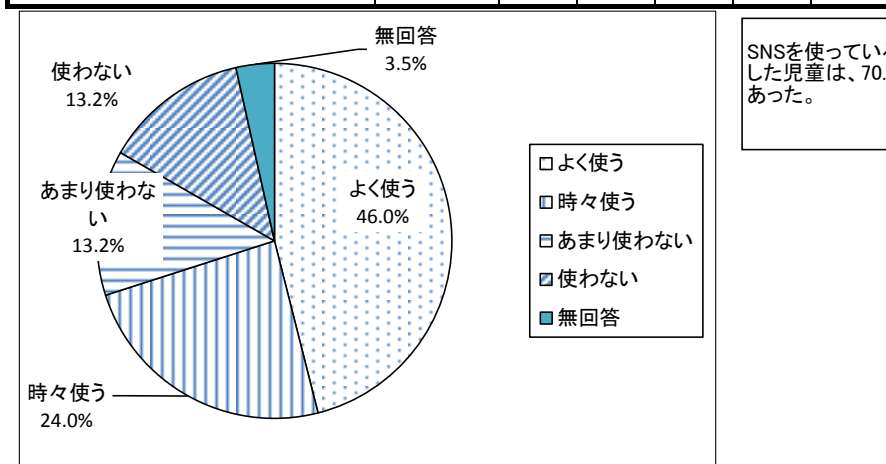


【中学校】

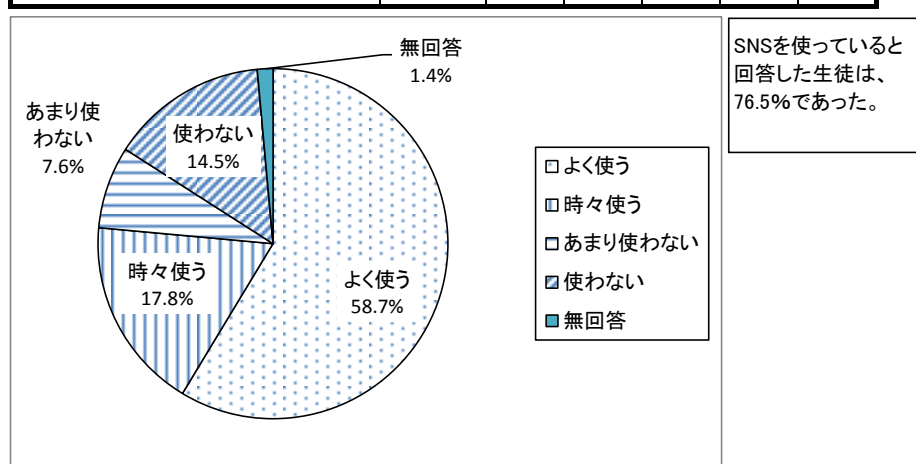
【その他②】	年 度	中学	6年	5年	4年以前	持っていない	無回答
①いつから携帯電話やスマートフォンを持っていますか。	30年度	32.7%	24.9%	10.6%	14.1%	16.9%	0.8%



【その他②】	年 度	よく使う	時々使う	あまり使わない	使わない	無回答
②SNSを使っていますか。	30年度	46.0%	24.0%	13.2%	13.2%	3.5%



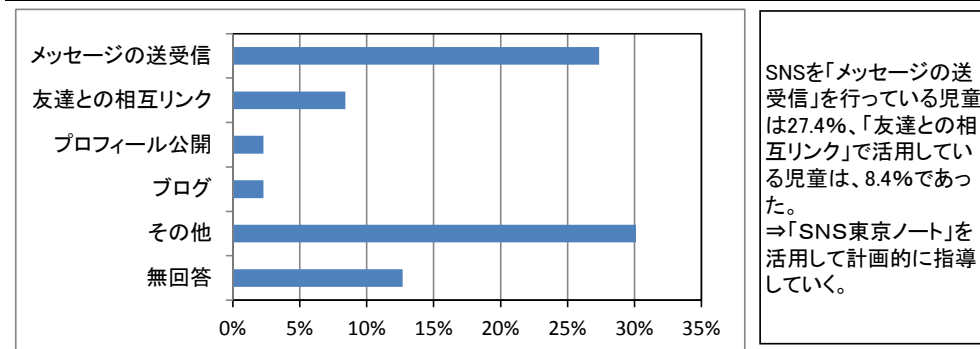
【その他②】	年 度	よく使う	時々使う	あまり使わない	使わない	無回答
②SNSを使っていますか。	30年度	58.7%	17.8%	7.6%	14.5%	1.4%



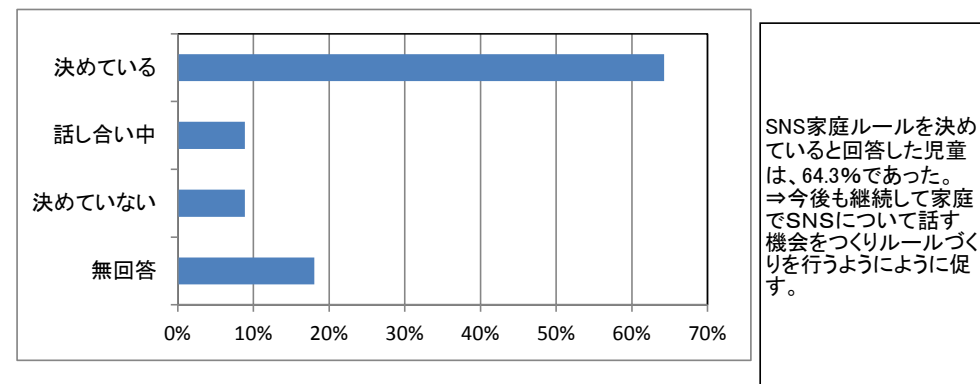
その他②携帯電話

【小学校】

【その他②】	年 度	メッセージの送受信	友達との相互リンク	プロフィール公開	ブログ	その他	無回答
③SNSで使っている機能はどれですか。 (複数回答)	30年度	27.4%	8.4%	2.3%	2.3%	30.1%	12.7%

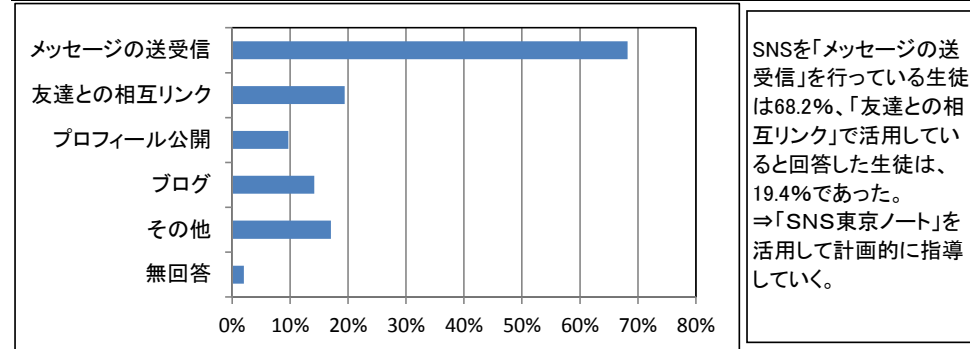


【その他②】	年 度	決めている	話し合い中	決めていない	無回答
④SNS家庭ルールは決めていますか。	30年度	64.3%	8.9%	8.9%	18.0%

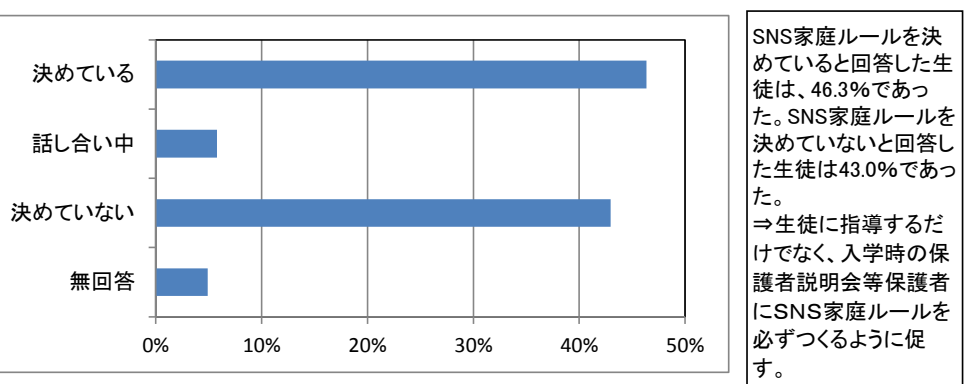


【中学校】

【その他②】	年 度	メッセージの送受信	友達との相互リンク	プロフィール公開	ブログ	その他	無回答
③SNSで使っている機能はどれですか。 (複数回答)	30年度	68.2%	19.4%	9.7%	14.2%	17.1%	2.0%



【その他②】	年 度	決めている	話し合い中	決めていない	無回答
④SNS家庭ルールは決めていますか。	30年度	46.3%	5.8%	43.0%	4.9%



平成30年度

昭島市立東小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	自己の課題を意識し、「めあてをもたせる、実現への意欲を高める、努力の過程を認める、めあて達成の支援・援助をする」このサイクルの中で、学ぶ楽しさを実感させることのできる日常的な指導の実践	基礎的・基本的な内容の確実な定着	UDを意識し、授業では姿勢を正しく、字を丁寧に書かせ、補習も効果的に実施する。	4 児童の補習参加への呼びかけ・出席率100%	2
				3 75%	
				2 50%	
		授業改善及び授業力の向上(校内研究の充実)	改善推進プランを作成し、週案に基づく授業を実施し、校内研で授業力向上を目指す。	4 週案への記述・提出率100%	3
				3 90%	
				2 80%	
		思考力・判断力・表現力の育成	校内研究の成果を生かしながら、1～6年までの算数習熟度別指導の充実を図る。	4 児童の表現への意欲・発言率100%	3
				3 80%	
				2 60%	
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いながら、子どもの内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと特別の教科「道徳」としての改善・充実	教科としての授業改善を進め、道徳授業地区公開講座での内容の充実を目指す。	4 毎週の授業実践・略案の作成100%	3
				3 75%	
				2 50%	
		トライ&チャレンジふれあい月間の取組の推進	毎学期のアンケートを生かし、SCとも連携しながら、いじめ・不登校0を目指す。	4 アンケート実施後の個別対応100%	2
				3 95%	
				2 90%	
		運動会や展覧会等の学校行事、遠足や移動教室等の校外学習の充実	前例踏襲とならないよう反省を生かしながら、児童の実態に合った内容に改善する。	4 反省に基づく改善案の提案4点以上	4
				3 3点	
				2 2点	
健やかな体	様々な運動を体験させ、その特性にふれた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	休み時間の外遊びを奨励し、運動に親しみやすい環境整備を行う。	4 毎週子どもたちと一緒に遊ぶ時間の確保4回以上	3
				3 3回	
				2 2回	
		年間を通した体力の向上	東ンピックの継続により、日常的に運動に親しみ、心身ともに健康な児童を育成する。	4 年間で楽しい種目の開発4点以上	2
				3 3点	
				2 2点	
		食育の充実	ランチルームを活用し、栄養教諭や共同調理場と連携しながら食育の推進を図る。	4 年間で食育に関する授業の実施4回以上	4
				3 3回	
				2 2回	
輝く未来	人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指した、生涯教育の基盤づくりとなる学校教育の推進	ソーシャルスキル教育の充実	QUの活用で一人一人の良さを生かし、やる気とまとまりのある学級集団作りを目指す。	4 毎週の学級活動等での実践100%	3
				3 75%	
				2 50%	
		オリンピック・パラリンピック教育の実践	競技種目や選手に注目させるとともに、人のかかわりや多文化理解・交流を進める。	4 年間で世界ともだちプロジェクトの取組4回以上	3
				3 3回	
				2 2回	
		外国語教育の推進	外国語の研修を積極的に行い、ALTと協力しながら楽しい外国語教育を実践する。	4 年間で外国語の公開授業4回以上	2
				3 3回	
				2 2回	

評価【総括表】

○子どもにとって安全安心で、誰もが自慢できる学校	○家庭・地域とともにある学校	○教職員にとって魅力的で、働きがいのある学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども	○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子ども	○心身ともに健康で、活力のある子ども
○人権感覚を磨き、子どもを大切にせる教師	○常に向上心を持ち、指導力向上に努める教師	○公務員としての自覚を持ち、信頼される教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 6年全国学力調査A正答率+5%以上(都平均)	2	漢検の初実施が意欲付けとはなった。さらに学力の底上げを図るため、補習への出席を呼びかけたが、出席率が伸びなかった。	漢検の実施は良いが補習の参加率が低く残念。また、基礎知識はあるのだから、国語に比べて低い算数に力を入れてほしい。	B	保護者への啓発、補習教室の充実で、基礎・基本の徹底を図る。漢検は継続実施とし、ICT機器導入で理科の学力向上を目指す。
3 国語+3%・算数+4.5%					
2 国語+1%・算数+4%					
1 国語0%・算数+3.5%					
4 児童による評価(授業が分かりやすい)100%	3	週案の提出率は100%だが、記述内容が単元名だけであったり先の見通しが十分でなかったりといった状況を改善できていない。	学校公開では落ち着いて授業を受けていた。若手教員も努力している姿が見られる。ICT機器の導入は、積極的に進めてほしい。	B	若手教員の週案が充実するように、学年を中心として主任教諭によるOJTを進める。日々の実践を通して授業力の向上を目指す。
3 90%					
2 80%					
1 70%					
4 6年全国学力調査B正答率+7%以上(都平均)	3	国語は都平均より大きく伸びたが算数は現状維持。5年の都学力調査も良い結果で、授業中も積極的に発言している児童が多い。	発表を聞き、自己表現力が高いと感じた。さらに、児童個々の長所を伸ばしてほしい。そして、低学年算数の学力の伸びに期待したい。	B	算数は、校内研究を中心に少人数での指導をさらに充実させ、5年で課題となった「取り出す力」の育成に努める。
3 国語+4.5%・算数+6%					
2 国語+2%・算数+5%					
1 国語0%・算数+4%					
4 授業参観・意見交換会への出席人数176人・88人以上	3	道徳授業地区公開講座は、講演会・意見交換会の実施方法(時間設定)を工夫したことにより、出席人数を増加させることができた。	道徳の重要性が共通理解され、道徳という難しい授業をどのようにしていくか、工夫が感じられる。また、保護者への啓発も良い。	A	週案による確認を継続し、毎週の授業実施を推進するとともに、内容の充実が図られるよう、校内研修も計画・推進していく。
3 132人・44人					
2 88人・22人					
1 44人・11人					
4 不登校(傾向を含む)人数0人	1	6年女児が、2学期は完全な不登校となってしまった。新たに5年男児がクラスでのトラブルにより、10月末から不登校となっている。	先生方が諦めずに努力しているのを感じる。児童が少なく、人間関係の難しさはあると思うが、対応策を検討していったほしい。	B	本人の興味関心やそのときの状況を把握し、保護者やたまたがわ適応指導教室とも連絡を密に取り、登校しやすい状況を作っていく。
3 1人					
2 2人					
1 3人					
4 児童による評価(行事が楽しい)100%	3	これまでの反省を生かし、充実した内容の学校行事が実施できた。反省を生かし、今から改善できるところはすでに実施している。	各行事に対する意欲が十分に感じられる。運動会も全学年が助け合いながら頑張っていた。児童が満足できているのが良い。	A	評価を受け、良さ伝統は残しつつ、各行事の狙い、内容、方法、時期等の見直しを図り、計画を再考していく。
3 95%					
2 90%					
1 85%					
4 休み時間の外遊び率100%	2	休み時間は多くの児童が外に出て遊んでいるが、なかなか外に出たがらない児童も数名いた。芝生をうまく活用できなかった。	実際に低学年の娘が高学年の子と遊んだという話を聞く。遊びの場での異年齢交流は大切。芝生は、あの位置が利用しづらい。	B	未実施であった学校保健委員会を開催し、児童の健康や体力について啓発を図り、家庭と連携していく。芝生を有効活用していく。
3 90%					
2 80%					
1 70%					
4 6年体力・運動能力調査合計点+7.7以上(国平均)	1	女子は全国の平均を上回ったが、男子は全国の平均を下回った。シャトルランや反復横とび等の持久力が高いが、投力が低い。	男子の平均が下がったのは残念。個人差が大きく、東ンピックや遊びの要素を取り入れた運動に継続して取り組んでもらいたい。	B	東ンピックが天候により実施できないことが多かったため、実施方法について改善していく。投力向上の方策を練る。
3 男子+4.5・女子+7.6					
2 男子+1.8・女子+7.5					
1 男子+0.9・女子+7.4					
4 年間の残菜率0%	2	毎日給食を完食の学級があれば必ず残菜が出てしまう学級もあった。ランチルームは使用頻度が低い。2学期、食育が実施できた。	残菜が少ないのは良いこと。食の大切さを理解し、生産者のことも伝えてほしい。食育は家庭の影響も大きいので、連携してほしい。	B	残菜については、担任の声掛けとともに管理職も指導していく。また、食育の計画に基づきランチルームを活用する。
3 1%					
2 2%					
1 3%					
4 IQUの結果で各学級の要支援群0人	3	QUのフィードバックで、担任の見取りと照合することができた。2学期にも実施したことで学級での指導に生かすことができていた。	まとまりのある学級集団ができていると思う。個性を引き出していくのは難しいが、QUの2回実施を継続し、生かしていけるとよい。	A	10月末に私費で今年度2回目の調査を実施した。次年度も実施し、さらにまとまりのある学級集団作りを進めるために活用する。
3 1人					
2 2人					
1 3人					
4 児童による評価(取組が充実している)100%	3	オリンピックなどの選手を招聘したことで意欲付けはできたが、オーestrリアほか4か国について調べる等の取組ができなかった。	アスリートの生の声は、感動を与える。意欲付けができていると感じるが、さらに児童の学びにつながることを期待したい。	B	外国語の授業や食育でも多文化理解を深め、さらにオリンピック・パラリンピアンを招聘し、身近なものとする。
3 90%					
2 80%					
1 70%					
4 児童による評価(授業が楽しい)100%	2	外国語の授業に対する担任の意識に差があり、教材研究もままならなかった。ALTの質にも課題があり、効果が上がらなかった。	教えるのは大変だと思うが、先生によって実力が違い、差ができてしまうのは問題。外国人教師の導入を積極的に進めてほしい。	B	高学年の週2時間実施に向けALTを交替し研修の充実を図る。ICTを整備し授業が効果的に進められるよう環境整備に努める。
3 90%					
2 80%					
1 70%					

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができ、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	1単元、1単位時間において「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。	いつでも、どこからでも学習のゴールと道筋が分かる板書を工夫する。	4 90%以上の教員が板書の工夫に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が板書の工夫に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が板書の工夫に取り組んだ 1 70%未満の教員が板書の工夫に取り組んだ	4
		すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業づくりに取り組む。	スモールステップで「できた」意識を積み上げるよう指導と評価を一体化する。	4 90%以上の教員が評価の工夫に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が評価の工夫に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が評価の工夫に取り組んだ 1 70%未満の教員が評価の工夫に取り組んだ	4
		他者から学ぶこと、他者に役立つことのように気付くことができる授業を展開する。	考えや思いを視覚化・言語化し、共有し認め合う学習活動を設定する。	4 90%以上の教員が学習活動の工夫に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が学習活動の工夫に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が学習活動の工夫に取り組んだ 1 70%未満の教員が学習活動の工夫に取り組んだ	3
		自分を大切にする態度、思いやりの心を育む取組を実践する。	「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」を継続的に指導する。	4 90%以上の教員が挨拶指導・評価に継続的に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が挨拶指導・評価に継続的に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が挨拶指導・評価に継続的に取り組んだ 1 70%未満の教員が挨拶指導・評価に継続的に取り組んだ	4
		「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	「やさしい言葉」を使い、温かい関係づくりに児童が主体的に取り組む指導を行う。	4 90%以上の教員が主体的活動の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が主体的活動の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が主体的活動の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が主体的活動の指導に取り組んだ	3
		小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。	直接・間接に児童のサインキャッチの機会をもち、保護者と連携を図る。	4 90%以上の教員がサインキャッチに取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がサインキャッチに取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がサインキャッチに取り組んだ 1 70%未満の教員がサインキャッチに取り組んだ	4
		運動する機会づくりを進め、児童自身が体力向上の成果を実感できるよう指導する。	体力向上週間や授業で関心を高め、元気アップガイドブックを活用する。	4 90%以上の教員が元気アップガイドブックを活用した 3 80%～90%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した 2 70%～80%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した 1 70%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した	4
		健康と食について理解を深め、望ましい生活習慣づくりに向けて実践的な態度を育む。	児童自身が目標を明確にして継続的に取り組み、習慣化を図る。	4 90%以上の教員が習慣化の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ	3
		自分の心の健康づくりに関心をもち、他者の心も大切にする意識や態度を育む。	心のもち方や他者との関わり方を振り返ったり、学んだりする機会をつくる。	4 90%以上の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ	4
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	集団活動等で、自分を生かすこと、自分にできることを考え、判断する力を育む。	リーダー・フォロワーとして等多様な立場で活動し、自己を見つめる指導を行う。	4 90%以上の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ	4
		福島中、玉川小との連携を図り、中学校とのつながりをもった教育を推進する。	学習・生活・家庭連携スタンダードを活用し、指導内容や指導方法を共有する。	4 90%以上の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ	4
		児童の目的意識や相手意識を大切にするとともに、協働し認め合う態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、他者と協力し、よさを認め合う活動に取り組む。	4 90%以上の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ	4
健やかな体	児童が自分の心を体の健康に関心をもって学ぶことができるようにするとともに、運動を楽しむ態度、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む取組を計画的に行う。	運動する機会づくりを進め、児童自身が体力向上の成果を実感できるよう指導する。	体力向上週間や授業で関心を高め、元気アップガイドブックを活用する。	4 90%以上の教員が元気アップガイドブックを活用した 3 80%～90%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した 2 70%～80%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した 1 70%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した	4
		健康と食について理解を深め、望ましい生活習慣づくりに向けて実践的な態度を育む。	児童自身が目標を明確にして継続的に取り組み、習慣化を図る。	4 90%以上の教員が習慣化の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ	3
		自分の心の健康づくりに関心をもち、他者の心も大切にする意識や態度を育む。	心のもち方や他者との関わり方を振り返ったり、学んだりする機会をつくる。	4 90%以上の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が自他の尊重の指導に取り組んだ	4
		集団活動等で、自分を生かすこと、自分にできることを考え、判断する力を育む。	リーダー・フォロワーとして等多様な立場で活動し、自己を見つめる指導を行う。	4 90%以上の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ	4
		福島中、玉川小との連携を図り、中学校とのつながりをもった教育を推進する。	学習・生活・家庭連携スタンダードを活用し、指導内容や指導方法を共有する。	4 90%以上の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ	4
		児童の目的意識や相手意識を大切にするとともに、協働し認め合う態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、他者と協力し、よさを認め合う活動に取り組む。	4 90%以上の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ	4
		目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とかかわりを大切にした豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。			
輝く未来	目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とかかわりを大切にした豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	集団活動等で、自分を生かすこと、自分にできることを考え、判断する力を育む。	リーダー・フォロワーとして等多様な立場で活動し、自己を見つめる指導を行う。	4 90%以上の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がリーダー・フォロワーの指導に取り組んだ	4
		福島中、玉川小との連携を図り、中学校とのつながりをもった教育を推進する。	学習・生活・家庭連携スタンダードを活用し、指導内容や指導方法を共有する。	4 90%以上の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がスタンダードを活用した指導に取り組んだ	4
		児童の目的意識や相手意識を大切にするとともに、協働し認め合う態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、他者と協力し、よさを認め合う活動に取り組む。	4 90%以上の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がありがとうを増やす指導に取り組んだ	4

評価【総括表】

①共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校	②児童が自他を尊重し、「やさしき」を感じる学校	③児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校	④児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校
①粘り強く目標に向かい、「ありがとう」を見付け合う児童	②誰かのために自分ができることを考え実行する児童	③思いや考えを共有し、学び合い、認め合う児童	④一緒に運動を楽しみ、互いに支え合う児童
①多様な立場の人と目標を共有して協働する教師	②児童の心情や意図の理解に努め、価値付ける教師	③児童にとって魅力ある授業づくりに努め、変容を見出す教師	④運動の楽しさと心の元気を児童に感じさせる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 80%以上の児童が授業が分かりやすいと回答	4	9割以上の児童が分かりやすいと回答している。全教員での授業改善の成果と考える。	理解の状況に応じて教員が児童を支援している。宿題への取組も意欲的になっている。	A	教員の工夫とともに、児童が「めあて」「見通し」「振り返り」をノート等に表す指導を行う。
3 70%～80%未満の児童が授業が分かりやすいと回答					
2 60%～70%未満の児童が授業が分かりやすいと回答					
1 60%未満の児童が授業が分かりやすいと回答					
4 80%以上の児童ができた喜びを感じたと回答	4	児童が「分かった」「できた」という思いをもてるよう校内研究を推進した成果と考える。	授業中、教員が、児童に分かったかどうかをこまめに確認し、状況に応じて支援している。	A	個に応じた指導の仕方を教員が研修する。児童の自己評価や相互の評価を取り入れる。
3 70%～80%未満の児童ができた喜びを感じたと回答					
2 60%～70%未満の児童ができた喜びを感じたと回答					
1 60%未満の児童ができた喜びを感じたと回答					
4 80%以上の児童が学び合いのよさを感じたと回答	4	児童の9割は学び合いのよさを感じている。教員は言語活動の一層の充実を要すると考える。	学習したことをよく工夫して発表している様子がある。教員が適切に指導している。	A	思考を言語等で表す力を育てる指導、学び合いの指導について、校内で研究する。
3 70%～80%未満の児童が学び合いのよさを感じたと回答					
2 60%～70%未満の児童が学び合いのよさを感じたと回答					
1 60%未満の児童が学び合いのよさを感じたと回答					
4 80%以上の児童があいさつができたと回答	4	教員の継続した指導のほか、PTA、地域、児童代表委員会等による取組も効果的であった。	児童の個性を認めながら、あいさつの仕方など具体的な指導を継続することが大切である。	A	あいさつの具体的な場面と方法を全校で指導する。学年に応じて、意義を理解させる。
3 70%～80%未満の児童があいさつができたと回答					
2 60%～70%未満の児童があいさつができたと回答					
1 60%未満の児童があいさつができたと回答					
4 80%以上の児童がいじめ防止に取り組んだと回答	3	善悪の判断は児童、保護者とも9割以上の肯定的回答であるが、行動に移す指導を要する。	「やさしい言葉」を取り上げて指導することはよいことである。継続して指導することを望む。	B	学年に応じ、いじめの定義や防止の取組について児童自身が考え、取り組む指導を行う。
3 70%～80%未満の児童がいじめ防止に取り組んだと回答					
2 60%～70%未満の児童がいじめ防止に取り組んだと回答					
1 60%未満の児童がいじめ防止に取り組んだと回答					
4 95%以上の児童及び保護者が学校生活が楽しいと回答	3	SOSの出し方指導等、教員の取組を推進した。さらに早期の組織的対応を要する。	自分はちよつとした遊びのつもりでも、いじめにつながることもあるということについて指導する。	B	SOSの出し方とともに相手の立場に立つことの指導を年間計画に位置付け実施する。
3 90%～95%未満の児童及び保護者が学校生活が楽しいと回答					
2 80%～90%未満の児童及び保護者が学校生活が楽しいと回答					
1 80%未満の児童及び保護者が学校生活が楽しいと回答					
4 95%以上の児童が体力がついてきていると回答	2	ガイドブックの体力向上の取組への活用を図ることはできてきた。十分な成果には至っていない。	体を動かすことと心の健康とはつながっていると継続を望む。	B	継続的に元気アップガイドブックを活用して多様な運動に取り組む。
3 90%～95%未満の児童が体力がついてきていると回答					
2 80%～90%未満の児童が体力がついてきていると回答					
1 80%未満の児童が体力がついてきていると回答					
4 80%以上の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答	3	グッドモーニング60分等の取組で生活習慣への意識が高まった。学習習慣の指導も継続する。	習慣付ける指導はよい取組である。今後も継続して家庭との連携を図ることが重要である。	B	グッドモーニング60分の取組を継続し、家庭との連携を図れるよう啓発の機会をつくる。
3 70%～80%未満の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
2 60%～70%未満の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
1 60%未満の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
4 70%以上の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答	4	約9割の児童が相談できる先生がいると回答した。相談することのよさを指導している。	児童にとって、話を聞いてもらえる場面や場所がたに設定されていることは、よいことである。	A	自他の尊重について全学年で指導する。心の健康について、学年に応じて指導する。
3 60%～70%未満の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答					
2 50%～60%未満の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答					
1 50%未満の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答					
4 90%以上の児童が自分の得意なものについて考えたと回答	2	自分のよさを発揮し評価する指導を行っている。自らそのよさを見つめ直す機会が必要である。	自分のよさを自分自身が知り、伸ばしていくように指導することは大切なことである。	B	自分のよさを見つめる時間をつくる。児童相互に具体的に認め合う指導をあわせて行う。
3 80%～90%未満の児童が自分の得意なものについて考えたと回答					
2 70%～80%未満の児童が自分の得意なものについて考えたと回答					
1 70%未満の児童が自分の得意なものについて考えたと回答					
4 80%以上の保護者がスタンダードを活用したと回答	3	学校でのスタンダード活用を継続して成果を検証し、保護者等に啓発していく。	よい取組である。今後も継続して保護者等への啓発を図っていくことを望む。	B	スタンダードの内容に基づき、具体的な取組を福島中・玉川小と共に実践・啓発する。
3 70%～80%未満の保護者がスタンダードを活用したと回答					
2 60%～70%未満の保護者がスタンダードを活用したと回答					
1 60%未満の保護者がスタンダードを活用したと回答					
4 80%以上の児童がありがとうが増えたと回答	4	思いや考えを言語等で表現すること、協働することのよさを指導してきた成果が見られる。	思いやりの心を育てる取組につながっている。多様な場で指導を継続することを望む。	A	「ありがとう」の言葉を大切にし、自己有用感や相手意識を育む指導を全校で行う。
3 70%～80%未満の児童がありがとうが増えたと回答					
2 60%～70%未満の児童がありがとうが増えたと回答					
1 60%未満の児童がありがとうが増えたと回答					

学校教育目標	◎よく考える子ども ◎けんこうな子ども ◎すすんで働く子ども ◎思いやりのある子ども	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	○基礎的・基本的な学力の定着させる。 ○読書に親しむ態度や、資料を活用する能力を育成する。 ○主体的に学習に取り組む態度を育成する。	だれもが分かりやすい授業の実現と、落ち着いた学習に取り組める教育環境の整備	「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」のチェックリストに示された内容を、学年や学級の実態に応じて実施する。	4 チェックリスト54項目中、実施したのが50項目以上 3 チェックリスト54項目中、実施したのが40～49項目 2 チェックリスト54項目中、実施したのが30～39項目 1 チェックリスト54項目中、実施したのが30項目未満	3
		漢字を確実に読めるようにすることで、読むことに対する抵抗感を低減し、自己肯定感を育む。	音読や小テスト、日常的な読むことなどを通して、当該学年までの漢字を確実に読むことができるようにする。	4 週に3日以上、音読や小テストに取り組んだ。 3 週に2日程度、音読や小テストに取り組んだ。 2 週に1日程度、音読や小テストに取り組んだ。 1 2週に1日程度、音読や小テストに取り組んだ。	4
		計算力を向上させることで、算数に対する苦手意識を低減し、自己肯定感を育む。	家庭学習やスタディ教室等も活用し、既習の計算が確実にできるようにする。	4 週に3日以上、小テストや家庭学習に取り組んだ。 3 週に2日程度、小テストや家庭学習に取り組んだ。 2 週に1日程度、小テストや家庭学習に取り組んだ。 1 2週に1日程度、小テストや家庭学習に取り組んだ。	4
		学校図書館の活用による読書活動の活性化	児童の実態把握の実施と、読書旬間、読み聞かせ、読書イベント等による本に親しむ活動の推進	4 児童が本に親しむ取組を年3回以上実施 3 児童が本に親しむ取組を年2回実施 2 児童が本に親しむ取組を年1回実施 1 児童が本に親しむ取組を未実施	4
		学習規律の確立	「富士見丘スタンダード」の確実な実施	4 「富士見丘スタンダード」をほぼ毎日実施 3 「富士見丘スタンダード」を週4日実施 2 「富士見丘スタンダード」を週3日実施 1 「富士見丘スタンダード」を2日以下実施	3
		障害理解教育を通した人権教育の推進	障害理解に関わる読書活動や調べ学習、交流活動に意図的に取り組む。	4 障害理解教育に関わる指導や活動を年3回以上実施 3 障害理解教育に関わる指導や活動を年2回実施 2 障害理解教育に関わる指導や活動を年1回実施 1 障害理解教育に関わる指導や活動を未実施	3
				4 自己有用感を育む体験活動を年3回以上実施 3 自己有用感を育む体験活動を年2回実施 2 自己有用感を育む体験活動を年1回実施 1 自己有用感を育む体験活動を未実施	3
		「元氣アップガイドブック」を活用した体力・運動能力の向上と基本的な生活習慣の確立	運動遊びに親しむ態度の伸長	4 「4×4の取組」に年3回以上取り組んだ。 3 「4×4の取組」に年2回取り組んだ。 2 「4×4の取組」に年1回取り組んだ。 1 「4×4の取組」に取り組めなかった。	2
				4 「元氣アップガイドブック」(42項目)に18項目以上取り組んだ。 3 「元氣アップガイドブック」(42項目)に14～17項目取り組んだ。 2 「元氣アップガイドブック」(42項目)に10～13項目取り組んだ。 1 「元氣アップガイドブック」(42項目)は10項目未満の取り組みだった。	3
		グッドモーニング60分を意識した生活リズムの確立	グッドモーニング60分を意識した生活リズムの確立	4 グッドモーニング60分に年3回以上取り組んだ。 3 グッドモーニング60分に年2回以上取り組んだ。 2 グッドモーニング60分に年1回以上取り組んだ。 1 グッドモーニング60分に取り組むことができなかった。	4
				4 直接及び文書による発信を年間20回以上行った。 3 直接及び文書による発信を年間15～19回行った。 2 直接及び文書による発信を年間10～14回行った。 1 直接及び文書による発信は年間10回未満だった。	2
輝く未来	○家庭・地域と連携した教育活動を推進する。	家庭や地域と連携した教育活動の推進(学習指導・生活指導・特別支援教育)	保護者会や面談、通信類などを通して、指導方針や児童の実態について発信することで共有理解を図る。	4 週4回以上、家庭学習の確認を行った。 3 週3回、家庭学習の確認を行った。 2 週2回、家庭学習の確認を行った。 1 週に1回程度、家庭学習の確認を行った。	3

評価【総括表】

○学校大好き！富士見っ子 確かな学力、健やかな体、豊かな心が育つ 信頼される学校
○自ら学ぶことができる子供 ○自らを律することができる子供 ○自分の居場所作りができる子供 ○自分もほかの人も大切にできる子供
○子供たち一人一人が活躍できる場面を創る教師 ○子供の思考や活動に寄り添う教師 ○子供のよさを褒める教師(よさを伸ばして褒める・隠れたよさを価値づけて褒める)

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 保護者アンケートで「授業を工夫している」が94%以上	3	学校の授業改善取り組みについては概ね理解されている。	・良好 ・理解されている。 ・更なる充実を。	B	個別の対応について、さらに充実を図る。
3 保護者アンケートで「授業を工夫している」が90%以上					
2 保護者アンケートで「授業を工夫している」が80%以上					
1 保護者アンケートで「授業を工夫している」が80%未満					
4 当該学年までの漢字の9割以上読める児童が90%以上	3	漢字を「読む」ことができるようになったことで、児童の自己肯定感の高まりが見られた。	・良好 ・良く取り組まれている。 ・自己肯定感を高める取組としてよい。	A	今後も漢字の「読み」については確実な定着を図る。「書き」へも広げる。
3 当該学年までの漢字の9割以上読める児童が80～89%					
2 当該学年までの漢字の9割以上読める児童が70～79%					
1 当該学年までの漢字の9割以上読める児童が70%未満					
4 9割以上正確に計算できる児童が90%以上	3	授業以外の機会にも繰り返し練習に取り組むことで、計算力の定着に成果が見られた。	・良好 ・成果が見られる。 ・スタディ教室や土曜補習教室等を行ってよい。 ・家庭との協力が必要。	A	一部の児童についてはまだ家庭での学習習慣や基礎学力が定着していない。さらに取り組む。
3 9割以上正確に計算できる児童が80～89%					
2 9割以上正確に計算できる児童が70～79%					
1 9割以上正確に計算できる児童が70%未満					
4 年間30冊以上の本に親しんだ児童が9割以上	4	本に親しむ態度は児童に定着しつつある。本を読むことに抵抗感がある児童も一部見られる。	・本を読むことが好きな児童が多いと感じる。 ・読書指導、読み聞かせボランティア導入等良。 ・更に機会を広げてほしい。 ・読み聞かせをうまく活用して、もっと本に親しんでほしい。 ・図書館の活用と併用して、学年に応じた本を指示できれば。	A	読書の幅を広げるようなイベントやジャンルを意識した投げかけを行っていく。
3 年間20～29冊の本に親しんだ児童が9割以上					
2 年間10～19冊の本に親しんだ児童が9割以上					
1 年間10冊の本に親しんだ児童が9割未満					
4 「富士見丘スタンダード」が定着している児童80%以上	3	「富士見丘スタンダード」の内容は定着しつつある。一部の児童は継続して指導中である。	・良好 ・更なる継続した指導を。	B	「富士見丘スタンダード」の内容の加除修正を図り、児童の実態に応じた効果を高める。
3 「富士見丘スタンダード」が定着している児童70～79%					
2 「富士見丘スタンダード」が定着している児童60～69%					
1 「富士見丘スタンダード」が定着している児童60%未満					
4 「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」90%以上	4	障害理解教育については、これまでの積み上げをもとに、充実している様子が見えてきた。	・良好 ・充実している。 ・前向きに取り組んでいる。	B	次年度の情緒障害固定学級の開設に当たって、交流活動など体験的な理解を深めさせる。
3 「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」85～89%					
2 「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」80～84%					
1 「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」80%未満					
4 「学校で落ち着いて安心して生活できている」90%以上	3	機会を設定した際には、すすんで活動できる。ベルマークの活動なども定着してきた。	・ベルマーク活動やボランティア活動を通して、自己有用感を感じられるようにしている。 ・子どもたちは学校で安心して生活している。 ・体験活動の更なる工夫を。	B	周年行事などの機会も活用して、さらに体験的な活動を充実させていく。
3 「学校で落ち着いて安心して生活できている」80～89%					
2 「学校で落ち着いて安心して生活できている」70～79%					
1 「学校で落ち着いて安心して生活できている」70%未満					
4 「体力向上の面で学校の指導に満足している」85%以上	2	オリンピック・パラリンピック関連の取組の内容や、個々の児童の体力や意識には差がある。	・ポッチャ等に親しむ機会を作っている等良。 ・テレビを活用して、授業の中で話合いをしてはどうか。 ・集団活動の検討を。	C	休み時間における運動遊びの企画のほか、運動量を意識した集会活動に取り組む。
3 「体力向上の面で学校の指導に満足している」80～84%					
2 「体力向上の面で学校の指導に満足している」70～79%					
1 「体力向上の面で学校の指導に満足している」70%未満					
4 「元気アップガイドブック」に、18項目以上取り組んだ児童が8割以上	2	元気アップガイドブックについての取組は家庭との連携に課題があった。	・良好(運動会を見て) ・元気アップガイドブック使用等良。 ・ガイドブックの活用が望まれる。	B	元気アップガイドブックについて、周知の機会を学校全体で設定し、家庭との連携を図る。
3 「元気アップガイドブック」に、14～17項目取り組んだ児童が8割以上					
2 「元気アップガイドブック」に、10～13項目取り組んだ児童が8割以上					
1 「元気アップガイドブック」に、10項目取り組んだ児童が8割未満					
4 グッドモーニング60分を実施できた児童が8割以上	3	グッドモーニング60分は、長期休業明けの期間を中心に意識を高めることができた。	・目標があり、分かりやすい。 ・生活リズム作りのためのグッドモーニング60分等良。	B	基本的な生活習慣の定着を図るとともに、個別のアプローチをさらに充実させていく。
3 グッドモーニング60分を実施できた児童が7割以上					
2 グッドモーニング60分を実施できた児童が6割以上					
1 グッドモーニング60分を実施できた児童が6割未満					
4 「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」60%以上	1	個別に発信・対応を行う機会は多かったが、保護者には不十分と感じることが多かったようである。	・家庭への説明を更に。	C	教育活動についての基本的な考え方や学校の取り組みの周知について、一層工夫していく。
3 「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」50～59%					
2 「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」40～49%					
1 「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」40%未満					
4 「家庭で決まった時間勉強している」75%以上	3	家庭学習もほぼ定着してきているが、児童や家庭による差がやや大きい面も見られる。	・時間だけではなく、本人のやる気が引き出せる取組があったらよいかなと思う。 ・更なる充実を。	B	家庭との連携をより深めることのほか、児童の実態によっては放課後等の取り組みを工夫する。
3 「家庭で決まった時間勉強している」65～74%					
2 「家庭で決まった時間勉強している」55～64%					
1 「家庭で決まった時間勉強している」55%未満					

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	○CDTテストを実施し、学力の把握をして、授業改善を図る。	4 全教員が週の指導計画に位置付けた 3 80%～100%未満の教員が週ごとの指導計画に位置付けた 2 70%～80%の教員が週ごとの指導計画に位置付けた 1 70%未満の教員が週ごとの指導計画に位置付けた	4
		○家庭学習の定着と補習教室の実施から、自学自習する態度を育成する。	○家庭学習全体計画を作成し、定着を図る。年間13回の補習教室の実施。	4 全教員が家庭学習全体計画を活用した指導を行った 3 80%～100%未満の教員が家庭学習全体計画を活用した指導を行った 2 70%～80%未満の教員が家庭学習全体計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が家庭学習全体計画を活用した指導を行った	3
		○特別支援教育を充実させ、児童が安定した学校生活を過ごせるようにする。	○そよかぜ職員によるOJTと、市のユニバーサルデザインを活用した教育実践を図る。	4 全教員がチェックリスト7項目に取り組んだ 3 80%～100%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ 2 70%～80%の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ 1 70%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	4
		○児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った 3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った 2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4
		○集団の一員である自覚と、規範意識の育成を図る。	○学級活動を中心に、「めあて」を意識化させ、まとまりのある学年、学級を形成する。	4 全教員が武蔵野小のきまりに沿った指導をしている 3 80%～100%未満の教員が武蔵野小のきまりに沿った指導をしている 2 70%～80%の教員が武蔵野小のきまりに沿った指導をしている 1 70%未満の教員が武蔵野小のきまりに沿った指導をしている	4
		○教育活動全体を通して、道徳的実践力を身に付けさせる。	○児童が考え議論する道徳の授業と評価を確実に実施する。	4 全教員が共通のワークシートを活用した指導をしている 3 80%～100%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている 2 70%～80%の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている 1 70%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている	4
		○系統性を重視した健康教育と、体育活動を推進し、体力向上を目指す。	○体育講師を有効活用し、少人数展開の授業を実施する。	4 全教員が計画を活用した指導を行った 3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った 2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	4
		○日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	○体力向上部会を設置し、元気アップカードを有効活用する。	4 全教員が元気アップカードを活用した指導を行った 3 80%～100%未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 2 70%～80%未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った 1 70%未満の教員が元気アップカードを活用した指導を行った	4
		○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った 3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った 2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	4
		○小中連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○瑞雲中ブロック、小中一貫教育を推進し、昭島のスタンダードを作成する。	4 全教員がPTチームでの方策を実施した 3 80%～100%未満の教員がPTチームでの方策を実施した 2 70%～80%未満の教員がPTチームでの方策を実施した 1 70%未満の教員がPTチームでの方策を実施した	4
		○子供たちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	4
		○保護者や地域と連携し、児童が活動できる事業を展開する。	○PTAや地区委員会の行事に計画的に参加・協力する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した 3 80%～100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 2 70%～80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	3
その他	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	○芝生での運動促進と、芝管理も体験させ、環境に対する意識も高めさせる。	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した 3 80%～100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 2 70%～80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	4

評価【総括表】

○子供にとって充実した学校	○保護者にとって信頼できる学校	○教職員にとって働きがいのある学校
○思考力・判断力・表現力を身に付けた子供	○感性あふれる豊かな心をもつ子供	○すすんで心と体を鍛えることができる子供
○ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師	○授業で勝負できる教師	○家庭・地域との理解を深め協働できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 調査が平均ポイントから+5ポイント以上	2	各学年で課題を把握し、授業改善を進めたが、学力を十分に向上させることはできなかった。	主体的対話的な学びは低学年には難しいのではない。読解力は大切。教員の指導を評価。	C	主体的に学ぶ力を育み、読解力を向上させる取組を行い、学力向上を図る。
3 調査の平均正答率が都平均～+5ポイント					
2 調査の平均正答率が-5ポイント以内					
1 調査の平均正答率が-5ポイント以上					
4 90%以上の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答	2	家庭学習の定着が見られ、自学自習児童が増えてきた。学級によって取組に差あるのが課題。	補習教室の取組はよいが、家庭学習の取組は難しいと感じる。本来は家庭の取組。	B	成果があった学級の取組を検証、全校に周知。家庭学習と補習教室の計画的な取組を促す。
3 80%～90%未満の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答					
2 70%～80%未満の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答					
1 70%未満の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答					
4 90%以上の児童が安心した学校生活が過ごせている	4	特別支援教育の充実を図り、児童に安定した学校生活を過ごさせることができた。	きめ細かい指導が行われて素晴らしい。課題ある児童へも継続的な指導をしてほしい。	A	継続して指導するとともに、特別支援教育のさらなる充実を図り、安心した学校生活を目指す。
3 80%～90%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
2 70%～80%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
1 70%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
4 QUの結果で安定感のある学級が6割	1	上半期のQU調査を活かした指導を行い、下半期のQU調査で安定感のある学級が増えた。	来年の頑張りを期待したい。	C	年2回のQU調査を継続、専門のQU講師の研修会を3回に増やし、学級活動に活かす。
3 QUの結果で安定感のある学級が5割					
2 QUの結果で安定感のある学級が3割					
1 QUの結果で安定感のある学級が3割以下					
4 90%以上の児童が安心した学校生活が過ごせている	4	学級活動を中心に「めあて」を意識化させながら、武蔵野小学校のきまりに沿った指導を行った。	評価している。規範や目的を自覚することは大切。	A	継続して指導するとともに、特別活動の研修機会を増やし、さらなる規範意識の向上を図る。
3 80%～90%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
2 70%～80%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
1 70%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
4 児童のチェック指標が100%達成している	3	道徳推進教員を中心に研修を行い、考え議論する道徳の授業と評価を実施できた。	評価している。教員のレベルが高いと感じる。継続して頑張してほしい。	B	ワークシートを改善し、様々な授業方法に合う、使いやすい形式を模索する。
3 児童のチェック指標が75%達成している					
2 児童のチェック指標が50%達成している					
1 児童のチェック指標が25%達成している					
4 調査結果が昨年比平均ポイントから+5ポイント以上	4	体力テストにおいて5ポイントを超える数値向上を果たし、児童の運動時間も増加した。	体育講師の活用は素晴らしい。元気で活動的なのが武蔵野小児童の特徴。	A	今年度の経験を生かして体育の指導計画を作成、更なる体力向上を目指す。
3 調査結果が昨年比～+5ポイント					
2 調査結果が昨年比-5ポイント以内					
1 調査結果が昨年比-5ポイント以上					
4 90%以上の児童が目標を達成している	2	全教員が元気アップカードを活用したが指導を行ったが、活用が不十分であった。	元気アップカードを継続して活用して欲しい。しかし、1年も活用するのは長いと思う。	C	年度当初に元気アップカードの年間活用計画を作成し、計画的な活用を行う。
3 80%～90%未満の児童が目標を達成している					
2 70%～80%未満の児童が目標を達成している					
1 70%未満の児童が目標を達成している					
4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している	4	学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせることができた。	虐待防止のため、朝食チェックを続けてほしい。	A	食生活のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付けるようにしていく。
3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している					
2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している					
1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している					
4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる	2	小中一貫教育の推進は図れたが、安心して進級・進学できると答えた児童は70%に留まった。	小中一貫教育はこれから結果が出てくるのではないかと考える。	B	小中一貫教育を継続し、昭島のスタンダードを活用、児童の安心した学校生活を目指す。
3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる					
2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる					
1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる					
4 90%以上の児童が目標を達成している	4	教育活動を通して外部人材と交流体験し、日本の伝統文化や郷土を愛する態度を育成できた。	目標達成できている。さらなる向上を目指してほしい。	B	来年度も外部人材との交流活動を各学年で設定、パラリンピックアスリートと交流を行う。
3 80%～90%未満の児童が目標を達成している					
2 70%～80%未満の児童が目標を達成している					
1 70%未満の児童が目標を達成している					
4 90%以上の児童が積極的に活動に参加できた	1	活動に参加した児童は46.7%に留まり、参加しない児童とで二極化していると考えられる。	地域コミュニティは学校だけの問題ではない。学校業務が多いのも課題。	C	来年度はさらなる保護者や地域との連携を目指し、より児童が活動できるよう、協力していく。
3 80%～90%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
2 70%～80%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
1 70%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
4 90%以上の児童が積極的に活動に参加できた	4	年間計画に沿って教職員・児童が芝生の維持管理に参加、芝生の状態を大きく改善した。	芝の維持管理がしっかりできている。PTAとの連携協力が素晴らしいかった。	A	PTAや地域の協力者を増やし、学校のレガシーとして地域に根差したものにす。
3 80%～90%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
2 70%～80%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
1 70%未満の児童が積極的に活動に参加できた					

学校教育目標	◎ 精いっぱい学習する子(重点) ○ 人のためにつくす子 ○ すすんで体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	知識・技能が生きて働き、未知の状況にも対応できるよう、自ら考え、判断し、豊かに表現できる学習方法を工夫する。	自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。	対話的な学びの授業を実施	4 授業で話し合い活動…80%以上の授業 3 授業で話し合い活動…70%以上の授業 2 授業で話し合い活動…60%以上の授業 1 授業で話し合い活動…60%未満の授業	2
		玉小「学びのすすめ」を作成し、全校で推進する。	放課後補習を充実	4 学びのすすめを作成…完成 3 学びのすすめを作成…80%以上の完成 2 学びのすすめを作成…60%以上の完成 1 学びのすすめを作成…60%未満の完成	3
		児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を実現。	児童にやさしい授業を実践	4 やさしい学習指導…90%以上の教員 3 やさしい学習指導…80%以上の教員 2 やさしい学習指導…70%以上の教員 1 やさしい学習指導…70%未満の教員	3
		挨拶運動や人権週間を充実・改善・定着させる。	人権集会を開催する	4 教員が児童に敬称…全教員 3 教員が児童に敬称…95%以上の教員 2 教員が児童に敬称…90%以上の教員 1 教員が児童に敬称…90%未満の教員	3
		玉小の約束を分かりやすく発信し続け定着させる。	生活・授業規律を徹底	4 玉っ子ハンドブックを活用…90%以上の教員 3 玉っ子ハンドブックを活用…80%以上の教員 2 玉っ子ハンドブックを活用…70%以上の教員 1 玉っ子ハンドブックを活用…70%未満の教員	3
		自己有用感を高め、児童が個々のよさを発揮できる。	縦割り班活動を充実	4 縦割り班活動の実施…10以上の実施 3 縦割り班活動の実施…9回実施 2 縦割り班活動の実施…8回実施 1 縦割り班活動の実施…8回未満の実施	3
		体力調査結果を検証・活用し、体育授業を改善する。	体育朝会を充実	4 体育朝会の実施…25回以上の実施 3 体育朝会の実施…20回以上の実施 2 体育朝会の実施…15回以上の実施 1 体育朝会の実施…15回未満の実施	3
		様々な人と関わりをもち、悩みを話せるようにする。	誰にでも相談できる体制	4 校長と会食…全学年・全学級 3 校長と会食…2年生以上の学年・学級 2 校長と会食…3年生以上の学年・学級 1 校長と会食…4年生以上の学年・学級	4
		健康教育・食育推進計画を改善、充実させる。	健康・保健指導を充実	4 朝会で安全・給食指導…計22回以上 3 朝会で安全・給食指導…計20回以上 2 朝会で安全・給食指導…計18回以上 1 朝会で安全・給食指導…計18回未満	3
輝く未来	ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を身に付けさせる。	考え・議論する道徳の指導・評価方法を研究する。	考え議論する授業を実施	4 研究授業(観察)実施…全担任＋専科 3 研究授業(観察)実施…全担任 2 研究授業(観察)実施…9割以上の担任 1 研究授業(観察)実施…9割未満の担任	3
		多様性を尊重し、心のバリアフリーを浸透させる。	障害者理解の学習を推進	4 講話＋体験＋交流の実施…全学年 3 講話＋体験＋交流の実施…5つの学年 2 講話＋体験＋交流の実施…4つの学年 1 講話＋体験＋交流の実施…3つの学年	3
		すべての教職員が図書館機能を有効に活用する。	学校図書館を教科で活用	4 司書教諭による授業…全学級3回以上 3 司書教諭による授業…全学級2回以上 2 司書教諭による授業…全学級1回以上 1 司書教諭による授業…一部学級で実施	4

評価【総括表】

児童が主体的に活動する学校 生涯学習の基礎を確実に身に付ける学校 家庭・地域の信託に応える学校 教職員が組織的に協働する学校
自ら考え、創造力・表現力に富んだ子供 互いを尊重し人の為に尽くす心豊かな子供 心身共に健康で活力に満ちた子供 社会を創造していく子供
野球型からサッカー型の経営参画 心・愛情・言葉・表情豊かな人権感覚 安全を全てに優先させる危機管理 付加価値を付け、結果に責任を持つ

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査正答率…都平均+5割以上	2	○対話の形態等を工夫	明るくよく話す子が多い	B	個→集団→個の主体的・対話的な授業形態で個の学びを深める
3 学力調査正答率…都平均+3割以上					
2 学力調査正答率…都平均以上					
1 学力調査正答率…都平均未満					
4 家庭学習の目標達成…80%以上の児童	3	○漢字検定等を導入	家庭環境の役割が大	B	「学びのすすめ」を活用推進して家庭での学習習慣を確立する
3 家庭学習の目標達成…70%以上の児童					
2 家庭学習の目標達成…60%以上の児童					
1 家庭学習の目標達成…60%未満の児童					
4 授業が分かりやすい…80%以上の児童	3	○統一した指導を図る	統一した指導が効果的	B	ユニバーサルデザインを重視し統一した指導を一層工夫する
3 授業が分かりやすい…70%以上の児童					
2 授業が分かりやすい…60%以上の児童					
1 授業が分かりやすい…60%未満の児童					
4 社会通念上のいじめ…0件	3	○児童人権集会を開催	児童が人権を意識	B	人権を自ら考え感じる機会を充実させ、自分事として高める
3 社会通念上のいじめ…1件から6件					
2 社会通念上のいじめ…7件から12件					
1 社会通念上のいじめ…13件以上					
4 善悪の判断がある…95%以上の児童	3	○全校統一した指導	学校と家庭が揃える	B	挨拶や授業姿勢等、基本的なことを徹底し、規範意識を高める
3 善悪の判断がある…90%以上の児童					
2 善悪の判断がある…85%以上の児童					
1 善悪の判断がある…85%未満の児童					
4 異学年交流満足度…90%以上の児童	3	○集団と個の関係重視	いじめ防止に尽力	B	QUを活用し、多様な人間関係の場を設定、自己有用感を醸成
3 異学年交流満足度…80%以上の児童					
2 異学年交流満足度…70%以上の児童					
1 異学年交流満足度…70%未満の児童					
4 体力調査の体力合計点…58点以上	4	○元気UPの活用充実	多様な工夫がされている	A	元気アップカードやコーディネーション等によりスポーツライフを実現する
3 体力調査の体力合計点…55点以上					
2 体力調査の体力合計点…52点以上					
1 体力調査の体力合計点…52点未満					
4 誰かに相談できる…90%以上の児童	4	○相談しやすい雰囲気	十分されていると感じる	A	児童が悩みを抱えないように心に寄り添う相談の雰囲気を醸成
3 誰かに相談できる…80%以上の児童					
2 誰かに相談できる…70%以上の児童					
1 誰かに相談できる…70%未満の児童					
4 1日の病欠児童数…平均3人以下	3	○既存資料の有効活用	早寝早起き朝ご飯推進	A	健康や食に関する学習を系統的に計画・実施、定着させていく
3 1日の病欠児童数…平均4～5人					
2 1日の病欠児童数…平均6～8人					
1 1日の病欠児童数…平均9人以上					
4 思いやりの価値に気付く…90%以上の児童	4	○全校で共通実施	教育活動全体で取組む	A	「発問構成」「考え・議論する道徳」「評価」を一層工夫する
3 思いやりの価値に気付く…80%以上の児童					
2 思いやりの価値に気付く…70%以上の児童					
1 思いやりの価値に気付く…70%未満の児童					
4 オリパラの精神の理解…80%以上の児童	2	○多様な人材を招聘	障害者理解などを推進	B	計画的な指導計画を確立し、次代に繋がるレガシーを構築する
3 オリパラの精神の理解…70%以上の児童					
2 オリパラの精神の理解…60%以上の児童					
1 オリパラの精神の理解…60%未満の児童					
4 図書の貸出冊数…年間平均100冊以上	3	○司書教諭が授業実施	読書が言語力向上に	B	課題解決学習に資する蔵書整備を進め、言語活動を充実させる
3 図書の貸出冊数…年間平均80冊以上					
2 図書の貸出冊数…年間平均40冊以上					
1 図書の貸出冊数…年間平均40冊未満					

学校教育目標	○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本を大切に し、分かる授業の実現 に努め、確かな学力の 定着を図る。	自ら学ぶ基本的な学 習習慣や学習規律の 定着を図る。	朝学習や学習への取 組み方など学び方を 学ぶ指導を行う。	4 全学級が具体的な取組を行っている	4
				3 具体的な取組を行っている学級が80%以上である。	
				2 具体的な取組を行っている学級が70%以上である。	
				1 具体的な取組を行っている学級が70%未満である。	
		読む、書く、伝える、計 算する、考察する力の 育成及び定着を図る。	東京ベーシックドリル の活用で、基礎・基本 の定着80%を目標に取り 組む。	4 全学級テスト実施率が100%である。	4
				3 全学級テスト実施率が80%である。	
				2 全学級テスト実施率が70%である。	
				1 全学級テスト実施率が70%未満である。	
		調べ学習やまとめたこ とを発表する場を設定 する。		4 全学級が計画を実施する。	4
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
豊かな心	互いに認め合い、支え 合う豊かな心を育成す る。	すすんであいさつをす る子を育成する。	あいさつが自主的に出 来るような取組を行う。	4 全学級が実施する。	4
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
		異学年交流の充実を 図る。	児童の自主性と異学 年交流のねらいが達 成できるよう指導を行 う。	4 全教員が指導する。	4
				3 80%以上の教員が指導する。	
				2 70%以上の教員が指導する。	
				1 70%未満の学級が指導する。	
		言語環境を整え、児童 の居場所となる学級づ くりを推進する。	道徳・学級活動を中心 に各教科等において、よ りよい人間関係を築くた めの活動を実施する。	4 全学級が実施する。	4
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
健やかな体	生活習慣を見直し、丈 夫な身体とたくましい 心を育成する。	生活習慣を見直すと共 に、基礎体力の向上を 図り、食育・健康教育 を推進する。	体力向上及び運動能力 向上に向け、サーキット レーニングなどの取組に すすんで取り組めるよう 指導する。	4 全教員が指導する。	4
				3 80%以上の教員が指導する。	
				2 70%以上の教員が指導する。	
				1 70%未満の学級が指導する。	
			食に関する指導を計画 的に行い、毎月の食育 の日の前後に残さず 食べることを指導する。	4 全教員が指導する。	4
				3 80%以上の教員が指導する。	
				2 70%以上の教員が指導する。	
				1 70%未満の学級が指導する。	
			オリンピック・パラリン ピック教育を通して運 動・スポーツへの興味・ 関心を高める。	4 全学級が実施する。	3
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
輝く未来	保護者・地域との連携 を深める。	地域を素材とした学習や 伝統文化の体験を通し て、郷土昭島に対する愛 着や誇りを育てる。	地域人材を活用したり 伝統文化の体験を取り 入れる。	4 全学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	4
				3 5つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
				2 4つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
				1 3つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
		家庭学習の習慣化を 図る。	家庭学習の手引きを配 布したり、e-ライブラ リーを説明したりして家 庭学習の定着を図る。	4 全学級で活用について指導する。	4
				3 80%以上の学級で活用について指導する。	
				2 70%以上の学級で活用について指導する。	
				1 70%未満の学級で活用について指導する。	

評価【総括表】

○特別支援教育を全校で進める学校	○子どもも教職員も当たり前のことを当たり前に出来る学校	○子ども、保護者・地域、教職員が中神小でよかったと思える学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども	○互いを尊重し思いやりのある行動ができる子ども	○心身ともに健康でたくましい子ども
○人権感覚を磨き子どもの自尊感情を高める教師	○常に向上心を持ち指導力向上に努める教師	

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が90%以上である。	3	意欲的に学ぶ姿勢が育っているが、難しい問題はあきらめてしまう傾向がある。	程度は様々だができない子も自分のできるところから学習している。	B	学習のきまりの声かけを継続して行う。できていることを誉め、スモールステップで取り組みやすい指導をする。
3 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が80%以上である。					
2 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が70%以上					
1 話をしっかり聞き、自らすすんで学習に取り組む児童が70%未満である。					
4 テストの平均点が80点以上である。	3	確実に定着している児童とそうでない児童の差が大きい。	小さい頃からの積み重ねが影響する。	B	継続して授業の最初に復習プリントや既習事項の確認を行う。定期的に復習プリントを行う。
3 テストの平均点が70点以上である。					
2 テストの平均点が60点以上である。					
1 テストの平均点が60点未満である。					
4 児童全員が発表する場を学期に2回以上もつ。	3	調べ学習を多く取り入れ、発表する場を設定していた。児童も発表の意欲が高く、工夫して発表している。	主体的に調べ発表したいて大変よかった。	A	自分で設定した課題を解決する学習を取り入れる。話形の指導を取り入れ発表内容の質を高める。
3 児童全員が発表する場を学期に1回もつ。					
2 児童全員が発表する場を年に2回以上をもつ。					
1 児童全員が発表する場を年に1回もつ。					
4 しっかりあいさつできる児童が90%以上である。	4	朝や帰りのあいさつはできている。教室以外の場所でもあいさつができるようになることが課題である。	登校時のあいさつもできている。校内で来校者にもあいさつができています。	A	教員が意識してあいさつを行いよいお手本を見せる。しっかりあいさつ出来た子を全校で認めていく。
3 しっかりあいさつできる児童が80%以上である。					
2 しっかりあいさつできる児童が70%以上である。					
1 しっかりあいさつできる児童が70%未満である。					
4 取組に楽しく参加できた児童が90%以上である。	3	異学年で交流することを楽しみ、高学年は責任感、中・低学年は高学年への信頼等を抱くことができた。	集団登校を積極的に進めるよう保護者にも協力を願い団体行動を進める。	B	異学年交流を工夫していく。感想をいかし、より児童が主体的に行えるようにする。
3 取組に楽しく参加できた児童が80%以上である。					
2 取組に楽しく参加できた児童が70%以上である。					
1 取組に楽しく参加出来た児童が70%未満である。					
4 学校が楽しいと思っている児童が90%以上である。	3	思いやりのある言葉を発する児童が多い。自分がされて嫌なことは人にしない児童が多い。	ネットの普及により悪い言葉を覚える機会が増えているのではないかな。	B	児童が学校で自分の居場所をより感じられるように支援していく。保護者とよく連携をする。
3 学校が楽しいと思っている児童が80%以上である。					
2 学校が楽しいと思っている児童が70%以上である。					
1 学校が楽しいと思っている児童が70%未満である。					
4 自らすすんで取り組む児童が90%以上である。	3	休み時間には積極的に外に出て遊ぶ児童もいる。体育の時間等で様々な動きに取り組ませている。	学校の外周を走る持久走など近隣・PTAの協力を得て行えるとよい。	B	体力テストの結果を受け、サーキットの内容を工夫していく。すすんで外で遊ぶように声をかけ運動量を増やす。
3 自らすすんで取り組む児童が80%以上である。					
2 自らすすんで取り組む児童が70%以上である。					
1 自らすすんで取り組む児童が70%未満である。					
4 残菜率の平均が5%以下である。	3	食の細かい児童が多く給食を残す児童も多い。バランス良く食べるように指導している。	無理強いして食べさせていることはないし聞いて安心した。	B	健康と食事の大切さを伝える。配膳の仕方や食事のマナーなども繰り返し指導する。
3 残菜率の平均が8%以下である。					
2 残菜率の平均が10%以下である。					
1 残菜率の平均が10%以上である。					
4 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が90%以上である。	3	日常的にオリンピック・パラリンピックへの興味・関心がもてるよう工夫する。	調べ学習をがんばっていたので広がると思う。	B	オリンピック・パラリンピックの校内掲示を増やし、各教科と関連付けた指導に計画的に取り組む。オリパラノートの活用を図る。
3 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が80%以上である。					
2 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が70%以上である。					
1 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が70%未満である。					
4 楽しく活動できた児童が90%以上である。	3	町探検や蚕の飼育、米作りなど、地域の方の協力を得て学習し、地域の文化等を知ることができた。	地域の団体に協力を依頼して「餅つき体験」を行ってもよいと思う。	A	昭島に関わる学習や伝統文化に関する学習を計画的に行う。
3 楽しく活動できた児童が80%以上である。					
2 楽しく活動できた児童が70%以上である。					
1 楽しく活動でき児童が70%未満である。					
4 90%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。	2	毎日、宿題を出すことが、定着してきている。	高学年になったら自主的にできるようになるのが望ましいが難しい。低学年からの習慣化が必要である。	B	家庭学習が定着するよう保護者への協力を求めたり、Eライブラリの活用や、放課後・土曜補習の参加を促す。
3 80%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。					
2 70%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。					
1 70%未満の児童が家庭で決まった時間勉強している。					

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校 ○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	主体的・対話的で深い学びの実践を通して、基礎的・基本的な学習内容の定着と学習意欲の向上を図る。	研修の日常化を実現させることで、より質の高い授業を実現させる。 家庭学習の定着及び充実を図ることで、計画的・主体的に学習に取り組む力を育てる。 朝学習及び補習教室の充実により、つまずきのある児童の学力の向上を図る。	校内研修において、全学年・杉の子学級・そよかぜ(8グループ)が授業改善に関する提案及び実践を行う。 家庭学習の手引き(保護者用・児童用)を作成・配布し、予定表及び自主学習ノートの活用を推進する。 週2回の朝学習を教科固定、継続実施し、放課後補習教室・土曜補習教室で基礎力の向上を図る。	4 8グループ全てが授業改善に関する提案をした。	4
				3 7グループが授業改善に関する提案をした。	
				2 6グループが授業改善に関する提案をした。	
				1 5グループ以下が授業改善に関する提案をした。	
				4 全学級で指導・活用した。	4
				3 90%以上の学級で指導・活用した。	
				2 80%以上の学級で指導・活用した。	
				1 80%未満の学級で指導・活用した。	
				4 全学級で計画的な朝学習の実施	3
				3 90%以上の学級で計画的な朝学習を実施した。	
				2 80%以上の学級で計画的な朝学習を実施した。	
				1 80%未満の学級で計画的な朝学習を実施した。	
豊かな心	自分とともに他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成を図る。	あいさつが自然に通い合う関係をつくる。 落ち着いて安心した学校生活を送ることができるようにする。 いじめの未然防止・早期発見・早期解決を行う。	ふれあい月間で小中一貫あいさつ運動を実施し、全教員であいさつ指導の強化を図る。 「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を活用し、児童にやさしい授業や環境整備を行う。 軽微ないじめを見逃さない情報共有の日常化と、組織的対応を行う。	4 全教員が日常的に指導した。	3
				3 90%以上の教員が日常的に指導した。	
				2 80%以上の教員が日常的に指導した。	
				1 80%未満の教員が日常的に指導した。	
				4 全教員が活用し、実践に活かした。	4
				3 90%以上の教員が活用し、実践に活かした。	
				2 80%以上の教員が活用し、実践に活かした。	
				1 80%未満の教員が活用し、実践に活かした。	
				4 全教員が日常的に情報共有を行った。	3
				3 90%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	
				2 80%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	
				1 80%未満の教員が日常的に情報共有を行った。	
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成を図る。	元気アップガイドブックを活用して、児童の体力向上を目指す。 元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用し、児童の健康意識を高める。 児童の危険を予測し、回避する能力を向上させる。	休み時間や朝の時間を活用し、元気アップタイムを実施する。 からだ力向上週間、生活リズム記録と振り返りを行う。 「安全教育プログラム」とワークシート等を活用した安全指導を行う。	4 全校児童が参加した。	3
				3 90%以上の児童が参加した。	
				2 80%以上の児童が参加した。	
				1 70%以上の児童が参加した。	
				4 全学級で記録と振り返りを行った。	4
				3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				4 全学級で指導・活用した。	4
				3 90%以上の学級で指導・活用した。	
				2 80%以上の学級で指導・活用した。	
				1 80%未満の学級で指導・活用した。	
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者とかかわろうとする児童の育成を図る。	学校行事で、自己のよさを発揮し、チャレンジする意欲をもたせる。 縦割り班活動を活性化させ、人間関係調整力や所属感、連帯感を高める。 地域とかかわることで、地域の一員として地域を愛する心と自己有用感を高める。	学年ごとに行事のねらいに沿った目標を立て、実践と振り返りを行う。 縦割り班ごとの目標を設定し、実践と振り返りを行う。 社会科や生活科・総合的な学習の時間で、地域人材を活用した授業を行ったり、奉仕活動を行ったりする。	4 全児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	4
				3 90%以上の児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				2 80%以上の児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				1 80%未満の児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				4 全縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	3
				3 90%以上の縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				2 80%以上の縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				1 80%未満の縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				4 全学年で地域人材を活用した教育活動を行った。	4
				3 5学年で地域人材を活用した教育活動を行った。	
				2 4学年で地域人材を活用した教育活動を行った。	
				1 3学年で地域人材を活用した教育活動を行った。	

評価【総括表】

「だれもが笑顔になる学校」○ひとりぼっちにしない学校 ○失敗を恐れずチャレンジする学校 ○ともに学びを創造する学校	
○自ら課題を見付け、論理的に解決する子 ○感性を働かせ、創造・表現する子 ○お互いを認め合い、助け合える子 ○すすんで人とつながる子 ○自ら体を整え、健全な生活を築く子	
○子供第一主義で行動する教師 ○子供の「人間モデル」としての教師 ○指導力向上を目指し学び続ける教師 ○家庭や地域と連携できる教師 ○健康管理ができ、人間性豊かな教師	

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 児童アンケート「授業内容が分かる」90%以上	4	授業改善に関する提案について協議したことを意識して日々の授業作りに取り組むことができた。	細かく指導していると思う。	A	今年度の成果を生かした研究テーマの設定及び、研究を中心に位置付けた諸活動の計画を行う。
3 児童アンケート「授業内容が分かる」80%以上					
2 児童アンケート「授業内容が分かる」70%以上					
1 児童アンケート「授業内容が分かる」70%未満					
4 児童アンケート「計画を立てて勉強する」80%以上	1	宿題＋自主学習という形式になり、自主学習に力を入れることのできる児童が少なかった。	家庭・保護者の協力が不可欠。保護者への指導・教育も必要かと感じる。	B	宿題について見直し、主体的で効果的な家庭学習の在り方を提案・実践していく。
3 児童アンケート「計画を立てて勉強する」70%以上					
2 児童アンケート「計画を立てて勉強する」60%以上					
1 児童アンケート「計画を立てて勉強する」60%未満					
4 市学力調査(国・算)の正答率が5学年前年度比＋	2	朝学習の計画的な実施・運営までに時間がかかってしまい、学力の定着につながらなかった。補習教室参加児童の意欲面に課題が残った。	継続していただければ、必ず成果が出ると感じる。	B	児童が主体的に学べる補習教室を目指して、対象者や参加方法を改善していく。
3 市学力調査(国・算)の正答率が4学年前年度比＋					
2 市学力調査(国・算)の正答率が3学年前年度比＋					
1 市学力調査(国・算)の正答率前年度比＋が2学年以下					
4 児童アンケート「自分からあいさつ」80%以上	4	小中一貫教育のあいさつ運動に自発的に参加する子ども多かった。定着につなげるため、あいさつすることのよさを実感できる場作りが必要である。	あいさつは、大変よくできている。	A	あいさつ運動については、自発的参加者のための活動場所を設定する。黙礼など場に応じたあいさつができるよう朝会の場で指導を行う。
3 児童アンケート「自分からあいさつ」70%以上					
2 児童アンケート「自分からあいさつ」60%以上					
1 児童アンケート「自分からあいさつ」60%未満					
4 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」80%以上	4	小中一貫教育での教室環境整備や授業のUD化が進み、学習環境は整えられたが、廊下歩行ができないなど日常生活での課題が残った。	教室内の片付けなど、子どもたちへの指導もよく行われていると思う。	A	廊下を走ることにについては、毎月学級指導を行う。その際に危険な側面にも触れ、実感を伴って指導できるようにする。
3 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」70%以上					
2 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」60%以上					
1 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」60%未満					
4 児童アンケート「いじめは許さないこと」90%以上	4	いじめの早期発見、組織的な対応が定着した。児童アンケートでの意識は高まったが、軽微ないじめが依然としてあり、意識を高める必要がある。	すぐに対応していて、子どもたちへの取組もしているのがよいと思う。	A	いじめ総合対策【第2次】を活用した校内研修を学期毎に行い、教員のいじめに対する意識を全体的に高めていく。
3 児童アンケート「いじめは許さないこと」80%以上					
2 児童アンケート「いじめは許さないこと」70%以上					
1 児童アンケート「いじめは許さないこと」70%未満					
4 体力測定の結果が4学年以上8項目中5項目で都平均以上	2	元気アップタイムの定着をしていくことができたが、時間が設定されているから活動するという児童が多く、まだ、体力向上にはつながっていない。	取組を継続し、体力が向上するよう努めていただきたい。	C	元気アップタイムを軸に、児童が楽しみながらすすんで運動する場を提供する。基本的な運動量を増やす。
3 体力測定の結果が4学年以上8項目中4項目で都平均以上					
2 体力測定の結果が4学年以上8項目中3項目で都平均以上					
1 体力測定の結果8項目中2項目で都平均以上が4学年未満					
4 児童アンケート「健康について学び理解している」80%	4	からだ力向上習慣「生活リズムカード」の取組から、児童の健康意識を高めることができている。	生活リズムカードの作成など具体的に指導できている。	A	「生活リズムカード」の定着を図り、定期的な取組を行っている。
3 児童アンケート「健康について学び理解している」70%					
2 児童アンケート「健康について学び理解している」60%以上					
1 児童アンケート「健康について学び理解している」60%未満					
4 児童アンケート「安全を理解し生活」80%	4	安全指導の指導内容が紙ベースで具体的に示されたことにより、一貫した指導ができるようになった。	保護者アンケートから見える保護者の心配が気になる。	A	毎月の安全指導に加えて予告なしの避難訓練なども継続し、児童が主体的実践的に安全行動をとれるようにしていく。
3 児童アンケート「安全を理解し生活」70%					
2 児童アンケート「安全を理解し生活」60%以上					
1 児童アンケート「安全を理解し生活」60%未満					
4 全児童が学年の目標を達成した。	3	運動会、アートフェスの活動は、児童の自己有用感が高まった。一方、教員の行事への意識、認識が細かいところで差があった。	子どもたちにどこまで主体性をもたせるかが教員によって差があったかもしれないと感じた。	B	大きな行事の前には、実施計画を全職員で読み合わせ、共通の目的意識をもち取り組めるようにする。
3 90%以上の児童が学年の目標を達成した。					
2 80%以上の児童が学年の目標を達成した。					
1 80%未満の児童が学年の目標を達成した。					
4 児童アンケート「縦割り班の満足度」90%以上	4	活動計画を立てる段階で目的意識をもたせることで、児童にとって満足度の高い活動につなげることができた。	縦割り班活動は、とてもよい効果が出ていると感じる。	A	児童の所属感を高め、仲を深めていくために、メンバーを固定して活動に取り組ませていく。
3 児童アンケート「縦割り班の満足度」80%以上					
2 児童アンケート「縦割り班の満足度」70%以上					
1 児童アンケート「縦割り班の満足度」70%未満					
4 児童アンケート「人の役に立った経験」90%以上	3	全学年で地域人材を活用した授業を行った。教科については多岐に渡り、様々な地域の方とのつながりができた。	地域人材の情報は、まだこれからというところかと思う。	B	今年度活用した地域人材の情報を一括して管理、共有し、次年度にも確実に生かしていくことができるようにする。
3 児童アンケート「人の役に立った経験」80%以上					
2 児童アンケート「人の役に立った経験」70%以上					
1 児童アンケート「人の役に立った経験」70%未満					

学校教育目標	○ 健康な子 ◎ 考える子 ○ すすんでする子 ○ 協力する子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	授業改善を推進し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	教員の授業力を高めるとともに個に応じた指導を充実させる。	・算数デジタル教科書活用 ・具体的モデルの提示 ・家庭学習の手引きを配布 ・eラーニングの活用促進 ・サポート教室の効果的实施	4 全教員が算数デジタル教科書を活用した。 3 80%～100%未満の教員が算数デジタル教科書を活用した。 2 70%～80%の教員が算数デジタル教科書を活用した。 1 70%未満の教員が算数デジタル教科書を活用した。	3
			・朝読書の充実 ・図書支援員の有効活用 ・定期的な意識調査の実施	4 全教員が読書活動の充実を図った。 3 80%～100%未満の教員が読書活動の充実を図った。 2 70%～80%の教員が読書活動の充実を図った。 1 70%未満の教員が読書活動の充実を図った。	
			・校内委員会の定期開催 ・支援員の効果的支援の共有 ・ユニバーサルデザイン実践	4 全教員がユニバーサルデザインを実践した。 3 80%～100%未満の教員がユニバーサルデザインを実践した。 2 70%～80%の教員がユニバーサルデザインを実践した。 1 70%未満の教員がユニバーサルデザインを実践した。	
		読書環境を整備し、読書活動を充実させる。			
		特別支援教育の視点をもった環境整備や授業改善を推進する。			
豊かな心	計画的な道德教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成を目指す。	教科化に沿った道德教育の充実を図る。	・全教育活動で見える化を図り児童の実践力高揚 ・道德推進教師を中心とした教科化を踏まえた計画的な授業実践	4 全教員が計画的な授業を実践した。 3 80%～100%未満の教員が計画的な授業を実践した。 2 70%～80%の教員が計画的な授業を実践した。 1 70%未満の教員が計画的な授業を実践した。	3
			・教職員の人権感覚の向上 ・いじめ防止会議の定期的開催と早期対応 ・相談できる人的環境の充実	4 全教員がいじめの未然防止と早期対応に取り組んだ。 3 80%～100%未満の教員がいじめの未然防止と早期対応に取り組んだ。 2 70%～80%の教員がいじめの未然防止と早期対応に取り組んだ。 1 70%未満の教員がいじめの未然防止と早期対応に取り組んだ。	
			・発達段階に配慮した体験活動を全学年で計画的に実施	4 全教員が体験活動を計画的に実施した。 3 80%～100%未満の教員が体験活動を計画的に実施した。 2 70%～80%の教員が体験活動を計画的に実施した。 1 70%未満の教員が体験活動を計画的に実施した。	
		いじめの未然防止と早期対応を推進する。			
		体験活動を通して自尊感情や自己有用感を高める。			
健やかな体	計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成を目指す。	安全・防災教育の充実	・計画的な安全指導と安全点検の実施 ・研修を充実し、教職員の危機管理能力の向上	4 全教員が計画的に安全指導と安全点検を実施した。 3 80%～100%未満の教員が計画的に安全指導と安全点検を実施した。 2 70%～80%の教員が計画的に安全指導と安全点検を実施した。 1 70%未満の教員が計画的に安全指導と安全点検を実施した。	3
			・系統性を重視した体育指導の充実 ・計画的なミニ研修会の実施	4 全教員が計画的に授業を実践した。 3 80%～100%未満の教員が計画的に授業を実践した。 2 70%～80%の教員が計画的に授業を実践した。 1 70%未満の教員が計画的に授業を実践した。	
			・オリンピックやパラリンピアンを招聘しての講話や実技指導	4 全教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 3 80%～100%未満の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 2 70%～80%の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 1 70%未満の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。	
		体力向上を目指した体育の授業の充実			
		計画的なオリンピック・パラリンピック教育の推進			
輝く未来	幼・保・小・中の連携した教育を充実し、未来に向けて夢と希望をもち実現しようと努力する児童の育成を図る。	計画的な幼・保・小・中の連携	・年3回の中学校区ごとの計画的な交流活動と教員研修の充実 ・入学前の幼・保との交流活動と情報交換の充実	4 全教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 3 80%～100%未満の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 2 70%～80%の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 1 70%未満の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。	3
			・計画的な学校・家庭・地域の連携 ・地域人材を活用した伝統文化体験活動の実施	4 全教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 3 80%～100%未満の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 2 70%～80%の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。 1 70%未満の教員が年間指導計画に位置付けて取り組んだ。	
		保護者・地域との連携			3

評価【総括表】

○児童が安心して通える学校 ○児童の願いがかなう学校 ○家庭や地域と共に歩む学校□
○心身ともに健康な子 ○主体的・対話的で深い学びのできる子 ○互いに認め合い高め合う子
○教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために絶えず研究と修養に努め児童のために誠心誠意、職務に励む教師□

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	学力調査の平均正答率が都平均から+5ポイント以上	1	学力調査結果を日常の指導に十分活用できていない。	さらにデジタル教材の活用を図ってほしい。	B	学力調査の分析・対応を組織化し、全校で徹底する。
3	学力調査の平均正答率が都平均～+5ポイント					
2	学力調査の平均正答率が-5ポイント以内					
1	学力調査の平均正答率が-5ポイント以下					
4	90%以上の児童が本が好きと回答	3	読書活動の充実とともに児童の読書量も増えている。	読書週間などの取組を評価している。今後も継続的に実施してほしい。	B	読書量の少ない児童への啓発活動に取り組む。
3	80～90%未満の児童が本が好きと回答					
2	70～80%未満の児童が本が好きと回答					
1	70%未満の児童が本が好きと回答					
4	85%以上の児童が授業が分かると回答	4	UDの実施率も上がり、児童の学習理解につながっている。	保護者・地域との連携も進めてほしい。	B	くすのき学級からの発信を強化し、全校で共有していく。
3	80～85%未満の児童が授業が分かると回答					
2	70～80%未満の児童が授業が分かると回答					
1	70%未満の児童が授業が分かると回答					
4	80%以上の児童が挨拶や温かい言葉遣いができたと回答	3	道徳の授業力向上には改善の余地がある。	道徳においては、教科化の中でより豊かな展開を望みたい。	B	OJTなど研修機会を定期的に確保する。
3	75～80%未満の児童が挨拶や温かい言葉遣いができたと回答					
2	70～75%未満の児童が挨拶や温かい言葉遣いができたと回答					
1	70%未満の児童が挨拶や温かい言葉遣いができたと回答					
4	85%以上の児童が学校は楽しいと回答	3	SCの活用を含め人権尊重の意識が高まっている。	早期発見への気配りが大切。教員研修の充実を望む。	B	QUテストを計画的に活用するシステムを構築する。
3	80～85%未満の児童が学校は楽しいと回答					
2	70～80%未満の児童が学校は楽しいと回答					
1	70%未満の児童が学校は楽しいと回答					
4	85%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	4	全学年ともに体験活動が充実している。	充実していると感じる。	A	より円滑な活動のため校内の情報を一覧データ化する。
3	80～85%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
2	70～80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
1	70%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
4	85%以上の児童が危険予測、回避の重要性を理解していると回答	4	安全教育の重要性はよく理解している。	学区域の危険箇所マップを掲示していることを評価している。	A	防災への体制を改善し、地域・保護者とも共有する。
3	80～85%未満の児童が危険予測、回避の重要性を理解していると回答					
2	70～80%未満の児童が危険予測、回避の重要性を理解していると回答					
1	70%未満の児童が危険予測、回避の重要性を理解していると回答					
4	85%以上の児童が体育の授業は楽しいと回答	3	体力向上の重要性は理解しているが具体策が乏しい。	現在の取組を評価している。食育にも力を入れてほしい。	B	元気アップガイドブックの体育および放課後運動遊びへの活用を進める。
3	80～85%未満の児童が体育の授業は楽しいと回答					
2	70～80%未満の児童が体育の授業は楽しいと回答					
1	70%未満の児童が体育の授業は楽しいと回答					
4	85%以上の児童がオリバラを楽しみにしていると回答	2	年度後半に取組が集中した。	元Jリーガーの招集などの取組を評価する。国際感覚を培ってほしい。	B	年間通してバランスよい推進を行う。
3	80～85%未満の児童がオリバラを楽しみにしていると回答					
2	70～80%未満の児童がオリバラを楽しみにしていると回答					
1	70%未満の児童がオリバラを楽しみにしていると回答					
4	85%以上の児童が夢や希望があると回答	4	低学年を中心に幼保小連携は定着している。	今後も活動の充実を期待したい。	A	小学校3校・中学校との連携をより充実させる。
3	80～85%未満の児童が夢や希望があると回答					
2	70～80%未満の児童が夢や希望があると回答					
1	70%未満の児童が夢や希望があると回答					
4	85%以上の保護者が学校と連携できていると回答	3	慣例の活動は円滑に進めることができた。	地域行事には積極的に参加してもらっている。伝統文化を共有していきたい。	B	今後も学校経営方針に沿った活動を構築していく。
3	80～85%未満の保護者が学校と連携できていると回答					
2	70～80%未満の保護者が学校と連携できていると回答					
1	70%未満の保護者が学校と連携できていると回答					

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	主体的・対話的・深い学びを通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用できる力を身に付けさせる授業の実現に努める。	個々の学習状況を明確にするとともに、読む・書く・計算する力を付けさせる。	始業前15分学習(水:読書、火・金:国・算の反復学習)の充実を図る。	4 毎回9割以上の学級が13分以上取り組んだ。	3
				3 毎回8割以上の学級が10分以上取り組んだ。	
				2 10分以上確保できていない学級が5割以上ある。	
				1 学習以外に使っている学級が5割以上ある。	
		家庭学習を重視し、復習することを習慣付けさせる。	家庭学習チェック表等を活用して家庭学習の習慣化を徹底する。	4 家庭学習チェックを全クラスで実施した。	4
				3 家庭学習チェックを10学級以上12学級未満で実施した。	
				2 家庭学習チェックを8学級以上10学級未満で実施した。	
				1 家庭学習チェックの実施が8学級未満だった。	
		どの子にも分かりやすい授業を実施する(ユニバーサルデザイン)。	市のユニバーサルデザインの冊子にあるチェックを毎月1回以上行い適切な環境作りをする。	4 全教室で月1回以上チェックを実施できた。	3
				3 全教室で年11回以上チェックを実施できた。	
				2 全教室で年10回以上チェックを実施できた。	
				1 全教室で年9回以上チェックを実施できた。	
豊かな心	人権意識を高めて自己とともに大切にする態度を育成するとともに、集団の一員である自覚と規範意識の育成を図る。	明るく元気で挨拶のあふれる学校にする。	PTAと連携してあいさつ運動を推進する。	4 あいさつ運動を10回以上実施できた。	3
				3 あいさつ運動を8回以上10回未満実施できた。	
				2 あいさつ運動を6回以上8回未満実施できた。	
				1 あいさつ運動の実施が6回未満だった。	
		道徳科の特質に即した授業をしっかりと行い、児童の道徳性を育む。	年間指導計画に基づき、年35回(1年生は34回)以上の道徳科の授業を確実に実施する。	4 全学級で実施できた。	3
				3 9割以上の学級で実施できた。	
				2 8割以上9割未満の学級で実施できた。	
				1 実施できた学級が8割未満だった。	
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用し、人権感覚チェックを毎学期・年3回以上行う。	4 年3回以上チェックを実施できた。	3
				3 年2回チェックを実施できた。	
				2 年1回チェックを実施できた。	
				1 チェックを実施できなかった。	
健やかな体	健康で安全な生活を送るための生活習慣を身に付けさせるとともに、日常的な運動を通して体力を向上させる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用し、体力向上のための体育的な活動を行う。	4 各活動の目標を9割以上の児童が達成した。	3
				3 各活動の目標を7割以上9割未満が達成した。	
				2 各活動の目標を5割以上7割未満が達成した。	
				1 各活動の目標の達成が5割未満だった。	
		健康で安全な生活習慣を送るための生活習慣を身に付ける。	元気アップガイドブックを活用して、生活習慣を身に付けるための健康教育・食育を行う。	4 健康教育や食育の授業を各学期に1回以上実施した。	3
				3 健康教育や食育の授業を年間2回以上実施した。	
				2 健康教育や食育の授業を年間1回実施した。	
				1 健康教育や食育の授業を実施できなかった。	
輝く未来	学校公開を推進して家庭・地域との信頼関係を構築するとともに、家庭・地域との連携を充実させ、教育活動への参画意識の向上を図る。	保護者や地域関係者が月に1回以上来校する機会を設定する。	学校公開と保護者会を同日に開催する等、来校しやすい日時を設定する。	4 8月を除く11か月で実施できた。	4
				3 10か月以上で実施できた。	
				2 9か月以上で実施できた。	
				1 8か月以下の実施だった。	
		学校からの情報発信を積極的に行う。	毎月の学校だよりの発行と、月1回以上HPを更新して最新の情報を発信する。	4 学校だより発行とHPの更新を12か月できた。	3
				3 学校だより発行とHPの更新を11か月できた。	
				2 学校だより発行とHPの更新を10か月できた。	
				1 学校だより発行とHPの更新が10か月未満だった。	

評価【総括表】

笑顔と信頼あふれる魅力あるSEIRIN小学校 (Smile:笑顔,Energy:元気,Idea:発想,Reliance:信頼,Improve:改善,New:新鮮・進取)
○主体的に学習に取り組む子 ○互いを認め協力し合う子 ○心身を鍛え正しい判断で行動する子
○温かい人間関係を作り生き生きと仕事ができる教師 ○個々の個性や専門性を発揮し、組織的に教育活動を展開できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均以上。	3	取組指標の朝学習の取組は、充実してきている。更に内容を吟味し、学力調査の結果の向上につなげる。	朝読書の習慣が身に付いていて、朝から集中力を高めることができています。	B	市学力調査の結果を分析し、特に評価の低かった内容に関して、朝学習で取り組む計画を立てる。
3 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均－5pt以内。					
2 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均－10pt以内。					
1 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均－10pt以上。					
4 家庭学習の課題を9割以上がやってくる。	4	家庭学習の習慣は、十分定着していることが分かる。	家庭学習の力は、自己プランニング力にもつながると思う。自分の計画を立てる力を身に付けるためにも続けて欲しい。	A	家庭学習の内容も充実させる。 (高学年における自主学習の充実等)
3 家庭学習の課題を7割以上9割未満がやってくる。					
2 家庭学習の課題を5割以上7割未満がやってくる。					
1 家庭学習の課題を5割未満しかやってこない。					
4 児童評価で「授業が分かりやすい」90%以上	4	市の児童アンケートの結果からは、子どもたちの評価は高かった。教員の意識を高めるための手だてが必要である。	市が作成した冊子を活用していることが、学校公開を見ても感じることができた。これからも続けて欲しい。	B	授業観察時に、ユニバーサルデザインの取組について褒め、教員の意識を高める。
3 児童評価で「授業が分かりやすい」70%以上90%未満。					
2 児童評価で「授業が分かりやすい」50%以上70%未満。					
1 児童評価で「授業が分かりやすい」50%未満					
4 児童による評価で「あいさつができる」90%以上	3	全体的に気持ちのよいあいさつができる児童が多い。教員の参加意識を高める必要がある。	あいさつ運動は、意味を大切にこれからも続けて欲しい。誰とでも、分け隔てなくあいさつできる子になって欲しい。	A	毎回のあいさつ運動時に、自分の学年の担当でなくても積極的に参加する場の工夫を行う。
3 児童による評価で「あいさつができる」70%以上90%未満。					
2 児童による評価で「あいさつができる」50%以上70%未満。					
1 児童による評価で「あいさつができる」50%未満					
4 児童による授業評価で「自分は役に立っている」90%以上	3	調査が12月末のため取組指標の数値が低いことが考えられる。また児童の意識を高めるための手だてが必要である。	学校公開での授業では、心を打たれる資料で授業が展開されている。子供たちにも大切なことが伝わっていると感じている。	B	道徳の学習において、価値項目の理解を深め、日常生活における児童のよさを引き出す工夫を行う。
3 児童による授業評価で「自分は役に立っている」70%以上90%未満。					
2 児童による授業評価で「自分は役に立っている」50%以上70%未満。					
1 児童による授業評価で「自分は役に立っている」50%未満					
4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上	3	教師が、人権感覚を磨く習慣を身に付けるとともに、児童にとって信頼される教師としての言動をさらに意識する。	一部でいじめがあるという話を聞く、今後もしっかりと取り組んで欲しい。	B	児童一人一人に目を向け、困り感に寄り添う指導を行うとともに、年3回のアンケート調査での聞き取りの時間の充実を図る。
3 児童による評価で「相談できる先生がいる」70%以上90%未満。					
2 児童による評価で「相談できる先生がいる」50%以上70%未満。					
1 児童による評価で「相談できる先生がいる」50%未満					
4 体力調査のA、B判定の合計が5割以上。	3	研究により、取り組み方の工夫が明確になってきた。各学年での確実な実施が今後の課題となってくる。	3年間の取組で、体力の向上が図られたと聞いて嬉しい。今後も引き続き取組を進めて欲しい。	A	今までの取組を、今後も引き続き本校のレガシーとして継続していく。
3 体力調査のA、B判定の合計が4割以上5割未満。					
2 体力調査のA、B判定の合計が3割以上4割未満。					
1 体力調査のA、B判定の合計が3割未満。					
4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	生活習慣に関する指導は、意識的に行うことができた。児童が身に付いたと意識させるためには、今後も継続していく必要がある。	生活習慣についても、学校と家庭の連携がよく図られていると感じている。これからも、取組を続けて欲しい。	A	年間計画に位置付けるとともに、日常生活習慣を見直す期間を設定することが効果的である。
3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。					
2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。					
1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。					
4 参加者数の平均が家庭数の8割以上。	4	計画的な学校公開日の設定により、保護者からも理解をいただき、参加人数もかなり多い。	保護者・地域の参加率が高い。関心の高さがうかがえる。先生と子供たちの関わりがよく、明るいイメージがもてる。	A	今後も、効果的な公開時期を設定するとともに、公開する学習内容の工夫に力を入れる。
3 参加者数の平均が家庭数の6割以上8割未満。					
2 参加者数の平均が家庭数の5割以上6割未満。					
1 参加者数の平均が家庭数の5割未満。					
4 保護者アンケートで「学校の資料・情報が分かりやすい」が9割以上。	2	学校だよりの分担を明確にし、自分の担当する分掌についての記事の掲載ができた。HPに関しては、十分ではなかった。	学校だよりの先生方の子供たちへの温かいまなざしと見守るが感じられる。今後も保護者・地域への発進力を高めて欲しい。	B	次年度、HPの作成分担を明確にし教員が主体的に学校の情報を提供する意識を高める。
3 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が7割以上9割未満。					
2 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が5割以上7割未満。					
1 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が5割未満。					

学校教育目標	○ よく考える子 ・ 思いやりのある子 ・ たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本を大切に し、わかる授業の実践 に努める。(授業改善・ 新学習指導要領移行 措置含む)	漢字の読み書き、四則 計算の力を定着させ る。	授業、ベーシックドリル 日常の小テスト 力試し、補習教室 宿題、サマーラボ等	4 漢字、計算の定着を90%以上図った	2
				3 漢字、計算の定着を80%以上図った	
				2 漢字、計算の定着を70%以上図った	
				1 漢字、計算の定着が70%未満	
		朝読書、読書旬間等 で意欲をため、学年相 応の図書を読ませる。	毎週月曜・金曜日の朝 読書・学級での図書館 利用・図書の貸し出し 活用・読み聞かせ	4 読書計画に基づいての実施率100%	3
				3 読書計画に基づいての実施率80%	
				2 読書計画に基づいての実施率60%	
				1 読書計画に基づいての実施率50%	
		学年相当の時間(学年 ×10分)に基づいた家 庭学習を推進させる。	自己の課題克服 グットライフ調査 宿題	4 各学年家庭学習実施率95%以上	2
				3 各学年家庭学習実施率90%以上	
				2 各学年家庭学習実施率85%以上	
				1 各学年家庭学習実施率85%未満	
豊かな心	生命を尊重し互いに認 め合える、豊かな心を 育てる。	様々な体験活動を通し て心の交流(児童・教 師)を図る。	縦割班活動・奉仕活 動・栽培活動・交流活 動	4 児童の積極的参加を100%	3
				3 児童の積極的参加を80%以上	
				2 児童の積極的参加を70%	
				1 児童の積極的参加を70%未満	
		教室・学習環境を見直 して、すべての児童に やさしい学校・学級に する。	児童理解に努め、個に 応じた指導を進める。	4 市UDチェック④～⑩項目できている	3
				3 市UDチェック⑨～⑳項目できている	
				2 市UDチェック㉑項目できている	
				1 市UDチェック㉒項目未満	
健やかな体	自分の将来を見つめ、 自らの生き方を考える 力を育てる。	児童の基礎体力の向 上を図る。	元気アップガイドや学 習カードを活用して運 動の学び方を身につ け体力をつける。	4 元気アップカードの活用 毎日	1
				3 元気アップカードの活用 週4日	
				2 元気アップカードの活用 週3日	
				1 元気アップカードの活用 週3日未満	
		健康教育、食に関する 指導を推進する。	担任の声かけ 視覚的な掲示 衛生保持・病気の対応 残さいのおにぎり換算	4 週のうち完食が3回以上	2
				3 週のうち完食が2回以上	
				2 週のうち完食が1回以上	
				1 週のうち完食が1回未満	
輝く未来	自分の将来を見つめ、 自らの生き方を考える 力を育てる。	地域の人材や教育環 境の活用を図る。	地域人材(水辺学習・昔 遊び・交流給食・職場体 験)や地域環境(施設・公 園)の活用を通して	4 地域人材・環境の活用率80%～	2
				3 地域人材・環境の活用率66%～79%	
				2 地域人材・環境の活用率50%～65%	
				1 地域人材・環境の活用率50%未満	
		基本的生活習慣の確 立を図る。 (今やるべきことの確 認)	早寝・早起き・朝ごはん	4 86%～100%教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	3
				3 71%～85%教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	
				2 60%～70%教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	
				1 60%未満の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	

評価【総括表】

・子供が 願いをもって生き生きと学習し、思いやりの心をもって明るく活動し、健康や安全に気を付けて力一杯運動している学校
・伝え合い・学び合い・高め合う子供
・教育公務員として自覚をもち、協働体制を確立し、教育活動を推進する教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 全国学力 3教科平均-3.00以内 3 全国学力 3教科平均-4.22以内 2 全国学力 3教科平均-5.45 1 全国学力 3教科平均-5.45以上	3	A・B層の割合の増加、4年5年・6年の学力調査結果から昨年度より学力の向上があった。	・今までの努力を続けて、一人でも勉強が分からない子を減らし、基礎基本を身につけることが大切である。	A	毎週水曜日を漢字・計算練習として、週二日の朝読書と合わせて総合的に学力向上を図っていく。
4 各学年の目標冊数・ページ数の達成率90% 3 各学年の目標冊数・ページ数の達成率80% 2 各学年の目標冊数・ページ数の達成率70% 1 各学年の目標冊数・ページ数の達成率60%	3	読書習週間・朝読書・読み聞かせ等の活動を通して、読書量が増えた。	・子どもの時の読書習慣の大切さを身をもって感じるからこそ、その環境整備に努力・工夫を望む。	A	教育課程内の読書環境の整備と親子図書・市立図書館の配送を活用して環境をさらに整える。
4 学校の授業は分かりやすい96%～100% 3 学校の授業は分かりやすい91%～95% 2 学校の授業は分かりやすい85%～90% 1 学校の授業は分かりやすい85%未満	3	9割以上の子どもが授業は分かりやすいと感じている。しかし、全員ではない。UDに配慮しながら努力し続ける。	・子どもたちは、楽しく授業を受けているように感じる。家庭とよく連携して進めてほしい。	A	学年×10分間の家庭学習を推進できるように家庭と連携を図っていく。
4 相談できる先生がいる 児童96%～100% 3 相談できる先生がいる 児童86%～95% 2 相談できる先生がいる 児童80%～85% 1 相談できる先生がいる 児童80%未満	3	相談できる先生(大人)いるは86%であった。様々な場所で子どもを見守っていく。	・地域行事に先生方が多く参加してくれありがたい。先生を含めて豊かな心を育てていきたい。	A	働き方改革も重要であるが、工夫することによって地域貢献をしていく。
4 学校で落ち着いて安心して生活できている91%～100% 3 学校で落ち着いて安心して生活できている81%～90% 2 学校で落ち着いて安心して生活できている75%～80% 1 学校で落ち着いて安心して生活できている75%未満	3	安全・安心な学校を構築していくために、組織対応を心がけ信頼をさらに得ていく。	・9割の保護者が落ち着いて我が子が学校生活を送っていると感じている。地域でも引き続き協力して育てていく。	A	子どもへの声かけを工夫して子どもの心に今以上に寄り添えるように一人一人の理解に努めていく。
4 体力合計点 全校平均 +1以上 3 体力合計点 全校平均 0 2 体力合計点 全校平均-0.53 1 体力合計点 全校平均-0.53未満	1	学年間格差・男女間格差が生じた。男子と中学年の体力向上をさらに図っていく。	・家庭での体力を使った手伝いがなくなった。健康教育を積極的・意図的に進めてほしい。	B	元気アップガイドの「魔法のストレッチ」「ウォーキングストレッチ」を体育の準備運動に取り入れていく。
4 給食残さい率 2.4% 3 給食残さい率 2.5% 2 給食残さい率 2.6% 1 給食残さい率 2.6%以上	3	冬季の欠席人数やメニュー(和食)によって左右される。欠席しない体力を今後さらに付けていく。	・田中小の給食はおいしい。「もったいない」を学校・家庭等でしっかりと教えていくことが大切である。	A	食の意味をしっかりと理解させ(栄養士の講話等)好き嫌いをなくしていく。食べる時間の確保。
4 自分の将来を考える 86%～100% 3 自分の将来を考える 81%～85% 2 自分の将来を考える 75%～80% 1 自分の将来を考える 75%未満	2	今やるべきことを一生懸命に取り組むことが、進路指導であり将来に通じることを徹底していく。	・地域で子どもを育てる意識は高いので、いろいろ声かけをしてほしい。学校行事にこれからも協力していく。	A	地域の環境をさらに活用して、昭島のよさを認識させ「昭島大好き」と言いえる子どもたちを育てていく。
4 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた91%～100% 3 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた84%～90% 2 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた83% 1 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた83%未満	3	生活リズムは、安定している。家庭とも連携しながら、また元気アップガイドも活用していく。	・小学生の時に家庭と協力して基本的な生活習慣をしっかりと身に付けさせることが重要である。	A	学校独自で行っている毎月の「グッドライフ調査」をしっかりと分析して、生活改善に生かしていく。

学校教育目標	○やさしく(徳) ○強く(体) ◎よく考え(知)、 手をつなぐ拝島の子供	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	学力の基礎基本である言語因子や数量因子を確実に身に付けさせるとともに、家庭学習について家庭に啓発し、家庭学習の習慣を定着させる。	学習の基礎となる「数量因子」と「言語因子」の定着と向上を図る【基礎・基本を定着させるための全校共通実践】	①国語〔言語事項〕漢字など(期末に実施する言語のワークや前年度の漢検などを活用して実施する	4 継続的に計画を80%実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的にできなかった	4
			②東京ベーシックドリルを実施する。 算数 ※ベーシックドリルがない学年は、ドリルや指標テストを作成して実施する	4 継続的に計画を80%実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的にできなかった	4
		学習習慣の定着を図る【2学期までに家庭学習のすすめ 今年度作成に基付き】	③各学年に応じた家庭学習の内容と学年×10分以上を設定して啓発を図り、家庭学習習慣を定着させる。(いきいきカードの実施等) ※補習教室、放課後子ども教室を含む	4 ほぼ毎日宿題を出して取り組ませた 3 80%以上程度ほぼ毎日宿題に取り組ませた 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的にできなかった	4
			④朝読書、図書ボランティア(図書支援員)の活用を1カ月に2度以上実施し、詩の暗唱、俳句・短歌・川柳・読み聞かせの作成に学期に2度以上は取り組む	4 計画を90%実施した 3 80%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 60%以下程度計画通り実施した	4
		主体的・対話的で深い学びの授業改善を推進する	⑤学校全体や学年等でOJTをしながら、新学習指導要領の趣旨を踏まえて「読むこと」の授業を学期に2回以上に取り組み、読解力を向上させる	4 計画を80%実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 60%以下程度計画通り実施した	4
			⑥年間一人2回以上の研究授業と授業公開に努める。(自己申告書の授業を含める) ○1学期、2学期は1回以上	4 計画を90%実施した 3 80%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 60%未満で計画通り実施した	4
	体験活動を充実させ、ユニバーサルデザインの「環境づくり」、「人間関係づくり」を推進するとともに校内委員会等の充実とQ-U調査等を活用し、児童の健全育成を図る。	体験活動を充実させるため、特別活動(縦割り班活動・学級活動・委員会等)の充実を図る	⑦年間の学校行事に特別活動をバランスよく位置付け、体験を通して心の交流を図り、尊厳のある気持ちを育てる	4 特別活動の目的を理解して取り組んだ 3 80%以上特別活動の目的を理解して取り組んだ 2 60%以上の特別活動の目的を理解して取り組んだ 1 特別活動の目的を理解して取り組むことができなかった	4
			⑧学習規律・教室環境を徹底し、聞く・話す態度を育成する。(学習の約束、教室環境の徹底を図る)	4 学習規律や教室環境を90%徹底・整備した 3 80%以上の実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 60%未満で計画通り実施した	4
		校内委員会【学年・専科】等で配慮を要する児童の対応策考え、実施する【配慮を要する児童への対応】	⑨校内委員会・学年会・専科会の充実を図り、配慮を要する児童の問題行動への支援・指導に学年単位・学校単位で組織的に対応する(一人で抱え込まない)	4 共有し、組織的に対応することができた 3 共有し、組織的にほぼ対応することができた 2 共有し、組織的にあまり対応することができた 1 共有し、組織的に対応することができなかった	3
			⑩学年・専科・管理職等と情報を共有しつつ、2学期以降学級2人程度の児童を対象に決め、よりよい学級づくりに取り組む	4 共有し、組織的に対応することができた 3 共有し、組織的にほぼ対応することができた 2 共有し、組織的にあまり対応することができた 1 共有し、組織的に対応することができなかった	3
		オリパラ教育や学校行事等に取り組み、健やかな体を増やす	⑪1カ月に1度の拝一ピック【オリパラ教育】や学校行事等を通して、運動や遊びに楽しく参加する児童を増やし、健やかな体を育成する	4 計画を90%実施した 3 80%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 60%未満で計画通り実施した	4
			⑫「いきいきカード」、「ノーマディア・チャレンジ」を活用して児童自身に早起き・早寝・朝ごはんの基本的な生活習慣を振り返らせ、家庭へ啓発を図るとともに、日常の指導へ生かす	4 継続的に計画を80%実施した 3 70%以上程度計画通り実施した 2 60%以上程度計画通り実施した 1 計画的にできなかった	4

評価【総括表】

笑顔をいっぱい、夢いっぱい、「学ぼう」とともに拝一小 ～子供も大人も笑顔、はじける学校～
拝一小の「やる気っ子」【学習意欲が高い子】、「勇気っ子」【正義感をもつ子】、「元気っ子」【活躍できる子】
教師全員が拝一小の子供の担任と自覚し、「分かる」「できる」「楽しい」つまり「学びがい」のある授業を目指す教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 定着率が平均75点以上だった	4	反復練習をしたり、計画的な小テストに取り組んだことで定着率が向上した。	繰り返し学習することで身に付いてきているが、引き続き上を目指して欲しい。	A	継続して取り組むとともに、小テストの合格点を高めるなどをして意欲の向上を図る。
3 定着率が平均65点以上だった					
2 定着率が平均50点以上だった					
1 定着率が平均50点未満だった					
4 定着率が平均65点以上だった	4	計画的に取り組むとともに、家庭にも協力してもらい定着率が向上しているが、学力差が大きく指導の工夫も必要である。	個人差の開きが気になる。児童の意欲の向上と保護者との連携向上のためにさらに工夫して欲しい。	A	継続して取り組むとともに、当該学年の学習内容の定着も図れるように工夫する。
3 定着率が平均55点以上だった					
2 定着率が平均45点以上だった					
1 定着率が平均45点未満だった					
4 目安時間の家庭学習が身に付いた児童が80%以上いた	3	リーフレットの作成は、3学期になったが、宿題の提出率が上がり、意識の向上が見られる。学年×10分は家庭により差が大きかった。	児童の意識のアップを感じているが、保護者会の参加率を上げるなどの工夫が必要ではないか。	B	家庭学習のすすめを活用するとともに、自主学習に取り組ませ家庭学習の時間の定着を図っていく。
3 目安時間の家庭学習が身に付いた児童が70%以上いた					
2 目安時間の家庭学習が身に付いた児童が60%以上いた					
1 目安時間の家庭学習が身に付いた児童が60%以下いた					
4 児童の90%以上が取り組めた。	4	読書や俳句の作成等の活動は、年間を通じて取り組むことができた。ただ、語彙力の向上が現れるには時間が必要である。	朝読書、図書ボランティア、音読の宿題等本を読む環境づくりはできていると思う。	A	継続して取り組むとともに校内研究で取り組んでいるMIMも活用し、語彙力の向上を図っていく。
3 児童の80%以上が取り組めた。					
2 児童の70%以上が取り組めた。					
1 児童の70%未満が取り組めた。					
4 読解力が70%以上の児童に付いてきた	4	校内研究で取り組んでいることもあり、読解力は向上してきているが、個人差が大きい。	読み解く力は低く感じる。集中力の低さも関係しているように思う。できない児童への対応をお願いしたい。	A	継続して指導するとともに、論述や表現の指導へと繋げていきたい。
3 読解力が60%以上の児童に付いてきた					
2 読解力が50%以上の児童に付いてきた					
1 読解力が50%未満の児童に付かなかった					
4 主体的に授業に取り組む児童が90%以上だった	3	授業改善を意識して行っているが、まだ主体的に取り組めない児童がいる。個人差にどのように対応するかが課題である。	個人差が大きい。教師の声掛け(褒める)によって自信を付けさせて欲しい。	B	体験的な活動を多く取り入れ、教材研究に努め必然性のある発問を工夫したりするなど授業改善に努める。
3 主体的に授業に取り組む児童が80%以上だった					
2 主体的に授業に取り組む児童が70%以上だった					
1 主体的に授業に取り組む児童が70%未満だった					
4 協力し助け合って活動する児童が80%以上になった	4	各行事を通して児童の成長を見ることができたが、主体的に協力するには継続した指導が必要である。	行事で活動している児童はいきいきしている。交流で、思いやり優しい気持ちをもつ児童が増えている。	A	6年生に依存する場面が多かったので、縦割り活動では5年生に役割を与える。学級・学年で少人数で活動する機会を増やしていく。
3 協力し助け合って活動する児童が70%以上になった					
2 協力し助け合って活動する児童が60%以上になった					
1 協力し助け合って活動する児童が60%未満だった					
4 最後まで話を聞く態度の児童が90%以上だった	3	学習規律は高まってきているが理解できていない。集中力が続かない児童が見られた。	UDの取組は素晴らしい。集中力のなさが目立つクラスがいくつかある。集中できない児童は保護者に実態を見てもらいたい。	B	UDの取組の共通理解を再度図るとともに分かりやすい話し方を工夫する。また、家庭との連携も図っていく。
3 最後まで話を聞く態度の児童が80%以上だった					
2 最後まで話を聞く態度の児童が70%以上だった					
1 最後まで話を聞く態度の児童が70%未満だった					
4 配慮を要する児童に対応することができた	3	情報共有は十分にできていたが、支援体制も確立しているが、支援が必要な児童全てに十分な対応ができたとは言えない。	学校、家庭、地域で協力しているところが素晴らしい。職員同士の連携をさらに高めて欲しい。	A	コーディネーターとの連携を密にするとともにケース会議を充実したり、専門家の方の話を聞いたりしながら対応を充実させていきたい。
3 配慮を要する児童にほぼ対応することができた					
2 配慮を要する児童にあまり対応することができた					
1 配慮を要する児童に対応することができなかった					
4 対象児童に対応することができた	3	個々の課題に寄り添い対応し、行事等で成果が見られたが、QUの結果について専科との情報共有が十分でなかった。	多様性を認め合う土壌を作り出すようお願いしたい。全ての児童が満足できる学級づくりはとてもよいこと。	A	学年だけでなく専科とも情報共有をし、一貫した個別支援を意識的に取り組んでいく。
3 対象児童に対応することがほぼできた					
2 対象児童に対応することがあまりできなかった					
1 対象児童に対応することができなかった					
4 児童の80%以上が取り組めた	4	元気アップカードを活用しながら計画的に取り組むことができ、児童も意欲的に参加していた。	拝一ピックは自分の成長を感じる行事だと子供が話していた。運動や遊びが学習への意欲につながるとうい。	A	意欲の向上が更に図れるよう声かけをし、らんランタイムでは、タイムを計るなどの工夫をする。
3 児童の70%以上が取り組めた					
2 児童の60%以上が取り組めた					
1 児童の70%未満が取り組めた					
4 児童の90%以上が取り組めた	4	意識付けはできたが、普段の生活習慣に結び付いていない。SNSの使い方を含め家庭への啓発が必要。	生活習慣は家庭環境に責任があるので、保護者への啓発と連携を図っていただきたい。	A	家庭への啓発を促進するとともに、自分の生活習慣を見つめ直す機会を設け、自発的な生活習慣の改善を促していく。
3 児童の80%以上が取り組めた					
2 児童の70%以上が取り組めた					
1 児童の70%未満が取り組めた					

学校教育目標	◎よく考える子(知) ○心ゆたかな子(徳) ○元気な子(体)	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	分かる・できる喜びを味わわせる授業を創造し、児童に基礎的・基本的な内容の定着を図る。	継続的な学習により学習技能を高める。	年3回の全校統一の習熟度調査、東京ベシッドリルの取組を行う。	4 取組意欲85%以上	3
				3 取組意欲70%以上	
				2 取組意欲50%以上	
				1 取組意欲50%未満	
		「昭島市教育委員会研究指定校」として、アクティブラーニングの視点からの授業改善を推進する。	国語科を中心に、主体的・対話的な深い学びの場を設定する。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		司書教諭を中心に読書環境を整備する。	読書旬間、読み聞かせ、お薦めの本紹介等工夫した取組を充実する。	4 全教員が意識して行った。	4
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
豊かな心	毎日の登校に喜びを感じる学校生活を創造し、互いの人権を尊重し合い、認め合い、思いやりの心をもって実践する児童を育てる。	すべての児童が安心して登校できる学校にする。	研修により、教職員の人権感覚を磨く。他者のよいところを見付け、認める指導を進める。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		生活指導部を中心に規範意識を高揚させる。	「二小の約束」に基づく生活指導を全校体制で進める。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		生活指導・保健部を中心に基本的生活習慣を確立させる。	ふれあい月間を強化月間とした挨拶運動を進める。	4 全教員が意識して行った。	4
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
健やかな体	自ら健康増進と体力向上に取り組む児童を育てる。	「オリンピック・パラリンピック教育推進校」として、一人一人の運動意欲の向上を図る。	様々な運動に親しませる場を設定し、スポーツを振興する。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		大学の研究機関を活用して運動意欲の向上を図る。	ライフコーダ調査を生かし、運動意欲の向上を図る。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		体力テストを生かした体力向上の取り組みを進める。	体力テスト結果を分析し、10月期に2回目の体力テストを実施する。	4 100%計画通りに実施できた。	4
				3 80%計画通りに実施できた。	
				2 70%計画通りに実施できた。	
				1 計画通りにできなかった。	
輝く未来	児童一人一人が夢と希望をもち、自立的に未来を切り開く意欲と態度を育てる。	校庭の芝生等を生かし、環境学習を実施する。	地球環境に配慮した取組を実施する。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		外部人材を活用し、人とかかわりの中で学ぶ機会を充実させる。	ゲストティーチャーを活用した体験活動を実施する。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		体験活動を充実させ、様々な教育課題への関心・意欲を高める。	地域企業の協力を仰ぎ、将来の進路を意識できる学習を実施する。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	

評価【総括表】

(次ページに拡大版有り)

○児童の確かな学力と自己実現に向かう力を育てる学校	○一人一人が大切にされ、安全で安心な生活を保障する学校	○保護者及び地域から信頼され、共に歩む学校	○教職員が組織一丸となって教育活動を創り上げる学校
○自ら学び、考え行動する児童			
○自分を見つめ、思いやりの心をもって実践する児童			
○進んで心と体を鍛える児童			
○児童に学ぶ楽しさを伝え、授業力の向上に励む教職員			
○常に児童理解に努め、一人一人の児童にやる気と居場所を与える教職員			
○保護者の不安・悩みや要望等を受け止め、家庭及び地域と連携・協働する教職員			
○組織の一員としての自覚をもち、組織として職務を推進する教職員			

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 習得率85%以上	4	取組：今まで通り各学年で朝学習の時間を利用して、国語・算数の基礎的内容の習熟に努めてきた。 成果：結果は-3ポイントとなったが、横ばい・とで高い水準にとどまっている。 課題：一層の習得率向上のための方策の検討と実施	年度末の授業改善プラン作成において、12月実施の市学力調査の結果も受けて、客観的に実施を分析し、改善策を即実施していくとともに、次年度において担任間の引き継ぎを徹底して行う。	A	各学力調査の分析を基にした改善策をホームページにも掲載し、地域保護者と協働で学力向上に対する取組を推進する。
3 習得率70%以上					
2 習得率50%以上					
1 習得率50%未満					
4 新しい考え方を発見したと意識できる児童80%以上	4	取組：全教職員が今年度の国語科の研究発表も意識しつつ、道徳科はもとより、教科全般において主体的・対話的な学習を実践し、深い学びができるように実践してきている。 成果：主体的・対話的で深い学びが実現できるように教師が意識し、続けて授業を実践していった。 課題：毎時間、児童に主体的・対話的で深い学びをさせることができなかったこと。	今後も、より一層、主体的・対話的で深い学びが実現できるように教師が意識し続けて授業の準備や教材研究を進めていく。また、その時間の確保のために、会議の精選をし、教師がじっくりと授業準備に時間をかけることができるようにしていく。	B	様々な場で研究の振り返りをする中で、日常の授業において児童に身に付けさせるべき力として「言葉の力で自分の思いを伝えられる」ことがあげられた。目指すべき児童像を意識した取組も充実させていく。
3 新しい考え方を発見したと意識できる児童60%以上					
2 新しい考え方を発見したと意識できる児童50%以上					
1 新しい考え方を発見したと意識できる児童50%未満					
4 読書が好きな児童85%以上	4	取組：毎学期、読書旬間を設定してきた。また、司書教諭や委員会活動によって、常に図書室をより読書環境として整備されている。 成果：読書の好きな児童が、中間評価同様に高い割合である。 課題：読書が好きではない児童が若干名いる。それらの児童に対しての具体的な対応。	概ね本校児童は読書が好きな児童の割合が高いが、好きではない児童に対しては、貸し出し履歴等を活用して、図書担当、司書教諭、担任が連携して読みやすい本や関心を持てそうな本を積極的に紹介していくなどの具体的な方策を検討していく。	A	読書を好む児童の割合が上がるなど様々な取組の成果は出ているが、児童相互の働きかけによる読書の推進にも力を入れていく。これまで教員が行っていた「本の紹介」や「読み聞かせ」についても参画の場を増やしていく。
3 読書が好きな児童60%以上					
2 読書が好きな児童50%以上					
1 読書が好きな児童50%未満					
4 いじめ・暴力の発生件数0件	4	取組：全教職員が道徳の年間指導計画を基に、命の大切さや人権の大切さを児童に指導してきているとともに、管理職から、人権感覚を教師自身が身にできるように研修等を随時取り入れている。さらに、いじめ調査を実施し早期発見・解決に努めてきている。 成果：社会通念上いじめ発生件数が0件であった。 課題：法令上のいじめは依然ある。	今後も社会通念上のいじめのみでなく、法令上のいじめも0件になるように、継続して指導に当たるとともに、早期発見、解決につなげていくようにアンケート調査を有効に活用していく。また、今まで以上にSCとも緊密に連携を図り、児童が安心して通える学校づくりを全教職員で作っていくようにする。	A	法令上のいじめは全てあげ、改善策を打ち立てるだけでなく、解決する過程についても教員間で共有し、児童が安心して過ごせる環境作りを推進していく。
3 いじめ・暴力の発生件数1件					
2 いじめ・暴力の発生件数2件					
1 いじめ・暴力の発生件数3件					
4 きまりを守っていると感じる児童85%以上	3	取組：二小の約束を全学年に配布して定着を図ってきた。 成果：児童・教職員ともに、概ね高い結果となっている。また、決まりを守る児童が多いこともあって、生活指導上の問題発生件数は少ない状態である。 課題：継続的に二小の約束の確認し、児童により定着させる。	隔週実施する生活指導連絡会において、二小の約束の一部を計画的に教職員間で確認し、児童に一層浸透させていくことができるようにする。	B	様々な方々の意見の中で、「きまりを守ろうとする」児童の努力を積極的に広めていくことも大切であるといことが出された。一人一人の児童理解を深めるために努力するべきことである。
3 きまりを守っていると感じる児童70%以上					
2 きまりを守っていると感じる児童60%以上					
1 きまりを守っていると感じる児童60%未満					
4 自ら挨拶しようとする児童85%以上	4	取組：たてわり班によるあいさつ運動すっきりカード活用による家庭との連携 成果：「挨拶は気持ちがいい」という発言が聞かれるなど、数値のみでない成果も散見される。 課題：児童による自発的な活動に発展させる。	今後もこの高い数値を維持できるように、現在の取組を確実に継続させていく。	A	更に取組の効果を高めるために児童会に提案の機会を設け、すすんで参画し、社会とかわかる児童を育成していく。
3 自ら挨拶しようとする児童70%以上					
2 自ら挨拶しようとする児童60%以上					
1 自ら挨拶しようとする児童60%未満					
4 保護者満足度75%以上	4	取組：オリンピック陸上代表監督による指導、パラリンピックスポーツの体験等の実施。 成果：体験的な活動を通して、熱心に運動に取り組む児童の姿が多く見られた。 課題：まだ、未実施の学年があるため、今後の取組を待つ。	体験活動が最も、児童の運動やオリンピック・パラリンピックへの関心の高まりにつながることが分かった。よって、31年度にも継続してより多くの体験活動を実施していく。	B	外部の教育力の活用も更に推進していく。「夢・未来プロジェクト」の実施も視野に入れ、取組の効果を高めていく。
3 保護者満足度60%以上					
2 保護者満足度50%以上					
1 保護者満足度50%未満					
4 体力がついたことを実感する児童85%以上	4	取組：ライフコーダの実施による、食生活・運動生活の実感を児童一人一人ができるようにした。 成果：児童が自分自身の運動や生活の課題を数値を基に具体的に把握できた。また、体力テストの結果を基に、自己の運動能力の高まりを理解できた。 課題：跳躍力、投力に課題が見られた。	体力向上を目指し、「元氣アップカード」を基に、継続して教師が指導にあたるとともに、児童が様々な運動経験ができる場の設定を行っていく。また、その取組が一過性のものにならないよう配慮することが肝要である。	A	大学の研究機関と連携した調査の結果分析についてもホームページにて発信をし、地域・保護者と協働で取り組んでいく。
3 体力がついたことを実感する児童70%以上					
2 体力がついたことを実感する児童60%以上					
1 体力がついたことを実感する児童60%未満					
4 体力テスト都の平均以上	3	取組：1学期の体力テストの結果を基に、課題を抽出して2回目を実施した。テスト結果は、都平均を上回る学年はあったものの全体として、都平均から-1ポイントであった。 成果：2回目を実施したことで、ほぼ縦割りの肥満が向上した。 課題：より一層、総合的な体力向上を目指した継続的な取り組みの実施が必要である。また、児童間で運動能力の二極化が生まれている。	総合的な体力向上を目指した継続的な取り組みの実施が必要であることから、「元氣アップカード」を活用した取組を推進していく。	B	授業での取組、運動の場の保証だけでなく、食生活や質の良い睡眠、望ましい生活習慣の維持など通した体力向上という視点で取組をすすめていく。
3 体力テスト都平均より0～3ポイント下回る					
2 体力テスト都平均より3～5ポイント下回る					
1 体力テスト都平均より5ポイント以上下回る					
4 100%計画通りに実施できた。	2	取組：各学年において、生活科・総合的な学習の時間・理科・社会において環境をテーマにした授業を展開してきた。また、実践的な取り組みとして、地域清掃を全学年が実施した。 成果：全学年が環境をテーマにした授業、地域清掃を実施できた。 課題：児童がより環境問題を意識して実践につなげていくように指導していく。	環境問題を児童がより身近に感じ、改善に向けた実践意欲が高まっていくように、指導を改善していく。	B	身近な地域の環境保全・保護にも関心をもちたせる。近隣に見られる絶滅危惧種の植物の保存など、身近なことにも関心をもちよう、発信を続けていく。
3 80%計画通りに実施できた。					
2 70%計画通りに実施できた。					
1 計画通りにできなかった。					
4 100%計画通りに実施できた。	3	取組：外部人材の活用計画を年度初めに作成し、現在一部変更はあるものの活用は順調にすすんでいる。 成果：計画通り進んでいる。 課題：ゲストティーチャーとの事前打ち合わせの時間の十分な確保	その分野において秀でた外部人材の活用は教育的効果が高いため、今後も継続していく。さらに効果を高めるために教員とGTとの事前打ち合わせの時間を十分に確保するよう努めていく。	B	外部人材の活用は効果的に行えたが、招聘した外部人材が他の人材を紹介して下さることがあった。来年度以降は、事前にそれを把握した上で計画し、指導の効果を高めていく。
3 80%計画通りに実施できた。					
2 70%計画通りに実施できた。					
1 計画通りにできなかった。					
4 100%計画通りに実施できた。	3	取組：地域の企業を巻き込んだ授業は3実施できた。 成果：計画通り進めるとともに、児童が学習課題に対して深く考えようという意識が生まれた。 課題：地域企業の協力を創りだす授業において、将来の進路について、児童が意識することはできつつあるが、具体的な実践に結び付けていくことができるように今後の取組が必要となる。	今後も、地域企業の協力を仰いだ授業では、教員が将来の進路について児童が考えることができる機会を意図的に作っていくことで、児童が自らの将来の進路を考える素地を与えられるようにしていく。	B	AIの発達、少子高齢化に向け、自分たちができることを地域企業とともに考え、自ら計画・立案できるような活用の仕方を計画していく。
3 80%計画通りに実施できた。					
2 70%計画通りに実施できた。					
1 計画通りにできなかった。					

ビジョン	【目指す学校像】	○児童の確かな学力と自己実現に向かう力を育てる学校 ○一人一人が大切
	【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、考え行動する児童 ○自分を見つめ、思いやりの心をもって実
	【目指す教師像】	○児童に学ぶ楽しさを伝え、授業力の向上に励む教職員 ○常に児童理解に努め、一人一人の近

自己評価結果の分析	
取組:今まで通り各学年で朝学習の時間を利用して、国語・算数の基礎的内容の習熟に努めてきた。 成果:結果は・3ポイントとなったが、横ばいなどで高い水準にとどまっている。 課題:一層の習得率向上のための方策の検討と実施	
取組:全教職員が今年度の国語科の研究発表も意識しつつ、国語科はもとより、教科全般において主体的・対話的な学習を実践し、深い学びができるように実践してきている。 成果:主体的・対話的で深い学びが実現できるように教師が意識し続けて授業を実践してきた。 課題:毎時間、児童に主体的・対話的で深い学びをさせることができなかったこと。	
取組:毎学期、読書旬間を設定してきた。また、司書教諭や委員会活動によって、常に図書室をよい読書環境として整備されている。 成果:読書の好きな児童が、中間評価同様に高い割合である。 課題:読書が好きではない児童が若干名いる。それらの児童に対しての具体的な対応。	
取組:全教職員が道徳の年間指導計画を基に、命の大切さや人権の大切さを児童に指導してきているとともに、管理職から、人権感覚を教師自身が向上できるように研修等を随時取り入れてきた。さらに、いじめ調査を実施し早期発見・解決に努めてきている。 成果:社会通念上のいじめ発生件数が0件であった。 課題:法令上のいじめは依然ある。	
取組:二小の約束を全学級に配布して定着を図ってきた。 成果:児童・教職員ともに、概ね高い結果となっている。また、決まりを守る児童が多いこともあってか、生活指導上の問題発生件数は少ない状態である。 課題:継続的に二小の約束の確認し、児童により定着させる。	
取組:たてわり班によるあいさつ運動すっきりカード活用による家庭との連携 成果:「挨拶は気持ちがいい。」という発言が聞かれるなど、数値のみでない成果も散見さる。 課題:児童による自発的な活動に発展させる。	
取組:オリンピック陸上代表監督による指導、パラリンピックススポーツの体験等の実施。 成果:体験的な活動を通して、熱心に運動に取り組む児童の姿が多く見られた。 課題:まだ、未実施の学年があるため、今後の取組を待つ。	
取組:ライフコーダの実施による、食生活・運動生活の実態を児童一人一人ができるようにした。 成果:児童が自分自身の運動や生活の課題を数値を基に具体的に把握できた。また、体力テストの結果を基に、自己の運動能力の高まりを理解できた。 課題:跳躍力、投力に課題が見られた。	
取組:1学期の体力テストの結果を基に、課題を抽出して2回目を実施した。テスト結果は、都平均を上回る学年はあったものの全体として、都平均から一2ポイントであった。 成果:2回目を実施したことで、立ち幅跳びの記録が向上した。 課題:より一層、総合的な体力向上を目指した継続的な取り組みの実施が必要である。また、児童間で運動能力の二極化が生まれている。	
取組:各学年において、生活科・総合的な学習の時間・理科・社会において環境をテーマにした授業を扱ってきた。また、実践的な取り組みとして、地域清掃を全学年が実施した。 成果:全学年が環境をテーマにした授業、地域清掃を実施できた。 課題:児童がより環境問題を意識して実践につなげていけるように指導していく。	
取組:外部人材の活用計画を年度初めに作成し、現在一部変更はあるものの活用は順調にすすんでいる。 成果:計画通り進んでいる。 課題:ゲストティーチャーとの事前打ち合わせの時間の十分な確保	
取組:地域の企業を巻き込んだ授業はほぼ実施できた。 成果:計画通り進むとともに、児童が学習課題に対して深く考えるよい手立てとなった。 課題:地域企業の協力を仰いだ授業において、将来の進路について、児童が意識することはできつつあるが、具体的な実践に結び付けていくことができるように今後の取組が必要となる。	

にされ、安全で安心な生活を保障する学校□ ○保護者及び地域から信頼され、共に歩む学校	○教職員が組織一丸となって教育活動を創り上げる学校
実践する児童 ○進んで心と体を鍛える児童	
児童にやる気と居場所を与える教職員□保護者の不安・悩みや要望を受け止め、家庭及び地域と連携・協働する教職員	○組織の一員としての自覚をもち、組織として職務を推進する教職員

学校関係者評価	評価	次年度への改善策
年度末の授業改善プラン作成において、12月実施の市学力調査の結果も受けて、客観的に実態を分析し、改善策を即実施していくとともに、次年度において担任間の引き継ぎを徹底して行う。	A	各学力調査の分析を基にした改善策をホームページにも掲載し、地域保護者と協働で学力向上に対する取組を推進する。
今後も、より一層、主体的・対話的で深い学びが実現できるように教師が意識し続けて授業の準備や教材研究を進めていく。また、その時間の確保のために、会議の精選をし、教師がじっくりと授業準備に時間をかけることができるようにしていく。	B	様々な場で研究の振り返りをする中で、日常の授業において児童に身に付けさせるべき力として「言葉の力で自分の思いを伝えられる」ことがあげられた。目指すべき児童像を意識した取組も充実させていく。
概ね本校児童は読書が好きな児童が割合が高いが、好きではない児童に対して、貸し出し履歴等を活用して、図書担当、司書教諭、担任が連携して読みやすい本や関心を持ってそうな本を積極的に紹介していくなどの具体的方策を検討していく。	A	読書を好む児童の割合が上がるなど様々な取組の成果は出ているが、児童相互の働きかけによる読書の推進にも力を入れていく。これまで教員が行っていた「本の紹介」や「読み聞かせ」についても参画の場を増やしていく。
今後も社会通念上のいじめのみでなく、法令上のいじめも0件になるように、継続して指導に当たるとともに、早期発見、解決につなげていけるようにアンケート調査を有効に活用していく。また、今まで以上にSCとも緊密に連携を図り、児童が安心して通える学校づくりを全教職員で作っていくようにする。	A	法令上のいじめは全てあげ、改善策を打ち立てるだけでなく、解決する過程についても教員間で共有し、児童が安心して過ごせる環境作りを推進していく。
隔週実施する生活指導連絡会において、二小の約束の一部を計画的に教職員間で確認し、児童に一層浸透させていくことができるようにする。	B	様々な方々の意見の中で、「きまりを守ろうとする」児童の努力を積極的に広めていくことも大切であるということが出された。一人一人の児童理解を深めるためにも努力するべきことである。
今後もこの高い数値を維持できるように、現在の取組を確実に継続させていく。	A	更に取組の効果を高めるために児童会に提案の機会を設け、すすんで参画し、社会とかかわる児童を育成していく。
体験活動が最も、児童の運動やオリンピック・パラリンピックへの関心の高まりにつながる事が分かった。よって、31年度にも継続してより多くの体験活動を実施していく。	B	外部の教育力の活用も更に推進していく。「夢・未来プロジェクト」の実施も視野に入れ、取組の効果を高めていく。
体力向上を目指し、「元気アップカード」を基に、継続して教師が指導にあたるとともに、児童が様々な運動経験ができる場の設定を行っていく。また、その取組が一過性のものにならないよう配慮することが肝要である。	A	大学の研究機関と連携した調査の結果分析についてもホームページにて発信をし、地域・保護者と協働で取り組んでいく。
総合的な体力向上を目指した継続的な取り組みの実施が必要であることから、「元気アップカード」を活用した取組を推進していく。	B	授業での取組、運動の場の保証だけでなく、食生活や質の良い睡眠、望ましい生活習慣の維持などを通じた体力向上という視点で取組をすすめていく。
環境問題を児童がより身近に感じ、改善に向けた実践意欲が高まっていくように、指導を改善していく。	B	身近な地域の環境保全・保護にも関心をもたせる。近隣に見られる絶滅危惧種の植物の保存など、身近なことにも関心をもてるよう、発信を続けていく。
その分野において秀でた外部人材の活用は教育的効果が高いため、今後も継続していく。さらに効果を高めるために教員とGTとの事前打ち合わせの時間を十分に確保するよう努めていく。	B	外部人材の活用は効果的に行えたが、招聘した外部人材が他の人材を紹介して下さることがあった。来年度以降は、事前にそれを把握した上で計画し、指導の効果を高めていく。
今後も、地域企業の協力を仰いだ授業では、教員が将来の進路について児童が考えることができる機会を意図的に作っていくことで、児童が自らの将来の進路を考える素地を与えられるようにしていく。	B	AIの発達、少子高齢化に向け、自分たちができることを地域企業とともに考え、自ら計画・立案できるような活用の仕方を計画していく。

学校教育目標	◎かしこく 《平成29～31年度重点目標》 ○やさしく ○つよく	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	学校体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底 ②朝学習の週4回実施 ③補習活動の充実 ④ICT機器の活用	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4
				3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
				2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
		ESD及び21世紀型学力を探究し、生活科・総合的な学習の時間に関する指導法の研究を進めます。	①校内研究会(年間20回) ②授業実践研究(年間7回) ③研究発表会(全学年学級)	1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4
				4 7割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	
				3 6割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	
		新学習指導要領に基づき、本実施及び移行措置を確実に進めます。	①週の指導計画確認(45回) ②授業観察・指導(2回) ③OJT研修(年間11回)	2 5割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	3
				1 4割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	
				4 全ての教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
豊かな心	学校体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	いじめや不登校の撲滅に向けて、未然防止の指導と即時対応の体制を整え徹底を図ります。	①生活スタンダードの徹底 ②いじめ対策PTの設置 ③いじめガイドラインの見直し	3 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	4
				2 7割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
				1 6割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
		道徳の教科化を踏まえ、道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4
				3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
				2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
		家庭読書の啓発と1学級1栽培・1飼育活動に取り組めます。	①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③保護者による読み聞かせ活動(年5回程度)	1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	3
				4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
				3 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
健やかな体	学校体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入(毎時間) ③運動週間(年3回)	2 7割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	4
				1 6割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
				4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った	3
		保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	3 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
				2 7割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
				1 6割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	4
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(11回) ③安全指導日の指導(11回)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った	
				3 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
				2 7割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
輝く未来	学校体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(4・5月) ②学級会活動(年10回以上) ③課題解決型学習の重視	1 6割の教職員が、安全指導を計画的に行った	4
				4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った	2
				3 8割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った	
		ハイパーQUやプログラムアドベンチャー、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用(2回) ②PAの活用(年5回以上) ③SCの全員面談(高学年)	2 7割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った	4
				1 6割の学級担任が、学級会活動を10回以上行った	
				4 全ての学級担任が、PAを5回以上行った	4
		自然環境や社会環境、人に関わる体験活動を充実させ積極的に自己表現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回) ③宿泊行事の充実(高学年)	3 8割の学級担任が、PAを5回以上行った	
				2 7割の学級担任が、PAを5回以上行った	
				1 6割の学級担任が、PAを5回以上行った	

【総括表】

(次ページに拡大版有り)

「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…〇子供にとって安全・安心な学校	〇教職員が互いに高め合う学校	〇保護者や地域とともに子供を育む学校
「あい」のある子供…〇じっくり考え、学び合う子供	〇目で見つめ心でみつめ、思い合う子供	〇運動で体を動かし、鍛え合う子供
「い」のある教職員…〇imagination(戦略的想像力)のある職員	〇innovation(革新性)のある教職員	〇identity(共同体意識)のある教職員

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査A平均正答率が、都比-1P・	3	4教科の学力Aの平均値は、対都平均H30は1.7pである。H29の-2.1pと比して上昇傾向にあり、確実に改善している。 ➡児童・保護者変化なし 教職員の肯定的評価95P以上	基礎・基本の学力の中でもとりわけ言語能力の育成に重点を置いたことはよかった。	B	学力向上の教職員の認識とそのための手立てが学校として整い、成果に繋がってきた。引き続き学力PTを中心に推進する。
3 学力調査A平均正答率が、都比-2P					
2 学力調査A平均正答率が、都比-3P					
1 学力調査A平均正答率が、都比-4P					
4 学力調査B 平均正答率が、都比-1P	2	4教科学力Bの平均値は、対都平均でH30は-3.1pである。H29の-5.2pと比して、上昇傾向にある。 ➡児童・保護者やや上昇 教職員の肯定的評価95P以上	新しい教育観に正対し、組織的に指導力の育成を図ろうとする学校の取組をすばらしく感じる。	A	校内研究により、本校の教育目標と児童像を教職員が共有し、そのための指導を整えることができた。同時に、新学習指導要領の理解を深めた。
3 学力調査B平均正答率が、都比-2P					
2 学力調査B平均正答率が、都比-3P					
1 学力調査B平均正答率が、都比-4P					
4 学力調査B 平均正答率が、都比-1P	2	全国学力・学習状況調査では、全国平均値を上回るが、対都平均値には達していないものもある。学力Aでは、国語-1.0p、算数0.0p、学力Bでは、国語-1.0p、算数-3.0pである。 ➡教職員の肯定的評価95P以上	「外国語」の導入や「特別の教科 道徳」の実施など、教職員の負担が増すことを懸念する。	B	学年間の差は解消傾向にある。一方、学年内の学級差がやや目立つ。研究研修部を中心に、OJTを改善し、主任教諭による若手教諭の指導育成の方法を整えていく。
3 学力調査B平均正答率が、都比-2P					
2 学力調査B平均正答率が、都比-3P					
1 学力調査B平均正答率が、都比-4P					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	4	社会通念上のいじめ(2件--2件)及び不登校の出現状況(2人--1人)は減少傾向にある。 ➡児童・保護者変化なし 教職員の肯定的評価95P以上	生活スタンダードは、本校だけではなく第二小学校や拝島中学校と共通にするとうい。	A	いじめ対策会議を中心に早期発見・即刻介入・完全解決を期す。いじめや不当の未然防止、予防のための手立てを生活指導部を中心に整えていく。
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数変化なし					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	4	評価のOJTを5月に実施した。道徳授業地区公開講座で、「特別の教科道徳」の趣旨に則った指導を進めた。	これまでの道徳の時間との違いをより明確に説明したほうがよい。特にいじめ予防の観点から指導を進めてほしい。	A	「特別の教科 道徳」の指導法の改善を進める。特に、採択教科書の活用方法や評価方法に関してOJTを行う。
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4 全ての子供が、個人での図書室利用回数20回以上	3	週3日以上読書に取り組む児童の割合が62パーセントと低位にあり、読書離れの傾向は十分に改善できているとはいえない。	家庭における読書習慣の形成は課題であるが、読書でしか育めない学力があると思う。引き続き学校との協働を進めてほしい。	B	家庭での読書習慣の形成を重点に啓発活動を進める。保護者による読み聞かせの取組は継続する。
3 8割の子供が、個人での図書室利用回数20回以上					
2 7割の子供が、個人での図書室利用回数20回以上					
1 個人での図書室利用回数20回以上の学級が5割以下					
4 8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	3	運動能力調査では、6学年中4学年で都の平均値を越え、学校全体では上昇傾向にある。 ➡教職員の肯定的評価95P以上	人生100年プランの時代である。健康促進と体力維持は必須の要件と捉え、力強く進めてほしい。	B	体力向上プランを改訂し、全学年学級で補強運動(毎時間)の導入し、実施した。引き続き体育的行事委員会を中心に指導法の改善を図っていく。同時に、オリパラ教育の一層の推進を図る。
3 7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
1 運動能力調査都平均値を上回る学級が5割以下					
4 8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	3	保健室の来室者数および怪我の修験状況は減少してきているが、医療機関への受診数は増加した。	SNSやゲーム機の早期利用が、子供の健康や体力に影響しているのではないかと心配である。体力向上プランの取組は	B	保健指導計画を改め保健安全指導計画の策定を行う。保健安全部を中心に、保健管理マニュアルの改定を進める。
3 7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
1 5割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	4	A評価は+25P改善した。PTAとの通学路の危険箇所点検や、自治会との合同防災訓練の実施など新規事業を実施した。	地域との第1回合同防災訓練は有意義であった。次年度も継続して実施してほしい。	A	危機管理マニュアルの改訂と安全指導及び避難訓練の全体指導計画の全面改訂を進める。
3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					
4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	3	学級会活動を計画的に進める学級が増えた。特別活動におけるキャリア教育や勤労・奉仕的活動については課題が残る。 ➡教職員の肯定的評価95P以上	話し合いで問題を解決する業は民主主義の根幹であり、そのための力を十分に学校教育で育んでほしい。	B	学級活動の時間の指導について、更に資料提供や研修を進め、その充実を促していく。キャリア教育、国際理解教育に関する新たな単元開発を進める。
3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
2 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下					
1 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	2	児童による学校評価で、「学校に相談する先生がいますか」の項目でA評価が+1P(B評価が+4P)改善した。	人間のコミュニケーションの基本は、やはり挨拶だろう。学校は、人としての社会性の基礎を粘り強く育てていってほしい。	C	特別支援教室巡回相談員を中心に、学級集団形成に関する研修および個の支援に関する研修を計画しを実施していく。PAIに関する研修を複数回実施する。
3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし					
4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P	4	児童による学校評価で、「学校で学んだことを生活の中で生かしているか」の項目でB評価は+3P改善した。	外部と繋がる新たなカリキュラムを開発し続ける学校の姿勢をすばらしく思う。	A	体験活動や人と関わる新たな単元の開発を鋭意進めている。また、学習指導要領の意向に伴い、特別活動、学校行事の全面的な見直しを進める。
3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし					

ビジョン	【目指す学校像】	「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…〇子供
	【目指す児童像】	「あい」のある子供…〇じっくり考え、学び合う子供 〇目で見つめ心でみ
	【目指す教師像】	「i」のある教職員…〇imagination(戦略的想像力)のある職員 〇innovat

自己評価結果の分析
4教科の学力Aの平均値は、対都平均H30は1.7pである。H29の-2.1pと比して上昇傾向にあり、確実に改善している。 ➡児童・保護者変化なし 教職員の肯定的評価95P以上
4教科学力Bの平均値は、対都平均でH30は-3.1pである。H29の-5.2pと比して、上昇傾向にある。 ➡児童・保護者やや上昇 教職員の肯定的評価95P以上
全国学力・学習状況調査では、全国平均値を上回るが、対都平均値には達していないものもある。学力Aでは、国語-1.0p、算数0.0p、学力Bでは、国語-1.0p、算数-3.0pである。 ➡教職員の肯定的評価95P以上
社会通念上のいじめ(2件・-2件)及び不登校の出現状況(2人・-1人)は減少傾向にある。 ➡児童・保護者変化なし 教職員の肯定的評価95P以上
評価のOJTを5月に実施した。道徳授業地区公開講座で、「特別の教科道徳」の趣旨に則った指導を進めた。
週3日以上読書に取り組む児童の割合が62パーセントと低位にあり、読書離れの傾向は十分に改善できているとはいえない
運動能力調査では、6学年中4学年で都の平均値を越え、学校全体では上昇傾向にある。 ➡教職員の肯定的評価95P以上
保健室の来室者数および怪我の修験状況は減少してきているが、医療機関への受診数は増加した。
A評価は+25P改善した。PTAとの通学路の危険箇所点検や、自治会との合同防災訓練の実施など新規事業を実施した。
学級会活動を計画的に進める学級が増えた。特別活動におけるキャリア教育や勤労・奉仕的活動については課題が残る。 ➡教職員の肯定的評価95P以上
児童による学校評価で、「学校に相談する先生がいますか」の項目でA評価が+1P(B価が+4P)改善した。
児童による学校評価で、「学校で学んだことを生活の中で生かしているか」の項目でB評価は+3P改善した。

共に安全・安心な学校 ○教職員が互いに高め合う学校 ○保護者や地域とともに子供を育む学校
＊つめ、思い合う子供 ○運動で体を動かし、鍛え合う子供 ○まじめにやりぬき、高め合う子供
ion(革新性)のある教職員 ○identity(共同体意識)のある教職員

学校関係者評価	評価	次年度への改善策
基礎・基本の学力の中でもとりわけ言語能力の育成に重点を置いたことはよかった。	B	学力向上の教職員の認識とそのための手立てが学校として整いよい成果に繋がってきた。引き続き学力PTを中心に推進する。
新しい教育観に正対し、組織的に指導力の育成を図ろうとする学校の取組をすばらしく感じる。	A	校内研究により、本校の教育目標と児童像を教職員が共有し、そのための指導を整えることができた。同時に、新学習指導要領の理解を深めた。
「外国語」の導入や「特別の教科 道徳」の実施など、教職員の負担が増すことを懸念する。	B	学年間の差は解消傾向にある。一方、学年内の学級差がやや目立つ。研究研修部を中心に、OJTを改善し、主任教諭による若手教諭の指導育成の方法を整えていく。
生活スタンダードは、本校だけではなく第二小学校や拝島中学校と共通にするといふ。	A	いじめ対策会議を中心に早期発見・即刻介入・完全解決を期す。いじめや不当の未然防止、予防のための手立てを生活指導部を中心に整えていく。
これまでの道徳の時間との違いをより明確に説明したほうがよい。特にいじめ予防の観点から指導を進めてほしい。	A	「特別の教科 道徳」の指導法の改善を進める。特に、採択教科書の活用方法や評価方法に関してOJTを行う。
家庭における読書習慣の形成は課題であるが、読書でしか育めない学力があると思う。引き続き学校との協働を進めてほしい。	B	家庭での読書習慣の形成を重点に啓発活動を進める。保護者による読み聞かせの取組は継続する。
人生100年プランの時代である。健康促進と体力維持は必須の要件と捉え、力強く進めてほしい。	B	体力向上プランを改訂し、全学年学級で補強運動(毎時間)の導入し、実施した。引き続き体育的行事委員会を中心に指導法の改善を図っていく。同時に、オリパラ教育の一層の推進を図る。
SNSやゲーム機の早期利用が、子供の健康や体力に影響しているのではないかと心配である。体力向上プランの取組は	B	保健指導計画を改め保健安全指導計画の策定を行う。保健安全部を中心に、保健管理マニュアルの改定を進める。
地域との第1回合同防災訓練は有意義であった。次年度も継続して実施してほしい。	A	危機管理マニュアルの改訂と安全指導及び避難訓練の全体指導計画の全面改訂を進める。
話し合いで問題を解決する業は民主主義の根幹であり、そのための力を十分に学校教育で育んでほしい。	B	学級活動の時間の指導について、更に資料提供や研修を進め、その充実を促していく。キャリア教育、国際理解教育に関する新たな単元開発を進める。
人間のコミュニケーションの基本は、やはり挨拶だろう。学校は、人としての社会性の基礎を粘り強く育ててほしい。	C	特別支援教室巡回相談員を中心に、学級集団形成に関する研修および個の支援に関する研修を計画しを実施していく。PAに関する研修を複数回実施する。
外部と繋がる新たなカリキュラムを開発し続ける学校の姿勢をすばらしく思う。	A	体験活動や人と関わる新たな単元の開発を鋭意進めている。また、学習指導要領の意向に伴い、特別活動、学校行事の全面的な見直しを進める。

学校教育目標	・自ら考えともに学び、積極的に行動する生徒 ・互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒 ・心身ともに健康な生徒	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	課題解決型の授業改善により「分かる授業」を工夫実践する。	発問に工夫を加え、授業改善(主体的、対話的、深い学び)の工夫と実施	4 全教員が十分意識した授業実践した	3
				3 意識して授業実践した教員が80%以上	
				2 意識して授業実践した教員が70%以上	
				1 意識して授業実践した教員が70%未満	
		学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。	シラバスの活用と全教科での明確な課題の提示と自主学習教室の実施	4 学習習慣定着のための指導を全教員実施	3
				3 定着のための指導を実施した教員が80%以上	
				2 定着のための指導を実施した教員が70%以上	
				1 定着のための指導をした教員が70%未満	
		個に応じた指導の充実を図るとともに、特別支援教育を推進する。	習熟度別授業の実施ユニバーサルデザインを意識した授業実践と学級経営	4 全教員が特別支援教育に基づく授業を実践	3
				3 特別支援教育に基づく授業実践した教員は80%以上	
				2 特別支援教育に基づく授業実践した教員は70%以上	
				1 特別支援教育に基づく授業実践した教員は70%未満	
豊かな心	全教育活動を通じて人権教育、心の教育を推進し豊かな人間性を育成する。	全教育活動を通じて生徒の自尊感情、自己肯定感を醸成する。	豊かな人間関係を育む学級経営 主体的、自立的生徒活動、学校行事の実践	4 全教員が十分意識した指導を行った	3
				3 意識して指導した教員が80%以上	
				2 意識して指導した教員が70%以上	
				1 意識して指導した教員が70%未満	
		道徳的価値と実践力の育成	「考える・議論する・体験する道徳」の計画的実施と適正な評価	4 「特別の教科 道徳」の趣旨に則り全教員が工夫実践を行った	3
				3 工夫実践できた教員が80%以上	
				2 工夫実践できた教員が70%以上	
				1 工夫実践できた教員が70%未満	
		いじめ・不登校対策	実態調査の実施 教育相談部会の機能化と関係機関との連携 校内対策会議の活用	4 全教員が人権尊重の理念の下、教育活動を実践した	3
				3 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が80%以上	
				2 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が70%以上	
				1 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が70%未満	
健やかな体	心身ともにたくましく健やかな生徒の育成を図る。	体力向上と生涯にわたるスポーツに親しむ態度の育成	オリンピック・パラリンピック教育の推進 夢・未来プロジェクト 体育授業のTTの活用	4 オリンピックパラリンピックの理念を理解し十分指導した	3
				3 オリンピックパラリンピックの理念を理解し指導した	
				2 オリンピックパラリンピックの理念を理解したが指導が不十分	
				1 オリンピックパラリンピックの理念を理解しなかった	
		保健・健康の増進	安心できる保健室運営 アレルギーへの対応 食育推進	4 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し全教員が指導した	3
				3 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し指導した教員が80%以上	
				2 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進について指導した教員が70%以上	
				1 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し指導した教員が70%未満	
		安全教育と防災教育の推進	SNSルール作り 薬物乱用防止教室、安全教室の実施、自殺予防教育の取組	4 生徒の生命安全について十分理解し全教員が指導にあたった	3
				3 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が80%以上	
				2 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が70%以上	
				1 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が70%未満	
輝く未来	望ましい職業観・勤労観を育成し、自らの進路を主体的に選択できる能力を育成する。 組織的・学校運営により信頼される公立学校を目指す。	計画的キャリア教育の推進	上級学校との交流 職場訪問・体験の実施 国際理解、日本の伝統文化についての理解	4 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう全教員が指導した	2
				3 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が80%以上	
				2 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が70%以上	
				1 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が70%未満	
		小中一貫教育の取組	授業体験、部活動体験 学校行事への招待 生徒会による交流 合同研修会	4 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を全教員が実践した	2
				3 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が80%以上	
				2 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が70%以上	
				1 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が70%未満	
		開かれた学校づくり	積極的な学校広報	4 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を全教員が実践した	3
				3 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が80%以上	
				2 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が70%以上	
				1 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が70%未満	

評価【総括表】

①一人一人が尊重される ②授業が分かり学び合える ③思いやりと挨拶溢れる ④夢と希望を語り合える ⑤信頼される 昭和中
①意欲的、主体的に取り組む ②挨拶ができ思いやりのある ③自らの力で進路を切り拓き、心身ともに健康な 生徒
①一人一人を大切に ②一時間一時間の授業を大切に ③信頼される ④チームとして力を結集 ⑤ 昭和中を愛する 教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	学力調査の平均正答率が都標準以上	3	第3学年はいずれの教科も都平均と同じ、または平均値以上。第2学年は数学は都平均以上。特に3年数学では入学時の全国値と比較し5.5ポイント上昇。	・取組は評価できる。家庭学習も難しい課題であるが継続した取組が実施されている。	A	校内研修の一層の充実を図るとともに大学との連携事業により授業改善に取り組む。
3	学力調査の平均正答率がー3ポイント以内					
2	学力調査の平均正答率がー5ポイント以内					
1	学力調査の平均正答率がー5ポイント以上					
4	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価90%以上	3	昨年度との比較で肯定的評価は3.8%上昇。また1か月あたりの家庭学習時間調査の1学期と2学期と比較では、1年6%増、2年8%増、3年55%増。		B	家庭学習の実態調査等を活用するとともに家庭と連携した取組の一層の工夫。
3	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価80%以上					
2	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価70%以上					
1	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価70%未満					
4	授業改善についての生徒の肯定的評価90%以上	3	肯定的評価は全校で85.8%。特に1組と第1学年の肯定的評価は高い。		A	大学専門職による定期的な授業観察とフィードバックの実施。
3	授業改善についての生徒の肯定的評価80%以上					
2	授業改善についての生徒の肯定的評価70%以上					
1	授業改善についての生徒の肯定的評価70%未満					
4	学校が楽しいと答える生徒が90%以上	3	肯定的評価は86.4%。特に3年、1組の生徒の肯定的評価が高い。しかし昨年度に比べ数値はやや減少した。	・自尊感情及び自己肯定感の育成のためには取組の一層の工夫が必要。 ・不登校生徒が多いため、引き続きのサポート体制の強化が必要。	A	主体性を育む学級活動や学校行事の一層の充実
3	学校が楽しいと答える生徒が80%以上					
2	学校が楽しいと答える生徒が70%以上					
1	学校が楽しいと答える生徒が70%未満					
4	道徳の授業に関する生徒の肯定的評価90%以上	3	肯定的評価は84%。学年が進むにつれ評価は高く、3年では90%を超えた。		A	道徳の教科化による年間指導計画に基づく実施と工夫、評価への対応。
3	道徳の授業に関する生徒の肯定的評価80%以上					
2	道徳の授業に関する生徒の肯定的評価70%以上					
1	道徳の授業に関する生徒の肯定的評価70%未満					
4	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価90%以上	3	肯定評価は84.2%。1年78、2年85%、91%と学年が上がるごとに増加している。		B	いじめ防止対策委員会の定例開催と情報共有。不登校と合わせ未然防止の徹底。
3	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価80%以上					
2	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価70%以上					
1	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価70%未満					
4	体力テストで全学年都標準以上	3	3年男子以外は都標準を超え、特に1年女子は都標準3.6、全国標準2.8ポイント上回った。	・引き続き継続課題として次年度以降も工夫を。薬物乱用、SNS等、自分で自分自身を守る安全教育や情報モラル教育の一層の工夫が必要。	B	・TTを活用し個に応じた指導の一層の充実。 ・オリンピック・パラリンピック教育の推進。
3	体力テストで2つの学年で都標準以上					
2	体力テストで1つの学年で都標準以上					
1	体力テストで全学年都標準以下					
4	保健、健康指導への生徒の肯定的評価90%以上	3	どの学年も安全、健康についての意識は高く、アンケートでも肯定的評価は90%を超えた。		B	校内情報共有と研修。病気や怪我の予防。
3	保健、健康指導への生徒の肯定的評価80%以上					
2	保健、健康指導への生徒の肯定的評価70%以上					
1	保健、健康指導への生徒の肯定的評価70%未満					
4	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価90%以上	3	薬物乱用防止教師や自殺予防教室の実施などもあり90%を超えた。しかしSNSによるトラブルもあり、その啓発は引き続き課題。		B	薬物乱用防止、自殺予防、情報モラル等について引き続き実施。
3	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価80%以上					
2	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価70%以上					
1	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価70%未満					
4	情報発信や進路選択へのアドバイスへの生徒の肯定的評価90%以上	2	肯定的評価は明らかに学年が進むにつれ増加する。3年の肯定的評価は84%。	・職場体験や訪問等のキャリアを見据えた体験活動への生徒の意欲的姿勢が見られる。 ・ホームページの内容の更新がないこともあるので、一層のHP活用を。	A	進路指導部、学年による情報発信と啓発。
3	情報発信や進路選択へのアドバイスへの生徒の肯定的評価80%以上					
2	情報発信や進路選択へのアドバイスへの生徒の肯定的評価70%以上					
1	情報発信や進路選択へのアドバイスへの生徒の肯定的評価70%未満					
4	小中接続の取組みについて生徒の肯定的評価90%以上	3	保護者説明会、部活動体験や授業体験等を実施。年3回の小中連携の日を実施した。教育課程上の接続など今後の課題がある。		B	引き続き授業体験、部活動体験及び教員研修を実施。
3	小中接続の取組みについて生徒の肯定的評価80%以上					
2	小中接続の取組みについて生徒の肯定的評価70%以上					
1	小中接続の取組みについて生徒の肯定的評価70%未満					
4	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価90%以上	3	今年本校独自アンケート項目に加えた。学校広報により教育活動を「保護者に知らせていない」との評価は13%であった。		B	ホームページ、宿泊行事での情報発信等、積極広報の一層の充実。
3	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価80%以上					
2	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価70%以上					
1	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価70%未満					

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	課題設定を工夫し、家庭学習を習慣化させる。	家庭学習ノートの学習内容の質を高めるために、丁寧な点検と課題設定。	4 全クラスで家庭学習の質を高める指導ができた 3 全クラスでノート作成の意義を指導徹底できた 2 全クラスでノートの使用方法指導が徹底できた 1 全クラスでノートを毎週提出する指導ができた	2
		福島中方式問題解決型4ステップ授業を確立させる。	毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業の流れを意識し実践する。	4 全教員が4ステップを意識して授業を行った 3 全教員が個・集団・個の流れを意識した授業を行った 2 全教員が「広げる」ための工夫を実践した 1 全教員が課題設定と振り返りを行った	3
		自分の考えを文章にまとめ、表現する力を育成する。	授業内で考えたことや感じたことを、ノートやワークシートに必ず書かせて評価する。	4 考えさせ、表現する授業を毎時間展開した 3 考えさせ、表現する授業を8割は行った 2 考えさせ、表現する授業を5割は行った 1 考えさせたが、表現する授業を行えなかった	2
	豊かな心	考え、議論する道徳授業を実践し、心を育てる。	全体計画別業に沿って、中心発問を工夫することで22の内容項目を深める。	4 全体計画に従い、発問や展開を工夫できた 3 全教員が全体計画通りに進めた 2 全クラスが22の内容項目を実施した 1 時間割通りに道徳の授業を行った	3
		一人一人を尊重し、認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛する生徒指導を実践する。	4 傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛を実践した 3 傾聴、共感、認定、助言までは実践した 2 傾聴、共感にはしたが、認めることができなかった 1 傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする	3
		挨拶や返事がお互いに気持ちよくできる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣をつけさせる。	4 学校内外で、教員から挨拶や声かけを行った 3 授業や校内で挨拶・返事の指導を全教員が行った 2 授業中の挨拶・返事の指導を全教員が行った 1 挨拶・返事の指導を半数以上の教員が行った	3
	健やかな体	体育の授業や運動部活動において基礎体力をつけさせる。	主運動前の補強運動や主運動の時間を十分確保する。	4 体育科・運動部顧問が毎回計画的に体力作り指導をした 3 体育科・運動部顧問が定期的に体力作り指導をした 2 体育科・運動部顧問が体力作り指導を心がけた 1 体育科・運動部顧問が体力作り指導を理解できた	3
		食事や睡眠を大事にする生徒を育てる。	給食では残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4 全クラスで食の大切さと残さず食べる指導を徹底した 3 全クラスで食の大切さと残さず食べる指導をした 2 各学年で残さず食べる指導に取り組んだ 1 各学年で食育指導を定期的に行なった	3
		SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール及び家庭ルールの徹底を図る。	4 SNSルールを全教員・全家庭が指導・徹底した 3 SNSルールを各クラスで指導・徹底した 2 SNS学校ルールを基に、家庭ルールを作成させた 1 SNS学校ルールを各クラスで指導した	2
輝く未来	家庭・地域との連携を深めて、将来の確かな夢をもてるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行う。	学校・学年・学級だよりの発行とホームページの更新を定期的に行う。	4 全校体制で毎月1回以上発行・更新を行った 3 学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った 2 学校・学年だよりは毎月1回以上発行した 1 学校だよりは毎月1回以上発行した	3
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4 よりよく生きるための進路学習を計画的に行なった 3 職業学習の充実で働くことの意義を考えさせた 2 職業選択につながる進路指導を行った 1 社会で自立するための職業観をもたせた	3
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中一貫教育スタンダードを徹底する。	4 スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた 3 スタンダードを全クラスで指導・徹底した 2 スタンダードの意義を理解させ、家庭協力を求めた 1 スタンダードを意義を生徒に理解させた	2

評価【総括表】

○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 全クラスで毎週100%提出させ、質を高める点検ができた	2	提出はするが、家庭学習の定着と言えるかは疑問が残る。内容指導・課題設定の工夫が必要である。	ノートを提出するだけになっているようだ。内容の質を高める必要がある。家庭の協力が必要。	B	「自習ノート」は内容を教師が設定し、3学期には生徒が課題を設定できるように指導する。
3 全クラスで毎週100%提出できた					
2 全クラスで毎週80%以上提出できた					
1 全クラスでノート提出は80%未満である					
4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上	3	全教科が4ステップで授業を進めたことに価値があった。各ステップの充実にはさらに研究を要する。	4ステップ授業の確立は価値がある。教員の力量が結果として表れる。	B	4ステップ授業により、教師の授業力を高め、生徒の学力向上につなげる。特に思考力、表現力を高める。
3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%～90%					
2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が60%～80%					
1 授業が分かりやすいと感じる生徒が60%未満					
4 考え、発表する時間があると感じる生徒が90%以上	2	各教科で考えさせる時間は取れたが、表現や発表については課題がある。	学力の中でも、考え、表現、発表は最も大事である。	B	教材の工夫と発問の工夫を一層強める。個、集団、個の流れの意識も再確認し、生徒の思考を促す。
3 考え、発表する時間があると感じる生徒が80%以上					
2 考え、発表する時間があると感じる生徒が50%以上					
1 考え、発表する時間があると感じる生徒が50%未満					
4 1年間で自分を振り返る内容項目が3つ以上あった	3	計画に沿って、内容項目を深める授業を行えた。発問の工夫は今後も続けていく。	授業の中で、生徒が何かを感じて、自己を振り返ることができたのが良い。	B	教材ごとの中心発問を整理し、全教員で共有できるようにする。授業の流れの中で補助発問を工夫する。
3 1年間で自分を振り返る内容項目が2つあった					
2 1年間で自分を振り返る内容項目が1つあった					
1 1年間で自分を振り返る内容項目がなかった					
4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%以上	3	良さを認めようとする教員が増えたが、さらに積極的に褒めて伸ばす指導を工夫する。	先生方の言葉かけが適切でない時がある。先生に相談できない子ども、保護者が多くいることが現実。	B	傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛の意識を全教員でもち、誰に対しても丁寧に対応する。
3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上					
2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%以上					
1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%未満					
4 学校内外で、教員や地域の人に生徒から挨拶できる	2	教員からの挨拶は増えたが、生徒からの挨拶は多いとは言えない。	自らすすんでというのは難しい。教員からの挨拶が少ない。特に地域や保護者に対して感じる。	B	挨拶は全ての人の心をつなぐ大切な習慣であることを意識し、教師が範を示すよう努める。
3 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上					
2 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上					
1 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満					
4 持久走で全学年が全国の平均を上回った	2	2,3年男子、1,2年女子は都の平均を上回った。取組として、授業も部活動も熱心なので今後も期待する。	大切な時期なので期待している。体育の授業での補強運動はあまり生徒の意欲を感じない。	B	一つ一つの運動の意味を、改めて理解させ、能動的に取り組めるように指導する。
3 持久走で全学年が都の平均を上回った					
2 持久走で全国の平均を上回る学年が複数あった					
1 持久走で都の平均を上回る学年があった					
4 全校で1か月の平均残菜率が5%以下	3	年度当初は10%台だった残菜率が、平均して8%前半になった。	食べる力＝生きる力 家庭での離乳期から食育は始まっている。	B	好き嫌いなく、バランス良く食事をする習慣を付ける指導を続ける。
3 全校で1か月の平均残菜率が10%以下					
2 全校で平均残菜率10%以下の日が2週間以上あった					
1 全校で平均残菜率5%以下の日が数日あった					
4 SNSの使用ルールを守り、規則正しい生活を送った	2	学校ルールを全家庭に周知するとともに、ルールを徹底し健全な生活を送らせる。	学校からの啓発はあるので、家庭がもっと気を付ける必要がある。家庭と学校の徹底した連携が必要。	B	学校と家庭・地域が協力して、中学生の好ましい生活の在り方について考えていく。
3 SNSの使用ルールを守って生活できた					
2 SNS家庭ルールを作り、守ることができた					
1 SNS家庭ルールを作成した					
4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上	3	学校だより、学年だよりは毎月発行でき、保護者との情報共有が適切に行われている。HP更新が滞る。	学校だよりからの情報を保護者は共有しているが、生徒も関心をもつと良い。HPは更新されてない時がある。	B	学校からの情報発信を適切に行うとともに、地域・家庭からの意見を取り入れる工夫をする。
3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上					
2 学校の教育活動に安心している保護者が60%以上					
1 学校の教育活動に安心している保護者が60%未満					
4 将来の夢が見つかり、30年後まで計画を決められた	2	働くことや職業について、具体的に考えさせることはできたが、将来の計画を立てられる生徒は少ない。	中学生が将来のことを計画するのは難しいが、考えることは重要である。	C	生き方については、学校教育の様々な場面で考えられるように指導を進める。
3 将来の夢に向けて就職までの計画を決められた					
2 将来の夢に向けて進学先を決定した					
1 将来の夢を卒業後に見付ける					
4 小中一貫教育スタンダードを地域が推進した	2	スタンダードを小中で周知はできた。家庭・地域との共通理解を今後深めていく必要がある。	家庭・地域との共通理解を深めるために、子供を育てる方向性を学校と共有することが大切。	C	9年間の義務教育を計画的に進められるように、家庭・地域に理解されるような情報発信を行う。
3 小中一貫教育スタンダードを家庭が協力した					
2 小中一貫教育スタンダードを生徒が実践した					
1 小中一貫教育スタンダードが家庭に周知された					

学校教育目標	(知)すすんで学習に励む生徒 (体)たくましい体力を身につけた生徒 (意)規律と礼儀を重んじる生徒 (情)すすんで働き、協力しあう生徒	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組みの充実	指導方法の工夫改善	毎時間のねらいを明示した授業を実施する	4 全員がねらいを明示した	3
				3 80%～100%未満の教員が明示した	
				2 70%～80%の教員が明示した	
				1 70%未満の教員が明示した	
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用した家庭学習を定着させる	4 全教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	3
				3 80%～100%未満の教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	
				2 70%～80%未満の教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	
				1 70%未満の教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	
		朝学習の充実	朝学習の充実をはかる	4 全教員が取組み意欲を高める工夫を行った	3
				3 80%～100%未満の教員が取組み意欲を高める工夫を行った	
				2 70%～80%未満の教員が取組み意欲を高める工夫を行った	
				1 70%未満の教員が取組み意欲を高める工夫を行った	
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	道徳教育の充実	新学習指導要領の内容を踏まえた道徳の授業を実施する	4 全担任が実施した	3
				3 80%～100%未満の担任が実施した	
				2 70%～80%の担任が実施した	
				1 70%未満の担任が実施した	
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4 全教員が実施した	3
				3 80%～100%未満の教員が実施した	
				2 70%～80%の教員が実施した	
				1 70%未満の教員が実施した	
		環境を大切にする生徒の育成	美化活動を充実させる	4 全教員が意識した指導を実施した	3
				3 80%～100%未満の教員が意識した実施した	
				2 70%～80%の教員が意識した指導を実施した	
				1 70%未満の教員が意識した指導を実施した	
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	体力向上	新体力テストを活用し体力を向上する	4 全教員が実施した	3
				3 80%～100%未満の教員が実施した	
				2 70%～80%の教員が実施した	
				1 70%未満の教員が実施した	
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4 全学級で実施した	3
				3 80%～100%未満の学級で実施した	
				2 70%～80%の学級で実施した	
				1 70%未満の学級で実施した	
		食育の充実	食への関心を高める	4 全学級で実施した	2
				3 80%～100%未満の学級で実施した	
				2 70%～80%の学級で実施した	
				1 70%未満の学級で実施した	
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4 全教員が実施した	3
				3 80%～100%未満の教員が実施した	
				2 70%～80%の教員が実施した	
				1 70%未満の教員が実施した	
		系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4 全教員が実施した	3
				3 80%～100%未満の教員が実施した	
				2 70%～80%の教員が実施した	
				1 70%未満の教員が実施した	

評価【総括表】

(次ページに拡大版有り)

・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校	・自主、自立の精神を培うことができる学校	・生徒、保護者、地域、教職員が誇りをもてる学校
・すすんで学習に励む生徒	・たくましい体力を身につけた生徒	・規律と礼儀を重んじる生徒
・親切、丁寧、コミュニケーション重視	・全員一丸での組織対応	・認めて褒める指導
・チェックと改善	・教育公務員の自覚	

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	①毎時間、本時の授業のねらいを伝え、段階的指導を心がけた。②ねらいは青で開き、毎時間明示した。ねらいがまともに生かされないときがあった。③ねらいを明示し、授業に入ったら、生徒からの質問が増えた。	・最初にねらいを持たせる授業の進め方は大変よい。リフレクションができていくサイクルを大切にすると、さらによいものが生まれると思う。	A	①より細かい段階的指導やグループ学習にも心がけて指導していく。②ねらいをふまえて、リフレクションができるように指導していく。③リフレクションの質を高め、更に良いものにしていく。
3 80%～90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
2 70%～80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
1 70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
4 90%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	2	①ただ単に記録を付けるだけになっているので、目標を達成できない生徒への個別指導を考えていく必要がある。②毎週1回ノート提出させ、確認テストを行なった。忘れがちな生徒には個別に声をかけた。	・家庭学習時間を増やすためには保護者の協力が不可欠。今後も根気よく取り組みを継続してほしい。	B	①家庭学習が不十分な生徒へのアプローチを検討していく。②宿題を忘れがちな生徒への指導。③学習計画の立案・実行。④意識の低い生徒には個別に言葉かけとした結果内容にも工夫ができるようにする。
3 80%～90%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
2 70%～80%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
1 70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
4 90%以上の生徒が朝学習に真剣に取り組んだと回答	3	①授業の進度のペースメーカーとしていく。②集中して取り組めるように、雰囲気作りをした。	・朝学習の目的やねらい、本人にとってのメリットを明確にしていくことは良い。確認テストは継続してほしい。	B	①授業の復習になるので、活用するように伝える。②朝学習確認テストを通じて、復習する機会をしっかりと取り組めるように指導する。③サイレントタイムを今後も実施していく。
3 80%～90%未満の生徒が朝学習に真剣に取り組んだと回答					
2 70%～80%未満の生徒が朝学習に真剣に取り組んだと回答					
1 70%未満の生徒が朝学習に真剣に取り組んだと回答					
4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	3	①毎授業においてグループ討議の場を設定した。意欲的に活動できた。②パターンが決まっており、ワークシートが使いつづかった。③小中一貫で共通実践しているワークシートを活用することができた。	・道徳を評価することは大変難しい。教師は日々の子供たちの様子を把握し評価をすべきである。生徒の個々の存在感を正しい方向に向かわせることが大切。	B	新学習指導要領による「特別の教科道徳」の先行実施をするにあたり、次のことを念頭に置き、指導にあたる。 ①適切な評価をすること ②授業の工夫をすること
3 80%～90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
2 70%～80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
1 70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	3	①授業内での話し合い活動や実験を行った。②課題ごとに自分の考えや意見を出す場面の設定。③生徒が興味をもって取り組めるようにできる限りやってみたい活動を取り入れた。	・各教室を見学してグループ討議や班活動をよく目にした。多くの意見を出しやすい課題設定も大切と思う。	B	①他者と関わるような雰囲気作りをしていく。②自分の意見を出しやすい雰囲気作り。③途中で飽きてしまう生徒が多かったため、生徒が興味をもって取り組めるようにする。
3 80%～90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
2 70%～80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
1 70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
4 90%以上の生徒が清掃にしっかり取り組んだと回答	3	①掃除の仕方が分かっていない生徒、やらされている意識の生徒が多かった。②効率的にきれいにするように取り組めた。③教室の環境整備を生徒に行わせた。④自主的に清掃活動に取り組んでいる。	・瑞雲中生徒の美化意識は高いと感じる。自主的な活動で行っていることは素晴らしい。ボランティア活動の意識も高い。継続してほしい。	B	○生徒が主体的に取り組めるために、清掃担当教員による率先垂範を意識していく。○美化週間を設定し、整美委員による清掃コンテストを行い、校内で啓発活動を行う。
3 80%～90%未満の生徒が清掃にしっかり取り組んだと回答					
2 70%～80%未満の生徒が清掃にしっかり取り組んだと回答					
1 70%未満の生徒が清掃にしっかり取り組んだと回答					
4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	①体力の向上に、毎時間取り組んでいる。②体育的行事における積極的指導。③体力テストの結果を考慮せず、授業を行っていた。④部活動等で活用している。	・着実に、確実に進んでいると感じる。判定員等ボランティアを利用していくとさらに効果が上がると思う。	A	①生徒の取り組み方が安易にならないような声かけをしていく。②苦手生徒への個別指導。③体育科と連携を取りながら、生徒に適した指導を行っていく。④生徒の体力に応じた活動内容を変化させる。
3 80%～90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
2 70%～80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
1 70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
4 90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3	①栄養摂取に関する知識を与える指導の充実。②栄養に関する指導をする時間を増やす。③継続して取り組む。④残飯が多かったので、食べ物の大切さを指導していく。	・避難訓練の様子はよく目にする。定期的に行われていると思う。	A	○食育の予定を年度初めに立て、年間を通して食育指導の日を月に一度は設ける。○保健委員を保健給食委員として、生徒の活動の中にも残量調査などを入れて意識を高める。
3 80%～90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
2 70%～80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
1 70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
4 90%以上の生徒が食について学ぶことがあると回答	3	①栄養摂取に関する知識を与える指導の充実。②栄養に関する指導をする時間を増やす。③継続して取り組む。④残飯が多かったので、食べ物の大切さを指導していく。	・PTA行事で給食試食会を初めて行うことができた。生徒の残量が気になる。授業等でも、食育を積極的に取り入れてほしい。	B	①栄養摂取に関する知識を与える指導の充実。②栄養に関する指導をする時間を増やす。③継続して取り組む。④残飯が多かったので、食べ物の大切さを指導していく。
3 80%～90%未満の生徒が食について学ぶことがあると回答					
2 70%～80%未満の生徒が食について学ぶことがあると回答					
1 70%未満の生徒が食について学ぶことがあると回答					
4 90%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3	①進路指導や三者面談を通して指導した。②職業が多様化しており、自分自身がどのような職業に向いているのか、なにに興味があるのか、考えさせることが出来た。③詳細にわたって先を見越した計画が必要。	・三者面談を活用しよく指導できている。教員の情報収集能力をさらに高めていき、よりよいものにしてほしい。	A	①より生徒が自主的に自分の進路について考えられるよう指導していく。②系統的・計画的な中にも生徒の実態に即した指導を加えていく。③何を伸ばしたいのか、何が得意なのか考えさせる。
3 80%～90%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
2 70%～80%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
1 70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
4 90%以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答	3	①独自の教材を作成し、時間をかけて将来について考える時間を作った。全く考えられない生徒も一部にはいた。②系統的・計画的に進めた。③道徳の授業の中で、自己をみつめ将来について考える機会をつくった。	・自己を見つめ将来を考える時間をもてたことはすごいことと思う。今後は地域の会社や人材を効果的に活用していつてほしい。	B	①将来について考えられない生徒に対しては、やりたいこと、好きなことなどを考えさせるなどしてきっかけをつくっていく。②生徒の実態に即した指導も加えていく。
3 80%～90%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
2 70%～80%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
1 70%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					

ビジョン	【目指す学校像】	・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校 ・自主・自立の精神
	【目指す児童・生徒像】	・すすんで学習に励む生徒 ・たくましい体力を身につけた生徒 ・規範意識
	【目指す教師像】	・親切・丁寧・コミュニケーション重視 ・全員一丸での組織対応 ・認め

自己評価結果の分析	
①毎時間、本時の授業のねらいを伝え、段階的指導を心がけた。②ねらいは青で囲み、毎時間明示した。ねらいがまとめに生かされないときがあった。③ねらいを明示し、授業に入ったら、生徒からの質問が増えた。	
①ただ単に記録を付けるだけになっているので、目標を達成できない生徒への個別指導を考えていく必要がある。②毎週1回ノートを提出させ、確認テストを行なった。忘れがちな生徒には個別に声かけをした。	
①授業の進度のペースメーカーとしていく。 ②集中して取り組めるように、雰囲気作りをした。	
①毎授業においてグループ討議の場を設定した。意欲的に活動できた。②パターンが決まっており、ワークシートが使いづらかった。③小中一貫で共通実践しているワークシートを活用することができた	
①授業内での話し合い活動や実験を行った。②課題ごとに自分の考えや意見を出す場面の設定。③生徒が興味をもって取り組めるようにできる限りやってみよう活動を取り入れた。	
①掃除の仕方が分かっていない生徒、やらされている意識の生徒が多かった。②効率的にきれいにできるように取り組めた。③教室の環境整備を生徒に行かせた。④自主的に清掃活動に取り組んでいる。	
①体力の向上に、毎時間取り組んでいる。②体育的行事における積極的指導。③体力テストの結果を考慮せず、授業を行っていた。④部活動等で活用している。	
①栄養摂取に関する知識を与える指導の充実。②栄養に関する指導をする時間を増やす。③継続して取り組む。④残飯が多かったので、食べ物の大切さを指導していく。	
①栄養摂取に関する知識を与える指導の充実。②栄養に関する指導をする時間を増やす。③継続して取り組む。④残飯が多かったので、食べ物の大切さを指導していく。	
①進路指導や三者面談を通して指導した。②職業が多様化しており、自分自身がどのような職業に向いているのか、なにに興味があるのか、考えさせることが出来た。③詳細にわたって先を見越した計画が必要。	
①独自の教材を作成し、時間をかけて将来について考える時間を作った。全く考えられない生徒も一部にはいた。②系統的・計画的に進めた。③道徳の授業の中で、自己をみつめ将来について考える機会をつくった。	

青神を培うことができる学校 ・生徒、保護者、地域、教職員が誇りをもてる学校
礼と礼儀を重んじる生徒 ・すすんで働き、協力しあう生徒
褒める指導 ・チェックと改善 ・教育公務員の自覚

学校関係者評価	評価	次年度への改善策
・最初にねらいを持たせる授業の進め方は大変よい。リフレクションができていくサイクルを大切にすると、さらによいものが生まれると思う。	A	①より細かい段階的指導やグループ学習にも心がけて指導していく。②ねらいをふまえて、リフレクションができるように指導していく。③リフレクションの質を高め、更に良いものにしていく。
・家庭学習時間を増やすためには保護者の協力が不可欠。今後も根気よく取り組みを継続してほしい。	B	①家庭学習が不十分な生徒へのアプローチを検討していく。②宿題を忘れがちな生徒への指導。③学習計画の立案・実行。④意識の低い生徒には個別に言葉かけとした結果内容にも工夫ができるようにする。
・朝学習の目的やねらい、本人にとってのメリットを明確にしていけることは良い。確認テストは継続してほしい。	B	①授業の復習になるので、活用するように伝える。②朝学習確認テストを通じて、復習する機会をしっかりと取り組めるように指導する。③サイレントタイムを今後も実施していく。
・道徳を評価することは大変難しい。教師は日々の子供たちの様子を把握し評価をすべきである。生徒の個々の存在感を正しい方向に向かわせることが大切。	B	新学習指導要領による「特別の教科道徳」の先行実施をするにあたり、次のことを念頭に置き、指導にあたる。 ①適切な評価をすること ②授業の工夫をすること
・各教室を見学していてグループ討議や班活動をよく目にした。多くの意見を出しやすい課題設定も大切と思う。	B	①他者と関わられるような雰囲気作りをしていく。②自分の意見を出しやすい雰囲気作り。③途中で飽きてしまう生徒が多かったため、生徒が興味をもって取り組めるようにする。
・瑞雲中生徒の美化意識は高いと感じる。自主的な活動で行っていることは素晴らしい。ボランティア活動の意識も高い。継続してほしい。	B	○生徒が主体的に取り組めるために、清掃担当教員による率先垂範を意識していく。○美化週間を設定し、整美委員による清掃コンテストを行い、校内で啓発活動を行う。
・着実に、確実に進んでいると感じる。判定員等ボランティアを利用していくとさらに効果が上がると思う。	A	①生徒の取り組み方が安易にならないような声かけをしていく。②苦手生徒への個別的指導。③体育科と連携を取りながら、生徒に適した指導を行っていく。④生徒の体力に応じて活動内容を変化させる。
・避難訓練の様子はよく目にする。定期的に行われていると思う。	A	○食育の予定を年度初めに立て、年間を通して食育指導の日を月に一度は設ける。○保健委員を保健給食委員として、生徒の活動の中にも残量調査などを入れて意識を高める。
・PTA行事で給食試食会を初めて行うことができた。生徒の残量が気になる。授業等でも、食育を積極的に取り入れてほしい。	B	①栄養摂取に関する知識を与える指導の充実。②栄養に関する指導をする時間を増やす。③継続して取り組む。④残飯が多かったので、食べ物の大切さを指導していく。
・三者面談を活用しよく指導できている。教員の情報収集能力をさらに高めていき、よりよいものにしてほしい。	A	①より生徒が自主的に自分の進路について考えられるよう指導していく。②系統的・計画的な中にも生徒の実態に即した指導を加えていく。③何を伸ばしたいのか、何が得意なのか考えさせる。
・自己を見つめ将来を考える時間をもてたことはすごいことと思う。今後は地域の会社や人材を効果的に活用してほしい。	B	①将来について考えられない生徒に対しては、やりたいこと、好きなことなどを考えさせるなどしてきっかけをつくっていく。②生徒の実態に即した指導も加えていく。

学校教育目標		・美しい心 ・創造的な知性 ・たくましい体		【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	生徒に基礎的。基本的な内容を確実に習得させ、生徒の思考力・判断力を高め、確かな学力を身に付けさせる。	思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図る。	教材研究、授業分析、指導方法等について工夫・改善し、わかる授業を実現する。	4 意図的、計画的に指導し、集中力や思考力等が向上した。 3 計画的にはなかったが、授業改善に心がけた。 2 授業改善を図ったが、十分な効果が挙げられなかった。 1 生徒参加型の指導ができなかった。	3
		チャレンジテストの活用等により、学習意欲を高め、学力の定着を図る。	全学年におけるチャレンジテストの実施(年間3回以上)	4 年間5回のチャレンジテストを行った。 3 年間4回のチャレンジテストを行った。 2 年間3回のチャレンジテストを行った。 1 年間2回のチャレンジテストを行った。	2
		観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図る。	観点別学習状況の評価の適正な実施と説明	4 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、生徒の意欲的に学習した。 3 適正に観点別学習状況の評価を行い、説明も行った。 2 適正に観点別学習状況の評価を行ったが、説明をしなかった。 1 観点別学習状況の評価について課題が残った。	3
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	落ち着いた学校生活について指導し、生活指導基本方針の定着を図る。	生活指導だよりを活用した全校共通の生活指導の実施	4 生活指導だよりの家庭での活用を確認している。 3 生活指導だよりを読み合わせ、補足的な指導を行った。 2 生活指導だよりは読み合わせを行った。 1 生活指導だよりは配布した。	3
		生徒理解に努め、教師と生徒との間の信頼関係を深める。	生徒への言葉かけや面談の意図的な実施	4 年間3回以上の面談を実施し、生徒理解を深めた。 3 年間3回以上の面談を実施したが、生徒理解はあまり深められなかった。 2 年間3回以下の面談で、生徒理解が十分でなかった。 1 年間3回未満の面談で、生徒理解ができなかった。	4
		特別の教科道徳の趣旨を踏まえ、道徳授業の充実を図る。	ア:道徳の年間総授業時数を上回る実施 イ:資料やワークシート等の工夫	4 道徳の時間の実施時数を上回り、資料等の工夫も行った。 3 道徳の時間の実施時数を確保し、資料等の工夫を行った。 2 道徳の時間の実施時数は確保できた。 1 道徳の時間の実施時数が足りなかった。	3
健やかな体	生徒活動の場を一層豊かにし、生徒の主体性や自己有用感を高め、健やかな体の育成を図る。	学校行事、学級活動、生徒会活動等における活動を推進し、達成感を味わわせる。	学校行事実行委員会、委員会活動、学級での係活動等への参加奨励	4 担当する生徒の70%以上が積極的に活動した。 3 担当する生徒の50%以上が積極的に活動した。 2 担当する生徒の30%未満の生徒が積極的に活動した。 1 担当する生徒に積極的に活動させることができなかった。	4
		学校生活の安全と健康について指導し、生徒の意識を高める。	年間指導計画に基づき、各教科、特別活動等における指導の実施	4 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導を行い、効果を挙げた。 3 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導を行った。 2 教科指導、特別活動のいずれかでは安全・健康に関する指導を行った。 1 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導は行わなかった。	3
		部活動を通して、生徒に自信を深めさせる。	部活動における生徒の努力と成果を認め、励ます機会の充実	4 顧問である部活動生徒の70%以上が活発に活動した。 3 顧問である部活動生徒の50%以上が活発に活動した。 2 顧問である部活動生徒の30%未満が活発に活動した。 1 顧問である部活動生徒に活発に活動させることができなかった。	4
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	地域活動や職場体験等の人とかかわりや体験的な活動の充実を図る。	各学年の特性を生かした「生き方指導」の一環としての地域連携活動の実施	4 地域との連携で生徒が生き生きと活動し、意欲を引き出した。 3 地域との連携で生徒が生き生きと活動した。 2 毎年の行事として、地域連携活動を例年通りに実施した。 1 地域と連携した活動に取り組まなかった。	3
		自己の学業生活や卒業後の進路について振り返り、進路選択能力を高める。	年間指導計画に基づき、活用資料等を工夫した進路指導の実施	4 年間指導計画に沿って計画的に進路指導を実施し、成果があった。 3 年間指導計画に沿って進路指導は実施したが、資料等の工夫がやや不十分だった。 2 年間指導計画に沿って進路指導を実施したが、資料活用はしなかった。 1 年間指導計画に沿った進路指導が実施できなかった。	3
		進路指導において、保護者への啓発に取り組み、連携を図る。	進路指導における保護者と連携した取り組みの実施	4 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定し、効果を挙げた。 3 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定した。 2 進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。 1 進路指導において、保護者との連携が不十分だった。	3

評価【総括表】

生徒にとって楽しく生きがいのある学びの場としての学校の実現
- 正しい判断力、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神をもつ生徒 - 自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度をもつ生徒 - 均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を持つ生徒
教育への熱意と使命感、豊かな人間性と高い指導力を持ち、教育公務員としての遵法を貫く教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが70%以上	4	83%の生徒が各教員が授業を工夫していると感じ止めていた。各教科で一層の工夫を図る。	思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図っている。	B	各教員の学習指導の成果と課題を振り返り、次年度以降の授業改善の重点を明らかにする。
3 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが60%以上					
2 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが50%以上					
1 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが50%未満					
4 学校の授業は分かりやすいとの答えが70%以上	4	74%の生徒が授業は分かりやすいと感じていた。各教科で分かる授業の工夫を一層図る。	チャレンジテストの活用等により、学習意欲を高め、学力の定着を図っている。	B	チャレンジテストの活用方法を各教科で検討し、その実施を年間指導計画に位置付けていく。
3 学校の授業は分かりやすいとの答えが60%以上					
2 学校の授業は分かりやすいとの答えが50%以上					
1 学校の授業は分かりやすいとの答えが50%未満					
4 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが70%以上	3	各教科の年度初めの授業で、評価計画を説明している。その活用についてさらに指導していく。	観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図っている。	B	学期初めに評価の観点を生徒に説明し、学習の指針として活用が図られるよう、方法を工夫する
3 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが60%以上					
2 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが50%以上					
1 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが50%未満					
4 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが70%以上	4	84%の生徒が落ち着いた学校生活を送っていると回答していた。学校生活の安定の定着を図る。	落ち着いた学校生活について指導し、生活指導基本方針の定着を図っている。	B	生活指導方針について、一層の理解を深め、組織的に指導に取り組んでいく。
3 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが60%以上					
2 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが50%以上					
1 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが50%未満					
4 学校に相談できる先生がいるとの答えが50%以上	4	61%の生徒が相談できる先生がいると回答した。数値は年々向上してきた。一層の努力を図る。	生徒理解に努め、教師と生徒との間の信頼関係を深めている。	B	日頃からの生徒理解に努めるとともに、面談週間のより有効な活用を図る。
3 学校に相談できる先生がいるとの答えが40%以上					
2 学校に相談できる先生がいるとの答えが30%以上					
1 学校に相談できる先生がいるとの答えが30%未満					
4 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが70%以上	4	92%の生徒が判断力が身に付いていると回答した。家庭と連携を図り、規範意識の向上を図る。	特別の教科道德の趣旨を踏まえ、道德授業の充実を図っている。	B	特別の教科道德の趣旨を踏まえ、指導資料の収集と活用及び評価について研修を深める。
3 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが60%以上					
2 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが50%以上					
1 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが50%未満					
4 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが80%以上	4	92%の生徒が学校生活は楽しいと回答した。引き続き、学校生活の安全と安定を図っていく。	学校行事、学級活動、生徒会活動における活動を推進し、達成感を味わわせている。	A	特別活動の趣旨を踏まえて、各活動の目的を明確にし、各取り組みの一層の充実を図る。
3 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが70%以上					
2 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが60%以上					
1 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが60%未満					
4 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが70%以上	4	86%の生徒が安全や健康について学んだと回答している。さらに安全指導の充実を図る。	学校生活の安全と健康について指導し、生徒の意識を高めている。	A	日常の点検活動の徹底を図るとともに、生活指導だよりを活用した全校共通の指導を進める。
3 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが60%以上					
2 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが50%以上					
1 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが50%未満					
4 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが70%以上	4	85%の生徒が部活動に参加した。活動の趣旨を生かした内容の充実を図っていく。	部活動を通して、生徒に自信を深めさせている。	B	部活動の意義を明確にした指導と部活動指導員等の活用により、活動内容の一層の充実を図る。
3 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが50%以上					
2 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが30%以上					
1 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが30%未満					
4 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが70%以上	3	PTAとの連携行事の参加者が増加した。地域への活動にも参観者をひろげていく。	地域活動や職場体験等の人とかかわりや体験的な活動の充実を図っている。	B	体験的な活動の意義を明確にし、指導計画の改善と地域との一層の連携を図る。
3 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが60%以上					
2 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが50%以上					
1 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが50%未満					
4 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが70%以上	3	68%の生徒が進路等についてアドバイスがあると回答した。一年次からの計画的な指導が重要	自己の学業生活や卒業後の進路について振り返らせ、進路選択能力を高めている。	A	三年間を通した進路指導計画を明確にし、計画的に進路指導を進めていく。
3 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが60%以上					
2 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが50%以上					
1 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが50%未満					
4 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが70%以上	3	68%の生徒が進路等について家庭で話したと回答した。保護者と連携を図り、進路指導を推進。	進路指導において、保護者への啓発に取り組む、連携を図っている。	B	保護者会の機会等を活用し、進路選択に資する新しい進路情報の提供を図る。
3 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが60%以上					
2 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが50%以上					
1 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが50%未満					

学校教育目標	勉学 よく考え正しく判断できる人間 敬愛 人を尊敬し愛といつくしみのある人間 至誠 誠実で責任感の強い人間 健康 健康で心身ともにたくましい人間	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な学習内容の定着を図るとともに主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。	特別支援教育の視点に立った分かりやすい授業を実践する。	授業の見通しを持たせる既習事項の確認 振り返り学習	4 全教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した	4
				3 90%以上100%未満の教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した。	
				2 80%以上90%未満の教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した。	
				1 80%未満の教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した。	
		家庭学習を習慣化させ、基礎的な学習内容の定着を図る。	学習の手引きの活用 クールノートの活用	4 全教員が学習の手引きを活用した指導を行った	3
				3 90%以上100%未満の教員が学習の手引きを活用した指導を行った	
				2 80%以上90%未満の教員が学習の手引きを活用した指導を行った	
				1 80%未満の教員が学習の手引きを活用した指導を行った	
豊かな心	人権尊重の精神に基づき、生徒の心の成長を促し、一人一人の変化に対応した行き届いた指導を展開する。	いじめは、絶対に許さないという考えの基、未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を図る。	いじめアンケート(年3回) いじめ対策委員会	4 全教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	4
				3 90%以上100%未満の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	
				2 80%以上90%未満の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	
				1 80%未満の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	
		日常的に生徒が悩みを打明しやすい相談体制の充実と生徒との人間関係の構築を図る。	相談部会(週1回) スタディサポート教室との連携 学習支援教室との連携	4 全教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	3
				3 90%以上100%未満の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	
				2 80%以上90%未満の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	
				1 80%未満の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	
健やかな体	生徒一人一人の体力の向上および健康の保持増進を図る。	教育活動全体を通して、体力の向上および健康の保持増進を図る。	体力テストの適正実施 オリンピック・パラリンピック教育の工夫	4 全教員が健康安全教育全体計画に基づき、計画的な指導を行った	3
				3 90%以上100%未満の教員が健康安全教育全体計画に基づき、計画的な指導を行った	
				2 80%以上90%未満の教員が健康安全教育全体計画に基づき、計画的な指導を行った	
				1 80%未満の教員が健康安全教育全体計画に基づき、計画的な指導を行った	
		保健体育、特別活動等の指導を通して、体力の向上および健康の保持増進に対する意識の向上を図る。	保健体育の授業の工夫改善 行事等の工夫 部活動の奨励	4 全教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	3
				3 90%以上100%未満の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	
				2 80%以上90%未満の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	
				1 80%未満の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	
輝く未来	将来、生徒が自立できる基礎的な能力を身につけさせるため、キャリア教育の推進を目指す。	地域や地域人材を活用した体験活動等を充実させ、自己発見および自分の生き方を考えさせる。	働く人の話を聞く会、職場体験、上級学校訪問等の充実	4 全教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	3
				3 90%以上100%未満の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	
				2 80%以上90%未満の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	
				1 80%未満の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	
		望ましい集団活動を通して、よりよい生活や人間関係を築くため、自主的、実践的に取り組ませる。	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実	4 全教員が自分の生き方を考え、主体的に進路を選択させる指導を行った	3
				3 90%以上100%未満の教員が自分の生き方を考え、主体的に進路を選択させる指導を行った	
				2 80%以上90%未満の教員が自分の生き方を考え、主体的に進路を選択させる指導を行った	
				1 80%未満の教員が自分の生き方を考え、主体的に進路を選択させる指導を行った	

評価【総括表】

生徒が、「通ってよかった」、保護者が「通わせてよかった」、教職員が「勤めてよかった」と実感できる学校
凡事徹底「はいじま」 当たり前のことが当たり前のできる生徒
すべての教育活動において、自他の生命尊重、人権尊重の心を育てることを基盤とした教育活動を実践する教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	学力調査の平均正答率が都平均以上	3	既習事項の確認や振り返り学習に取り組んだことで、都平均と同じ教科があった。全体としては下回っているものの5ポイント以内にとどまっている。	授業参観をとおして、先生方が授業を工夫しているのを感じる。都平均と同じ教科もあり、結果に表れている。	B	振り返り学習や演習等への取組をとおして、学習内容の定着を図る。
3	学力調査の平均正答率が都平均から－5ポイント以内					
2	学力調査の平均正答率が都平均から－10ポイント以内					
1	学力調査の平均正答率が都平均から－10ポイント以上					
4	60%以上の生徒が家庭学習の習慣が身に付いていると回答	2	教員は家庭学習を習慣化させるための働きかけをしているが、習慣化している生徒の割合は48%にとどまっている。	家庭の協力が必要な内容で、難しい部分ではあるが、学力の定着には欠かせないので、継続して取り組んでほしい。	C	授業を工夫改善し、生徒の知的好奇心を育てることで、家庭学習へとつなげる。
3	50%以上60%未満の生徒が家庭学習の習慣が身に付いていると回答					
2	40%以上50%未満の生徒が家庭学習の習慣が身に付いていると回答					
1	40%以下の生徒が家庭学習の習慣が身に付いていると回答					
4	全ての生徒がいじめのない学年や学級にしようとしたと回答	3	いじめは絶対に許さないと考えるの基、思いやりの大切さを伝えてきたことで、思いやりの心をもって行動したと回答した生徒の割合は、92%であった。	今後も、いじめは絶対に許さない姿勢を崩さず、指導してほしい。また、起きたときに適切な対応をしてほしい。	A	今後もいじめは絶対に許さないという考えの基、思いやりの大切さを伝えていく。
3	90%以上100%未満の生徒がいじめのない学年や学級にしようとしたと回答					
2	80%以上90%未満の生徒がいじめのない学年や学級にしようとしたと回答					
1	80%未満の生徒がいじめのない学年や学級にしようとしたと回答					
4	80%以上の生徒が学校には相談できる先生がいると回答	3	生徒一人一人に行き届いた指導を心がけたが、相談できる先生がいると回答した生徒の割合は、75%であった。	生徒が悩みを打ち明けられた環境を整え、安心して相談できるよう取り組んでほしい。	B	自殺予防教育等の視点に立ち、生徒一人一人に寄り添った教育相談体制を整える。
3	70%以上80%未満の生徒が学校には相談できる先生がいると回答					
2	60%以上70%未満の生徒が学校には相談できる先生がいると回答					
1	60%未満の生徒が学校には相談できる先生がいると回答					
4	体力合計得点が都平均より＋5ポイント以上	3	教育活動全体を通して、体力の向上および健康の保持増進を図ったことで、体力合計得点が都平均を2.5ポイント上回っている。	数値により、体力が向上していることが分かった。オリンピック・パラリンピック教育の実践内容が伝わっていないように感じる。	B	オリンピック・パラリンピック開催1年前という社会の雰囲気も活用し、健康の保持増進に対する意識をさらに高めていく。
3	体力合計得点が都平均以上＋5ポイント未満					
2	体力合計得点が都平均未満－5ポイント以内					
1	体力合計得点が都平均より－5ポイント未満					
4	90%以上の生徒が学校生活を通して自分の体力が高まっていると回答	3	保健体育の授業の工夫や部活動への取り組みによって、83%の生徒が、体力が高まっていると感じている。	体育的行事、部活動への取り組みは素晴らしいと思う。	B	保健体育の授業の工夫。体力テスト結果分析を全教職員で共有することで、さらなる向上を図る。
3	80%以上90%未満の生徒が学校生活を通して自分の体力が高まっていると回答					
2	70%以上80%未満の生徒が学校生活を通して自分の体力が高まっていると回答					
1	70%未満の生徒が学校生活を通して自分の体力が高まっていると回答					
4	全生徒が学校は将来の生き方について、考える機会を与えていると回答	2	計画的な進路指導を実践したことで、生き方について、考える機会を与えていると回答した生徒の割合は、83%である。	3年生と1年生では、具体的な進路についての意識に差があると思うが、1年生のうちから、意識を高めていってもいいのではないか。	B	地域人材を効果的に活用し、身近な人たちとの関わり合いの中で、自己を見つめさせたい。
3	90%以上100%未満の生徒が学校は将来の生き方について、考える機会を与えていると回答					
2	80%以上90%未満の生徒が学校は将来の生き方について、考える機会を与えていると回答					
1	80%未満の生徒が学校は将来の生き方について、考える機会を与えていると回答					
4	全生徒が、自分の将来について考えたことがあると回答	2	キャリア教育の実践により、自分の将来について、考えたことがあると回答した生徒の割合は、81%であった。	職場体験活動で、生徒たちが生き生きと働いている姿が印象に残っている。防災に関する部分での地域との関わりを充実してほしい。	C	将来をイメージしやすい教材や環境を整える。
3	90%以上100%未満の生徒が、自分の将来について考えたことがあると回答					
2	80%以上90%未満の生徒が、自分の将来について考えたことがあると回答					
1	80%未満の生徒が、自分の将来について考えたことがあると回答					

学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	チャイム着席	4 チャイム終了までに授業開始した90%以上	3
				3 チャイム終了までに授業開始した80%以上	
				2 チャイム終了までに授業開始した60%以上	
				1 チャイム終了までに授業開始した60%未満	
			忘れ物をしない	4 宿題や忘れ物チェックし授業を行った90%以上	3
				3 宿題や忘れ物チェックし授業を行った80%以上	
				2 宿題や忘れ物チェックし授業を行った60%以上	
				1 宿題や忘れ物チェックし授業を行った60%未満	
			生徒が分かる授業への改善	4 90%以上の生徒が分かる楽しいと感じる授業実践ができた。	2
				3 80%以上の生徒が分かる楽しいと感じる授業実践ができた。	
				2 60%以上の生徒が分かる楽しいと感じる授業実践ができた。	
				1 60%未満の生徒が分かる楽しいと感じる授業実践ができた。	
豊かな心	自立できる生徒	生徒指導の充実	挨拶	4 挨拶の指導を積極的に行った90%以上	2
				3 挨拶の指導を積極的に行った80%以上	
				2 挨拶の指導を積極的に行った60%以上	
				1 挨拶の指導を積極的に行った60%未満	
			環境・美化	4 環境美化への取り組みを積極的に行った90%	4
				3 環境美化への取り組みを積極的に行った80%	
				2 環境美化への取り組みを積極的に行った60%	
				1 環境美化への取り組みを積極的に行った60%	
		特別活動の充実	自主的な活動の推進	4 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった95%以上	3
				3 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった80%以上	
				2 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった60%以上	
				1 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった60%未満	
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒	健康観察アレルギー疾患の把握	4 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った95%以上	4
				3 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った80%以上	
				2 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った60%以上	
				1 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った60%未満	
		防災意識の高い生徒の育成	避難訓練の工夫	4 防災意識を高める指導を積極的に行った95%以上	3
				3 防災意識を高める指導を積極的に行った80%以上	
				2 防災意識を高める指導を積極的に行った60%以上	
				1 防災意識を高める指導を積極的に行った60%未満	
輝く未来	豊かな情操の育成	文化・芸術を継承・発展させようとする生徒の育成	修学旅行 合唱コンクール 作品展	4 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った95%以上	3
				3 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った80%以上	
				2 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上	
				1 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上	

評価【総括表】

居心地のよい学校・誇りに思える学校Ⅰ． 向上心が生まれ生きがいの持てる学校Ⅱ． 外部との連携でやすらぎを感じる学校

あいさつを大切にし、目標を追いかけていく生徒

常に生徒理解を心がけ、情熱と愛をもって指導できる教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	90%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた	4	授業時には教室になるべく早く向かう職員室の風土があり、全体的に生徒もチャイム着席への意識は高い。	生徒の成長を感じる。授業に落ち着いて臨めるよう継続して指導してほしい。	A	チャイム終了時には、授業を開始できる職員室の風土を作る。
3	80%以上 チャイム着席が、(6時間→5回以上 5時間→4回以上)できた					
2	60%以上 チャイム着席が、(6時間→4回以上 5時間→3回以上)できた					
1	60%未満 チャイム着席が、(6時間→3回以下 5時間→2回以下)できた					
4	宿題や課題は、忘れずに期限までにしようにしている。	3	忘れ物の多い生徒は限定される傾向にある。授業へ主体的に取り組む態度の育成に組織的に取り組む。	困難さがあると察するが、家庭教育との連携を引き続きお願いしたい。	B	担任が保護者と連携がとれるよう保護者会・三者面談等を有効活用する。
3	宿題や課題は、ときどき期限から遅れて出している。					
2	宿題や課題は、期限から遅れて出すことがよくある。					
1	宿題や課題は、出さないことが多い。					
4	授業が分かる楽しいと感じる生徒が95%以上いる。	3	教員の授業改善への意識は高い。校内研修・OJTを充実させて授業力の向上を引き続き目指していく。	授業が学校生活の大半を占めるので、授業改善には引き続き努めてほしい。	B	授業改善に向けて校内研修・OJTを組織的に行う。
3	授業が分かる楽しいと感じる生徒が80%以上いる。					
2	授業が分かる楽しいと感じる生徒が60%以上いる。					
1	授業が分かる楽しいと感じる生徒が60%未満である。					
4	挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。	4	自分から進んで挨拶ができる生徒の育成を実践する。	気持ちのよい挨拶ができる生徒が多い。部活動の生徒の指導も徹底してよい。	A	生徒会活動を活性化の中で自分から挨拶ができる生徒の育成を実践する。
3	挨拶をされた時には、ほぼ返事をしている。					
2	挨拶をするのを、忘れてしまう時がある。					
1	挨拶を、ほとんどしない。					
4	環境(教室、廊下、階段、昇降口、校舎外)が、学期を通してほぼ良いと感じる	3	委員会・係活動を推進する中で、一人一人の生徒の環境美化への意識向上に向けて取り組む。	公開授業等で訪れたとき、環境美化に努めている様子が伝わってくる。	A	生徒会活動を活性化の中で環境美化に力を入れていく。
3	環境(教室、廊下、階段、昇降口、校舎外)が、1か所よくないと感じる					
2	環境(教室、廊下、階段、昇降口、校舎外)が、2か所よくないと感じる					
1	環境(教室、廊下、階段、昇降口、校舎外)が、3か所よくないと感じる					
4	行事・委員会・係活動などに、自ら進んで積極的に参加できた。	3	話し合い活動を推進し、生徒一人一人の主体的活動を増やす中で、意識を高めていく。	生徒の主体的活動を今後一人一人の主体的活動を増やすことが、子どもの成長につながるの、引き続き取り組んでほしい。	B	授業・学級活動・生徒会活動を連動させながら話し合い活動を定着させ、スキルアップさせていく。
3	行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけずに取り組むことができた。					
2	行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることが少しあった。					
1	行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることがたびたびあった。					
4	95%以上日々の健康管理ができた	3	自ら健康管理できる生徒の育成を機会を捉えて支援・指導していく。	教員は、普段から気を配っている様子がよく分かった。生徒への指導も引き続きお願いしたい。	A	保健だより・学年だより等を活用しながら生徒の主体的な健康管理力を育む。
3	80%以上日々の健康管理ができた					
2	60%以上日々の健康管理ができた					
1	60%未満日々の健康管理ができた					
4	避難訓練の始まりから終わりまで95%以上は真剣に行えた	4	様々なケースを想定した避難訓練が実施できた。教員の防災意識の向上を研修等を実施し高めていく。	いつ被災するとも分からない状況なので、普段から防災意識を高める取組を続けてほしい。	B	計画的に避難訓練を実施し生徒と教員の振り返りを生かしながら発展的な避難訓練としていく。
3	避難訓練の始まりから終わりまで80%以上は真剣に行えた					
2	避難訓練の始まりから終わりまで60%以上は真剣に行えた					
1	避難訓練の始まりから終わりまで60%未満は真剣に行えた					
4	修学旅行・合唱コンクール・展示会に意欲的に取り組んだ生徒95%以上	4	生徒は、協力し主体性をもって取り組むことができた。さらに豊かな情操を養えるよう工夫していく。	修学旅行・合唱コンクールは、素晴らしい取組と発表だった。今後も豊かな情操の育成に努めてほしい。	A	修学旅行・合唱コンクール・作品展に主体的に参加させる中で豊かな情操を育む。
3	修学旅行・合唱コンクール・展示会に意欲的に取り組んだ生徒80%以上					
2	修学旅行・合唱コンクール・展示会に意欲的に取り組んだ生徒60%以上					
1	修学旅行・合唱コンクール・展示会に意欲的に取り組んだ生徒60%未満					

第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見

早 瀬 健 介
(東京女子体育大学 教授)

昭島市教育委員会は学校教育・生涯学習振興の教育目標実現のための最上位計画である『第2次昭島市教育振興基本計画（平成27～32年度）』を平成27年1月に策定、教育施策推進の方向性を具体的に示すとともに多彩な教育施策及び事業を行ってきている。

当該計画は、学校教育を中心とする【プラン1～4】、そして生涯学習推進の【プラン5】の計5つのプランからなり、各項目において具体的施策展開が示されている。平成30年度に行われた施策を中心に意見を述べる。

【プラン1 確かな学力の定着】

かねてよりの懸案事項でもある学力の向上に関し、小学校は平成28・29年度の実施の際には全国水準まで持ち直すかと思われたが、今回の全ての調査教科において国・都と比較し平均正解率が低い現状を見る限り、残念ながら課題があることは否めない。それらに対応し従来にも増して、習熟度別少人数指導体制の拡充、学習支援員の協力の下での個別指導、土曜日や放課後補修教室の充実等が望まれる。加えて、各学校において取り組まれている「授業改善推進プラン」が機能することを強く期待する。

昭島市においては個に応じた支援の充実に関し、特別な支援を必要とする子どもを総合的にサポートする体制を整えるべく継続的に取組がなされているところであり、平成30年度においても新たに特別支援学級を中学校に開設、今年度(令和元年度)も小学校に特別支援学級を開設しており、それら取組は高く評価できる。今後は特別支援教育に関わる教職員の専門性の更なる向上も期待される。

令和2年度小学校、令和3年度中学校で始まる新学習指導要領への対応も含め、学力の向上に向けた取組に期待したい。

【プラン2 豊かな心の醸成】

昨年も述べたことであるが、新たな学習指導要領において道徳が教科として位置付けられたように、道徳教育の充実・推進は重要課題であり、それらに対応した取組を評価するとともに更なる充実を期待したい。

また、インターネットの普及にともないSNS関連のいじめも増加傾向にある中、年間を通し全ての関係者がいじめ防止に関し考え方を共有することは必要である。そして、全ての子どもに「いじめは許されない」ことの理解を浸透させるためにも、「いじめ防止ポスター」の作成など中学生による小学生へのいじめ防止の取組を紹介する活動は今後も継続していただきたい。

「ハインリッヒの法則」ではないが、いじめに関しては軽微ないじめに素早く対応することが肝心と考える。

【プラン3 健やかな体の育成】

例年「体育の日」を目途にスポーツ庁から公表される「体力・運動能力調査報告書」によれば、子どもの体力は緩やかな向上傾向にあるといわれるが、中

学校2年女子に代表される運動をする子としない子の二極化傾向も問題となっており、課題はまだ多い。

2020年に東京でオリンピック・パラリンピックの開催にともなう、オリンピック・パラリンピック教育の充実も大切であるが、この二度と来ないであろう機会にスポーツすることの楽しさを知るためにも、実際に競技関係者を招聘してそれら競技種目の体験を通した身体活動・スポーツ活動を行うことについても積極的に取組んでいただければと思う。

学校運動部活動については、多くの課題が指摘され国においてガイドラインが示され、各都道府県にあってもそれを受けての指針が示されたところである。健やかな体の育成の一翼も担う学校運動部活動については、より積極的に外部指導者を活用するなど、更なる充実にも努めていただきたい。

【プラン4 輝く未来に向かって】

多様な領域にわたるプラン4であるが、いずれも重要な内容であり、教育委員会の多様性が理解できる。

近年は中・高の連携にも増して小・中や幼・保・小の連携が重要であるとも言われている。そうした時、幼・保・小・中の連携推進や小・中の連携推進の強化施策は高く評価したい。また、「開かれた学校」に向け、外部専門家による第三者評価をHP等で積極的に情報公開・発信する取組についても評価したい。

【プラン5 生涯学習の推進】

生涯学習の重要性が高まるなか、昭島の「知（図書館）」・「文化（郷土資料館）」・「学び（教育センター・男女共同参画・子ども家庭支援・児童発達支援 等）」・「活動（体育館）」の拠点として「教育福祉総合センター」の整備が進むとともに、施設の管理運営について民間事業者を指定管理者としたとのことであり、来年3月に迫る開館に向けより良い体制づくりを期待したい。

当該センターは、昭島市民はもとより近隣住民からも期待が寄せられる施設であり、これら地域の人々の生涯学習にとって「つなぐ場」「広がる場」「見つける場」「育む場」となるよう、より良い施設にしていきたい。

教育委員会事業は、上述内容はもちろん非常に広範にわたるとともに、常にそれらに対する新たな課題も示されその対応が求められている。令和2年度より始まる新学習指導要領への対応、国や都道府県からガイドラインが示されそれらへの対応が求められる学校運動部活動、食の安全、生涯学習等、課題は山積であり、全ての事業・施策に関し満足のいく成果を上げることは極めて困難ともいえる。そのような状況の中、地域における社会教育の在り方についても中央教育審議会から答申が出され、新たな社会教育施設には幅広い役割が期待されることとなった。完成が待たれる「教育福祉総合センター」は多摩地域における最先端の教育施設ともいえる。

教員の長時間労働の現状も含め苦勞の多い教育委員会活動ではあるが、そのような中、よりよい教育環境の構築に向け日々努力していただいていることに心より感謝をする。

齋 藤 久 未
(株式会社ジェイコム東京 多摩局
地域プロデューサー)

第2次昭島市教育振興基本計画の4年目にあたる平成30年度の施策、事業は着実に遂行されています。その中から主要施策についての意見をまとめました。

プラン1 確かな学力の定着

昭島市の全国学力・学習状況調査の結果は、全国や東京都の平均正答率との比較で低い傾向がみられることに対し、教員の授業力向上や児童生徒への問題集配布等の施策を行っているので、改善されることを期待しております。また、スクールサポートスタッフを配置することで、教員が子どもと触れ合う時間を増やすことができたという実績があるので、こうした時間に個々に適した学習アドバイスも行えることから学力向上につなげてほしいと考えています。

プラン2 豊かな心の醸成

いじめをめぐるいたましいニュースがなくなる現代において、いじめ問題への対応は、最重要課題の一つと言えます。平成29年度に始めた中学生によるポスター掲示や小学6年生へのいじめ防止の取組について説明する交流活動は、今後も継続していただくようお願いいたします。活動の中で、説明をした中学生にどのような学びがあったか、説明を受けた小学生に意識の変化があったかなどを調査分析することで、この施策が発展し効果的なものになっていくことを期待します。

また、いじめの問題は多岐にわたります。いじめ防止会議の中でも課題として挙げられていましたが、今や小学生（4年生以上）や中学生の普及率が6～7割まで高まっている携帯電話、スマートフォンの利用から端を発するSNSでのいじめであったり、プラン1「個に応じた支援の充実」では、外国籍等の子どもに対する日本語指導の実施予算を増額したとありましたが、今、各地で外国人に対するいじめも問題になっています。文部科学省の昨年の発表では、不登校した小・中学生が5年連続で増加し、16年ぶりに過去最多を更新しました。こうした様々な課題は、NPOや地域貢献活動を行う地元企業など外部の協力を得るなどして、保護者も含めたネットリテラシーの教育に取り組んだり、不登校の児童生徒にはインターネットを通じて家にいても学校の授業を受けることができる環境を整備したりするなど、具体的な施策を検討していくべきだと考えます。

プラン3 健やかな体の育成

成隣小学校と清泉中学校で、体力向上の推進策で作成された「元気アップガイドブック」を活用して実践研究が行われ、児童生徒が楽しみながら生活リズム

ムを整えたり体力向上に取り組んだりすることができたとの結果から、研究成果を他校でいかしていただきますようお願いいたします。「元気アップガイドブック」は、わかりやすく描かれており体操を動画で確認することもできますので、学校だけでなく家庭でも活用すると良いのではないのでしょうか。

プラン4 輝く未来に向かって

平成 29 年度と同報告書「第 6 章 点検及び評価に関する有識者からの意見」に、本項目に関する次の課題は「地域との連携」とありました。平成 30 年度は学校評価の充実に取り組み次年度への改善策を示すようになったこともあるので、この改善策に大学や企業、市民団体、地域住民などと連携して取り組んでいくと良いと考えます。

プラン5 生涯学習の推進

令和 2 年 3 月に開館予定の「教育福祉総合センター」は、民間のノウハウを取り入れ ICT を活用した郷土資料室を整備することで、市民に親しみやすいだけでなく、観光資源にもなる施設へ発展することが予想されます。アキシマクジラを活用したシティプロモーションの拠点であると同時に、蔵書や会議講習スペースの増加、教育や子育てに関する相談の充実により市民の交流拠点にしていきたいです。また、社会教育団体指導者育成事業の継続により自主講座の開催にいたるなど市民活動も広がりを見せているとのことですので、同施設がこうした活動を後押しすることも期待します。

